

The Glossary of Prosthodontic Terms 3rd ed.

歯科補綴学 専門用語集

第3版

2009

公益社団法人
日本補綴歯科学会 編



医歯薬出版株式会社

This book was originally published in Japanese
under the title of :

SHIKAHOTETUGAKU SENMON- YUGOSYU
(The Glossary of Prosthodontic Terms)

Editor :

Japan Prosthodontic Society

© 2001 1st ed.

© 2009 3rd ed.

ISHIYAKU PUBLISHERS, INC.

7-10, Honkomagome 1 chome, Bunkyo-ku,
Tokyo 113-8612, Japan

歯科補綴学専門用語集

目次

「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊に寄せて —	ii
第3版 序 —————	iv
歯科補綴学専門用語集の第2版の発刊に寄せて —	vi
改訂版 序 —————	viii
歯科補綴学専門用語集の発刊に寄せて(初版) ———	x
序(初版) —————	xi
執筆者一覧 —————	xiv
凡例 —————	xvi
歯科補綴学専門用語 —————	1
同義語一覧 —————	105
日本語索引 —————	119
外国語索引 —————	152
人名索引 —————	165

「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊に寄せて

ここに、われわれの社団法人日本補綴歯科学会による標記書籍が上梓されました。先ずは、多大なご尽力をいただきました谷口 尚・用語検討委員会委員長をはじめとする委員会委員の諸先生へ感謝を申し上げます。

本学会における用語の整理は1980年代の半ばに開始されました。そして1997年4月、小林義典・会長、田中貴信・用語検討委員会委員長のもとで「歯科補綴学専門用語集」の発刊へ向けての作業が開始されました。当時の200名を超える評議員に対するアンケート調査を踏まえて、2001年2月に田中久敏・会長、田中貴信・委員長（2期連続担当）のもとで、医歯薬出版株式会社から「第1版」が発行されました。これは、数千語の中から歯科補綴学の専門用語として使用される719語を厳選し、専門学会として明確な解説を加えた140頁からなる書籍でした。その後、2003年2月に川添亮彬・会長、井上 宏・委員長のもとで、101語を収録した小冊子「歯科補綴学専門用語集一疾患・病名・検査編」が発行され、2004年10月に大山喬史・理事長、田中貴信・委員長のもとで、新しい用語を追加した944語とその解説文を収録した「第2版」が発行され、今日に至っております。

2001年の「第1版」の出版以来、「歯科補綴学専門用語集」は歯科医学教授要綱、歯科医師国家試験出題基準、歯学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン、共用試験CBT問題・同OSCE課題などで公的に使用されております。最近、医歯薬出版株式会社から相次いで5つの歯科専門学会から専門用語集が発刊されましたが、その意図、内容、体裁などの多くの点で、われわれの補綴歯科学会がその先鞭を付けたといえます。

「第1版」にも記載されている通り、言葉は生き物です。学術用語であっても時代とともに変化すべきものであり、たゆまぬ見直しが必要です。そこで、2007年4月に小生が理事長を拝命するにあたり、用語検討委員会に対して「第2版」の改訂への着手をお願いいたしました。そして2年間にわたるご苦勞をいただき、ここに「第3版」の発刊に至った次第です。

「第3版」では、インプラントならびに顎顔面補綴学関連用語などが新たに追加され、1,005語が収録され、その各々に解説が記載されております。「同義語として認める用語」も若干増えて121語となりました。また日本語および外国語索引数が3,400語を超えております。改めて歯科補綴学の奥の深さと補綴歯科治療の守備範囲の広さを痛感いたします。

本書の発刊と時をほぼ同じくして、「Journal of Prosthodontic Research」と「日本補綴歯科学会誌」が従来からの和文誌（補綴誌）と英文誌（Prosthodont Res Pract）に変わりました。両機関誌は学会の最新の学術的知識と技術についての情報を公開し、それらを共有する重要な役割を担うこととなります。これらの中で使用される用語を統一する意味で、本用語集は不可欠な資料の一つになるはずです。また、本書が歯科界のみばかりではなく、さらに広い諸分野で利用されることを期待します。

2009年2月
社団法人日本補綴歯科学会
理事長 平井敏博

第3版序

私たちの学会が発行してきた歯科補綴学専門用語集は、第1版および第2版とも、田中貴信・委員長のもとで、一貫した方針のもとにさまざまな修正がなされ、さらに充実したものとなっております。

専門用語は当該学術分野の進歩・発展を促すために必要な情報交換のツールとして不可欠であります。そのため、学術分野の専門用語集は当該分野ならびに関連分野の進歩・発展に追従して、可能な限り早期に見直し、修正がなされなくてはなりません。

今回、平井敏博・理事長から歯科補綴学関連の用語について、教育・診療・研究・国民生活を包含する観点から全体的に見直し、関連分野との整合性を踏まえて整理・統合・発展させるよう命じられました。特に、今期用語検討委員会においては、「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊を軸に活動することとなり、第1版、第2版での経緯を十分反映させ、ここに第3版の発刊となりました。今回の改定で実施しました編集内容は以下の通りです。

1) 第1版、第2版の照査

必要に応じて第1版を含め、第2版における誤植、不適切な表現、関連用語との整合性、凡例との整合性などに関して再検討を行い、会員ならびに社員からの指摘、要請を踏まえ、可及的に用語の掲載順序および文言の修正、ならびに削除を行いました。

2) 新規用語の追加

記載用語は解説文付き用語と解説文のない同義語から構成されています。第2版では、解説文付き用語 848 語、同義語 96 語の計 944 語が記載されましたが、第3版では、解説文付き用語 884 語、同義語 121 語の計 1005 語を掲載しました。

同義語に関しては、今回の新規追加に伴い追加されたものと、会員の要請により使用が望ましくない用語から復帰させたものがあります。

3) 「補綴物」関連用語

第2版では、「補綴物」関連用語を解説文付き用語、「補綴装置」関連用語を同義語としましたが、第3版では、「補綴装置」関連用語を解説文付き用語、

「補綴物」関連用語を同義語としました。

4) 索引の整理

- (1) 同義語に解説文付き用語番号を付与しました。
- (2) 付録番号をすべて反映させました。
- (3) 人名索引を別途設けました。

最近、学術分野の専門用語集が相次いで発刊されており、類似した体裁のもので、その内容は相違する点が散見されます。本用語集が、関連する他の学術分野の専門用語集の動向と協調しながら、機会あるごとに修正・充実され、歯科医学の進歩に多大な貢献をすることを願いつつ、委員一同、今回の改定作業に際して、ご指摘、ご意見、ご要請などさまざまご協力いただきました会員の皆様に心から感謝申し上げます。また、発刊にあたり多大なる便宜を図っていただきました医歯薬出版株式会社関係各位に厚く御礼を申し上げます。

2009年2月

日本補綴歯科学会用語検討委員会（2007年度～2008年度委員）

委員長 谷口 尚

副委員長 尾関雅彦

委員 久保吉廣

永井栄一

依田正信

幹事 隅田由香

歯科補綴学専門用語集の第2版の発刊に寄せて

先ずは、『第2版 歯科補綴学専門用語集』の発刊に際して多大なご尽力を頂きました田中貴信用語検討委員会委員長はじめ委員の先生方に心よりお礼を申し上げます。

本用語集の編纂が企画されましたのはかなり前と伺っておりますが、具体的に始動したのは小林義典元日本補綴歯科学会会長時代で、その作業は次代田中久敏日本補綴歯科学会会長に引き継がれ、ようやく2001年「歯科補綴学専門用語集」として上梓されるに至りました。この背後には、その二代の会長に任せ、当該委員会委員長として率先励行の労を執られ、奮迅の努力をされた田中貴信先生の強いリーダーシップと委員会委員の努力があったことを忘れることはできません。それまでは、本来共用されているべき専門用語に同義語、同意語が多々あり、必ずしも共通の理解・了解が得られなく混沌としていた時期が続いていたと言えましょう。そのような状況の中で、田中貴信用語検討委員会が勇気と決断をもって初版本を発刊したところであります。この刻苦に補綴学会員として心より敬意を表するものであります。風聞ではありますが、その初版本がきっかけで他の学会でも専門用語集の編纂に踏み切ったと伺いました。もしそうだとしたら、大変うれしい話です。

その後、川添堯彬前日本補綴歯科学会会長時代、井上 宏用語検討委員会により、見直し検討がなされてきました。最近では、こうして整理・精査された専門用語も日本補綴歯科学会機関誌、学術大会において、立派に共通語として市民権を得てきたように思います。

2003年、わたくしが日本補綴歯科学会会長を仰せつかるにあたり、再度田中貴信先生に用語検討委員会委員長をお願いし、改訂版としての第2版の発刊に向けて、井上 宏前委員会の検討事項を踏まえたところで、引き続き見直し検討をお願いしたところであります。そしてこの度、井上 宏前委員会、田中貴信現委員会の活発な委員会活動と粉骨砕身のご努力により、ここに改訂版としての第2版が出版される運びになりました。殊に、専門用語の統一の至難さもさることながら、時の流れとともに変遷を辿るのが常なるが故に難しい専門用語の統一・選択とその解釈付け、これには委員会の並々ならぬ刻苦勉勵の賜物と心より敬意を表したいと思えます。歯科医学の主流でもある歯科補綴学会がいち早くこの編纂を手がけたこと、また生きた専門用語を厳選・網羅し、かつ平易に詳解がほどこされた歯科補綴学専門用語集を、ここに手に出来たことは

日本補綴歯科学会会員としてこのうえもない喜びであり，また誇りであります。長きに渡り，誠心誠意ご尽力頂いた用語検討委員会の委員長，委員の先生方に心より感謝申し上げます。

おわりに，この歯科補綴学専門用語集がたゆみなく見直し・検討がなされ，時に応じ日本補綴学会の研究結果も追補され，歯科界で活躍する関係者に広く日常的に活用されることを期待して止みません。

平成 16 年 9 月

日本補綴歯科学会
会長 大山喬史

改訂版 序

初版の歯科補綴学専門用語集は平成13年2月に刊行されたが、日本補綴歯科学会会員はもちろん、多くの臨床家からも比較的高い評価を得てきた。また、専門用語に限定して専門学会として責任ある解説も加えられた実用性の高い用語集として、他の専門学会からも注目され、その中の幾つかの学会では、現在それぞれ本書に準じた用語集の編纂が企画されていると聞く。

しかし初版本では、編集時間の制約から、日本補綴歯科学会の保有する用語資料の一部の検討・掲載を断念せざるを得なかった経緯があり、また、前期中語委員会から内部資料として報告された、疾患・病名・検査・診察・経過観察などに関する用語の整理も必要であった。もちろん、多くの利用者から指摘された沢山の疑問箇所の蓄積もあった。

大山喬史会長から本用語集の再検討を命ぜられた今期中語検討委員会においては、上記の懸案事項の処理を主眼とした編集作業を行った。その具体的内容は以下の通りである。

1) 初版本の照査

従来用語集に関して、単純ミス、不適切な表現、関連用語との整合性、などに関して全面的な再検討を行い、可及的に語句の修正を行った。また、会員から寄せられた各所の疑義に関しても十分な検討を行った結果、大幅な修正を行った用語は52語となった。

2) 追加

下記の資料について委員会で審議の結果、新規採用として126語を選択し、それらの解説文に関しては、委員自身で分担執筆した。

- (1) 歯科補綴学用語集資料(坂東永一委員長、平成9年発行)の「古語、新語、固有名詞等」の239語
- (2) 歯科補綴学専門用語集(井上 宏委員長、平成14年発行)、I疾患・病名・検査編の229語、II診察・検査・経過観察編の101語
- (3) 評議員のアンケートとして、追加希望;14名からの114語、修正希望;15名からの71語

3) 英語表記の確認

初版本の用語も含め、英語表記の全面的チェックを行ったが、これに関しては、当時海外に留学中の、沢山の若手会員の協力を仰いだ。

4) 索引の整理

従来 of 日本補綴歯科学会としての用語資料のすべてに関する検討が修了したため、本書に採用した以外の用語は、すべて索引から除去した。

本用語集が今後も機会あるごとに修正・充実され、歯科医学の進歩に多大な貢献をすることを願いつつ、委員一同、今回の編集作業に関してさまざまなご協力をいただいた関係者に、心から感謝申し上げます。

平成 16 年 9 月

日本補綴歯科学会用語検討委員会（平成 15 年度～平成 16 年度委員）

委員長	田中貴信	
副委員長	三浦宏之	
委員	清野和夫	豊田 實
	長岡英一	坂東永一
幹事	金澤 毅	

歯科補綴学専門用語集の発刊に寄せて（初版）

この度、日本補綴歯科学会が用語検討委員会を中心として、歯科補綴学ならびに関連用語について整理を行い、共通の土俵で補綴学を考えることのできる用語集を出版する運びとなりました。

数千語に及ぶ補綴学用語から厳選し、専門用語として用いられるものを明確に解説を加えた編集業務の影には、十数年に及ぶ用語検討委員会ならびに関係各位の幾多の労力が秘められております。

言葉は現実社会の鏡でもあり、文化、教養を高めるためのツールでもあります。同様に、補綴学の発展には用語の整合性が必須であり、それが達成された時に専門性が発揮されることになると信じます。補綴用語も新しい言葉が生まれるまでには多くの研究と医療の長い歴史があり、おいそれと整えることは至難の業です。特に訳語に至っては全能の指揮官の息のかかった用語を変更しようとしても、なかなかうまく変えることができず、一見あきらめムードさえ感じる場面もありました。また、用語の中には未消化どころか、噛み（いや失礼咬み）砕かれていないまま医療現場に浸透したものもあり、地球規模（Globalization）の学术交流の叫ばれる今日に至っても、感覚的に統一見解を得るのが難しいのが現状です。したがって、未だ多くの整合性の不十分な箇所も多くみられるものと推察されます。

今回、簡にして要を得た日本語をモットーに手際良く整理することができたのも偏に用語検討委員会委員長田中貴信教授のリーダーシップのもとで、委員会各位のご努力により達成されたものと敬意を表します。

今後の発展に向けて学会員諸氏の御批判と御指導を賜れば幸いと存じます。

最後になりますが、本学会員ならびに委員会諸氏の御援助と御努力に対し、厚く御礼申し上げます。

平成 13 年 2 月

日本補綴歯科学会
会長 田中久敏

序 (初版)

日本補綴歯科学会において、歯科補綴学専門用語の検討は発会当初より随時試みられてきたであろうが、現在のような用語検討委員会が組織され、総合的な用語の整理が始まったのは、昭和59年の三谷春保委員長下の第一期用語検討委員会としての活動が端緒である。それ以降に限っても、本件に関しては実に長期間、幾多の先人の多大なエネルギーが注がれてきたことになる。

これらの委員会のご努力の結晶として選別された膨大な数の歯科補綴関係用語は、山下敦委員長により「中間報告」として、また、それを引き継いだ坂東永一委員長により「用語集資料」として、それぞれ会員に提示された。それらの経緯と我々を取り巻く昨今の社会環境を考慮して、本委員会は、今こそ専門学会としての責任の下に編纂され、実用性も備えた「専門用語集」が必要であると考え、新用語集としての具体的内容について検討してきた。この機会に、あるいは性急に、またあるいは強引に、我々なりに具体的な一つの形を提示して、今後はそれを骨子として本学会の用語集を順次充実させてゆくことが最良であろうと判断したものである。特に今回は、これまでのように単なる学会の内輪の資料に留めず、日本補綴歯科学会の公式見解として、広く世に公表することとした。幸い医歯薬出版様のご協力も得て、一般書籍として立派な体裁で刊行できたことは、委員一同にとっても望外の喜びである。

本書が末永く諸兄の座右に置かれ、日々ご活用戴けることを心から願うものである。

本用語集出版に関して、本用語検討委員会における編纂作業の大筋は以下の通りである。

1) 用語の整理

一般的に用語集の類はその語彙数を誇る傾向がある。あたかも、それがその専門分野のレベルの高さを表示するが如き評価をする者もある。しかし、たとえば我々が専門的な意味を有しない用語をどのように整理しようとも無意味である。また、用語は所詮符号であり、コミュニケーションの手段に過ぎない。国文学者でもない我々にとっては、用語そのものに意味があるのではなく、それをを用いて何を伝えるかが重要である。さらに、複雑怪奇な専門用語は学術活動にとってマイナスでこそあれ、その益するところは少ない。今我々に必要なものは、高度な学術情報を誤解なく伝達できる、簡便な専門用語である。

このような基本理念に基づいて、本委員会の最初の作業は、関係用語の分類に主眼を置いた。先ず、たとえ我々の臨床・研究現場で頻用される用語であっても、特別な解説を必要とせず、誰にでも正しく理解されるはずの用語は、一般用語として専門用語のリストから削除した。次に、解剖用語、保存・矯正用語などは、それぞれの専門学会の責任において管理されるべきものとして、歯科補綴専門用語からは除いた。さらに、多くの材料関係の用語もまた、歯科理工学会などの判断に委ねるべきであると判断した。

要するに、本用語集での掲載用語は、日本補綴歯科学会として責任を持てるもの、あるいは責任を負うべきものに限定した、と言うことである。結果として、本用語集には主項目として719語を採用したが、当学会にとっては現時点が未だ専門用語の整理期であることを考慮して、過去の本学会用語集に掲載された約3,000語の用語についても、そのすべてを索引欄に掲載した。

2) 同義語の整理

たとえば文学の世界では、微妙な季節の移ろいの様相などを多様に表現することが評価される。また、同じ表現の繰り返しは退屈であると批判される。しかし、自然科学の分野では、そのようなデリケートな表現はむしろ有害である。我々にとっては事象をただ端的にかつ正しく表現することが、必要かつ十分であると考ええる。

従来認められてきた歯科補綴用語の中には、10種に近い同義語を有するものも散見された。これは教える側、学ぶ側のいずれにとっても無駄でしかなく、学術大会の場においても混乱の原因となる。しかし、個々の用語にはそれぞれ大きく重い背景もあるため、それらの取捨選択は容易でないことは自明であり、過去の委員会においてもそこが作業上の大きな関門であった。

今回はこの積年の問題点を、評議員によるアンケート調査という方法で処理したが、今後若干の問題を残す可能性も否定できない。しかし、関係者によってそれが建設的かつ前向きに評価され、我々の意図を正しく理解していただけるなら、比較的多数の専門家の支持を得た用語が、それぞれ最も正当な用語として、時の経過とともに自然に定着するものと確信している。

なお、同義語のアンケート調査結果については、付録として改めて巻末にその一覧表を提示した。

3) 解説文の充実

専門用語を選択しても、それぞれの意味合いについて専門家同士の合意が得られていなければ、それをを用いた情報交換において誤解が生ずることになる。

また、この種の用語集を誰がどのような場合に利用するかを考えた場合、単に用語を羅列しただけのものでは、その実用性が極めて低いことも認めざるを得ない。そこで、本用語集においては、すべての用語に関して現在最も妥当と思われる定義、あるいはその臨床的意義などに関する解説文を付与した。英語表記に関しても、幾多の表現の中から、最も妥当と思われるものを選出した。これらはいずれも、特に学生や若い臨床家にとって有用なものとなろう。

なお、その意味合いに諸説があるものについては、解説文に項目番号を設けて併記した。

古くから言われるように、言葉は生き物であり、基本的に日々変化する可能性を含んでいる。すなわち、いかなる用語集も辞書・辞典も、まさに発行のその日から、内容の見直しを迫られる宿命を負うことになる。用語検討委員会の作業に終わりはない。とは申せ、当面この用語集の価値が広く認識され、今後の編集委員会などにおける用語規制に関する基盤となり、いずれはより公的な教授要綱や国家試験の出題基準に関する基本資料ともなることを願っている。

今回は時間の制約上、日本補綴歯科学会用語検討委員会報告書（歯科補綴学用語集資料：平成9年度発行）の中の、古語、新語、固有名詞の項は検討対象から割愛せざるをえなかった。これらについては、今後の委員会による継続的かつ詳細な検討に基づいて、順次整理されることを期待する。

最後に委員一同、これまで用語検討にご尽力された歴代の委員会各位のご努力に深甚なる敬意を払うとともに、今般本用語集の出版という事業を高く評価され、終始多大なご協力とご鞭撻を賜った小林義典前会長、田中久敏現会長を始めとする日本補綴歯科学会の理事各位、アンケート調査や原稿執筆にご協力いただいた評議員各位、および、多忙の中鋭意ご尽力いただいた医歯薬出版(株)の担当諸氏に、衷心より感謝申し上げる次第である。

平成13年2月

日本補綴歯科学会用語検討委員会 平成9年度～平成12年度委員（2期）

委員長 田中貴信

委員 甘利光治 木村幸平 小林喜平

清野和夫 寺田善博 平井敏博

細井紀雄 安田 登 山縣健佑

幹事 金澤 毅

【執筆者一覧】（五十音順：所属は執筆時）

赤川安正	（広島大学歯学部）	小林義典	（日本歯科大学歯学部）
熱田 充	（長崎大学歯学部）	小宮山彌太郎	（東京都）
天野秀雄	（明海大学歯学部）	古谷野 潔	（九州大学歯学部）
甘利光治	（松本歯科大学）	坂口邦彦	（北海道医療大学歯学部）
五十嵐順正	（松本歯科大学）	櫻井 薫	（東京歯科大学）
五十嵐孝義	（日本大学歯学部）	佐藤隆志	（岡山大学歯学部）
石橋寛二	（岩手医科大学歯学部）	芝 輝彦	（昭和大学歯学部）
市川哲雄	（徳島大学歯学部）	清野和夫	（奥羽大学歯学部）
伊藤 裕	（愛知学院大学歯学部）	田中久敏	（岩手医科大学歯学部）
井上 宏	（大阪歯科大学）	田中貴信	（愛知学院大学歯学部）
内田康也	（九州歯科大学）	谷口 尚	（東京医科歯科大学大学 院歯医学総合研究科）
大山喬史	（東京医科歯科大学歯学 部）	寺田善博	（九州大学歯学部）
大畑 昇	（北海道大学歯学部）	豊田 實	（神奈川歯科大学）
尾関雅彦	（昭和大学歯学部）	永井栄一	（日本大学歯学部）
鹿沼晶夫	（東北大学歯学部）	中尾勝彦	（広島県）
金子一芳	（東京都）	長岡英一	（鹿児島大学歯学部）
川口豊造	（愛知学院大学歯学部）	長澤 亨	（朝日大学歯学部）
川崎貴生	（北海道大学歯学部）	中野雅徳	（徳島大学歯学部）
川添堯彬	（大阪歯科大学）	野首孝祠	（大阪大学歯学部）
川和忠治	（昭和大学歯学部）	長谷川成男	（東京医科歯科大学歯学 部）
岸 正孝	（東京歯科大学）	畑 好昭	（日本歯科大学新潟歯学 部）
木村幸平	（東北大学歯学部）	服部正巳	（愛知学院大学歯学部）
草刈 玄	（新潟大学歯学部）	羽生哲也	（福岡歯科大学）
久保吉廣	（徳島大学病院・歯科）	坂東永一	（徳島大学歯学部）
河野正司	（新潟大学歯学部）	平井敏博	（北海道医療大学歯学部）
腰原 好	（東京歯科大学）		
小林喜平	（日本大学松戸歯学部）		

福島俊士	(鶴見大学歯学部)	守川雅男	(九州歯科大学)
藤井輝久	(朝日大学歯学部)	森田修己	(日本歯科大学新潟歯学部)
藤井弘之	(長崎大学歯学部)	森谷良彦	(日本大学歯学部)
藤田忠寛	(神奈川歯科大学)	安田 登	(東京都)
古屋良一	(昭和大学歯学部)	山縣健佑	(昭和大学歯学部)
細井紀雄	(鶴見大学歯学部)	山下 敦	(岡山大学歯学部)
保母須弥也	(東京都)	横塚繁雄	(日本歯科大学歯学部)
松元 誠	(東京医科歯科大学歯学部)	依田正信	(東北大学大学院歯学研究科)
三浦宏之	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)	渡辺 誠	(東北大学歯学部)

【凡 例】

1. 専門用語には、五十音順に用語番号を付けて実用性を高めた。
2. 使用漢字は基本的に最も一般的に使用されている平易なものを採用した。
すなわち、鑑⇒ろう，蝨⇒ろう，嚙む⇒かむ，齧蝕⇒う蝕
ただし、【鑑】，【蝨】，【嚙】，【齧】に関しては、仮名書きにすると文中で判別しにくい場合に限って、漢字書きを認めるという意味で、ろう（鑑）付け、ろう（蝨）義歯、か（嚙）み切る、う（齧）蝕歯、のとき表示とした。
3. 初版において採用した略字【頸】，【弯】に関しては、会員の希望により、本来の表記に変更した。すなわち、歯頸部⇒歯頸部，弯曲⇒湾曲，とした。
4. 【定義】と【解説文】とは混在するが、今回は敢えてその区分の表示は割愛した。
5. 複数の意味合いを持つ用語、あるいは現時点で定義が確定していない用語に関しては、
 - 1)
 - 2)
 - ・
 - ・として、解説項目を併記する体裁をとった。
6. 解説は原則として体言止めとし、表現の簡明を図った。
7. 索引には頁に代えて用語番号を付けた。
8. 英語表記に関しては、他の表現を否定するものではないが、現在最も一般的と思われるものに限定して掲載した。
基本的には、THE GLOSSARY OF PROSTHODONTIC TERMS : *J Prosthodont Dent*, **94 (1)** : 10-92, 2005. に準じた。その他に関しては、可及的に native speaker のチェックを受けた。
9. 専門用語に採用されていなくとも、解説文中で使用された歯科用語はすべて索引に掲載し、専門用語の用語番号を付与することで検索を容易とした。
10. 機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などは、関連用語として可及的に解説文中に記載し、索引に加え、用語番号を付記した。

11. 付録としての同義語一覧は，評議員を対象としたアンケート調査の結果を忠実に示した．結果として，関係する用語間の整合性に欠けるものも存在するが，これについては，引き続き，今後の検討課題とした．

例：線鉤，鑄造鉤 ⇔ クラスプ

鑄造冠 ⇔ クラウン

ろう（蠟）義歯 ⇔ ワックスパターン

切歯指導釘・板 ⇔ アンテリアガイダンス

12. 【同義語】には，索引において，選定用語の用語番号もアンダーラインをつけて付記した．
13. 索引において，付録番号をすべての関連用語に付記した．

あ

1 アーライン

Ah-line

口蓋の可動部と不動部との境界線，“アー(Ah)”と発音すると，口蓋帆張筋に続き口蓋帆挙筋が収縮するために軟口蓋は挙上する．発音を中止すると，これらは元に戻るが，アーラインはこの運動時における可動部の最前方を示していることから，上顎の義歯床後縁を設定するための基準として利用される．

2 RPI クラスプ あーるぴーあーいー

RPI clasp

近心レスト，隣接面板，Iバーの3部分から構成される支台装置．3者が互いに拮抗的に働き，支持・把持・維持機能を発揮する．遊離端義歯の垂直方向の動きに対する考え方の違いに基づいて提唱された，Kratochvil型とKrol型の2種類がある．

3 RPA クラスプ あーるぴーえーいー

RPA clasp

RPI クラスプのIバーに代えて，エーカークラスプ型の鉤腕を組み合わせた支台装置．

支台歯付近のRPIクラスプにおけるIバーの走る粘膜部において，小帯の付着部が高い，あるいは顎堤粘膜のアンダーカット域の位置が高い場合に用いる．ニアゾーンでは，維持腕の上縁をサバイラインに一致させ，その下のアンダーカットはブロックアウトして，アームを支台歯に接触させない，これは床の回転，沈下に際して支台歯に力を伝達させないためである．

4 I. R. V. あいあーるぶい

closure of the interdental space
(C. I. S.)

Interdentalraumverschluss (独語)

テレスコープクラウンの一種類で鼓形空隙を閉塞した可撤性の装置．内冠と外冠で鼓形空隙をなくして，食物残渣の停滞を防いで清掃しやすい形状に設計された装置で，Gaerny (1969) より発表された．

5 アイヒナーの分類 —ぶんるい

Eichner classification

歯列の欠損形態の分類法の1つ．上下顎の咬合状態を重視して表示したもので，左右の小白歯部および大白歯部の4ブロックの咬合支持域に分けて，それぞれに安定した咬合関係が存在するか否かによって3型に分類したものの．

すなわち，4支持域すべてに咬合接触を有するもの〔A型〕，4支持域中の一部の支持域のみに咬合接触を有するもの〔B型〕，すべての支持域に咬合接触が無いもの〔C型〕で，いずれの型も類型を含む．Eichner (1955) により提唱された．

6 アクセホール

access hole

インプラント (フィクスチャー) やアバットメントに補綴上部構造 (クラウン，ブリッジ，アタッチメント) がスクリューで固定される場合に，連結スクリューを挿入するために補綴上部構造に形成された穴．前歯部では審美性を考慮して舌側面に，また臼歯部では力学的観点から咬合面の中心窩に位置することが望ましい．

7 アタッチメント**attachment**

可撤性義歯に使用される支台装置の1つ。メールとフィメールとから構成され、一方は支台歯に固着され、他方は義歯に組み込まれる。この両者が互いに嵌合することにより、維持・支持・把持力が発揮される。

歯冠内アタッチメント、歯冠外アタッチメント、根面アタッチメント、バーアタッチメントなどに分類される。

8 アダムスクラスプ**Adams clasp**

1本のワイヤーを屈曲して製作するアローヘッドクラスプを改良した頬側隣接面のアンダーカットを利用するクラスプ。Adams (1950) により考案された。頬側の近心と遠心の隣接面歯頸部のアンダーカット部に入る半円形状の屈曲部、近心と遠心で垂直に立ち上がった縦走部、咬合面部で水平に屈曲した隣接面(鼓形空隙)横断部、これに続く口蓋側の鉤脚部、近心と遠心の頬側半円形状屈曲部を連絡する頬側横走部により構成。頬側や舌側にアンダーカットのない歯に有効で、小児のスピーチエイドの支台装置として有用である。

9 圧印金冠 あついでんきんかん**metal crown with swaged cusp**

〔同義語〕 モリソククラウン

帯環金属冠の一種で、咬合面は22Kの金板をメロットメタルなどの易溶合金製の模型(陰陽型)の間に挟み、プレス(圧印)して作り、帯環とろう(鑲)付けして完成させたクラウン。

咬合面を圧印して作るので薄くなり、咬耗により破損、穿孔しやすいため、帯環は22Kの金板を用いて作り、咬合面は

24Kの金板を圧印し、内面に金ろう(鑲)を流して充実させた嚙面充実金冠(ピーソークラウン)や咬合面を鑄造し、帯環とろう(鑲)付けした嚙面鑄造冠が考案された。鑄造冠の登場でいずれも過去のものとなった。

10 圧印床 あついでんしょう**swaged plate**

金属板を陽型上で槌打、または陰型との間でプレスにより圧接成形された義歯床。金合金、ステンレス鋼合金、チタン合金などの金属が用いられる。

11 アッカーマンバーアンドクリップアタッチメント**Ackermann bar attachment**

支台歯とろう(鑲)着する金属バーとこれに適合する鞍状のスリーブとからなるバーアタッチメント。バーには断面が円形と卵円形の2種類ある。サドルはバーを部分的に覆う構造のため、バーを欠損部形態に適合するよう屈曲することが可能である。維持力はサドル下端の板バネにより発揮される。

12 圧負担能力 あついでんたんのうりよく**stress-bearing ability**

- 1) 機能時に受ける力や緊張、圧力に抵抗する力。
- 2) 支台歯や粘膜における咬合圧負担域での、義歯を支持する力。

13 後ろろ(鑲)付け法 あとーづーほう**post ceramic soldering method**

メタルボンドクラウンの固定性連結部の製作法の1つで、陶材を金属冠に焼き付けた後に行うろう(鑲)付け。

14 アバットメント [インプラントの]**abutment [of implant prosthesis]**

下部構造から軟組織を貫通して口腔内に露出する支台部。骨膜下インプラント

およびブレードインプラントにおいては、フレームから口腔内に露出する支台部分。また、オッセオインテグレートドインプラントにおいては、フィクスチャーの上部に連結されて、軟組織を貫通するシリンダー状の部分。

15 アブフラクション

abfraction

歯に加わった外力により、外力が作用した部位から離れた部位に生ずるエナメル質や象牙質の欠損。Grippio (1991) によるラテン語の ab (=away) と fractio (=breaking) からの造語である。

16 アペックス [ゴシックアーチの]

apex [of gothic arch tracing]

ゴシックアーチの頂点。左右の側方下顎限界運動路が交わる点。

17 アメリカ式埋没法 — しきまいぼつほう

American flasking technique

人工歯、支台装置、連結子の全てをフラスク上部に固定するろう（蠟）義歯のフラスク埋没法。レジン填入は容易であるが、支台歯部の石膏を歯頸部で切断することから、義歯床粘膜面に対して支台装置や連結子などが浮き上る危険があることが欠点とされる。

18 アメリカ・フランス併用式埋没法

— へいようしきまいぼつほう

American-French flasking technique

人工歯をフラスク上部に、支台装置や連結子は下部に固定するろう（蠟）義歯のフラスク埋没法。レジン填入が容易で、支台装置や連結子の義歯床粘膜面に対する浮き上りの危険もない。人工歯の浮き上りには重合後の削合で対応可能であるとし、現在最も一般的なフラスク埋没法

である。

19 アルコン型咬合器 — がたこうごうき

arcon articulator

上弓に顎路指導部をもち、下弓に顎頭球（コンダイル）を備えた構造の咬合器。アルコンは articulator と condyle を縮めた造語。

20 アルジネート印象 — いんしょう

alginate impression, irreversible hydrocolloid impression

アルギン酸ナトリウムあるいはカリウムを主成分とする不可逆性ハイドロコロイド印象材による印象。粉末には水を、ペーストには石膏を加えて練和すると、流動性のあるゾルから弾性をもつゲルに変化する。

21 アルミナスポーセレン

aluminous porcelain

結晶アルミナの微細粒子をガラスで結合させた、あるいはガラス中に分散させた複合組成の陶材。アルミナの添加量が増すにつれて曲げ強さは増大するが、例えば 50% 添加で長石-石英系陶材の 2 倍以上の強度となる。

22 アルミナスポーセレンジャケットクラウン

aluminous porcelain jacket crown

長石-石英系陶材に 40~60% の酸化アルミニウム（アルミナ）を含有させたコア陶材の上に歯冠色陶材を築盛・焼成したジャケットクラウン。アルミナス陶材は長石-石英系陶材に比べ強度が 1.5~2 倍で、急激な温度変化にも強い。デンティン用陶材には 10~15% の酸化アルミニウムが添加されているが、透明度が減少するため、エナメル用陶材中には結晶度の小さい酸化アルミニウムが少量だけ

(5%) 添加されている。

23 鞍状型ポンティック あんじょうがた

saddle type pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ。基底面が鞍状に顎堤を覆っている形態。その中で、特に欠損部顎堤の吸収が著しい場合に適用され、人工歯の基底面に床をつけた形態のものを、有床型ポンティックと呼ぶ。可撤性のポンティックにすることが多い。

24 安静空隙 あんせいくうげき

free-way space

下顎安静位における上下顎の歯列間距離。その値は正常者において前歯部で2~3mmである。咬合高径決定の目安になる。

25 アンダーカット

undercut

- 1) 義歯の着脱方向に対して、歯や顎堤などの最大豊隆部よりも下方の陥凹した部分。模型の歯や顎堤に描記されたサバイラインに囲まれた領域をアンダーカット域 (undercut area, infrabulge area)、その他の領域を非アンダーカット域 (non-undercut area, suprabulge area) という。
- 2) 歯冠補綴装置の適合性を悪化させる支台歯軸面の陥凹。

26 アンダーカットゲージ

undercut gauge

サバイヤーの付属品の1つで、水平的なアンダーカット量を計測するジグ。通常、0.25 mm、0.50 mm、0.75 mmの3種が用いられる。

27 アンテの法則 —ほうそく

Ante's law

固定性ブリッジにおいて、支台歯の歯根表面積の総和は補綴される欠損歯のそ

れと同等以上でなければならないとする概念。Ante (1926) により提唱された。

28 アンテリアガイダンス

anterior guidance

〔同義語〕前方誘導 (指導)

下顎滑走運動時における歯の指導要素。後方の顎関節による指導要素 (ポステリアガイダンス) に対する前方指導要素の意。

29 アンテリアーハイパーファンクシオンシンドローム→「コンビネーションシンドローム」参照

い

30 移行義歯 いこうぎし

transitional denture

比較的早期に、抜歯とそれに伴う義歯の修理や新製が予測された場合、その間の機能と形態とを確保するために使用される義歯。旧義歯に増歯などの改修を施して使用することもある。

31 維持 いじ

retention

〔同義語〕保持

補綴装置に加わる離脱力に抵抗する作用。

32 維持格子 いじこうし

retentive latticework

小連結子の一種で大連結子と義歯床を連結する装置。フレームワークの義歯床に入る部分が格子状に製作されることがあることから維持格子と呼ばれているが、実際の臨床ではスケルトン型、メッシュ型など種々の形態がある。

33 維持歯→「支台歯」参照

34 維持装置→「支台装置」参照

35 異常習癖 いじょうしゅうへき**parafunctional habits**

習慣性の非機能的動作。顎口腔領域にみられる異常習癖には、ブラキシズム(クレンチング、グライディング、タッピング)、異常嚥下、咬唇、咬舌、弄指、弄舌、吸引などがある。

36 維持力 いじりよく**retentive force**

補綴装置に加わる離脱力に抵抗し、それを装着された位置に保つ力。すなわち、装着された補綴装置を離脱させるのに必要な力。歯冠補綴装置の場合には保持力ともいう。

37 維持腕 いじわん**retentive arm**

部分床義歯を維持する目的で設計された鉤腕。通常、鉤尖がその役割を果たす。→「拮抗腕」参照

38 一次固定 いちじこてい**primary splinting**

連結した固定性補綴装置の装着により、支台歯相互の連結固定効果を発現させる方法。

39 一塊鑄造法→「ワンピースキャスト法」参照**40 印象** いんしょう**impression**

歯、顎堤、顔面などの形態を再現するために採得された対象物の陰型。

41 印象圧 いんしょうあつ**impression pressure**

印象採得を行うときに対象に加わる圧力。その大小により積極的に圧を加える加圧印象と可及的に圧を加えない無圧印象とに分類される。

42 印象域 いんしょういき**impression area**

印象に記録すべき範囲。

43 印象採得 いんしょうさいとく**impression taking**

歯、顎堤、顔面などの形態を再現するためにその陰型を製作する一連の操作。

44 印象用トレー いんしょうよう—**impression tray**

印象材を運び、保持するための器具。通常、柄部、体部、辺縁部からなる。材質には金属やプラスチックなどがあり、既製トレーと自家製トレーとがある。

45 インターオクルーザルレコード**interocclusal record**

上下顎歯列または顎堤間の相互的位置関係の記録。

46 インターナルコネクション**internal connection**

顎骨内のインプラント(フィクスチャー)とアバットメントや補綴上部構造(クラウン、ブリッジ、アタッチメント)との連結部分において、インプラントが凹に、支台装置や補綴上部構造が凸になっている連結様式。これとは逆に、インプラントが凸に、支台装置や補綴上部構造が凹になっている連結様式を、エクスターナルコネクションという。

47 インフラバルジクラスプ→「歯肉型クラスプ」参照**48 インプラント****implant**

生体の欠損部を補填するために、生体材料あるいは非生体材料を移植または栽植する形成術、またはそれらの移植体、栽植物の総称。主要なもの1つに口腔インプラント(dental implant)がある。

49 インプラントアナログ**implant analogue**

(同義語) インプラントレプリカ

口腔内のインプラント（フィクスチャー）やアバットメントの複製。一般にステンレスなどの金属でできており、インプラントの補綴上部構造を製作するための作業用模型を作る際に必要となる。

50 インプラント義歯 —ぎし implant prosthesis

義歯床負担域の軟組織の下，すなわち顎骨表面あるいはその内部に設置された人工的構造物から支持・把持・維持力を得る義歯。インプラント上部構造と支台部との連結方法には，固定式，患者可撤式，術者可撤式の3種類がある。

51 インプラント周囲炎 —しゅういえん peri-implantitis

インプラント周囲組織（骨，歯肉）に生じた炎症。過重負荷に加えて，歯周病菌など弱毒性口腔常在菌による感染が原因となることが多く，進行するとインプラント（フィクスチャー）と周囲骨組織との骨結合が喪失して，インプラントの脱落に及ぶ。とくに，炎症病変がインプラント周囲の歯肉粘膜に限局しているものを，インプラント周囲粘膜炎（peri-implant mucositis）という。

52 インプラントレプリカ→「インプラントアナログ」参照

う

53 ウィルソンの湾曲 —わんきょく curve of Wilson

〔同義語〕側方咬合湾曲，側方歯牙湾曲，側方歯列湾曲，lateral occlusal curve

天然歯列を前頭面に投影したときに観察できる咬合平面の側方的な湾曲。上顎

臼歯の歯軸が頬側に傾斜し，下顎臼歯の歯軸が舌側に傾斜しているため，咬合平面に対して，上顎臼歯の舌側咬頭は頬側咬頭より低位に，下顎臼歯の舌側咬頭は頬側咬頭より低位になる。この結果，咬合平面は下方に凸な湾曲を描く。

54 ウォッシュインプレッションテクニック wash impression technique

- 1) 有床義歯の印象採得において，微圧のもとで印象材をゆきわたらせ，印象圧による顎堤粘膜の変形をできるだけ小さく，細部の精密な形態を再現する方法。
- 2) クラウンブリッジ支台歯の連合印象採得において，概形印象内面に流れの良い印象材を盛り上げて細部の精密な形態を再現する方法。

→「連合印象」参照

55 運動論的顎頭点 —うんどうろんてい kinematic condylar point

側方運動を含むあらゆる顎運動を行ったとき，下顎頭の運動路が最も収斂する点。下顎運動に対しては両側の下顎頭の中央部付近に求まり，相補下顎運動に対しては相補運動論的顎頭点（complementary kinematic condylar point）が両側の関節結節の中央付近に求まる。

え

56 永久固定 えいきゅうこてい permanent splinting

動揺歯をインレーやクラウンなどで恒久的に連結，固定することにより，各種機能時に加わる圧を複数歯に分散し，その安定を図ることを目的とした処置。固着式固定法と可撤式固定法とがある。

57 ASC52 ビバル えーえすしーごじゅうにー

ASC52 Bival

可動部に上下2個のホゾがあり、固定部への絡み合いを上下変えることにより、垂直遠心回転（蝶番運動）を許容したり、固定性の連結機構にすることが可能な歯冠外アタッチメント。

58 エーカースクラスプ

Akers clasp

レスト付き二腕鉤に相当する鑄造鉤。欠損側に設置された咬合面レストと2本の鉤腕からなり、強固な支持・保持・維持が確保できる。Akers (1925) により考案された代表的な環状鉤。

59 S字状隆起 えすじじょうりゅうき

S-curve

上顎義歯の歯肉形成時に前歯部口蓋側に付与される、矢状断面形態がS字状の隆起。呼気流を整え構音機能の回復などを目的とする。

60 エステティックライン

esthetic line

側貌の審美的基準となる鼻尖とオトガイを結んだ線。鼻、口唇、オトガイのバランスを示し、バランスの良い側貌は、この線に近接した下唇の後方に上唇が位置し、口唇がこの線より突出すると審美不良になるといわれているが、その位置関係には人種差がみられる。義歯患者では人工歯の切縁部の前後の位置に影響され、義歯によるリップサポート回復程度の評価に用いることができる。

61 S発音位 えすはつおんい “s” position

[s]音を発音するときの顎位。[s]発音時には下顎が前下方に移動し、下顎中切歯切縁が上顎中切歯切縁の1~2mm内側

に位置する。発音中に上下顎の歯が互いに最も接近する顎位（最小発音空隙；closest speaking space）として、前歯部人工歯の位置の決定や排列後の位置の判定に利用される。

62 SPA要素 えすぴーえいようそ

SPA factor

前歯部の人工歯を選択するとき、審美的な観点から参考にすべきとされる3つの要素。SPAは、患者の性別（sex）、性格（personality）、年齢（age）の頭文字を表す。FrushとFisher（1956）によって提唱された。

63 エピテーゼ

facial prosthesis

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で生じた顔表面を含む実質欠損を非観血的に、あるいは手術との併用により補填修復し、その形態的・審美的改善とともに、発語などの失われた機能の回復を図るために用いる人工物。独語 Epithese に由来。

64 FGP テクニック えふじーぴーー

functionally generated path

technique (FGP technique)

〔同義語〕機能的運動路法

下顎の機能運動に調和した咬合面形態を備えた補綴装置を製作するため、対合歯の機能運動経路を口腔内で直接ワックスに印記させたものに石膏を注入した機能的模型と、解剖学的な対合歯模型の2種類によってワックスアップを行う術式。

65 エマージェンスプロファイル

emergence profile

天然歯、歯冠補綴装置、インプラントのアパットメントおよび上部構造物の歯肉溝内から歯冠部歯頸部側1/3付近まで

のカントウアや立ち上がり角度などの形態。

66 MPD 症候群 えむぴーでいしょうこうぐん

myofascial pain dysfunction syndrome (MPD syndrome)

咀嚼筋の機能異常により引き起こされる，顎関節，咀嚼筋および関連組織の疼痛や機能障害を主症状とする症候群。顎関節症の1つの病態。

67 エルブレヒトクラスプ

Elbrecht clasp

〔同義語〕T字クラスプ

欠損の反対側隣接面から鉤体が発し，頬・舌側面を鉤腕が走行して欠損側隣接面に鉤尖が終わり，レストは鉤体から咬合面の中央溝を通して欠損側に向かい，そのまま鉤脚となる形態の環状鉤。Elbrecht (1961) により考案された。

68 嚥下位 えんげい

swallowing position

嚥下動作の第1相における顎位。通常，正常有歯顎者では嚥下時に咬頭嵌合位付近で咬合接触する。このことから無歯顎者の垂直的，水平的顎位の設定に利用される。

69 嚥下造影検査 えんげぞうえいけんさ **videofluorography (VF)**

〔同義語〕嚥下透視検査，ビデオ嚥下造影，ビデオレントゲン検査

摂食・嚥下障害の評価のために，嚥下造影剤とエックス線透視装置を用いて，口腔，咽頭，食道内での食塊の動きを観察することによって嚥下機能を評価する検査。嚥下運動は一連の早い動きなので，ビデオに記録して評価され，現在，誤嚥の有無の検査法として最も有効な方法であるが，誤嚥と窒息の危険性に注意が必

要である。

70 嚥下透視検査→「嚥下造影検査」参照

71 嚥下法 えんげほう

swallowing method [of vertical relation]

無歯顎患者あるいは残存歯による咬合支持の欠如した患者や咬頭嵌合位が顎頭安定位と一致していない患者などに対して，嚥下位を利用して顎間関係を決定する咬合採得法の1つ。垂直的ならびに水平的顎間関係の決定に応用されるが，前者においては，低位咬合になりやすいため，軽く嚥下させるのが良いとされる。

72 嚥下補助装置 えんげほじょそうち

prosthetic appliance for swallowing disorder

先天的あるいは後天的な形態や機能の異常による嚥下障害に対する治療目的で使用する補綴装置。口蓋裂やダウン症などによる鼻咽腔閉鎖不全のための軟口蓋部のスピーチエイドなどの補綴装置，上顎切除などによる実質欠損に対する顎義歯，舌切除や脳卒中による舌の運動障害に対する舌接触補助床などがある。

73 延長ブリッジ えんちょうり

cantilever bridge, cantilever fixed partial denture

〔同義語〕遊離端ブリッジ

ポンティックの近遠心側の1側のみに支台装置をもつブリッジ。片持ち梁構造のため，ポンティックに加わる咬合力に対する支台歯の負担は通常の両端支持のブリッジより大きくなる。

74 延長腕鉤 えんちようわんこう

extended arm clasp

二腕鉤の頬・舌側鉤腕を支台歯の隣接歯まで延長したクラスプ。支台歯に有効

なアンダーカット域が存在しない場合や側方を2歯に分散する目的などで適用されるが、実際の臨床での使用頻度は低い。

75 円板整位 えんばんせいゐ

disc repositioning

前方転位などのように、偏位していた関節円板が、スプリント療法や外科的処置によって正常な位置に戻された状態。

76 円板転位 えんばんてんゐ

disc derangement

関節円板が下顎頭、下顎窩、あるいは関節結節に対して異常な位置関係にある状態。

77 円板復位 えんばんふゐゐ

disc reduction

前方転位などのように、位置が正常でない関節円板が、開口時に正常な位置に戻ることに。

お

78 オーバージェット

horizontal overlap, overjet

〔同義語〕水平被蓋

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎白歯の頬側咬頭が下顎歯に対して水平的に被蓋している関係。通常は上顎中切歯切縁から下顎中切歯唇面までの水平的距離で表し、上顎が前方に位置する場合をプラス(+), 反対のものをマイナス(-)と表示する。

79 オーバーデンチャー

overdenture, overlay prosthesis

〔同義語〕残根上義歯

歯根あるいはインプラントを被覆する形態の可撤性義歯。

口蓋裂症例などの低位歯、開咬、鉄状

咬合などでは、稀に天然歯冠をそのまま被覆することもあるが、通常は少数残存歯症例などでは、歯冠部を切除した根面に、根面板、根面アタッチメント、磁性アタッチメントなどを適用した後に本形態の義歯を設計する。後者の場合、負担能力に劣る残存歯の歯冠歯根比の改善、抜歯による顎堤吸収の防止、歯根膜感覚の活用などを期待した補綴装置である。

80 オーバーバイト

overbite, vertical overlap

〔同義語〕垂直被蓋

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎白歯の頬側咬頭が下顎歯に対して垂直的に被蓋している関係。通常は上顎中切歯切縁と下顎中切歯切縁との垂直的距離で表し、上顎の切縁が下方に位置する場合をプラス(+), 反対のものをマイナス(-)と表示する。

81 オーラルディスキネジア

oral dyskinesia

支配神経あるいは筋肉の障害により下顎、舌、口唇などに出現する反射性、情動性の不随意運動。咬合異常や口腔内の疼痛、違和感などの末梢入力の変調が誘因や増悪因子となることがある。

82 オーラルリハビリテーション

oral rehabilitation

〔同義語〕咬合再構成, occlusal reconstruction

1) ナソロジー学派が提唱した一連の臨床術式の総称であり、蝶番軸に基づいて咬合位を定め、臼歯離開咬合か犬歯誘導咬合を追及する治療法。

2) 比較的多数歯の関与する咬合異常に基づいた顎口腔系の障害に対して、歯列全体に固定性補綴装置を適用することで咬合を再構築し、顎口腔系の形態・機

能・審美性の回復を図る方法。

83 Oリングアタッチメント おー

O-ring attachment

ゴム製で断面が円形のOリングをフィメールとし、このフィメールを受け入れるように形成された半円形の頸部を有するスナップ状のメールを組み合わせた根面アタッチメント。オーバーデンチャーの支台装置として応用される。ゴムリングが劣化するため、頻繁に交換する必要がある。

84 オールセラミッククラウン

all ceramic crown

曲げ強度、靱性等の物性に優れたセラミック材料によって製作されたメタルフリークラウン。

リユーサイトなどの加強材によりクラウン全体の強度を向上させたものと高強度のコア材の上に歯冠色のセラミックを積層するものの2種類に大別される。

従来のポーセレンジャケットクラウンは白金箔やパラジウム箔の上に陶材を築盛して製作したが、現在ではロストワックス法によるもの（キャストブルセラミック、加圧成型セラミック）、耐火模型を用いるもの、CAD/CAMによるものなどがある。また、ジルコニアを応用して臼歯部のロングスパンブリッジまで製作可能なシステムもある。さらに審美修復材料には、オールセラミッククラウンの他にマトリックスレジンに無機質フィラーを高密度で混ぜ合わせた高分子材料からなるハイブリッドセラミッククラウンもある。

85 オククルーザルスプリント

occlusal splint

〔同義語〕 バイトスプリント、bite splint
暫間的に歯列の咬合面を被覆し、咬合

の改善や診断に用いられる可撤性の口腔内装置。スタビライゼーションスプリント (stabilization splint)、リラクゼーションスプリント (relaxation splint)、リポジショニングスプリント (repositioning splint) などがある。

86 オククルーザルランプ

occlusal ramp

〔同義語〕 パラタルランプ、palatal ramp

外科処置などにより下顎偏位が生じた場合、咬頭嵌合位を保持するために上顎義歯や口蓋板に付与された咬合面の機能を担うテーブル様の構造物。通常、人工歯や残存歯の口蓋側に付与されるのでパラタルランプ (palatal ramp) ともいう。

87 オッセオインテグレーション

osseointegration

骨組織とインプラント体との界面に炎症所見が認められず、かつ、骨のリモデリングを妨げずに良好な接触関係が維持される状態を示す用語。骨組織とインプラント界面の光学顕微鏡像において、界面に軟組織が介在せず、直接接触していることが必要条件とされる。

88 オッセオインテグレートッドインプラント

osseointegrated implant

〔同義語〕 骨結合型インプラント

インプラントの1つで、その下部構造が骨組織に密着した結合状態を呈し、インプラント体に加わった力を直接骨に伝達する様式のもの。

89 オッセオインテグレートッドブリッジ

→「ボーンアンカードブリッジ」

90 オトガイ唇溝

mentolabial sulcus

下唇とオトガイ部との境界の皮膚を横

走る弓形の浅い溝. 老人様顔貌の評価, 咬合高径の評価, 下顎義歯の前歯部人工歯歯列位置, 義歯床翼の豊隆などの指標となる.

91 オベイト型ポンティック — がた

ovate pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ. 外科的な補綴前処置により形成した顎堤粘膜の凹みに球面状の基底面が入り込み接触する. 審美性を重視した形態であるが, ブリッジ装着までの期間プロビジョナルブリッジで凹みを圧迫して維持しておく必要があり, 基底面の清掃にも注意が必要など生体親和性の点で問題も残されている.

92 オルタードキャスト法 — ほう

altered cast technique

義歯の機能時における床と粘膜との適合を図るため, 解剖学的印象により製作した模型の欠損部のみを機能印象による模型に置き換える方法.

93 オルトンクラウン

Orton crown

歯型の全周に適合させた純金製のマトリックスの歯頸部に, 22K 金板で幅の狭い帯環をろう(鐳)付けし, 歯冠形態をワックスアップ後, 鋳造して製作する全部被覆冠. 金属の鋳造収縮をマトリックス箔使用により防ぐために考案された. ガス抜きがうまくないと鋳造が困難であり, 鋳造冠の登場で過去のものとなった.

か

94 加圧印象 かあついんしょう

pressure impression

有床義歯の機能時の状態を想定し, 顎

堤粘膜を加圧下で採得する印象. 咬合圧印象, ダイナミック印象などがある.

95 外冠 がいかん

outer cap, outer crown

テレスコープクラウンの一部であり, 可撤性補綴装置に設置される金属冠. 内冠との接触面に生じる摩擦力あるいはくさび効果は可撤性義歯の維持力として効果的に働く. また, 外冠によって歯冠外形を再現する.

96 概形印象 がいけいいんしょう

preliminary impression

歯および欠損部顎堤などの口腔内諸組織を予備的に採得する印象. この印象から研究用模型を製作し, 咬合関係の診査, 床縁の位置の判定, 義歯の仮設計, 個人トレーの製作などを行う.

97 開口障害 かいこうしょうがい

disturbance of mouth opening

顎口腔系組織・器官が一過性あるいは持続的に障害を受け, 開口運動に制限が生じた病態. 一般的に最大開口量の測定によって診断されるが, 顎関節の障害によるものと, 筋などの軟組織の異常によるものがある.

98 外斜線 がいしゃせん

external oblique ridge

下顎骨筋突起前縁から下方へ走り, 白後三角の頰側を通り, 下顎体の臼歯部外面に移行する骨の隆線. 内斜線とともに臼歯部義歯床縁の位置を設定する際に解剖学的指標として用いられる.

99 外傷性咬合 がいしょうせいこうこう

traumatic occlusion

- 1) 顎口腔系に損傷を引き起こす咬合.
- 2) 歯周組織に損傷を引き起こす咬合.

100 外側バー がいそく —

external bar

残存歯部の口腔前庭に設置される大連結子。前歯部に用いられるものを唇側バー (labial bar)、臼歯部に用いられるものを頬側バー (buccal bar) という。

101 ガイドグループ

guiding groove, orientation groove

支台歯形成の始めに、歯質の切削量を規定するために設けられる溝。

102 ガイドプレーン

guiding plane

〔同義語〕誘導面

支台歯側面に義歯の着脱方向と平行に形成された平面。隣接面板やクラスプなどとの組み合わせで、義歯と支台歯の間隙を少なくし、支台歯の保護と義歯の動揺を規制する機能を発揮する。

103 解剖学的印象 かいぼうがくてきいんしょう

anatomic impression

顎口腔諸組織の解剖学的形態をできるだけ静的な状態で採得する印象。特に、軟組織部では無圧印象と同義語として用いられる。

104 解剖学的咬合器 かいぼうがくてきこうごうき

anatomical articulator

〔同義語〕顎路型咬合器, condylar path articulator

関節部の構造が生体の顎関節に類似している咬合器の総称。顎路の再現を重視し、咬合器の運動を顎路を主体として行わせようとするもの。

105 解剖学的歯冠 かいぼうがくてきしかん

anatomic crown

天然歯のセメント-エナメル境から切縁あるいは咬合面までの部分。

→「臨床的歯冠」参照

106 解剖学的人工歯 かいぼうがくてきじんこうし

anatomic artificial teeth, anatomic teeth

第一大臼歯の咬頭傾斜角が 30° 以上の人工歯。咀嚼能率の向上、咬合面による義歯の咬頭嵌合位への誘導機能、天然歯に近い審美性などの利点があるが、偏心位での咬合調整に時間がかかるなどの欠点がある。

107 過蓋咬合 かがいこうごう

deep bite

咬頭嵌合位における上顎前歯が下顎前歯唇面の $1/4\sim 1/3$ 以上を被覆する咬合状態。上下顎歯列弓の垂直的咬合関係の異常の1つ。

108 下顎安静位 かがくあんせいゐ

physiologic rest position

上体を起こして安静にしているときの顎位。通常、咬頭嵌合位の $2\sim 3$ mm 下方の位置とされる。

109 下顎安静位利用法 かがくあんせいゐりようほう

maxillomandibular registration using physiologic rest position

下顎安静位を利用して咬合高径を決定する咬合採得法。上下顎の皮膚上に設定した標点間の距離を計測し、下顎安静時のものから平均的な安静空隙量 ($2\sim 3$ mm) を減じた値となる顎位を中心咬合位とするもの。

110 下顎位 かがくゐ

mandibular position

上顎を基準とした場合の顎位。数学的には互いに独立な6個のパラメータで完全に定義できる。このパラメータは直交座標系で例を示すと、座標値 (x, y, z) と各軸の周りの回転 ($\theta_x, \theta_y, \theta_z$) とな

る。

111 下顎運動 かがくうんどう
mandibular movement

上顎を基準として見た場合の顎運動。

112 下顎運動記録 かがくうんどうきろく
mandibular movement record

1) 生理学的な研究,あるいは顎口腔機能の診断や咬合器の調節などの臨床的な目的で行われる下顎の運動に関する記録。解剖学的方法,写真法,映画法,描記法,電気的測定法などがある。

2) 下顎運動の軌跡。

113 下顎運動障害 かがくうんどうしょうがい
disorders of mandibular movement

下顎運動が滑らかに行われない,あるいは下顎運動が制限された状態。

114 下顎運動分析記録装置 かがくうんどうぶんせききろくそうち
mandibular movement analyzing device

下顎運動の記録,分析を目的とする種々の測定解析装置の総称。主要な商品として, MKG, シロナソグラフ, MM-II・E, トライメット, ナソヘキサグラフなどがある。

115 下顎運動要素 かがくうんどうようそ
elements of mandibular movement

3次元的な下顎運動を3点で表示するための6要素。これには方向,距離,経路の湾曲が含まれている。運動方向は基準平面に対する実角で,また,運動距離は投影距離または実距離で表示される。運動経路の湾曲は,運動方向を示す直線に対する経路の湾曲の深さによって表示されることもある。

116 下顎限界運動 [路] かがくげんかいはうんどう [ろ]
mandibular border movement [path]

骨,顎関節,歯,筋肉,靭帯などにより規制された3次元的な下顎の限界での運動(路)。切歯点の限界運動路を表示したポッセルトの図形が有名である。また,ある定められた垂直的顎位における水平面上では,前方・後方・側方の下顎限界運動路が描記される。特に,後方・側方下顎限界運動路を描記したものはゴシックアーチと呼ばれる。

117 下顎後退位 かがくこうたいい
mandibular retruded position

咬頭嵌合位に相当する顎位より後方に位置するすべての顎位。

118 下顎後退咬合位→「下顎後退接触位」参照

119 下顎後退接触位 かがくこうたいせつしょくい
retruded contact position

〔同義語〕下顎後退咬合位

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で,下顎を後方へ滑走させたときのすべての咬合位。

120 下顎最後退位 かがくさいこうたいい
posterior border position of mandible

下顎後退位の中で最も後方に位置する顎位。Posselt (1962) が用いた用語で,関節包を構成する靭帯の緊張により決定される下顎のとりうる最後方位で,ゴシックアーチの頂点に一致する。

121 下顎最後退咬合位→「下顎最後退接触位」参照

122 下顎最後退接触位 かがくさいこうたいせつしよくい

most retruded contact position

〔同義語〕下顎最後退咬合位

下顎頭が下顎窩内で最も後方に位置する状態での咬合位。

123 下顎前方保持装置 かがくぜんぼうほじそうち

anterior mandibular positioner

[or positioning device],

mandibular advancement device, tongue retaining device

閉塞型睡眠時無呼吸症候群やいびきの治療に用いられる口腔内装置。単にオーラルアプライアンス (oral appliance) と呼ぶこともある。下顎前方整位タイプと舌位矯正タイプに分けられ、下顎あるいは舌を前方に位置付けることで上気道を拡張する。

装置を維持できる健全な歯列または十分な歯数があること、顎関節に異常がないこと、前方位が無理なく取れることなどが適応条件となり、慎重な経過観察が必要である。装置使用時の問題点には、歯や顎関節の不快感、唾液の増加あるいは減少などが挙げられる。

124 下顎頭 かがくとう
mandibular condyle

〔同義語〕顎頭

下顎枝の後方の長楕円形の突起。下顎頭とともに関節突起を構成する。顎関節の関節頭として働く。

125 下顎頭位 かがくとうい
condylar position

〔同義語〕顎頭位

下顎窩に対する下顎頭の位置関係。

126 下顎隆起 かがくりゅううき
torus mandibularis

下顎骨の臼歯部舌側面、特に第二小臼歯部に好発する、骨質の局所的過剰発育によって生ずる骨隆起。通常は無症状であるが、有床義歯の適用時には床外形の設定に障害となることが多い。

127 下弓 [咬合器の] かきゅう [こうごうきー]

lower bow [of articulator]

咬合器の下部構造で下顎模型を装着する金属製の体部。

128 顎位 がくい
jaw position

上顎と下顎との相対的な位置関係。上顎を基準とした場合を下顎位、逆に下顎を基準とした場合を相補下顎位と呼び、その両者を総称したもの。

129 顎運動 がくうんどう
jaw movement

上顎と下顎の相対的な運動を、上顎を基準としたとき下顎運動、逆に下顎を基準としたとき相補下顎運動と呼び、その両者を総称したもの。

130 顎運動検査 がくうんどうけんさ
examination of jaw movement

下顎の運動記録から、上下顎の顎間関係や咬合器調節のための運動要素の情報を得たり、顎口腔機能状態の診断を行うための検査。上顎を基準にとり下顎の運動を検査する下顎運動検査と、下顎を基準にとり上顎の相対的な運動を検査する相補下顎運動検査とがある。描記法に加え、最近は各種センサーを用いた電気的検査法も普及してきている。

131 顎間関係 がくかんかんけい
maxillomandibular relationship

上顎に対する下顎の、または下顎に対する上顎の空間的位置関係。上下顎間の水平・垂直方向のすべての位置関係を含

む。

132 顎間関係記録→「顎間記録」参照**133 顎間距離** がくかんきょり**vertical dimension**

下顎がある特定の位置にあるとき、上顎と下顎に設定した2点間の距離。上下顎が中心咬合位で咬合しているときの顎間距離を咬合高径という。

134 顎間記録 がくかんきょく**maxillomandibular relationship record**

〔同義語〕顎間関係記録

上下顎間の垂直的・水平的位置関係の記録。

135 顎関節エックス線撮影 がくかんせつえい**temporomandibular joint radiography**

顎関節部の骨形態や顎関節隙を検査するためのエックス線撮影。顎関節疾患の診断や治療効果、および顎関節腔造影法との併用による関節円板の形態異常や機能異常の検査に用いられる。

136 顎関節雑音 がくかんせつざつおん**temporomandibular joint noise**

顎運動に伴って顎関節部に生ずる異常音。顎関節症の主症状の1つで、初発症状として高頻度に出現する。

その音質はクリッキング（弾撥音）とクレピテーション（捻髪音、摩擦音）とに大別される。

137 顎関節疾患 がくかんせつしつかん**temporomandibular joint disease**

顎関節部の病変で、その病態あるいは原因により、1. 発育異常、2. 外傷、3. 炎症、4. 退行性関節疾患あるいは変形性関節症、5. 腫瘍および腫瘍類似疾患、6. 全身性疾患に関連した顎関節異常、

7. 顎関節強直症、8. 顎関節症の8つに分類される。

138 顎関節症 がくかんせつしょう**temporomandibular disorders**

顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節雑音、開口障害のない顎運動異常を主要症状とする慢性疾患群の総括的診断名。その病態には咀嚼筋障害、関節包・靭帯障害、関節円板障害、変形性関節症などが含まれる。

→「顎機能障害」参照

139 顎関節痛 がくかんせつつう**temporomandibular arthralgia**

顎関節部あるいはその周囲の疼痛。関節痛は関節内部の円板、滑膜、関節包などの障害によっても生ずるが、関節周囲の組織、例えば筋、筋膜、腱、靭帯などの障害によっても起こる。

140 顎関節内障 がくかんせつないしょう**internal derangement of temporomandibular joint**

顎関節症の病態の1つ。関節円板の位置や形態異常によって引き起こされる顎関節の機能障害。

141 顎顔面補綴 がくがんめんほてつ**maxillofacial prosthetics**

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で、顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により人工物で補填・修復し、失われた機能と形態の回復を図ること。その処置部位により、顎補綴と顔面補綴とに大別される。

142 顎顔面補綴装置 がくがんめんほてつそうち**maxillofacial prosthesis**

〔同義語〕顎顔面補綴物

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原

因で、顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により、顎口腔系の失われた機能と形態の回復を図る目的で用いられる人工物。その適用部位により、顎補綴装置(口腔内補綴装置; intraoral prosthesis)と顔面補綴装置(口腔外補綴装置; extraoral prosthesis)とに大別される。

143 顎顔面補綴物→「顎顔面補綴装置」参照

144 顎義歯 がくぎし
denture for defected jaw

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによる顎骨、または口腔軟組織の欠損に適用され、欠損部の補填・閉塞を図るとともに、人工歯を備え、義歯に準ずる形態と機能を有する補綴装置。

145 顎機能障害 がくきのうしょうがい
temporomandibular disorders

顎関節雑音、顎関節や咀嚼筋の疼痛、顎運動障害を主徴とする症候群。ときには顎口腔領域にとどまらず全身の身体や、精神心理面に種々の障害をもたらす。日本顎関節学会は顎関節症を正式な名称として採用しているが、この顎機能障害の用語は、咀嚼筋症状だけで顎関節に症状を認めない症例を含む本症候群の疾患名として適切であるという主張に基づいている。

→「顎関節症」参照

146 顎欠損 がくけっそん
jaw defect

腫瘍摘出や先天奇形などによる顎骨の部分あるいは全部の欠損。これにより顔面の審美性の障害を含む多様かつ重篤な口腔機能障害が引き起こされる。特に上顎では口腔と鼻腔の病的交通による飲食物や空気の漏洩、下顎では残存セグメン

トの三次元的変位による咬合の崩壊などが代表的なものであり、いずれも顎補綴処置の対象となる。

147 顎口腔系 がくこうくうけい
stomatognathic system

摂食、咀嚼、嚥下および発音に関係する組織と器官の共同体。

148 顎舌骨筋線 がくぜつこつきんせん
mylohyoid ridge

下顎体の内面を、後方より前下方に斜走し、顎舌骨筋が付着する隆線。下顎有床義歯の臼歯部における舌側床縁は、この隆線を越えた位置に設定するのが妥当とされる。ただし、当該部の粘膜面にはリリーフが必要である。

149 顎堤 がくてい
residual ridge

歯の喪失によって生じる骨吸収の後に、残留した歯槽骨あるいは顎骨と顎堤粘膜によって形成される堤状の高まり。無歯顎の場合にはその形態から顎堤弓(residual ridge arch, alveolar arch)と呼ばれる。

150 顎堤吸収 がくていきゅうしゅう
residual ridge resorption

歯槽骨の吸収によって起こる欠損部顎堤の形態的变化。顎堤は義歯を支持する役割を担うが、顎堤の形態や顎堤粘膜の被圧変位量などは義歯の維持と安定に大きく関与する。

151 顎堤粘膜 がくていねんまく
residual mucous membrane

顎堤を被覆する粘膜。上皮は厚く、角化しており、薄い粘膜下組織によって骨と結合している。義歯に加わる咬合力を支持するのに適した組織構造を有している。

152 顎補綴 がくほてつ**prosthetics for defected jaw**

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによって生じた顎骨とその周囲組織の欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により人工物で補填・修復し、顎口腔の失われた機能と形態の回復を図ること。

153 顎補綴装置 がくほてつそうち**prosthesis and/or appliance for defected jaw**

〔同義語〕顎補綴物

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で、顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により、顎口腔の失われた機能と形態の回復を図ることに用いられる人工物。

154 顎補綴物→「顎補綴装置」参照**155 ガグリールメッティイソクリップ**
Guglielmetti Isoclip

可動部にろう（鑑）着するハウジング、スタッド、コイルスプリング、バイヨネット式のロックボタンにより構成される補助アタッチメント。Pressomatic と同様の目的で使用される。

156 カスタムアバットメント**custom abutment**

金合金などを鋳造したり、アルミナ、ジルコニア、チタンなどをCAD/CAMで削り出して、個別に作製したアバットメント。

157 仮想咬合平面 かそうこうごうへいめん**tentative occlusal plane**

最終義歯の咬合平面の基準となる、咬合堤上に表現される平面。

158 型ごと埋没法 かた—まいぼつほう
die investing method

母模型から複製された耐火模型上でワックスアップし、ワックスパターンを模型からはずさず、そのまま同一埋没材で埋没して鋳造体を製作する方法。使用埋没材には、石膏系やリン酸塩系などがあるが、一般的に通常の埋没材より結合材の量を多くして、強度を与えている。

159 仮着 かちやく**temporary cementation**

プロビジョナルクラウンなども含めた歯冠補綴装置を支台歯に一時的に装着すること。最終補綴装置の場合には、その状態で暫時患者に使用させ、審美性や咬合機能の回復程度および装着感などを観察し、問題点があれば改善し、異常がなければ耐久性の高い材料を用いて合着する。

160 滑走運動 かっそううんどう**mandibular translation**

咬合接触を保持した状態で行う前方、後方、または側方への顎運動。それぞれ、前方滑走運動、後方滑走運動、側方滑走運動と呼ばれ、咬合の診査や咬合様式の確認に利用される。特に側方滑走運動は咀嚼運動と密接な関係にあることから、各種の顎運動の中で最も重要視され、この方向、距離および湾曲は咬合器の設計や咬合器での顎運動の再現あるいは合理的な咬合形態の付与や咬合調整における最大の診査対象となっている。

161 可撤歯型式模型→「歯型可撤式模型」参照**162 可撤性義歯** かてつせいぎし**removable denture**

患者あるいは術者が任意に着脱可能な義歯。有床義歯、可撤性ブリッジなどがある。

163 可撤性ブリッジ かてつせい—
removable bridge

患者あるいは術者によって、装置の一部が着脱可能なブリッジ。支台歯の平行性が十分でないときや、有床型や鞍状型ポンティックなどの非自浄型ポンティックを適用した場合に設計される。

164 可撤性補綴装置 かてつせいほてつ
そうち

removable prosthesis

〔同義語〕可撤性補綴物

補綴装置のうち、全部床義歯、部分床義歯、可撤性ブリッジなど、患者あるいは術者による着脱が可能な装置。

165 可撤性補綴物→「可撤性補綴装置」
参照

166 可撤性連結 かてつせいいんけつ
removable connection

装置の一部が、随時着脱しうる構造をもつ連結様式。

167 顎頭→「下顎頭」参照

168 顎頭安定位 かとうあんていいい
stabilized condylar position

下顎頭が下顎窩の中で緊張なく安定する位置（大石忠雄 1967）。正常歯列者の咬頭嵌合位では下顎頭は顎頭安定位にある。

169 顎頭位→「下顎頭位」参照

170 顎頭間距離 かとうかんきょり
intercondylar distance

顎頭間軸上にある左右の顎頭点間の距離。臨床では、皮膚上の顎頭点をフェイスボウにより計測している。したがって真の顎頭間距離は、これより片側で平均約12mm差し引いた距離とされる。Bonwill (1859)は顎頭間距離を4インチ(約10cm)とし、ボンウィル三角の一辺として補綴学的に意義づけ、咬合器に応用した。

171 顎頭間軸 かとうかんじく
intercondylar axis

左右の顎頭点を結んだ仮想軸。

172 顎頭球 かとうきゅう
condylar ball

生体の下顎頭に相当する咬合器の球状の部分。咬合器の上弓あるいは下弓に取りつけられ、顎路指導板に対して回転あるいは滑走し、咬合器の開閉運動、矢状および側方運動を規制する。

173 可動性補綴装置→「半固定性補綴装置」参照

174 可動性補綴物→「半固定性補綴装置」参照

175 顎頭点 かとうてん
condylar point

顎運動の原点として利用される下顎頭を代表する基準点。一般に、下顎頭の平均的な形態に基づいて皮膚上に求められた平均的顎頭点、あるいは終末蝶番軸上の蝶番点もしくは全運動軸上の全運動軸点を使用される。

176 可動粘膜 かどうねんまく
unattached mucous membrane

咀嚼、発音、嚥下などの機能時に、筋肉の動きに伴って移動、変形する粘膜。

177 下部構造〔インプラントの〕かぶこ
うそう

substructure [of implant
prosthesis]

インプラントの生体組織内に埋入される部分。オッセオインテグレートッドインプラントにおいては骨内に埋入するフィクスチャーやブレード部分を示す。骨膜下インプラントにおいては骨面上に設置されるフレームを指すが、フレームから突出したアバットメントを含める場合もある。

178 ガム模型→「人工歯肉付模型」参照

179 顎路 から

condylar path

顎運動時に下顎頭が示す運動経路。特に滑走運動時の運動経路をいう。一般に下顎頭を代表する顎頭点の運動軌跡として表す。切歯路とともに顎運動の重要な要素であり、種々の顎運動に対応してさまざまな経路をとるが、その限界運動路を矢状面、水平面、前頭面に投影して矢状顎路と側方顎路とに区別して、咬合器の顎路調節などに利用する。

180 顎路型咬合器→「解剖学的咬合器」参照

181 顎路指導板 からしどうばん

condylar guidance

咬合器の関節部で顎頭球を一定方向に誘導し、一般的に矢状顎路傾斜角および側方顎路角を規制する部分。その機構からボックス型とスロット型とに分類される。

182 顎路調節機構 からちようせつきこう adjustable posterior guidance

調節性咬合器における顎路を再現するための調節機構。顎路指導部を調節することにより、各個人の矢状および側方顎路が設定できる。

183 冠→「クラウン」参照

184 緩圧型アタッチメント かんあつがた

stress-breaking attachment

義歯に機能圧が加わった場合に、アタッチメントを介して支台歯に伝達される力が過大となるのを防止する目的で、緩圧機構が付与されているアタッチメントの総称。緩圧方法には蝶番、スプリング、スペース付与の3種類がある。

185 緩圧型維持装置→「緩圧型支台装置」参照

186 緩圧型支台装置 かんあつがたしだい そうち

stress-breaking retainer

〔同義語〕緩圧型維持装置

義歯に加わる機能圧を制御して、支台歯の負担を軽減する構造と作用をもつ支台装置。

187 緩圧装置 かんあつそうち

stress breaker

支台歯などに伝達される咬合力の一部、または大部分を軽減し、それらの力の方向を他の支持装置や咬合圧負担域へ変更する装置、あるいはシステム。支台装置自体が緩圧作用を有するもの（緩圧型支台装置）と連結子に緩圧作用をもたせるもの（スプリットバーなど）がある。

188 眼窩下点 がんかかてん

infraorbital point

眼窩骨縁の最下点と定義される眼点（orbitale；眼窩点）に相当する皮膚上の計測点。前方を直視させたときの瞳孔の直下で、眼窩下縁と交わる点を触診によって求める。フェイスボウトランスファー時の前方基準点の1つとして用いられる。

189 嵌合効力 かんごうこうりよく

interlocking force

修復物の着合材として用いられる泥状のセメントが、窩壁や修復物の粗造面の微細な凹凸の中にはいり込んで硬化し、その面にそったすべりを阻止する力。リン酸亜鉛セメントの場合では、修復物における維持力の主体をなす。

190 緩衝腔 かんしょうくう

relief area

義歯床下粘膜に過度の圧力が加わらないように、リリースを目的として義歯床

粘膜面と顎堤粘膜との間に作られる空隙。臨床的には、作業用模型上で緩衝部に絆創膏、金属箔などを貼付する方法、あるいは完成した義歯床粘膜面の当該部位を削除する方法などがある。

191 環状鉤 かんじょうこう
circumferential clasp

鉤腕が支台歯の歯冠をとりまく形態のクラスプの総称。鉤腕、鉤体、鉤脚から構成される。鉤腕の数に基づいた、単純鉤、二腕鉤などの分類、その形態から、ヘアピンクラスプ、リングクラスプ、双子鉤、延長腕鉤、連続鉤などの分類、あるいは、考案者の名に因んで、エーカークラスプ、ジャクソンクリブクラスプなどの多様な分類がある。

192 間接維持装置→「間接支台装置」参照

193 間接支台装置 かんせつしだいそうち
indirect retainer

〔同義語〕間接維持装置

部分床義歯の支台装置の1つ。欠損部から離れた歯に設定され、主に支台歯間線を軸とした義歯の回転に抵抗するものをいう。

194 完全自浄型ポンティック かんぜん
じじょうがた—
hygienic pontic

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。最も自浄性に優れた形態とされ、離底型ポンティックがこれに相当する。

195 寒天アルジネート連合印象 かんて
ん—れんごういんしょう
agar alginate combined impression

シリンジ用寒天印象材を支台歯に注入し、その上からトレーに盛ったアルジネート印象材で印象する連合印象の1つ。

196 寒天印象 かんてんいんしょう
**agar impression, reversible
hydrocolloid impression**

寒天印象材による印象。コンディショナーで加熱して印象材をゾル状にしておき、シリンジを用いて印象材を支台歯と歯列に注入し、冷却用チューブの付いた専用のトレーにトレー用印象材を盛ってその上に被せた後、水冷して採得する印象。

197 カントウア [歯の] —[は—]
contour [of tooth]

歯冠の軸面形態。特に頬・舌側の豊隆形態を指すことが多いが、本来は歯冠形態の外形を意味する。適正なカントウア (normal contour) より豊隆が大きなものをオーバーカントウア (over contour)、逆に、豊隆が不足しているものをアンダーカントウア (under contour) という。

198 カンベル平面 —へいめん
Camper's plane

水平基準面の1つであり、左右側いずれかの鼻翼下縁と両側の耳珠上縁によって形成される平面。なお、側貌エックス線写真などの骨組織上では、鼻棘点 (前鼻棘底尖端部) と外耳道の中央を通る平面をいう。この平面は正常有歯顎者の咬合平面とほぼ平行であることから、咬合床に付与する仮想咬合平面の決定に利用される。なお、左右側いずれかの鼻翼下縁と耳珠上縁とを結ぶ線は鼻聴道線 (カンベル線, ala-tragus line) と呼ばれる。

199 顔面印象 がんめんいんしょう
facial impression

顔面補綴装置 (エピテーゼ) 製作のために採得された対象物の陰型。その採得方法は通常、アルジネート印象材 (顔面表面側) と石膏 (代替トレー) の積層印象法などにより行われる。印象材と石膏

の保持にはガーゼやポリウレタンシートなどが用いられる。印象時、患者の鼻あるいは口には呼吸用チューブが装着される。

200 顔面インプラント がんめんー facial implant

顔面補綴装置（エピテーゼ）の維持源のために頭蓋顔面骨に植立される生体材料あるいは非生体材料を移植または嵌植する形成術、またはそれらの移植体、嵌植物の総称。

201 顔面欠損 がんめんけつそん facial defect

腫瘍摘出や外傷に後遺する顔面部の欠損。審美的障害はもちろんであるが、開口部が存在する場合には、鼻腔や口腔の慢性的乾燥、構音障害、流涎などの機能障害も発現する。皮膚移植などの外科的再建手術が望ましいが、症例によってはエピテーゼが適用される。

202 顔面補綴 がんめんほてつ facial prosthetics

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で生じた顔表面を含む実質欠損を非観血的に、あるいは手術との併用により人工物で補填・修復し、その形態的審美的改善とともに、発語などの失われた機能の回復を図ること。この補綴装置をエピテーゼと称する。

き

203 キーアンドキーウェイ key and keyway

主として半固定性ブリッジに用いるスライド型連結装置の1つ。一般に支台歯の隣接面歯冠内にレール状に設けられたキーウェイ（フィメール）と、これと嵌

合するようにポンティック部に設けられたキー（メール）から構成される。

204 キーパー keeper

磁石の保磁子。磁性ステンレス鋼などを材料とした板状の形態を有する歯科用磁性アタッチメントの構成要素の1つであり、磁石構造体に吸着して閉磁路を構成する。

205 義顎 ぎがく template for defected jaw

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによる顎骨または口腔軟組織の欠損に適用され、人工歯を備えず、欠損部の補填、閉塞などを目的とした補綴装置。

206 義歯 ぎし denture

歯およびその周囲組織の喪失に対して、製作・装着される人工装置。残存歯に固着される固定性義歯と患者や術者が任意に着脱できる可撤性義歯とがある。その他にも目的、材料、形態などに基づいて多様に分類される。

207 義歯安定剤 ぎしあんていざい denture stabilizer

維持、安定の不良な義歯の改善を目的として使用する材料。粘着力の増強を図るための水溶性の粉状材料、適合不良の間隙を補填して辺縁封鎖の向上を図る不溶性のペーストやシート状の材料などがある。

208 義歯床 ぎししょう denture base

義歯の構成要素の1つで、欠損部顎堤や口蓋部を覆い、人工歯が排列される部分。咬合力を顎堤に伝達し、全部床義歯では維持にも働く。金属やレジンが使用され、それぞれ金属床（metal base）と、ア

クリリックレジンや射出成形レジンが用いられるレジン床 (resin base) とがある。

209 義歯床下粘膜 ぎししょうかねんまく
basal seat mucosa

義歯床によって覆われた粘膜。義歯の支持・維持に関与する。

210 義歯床下粘膜異常 ぎししょうかねんまくいじょう
abnormality of basal seat mucosa

〔同義語〕義歯性口腔粘膜症

義歯装着に起因した義歯床下粘膜の組織的、形態的異常。咬合力が負荷されることにより義歯床下粘膜が機械的刺激を受け、粘膜に発赤、び爛・潰瘍、腫脹などが生じる場合や、義歯床が沈下して粘膜に圧痕が形成される場合がある。

211 義歯床研磨面 ぎししょうけんまめん
polished surface of denture

義歯床の唇・頬側面、舌側面、および人工歯の咬合面を除いた側面を含む義歯床外表面。口腔内の可動粘膜が接触し、その機能圧が加わる。そのため義歯の安定性や使用感に影響を及ぼす。

212 義歯床後縁 ぎししょうこうえん
posterior denture border

義歯の後方の床縁。上顎の全部床義歯では一般にアラインに一致させ、下顎ではレトロモラーパッドの前方部（線維部）を越え、後方部（腺部）上に設定するのがよいとされる。

213 義歯床支持域→「義歯床負担域」参照

214 義歯床粘膜面 ぎししょうねんまくめん
basal surface of denture, impression surface of denture

顎堤や口蓋の粘膜に接触する義歯床の表面。印象により外形が決定され、義歯

の支持・維持・安定に関与する。

215 義歯床負担域 ぎししょうふたんいき
denture-bearing area, denture foundation area

〔同義語〕義歯床支持域

義歯に加わる咬合圧を負担する義歯床下支持組織の領域。顎堤粘膜の厚さ、被圧縮度、骨面の状況により圧負担能力が異なるため、印象時の圧調整や義歯床粘膜面のリリースなどが必要な部位もある。

216 義歯性潰瘍 ぎしせいかいよう
denture ulcer

義歯による圧迫や摩擦などの機械的刺激のため、口腔粘膜組織の循環障害や上皮剥離によって生ずる炎症を伴う有痛性の潰瘍で義歯床下粘膜異常の一症状。

217 義歯性口腔粘膜症→「義歯床下粘膜異常」参照

218 義歯性口内炎 ぎしせいこうないえん
denture stomatitis

義歯床下粘膜異常の中の *Candida albicans* の感染などで生じる非特異的炎症。以前は義歯による外傷（機械的刺激）が主因と考えられたが、今日では、機械的刺激が原因と考えられる局所的炎症は除外されている。

219 義歯性線維症 ぎしせいせんいしょう
denture fibrosis, epulis fissuratum

義歯床の機械的慢性刺激による粘膜の炎症反応性の増生物。かつては義歯性線維腫 (denture fibroma) の名称も用いられてきたが、真の腫瘍ではないため、最近では義歯性線維症と呼ばれるようになった。上顎歯肉唇移行部に好発するが、口蓋や下顎にも生ずることがある。

病理組織学的に毛細血管や細胞成分の多い肉芽型、線維化が進んで細い線維組

織が密に排列した線維型、それらの中間型に分類されている。肉芽型は義歯の適正化により消退する可能性があるが、線維型は消退しないため、必要に応じて外科的に切除する。

220 義歯洗浄剤 ぎしせんじょうざい
denture cleanser

酸化剤や酵素によって、義歯の汚れやデンチャーブランクを化学的に清掃し、義歯床内に入り込んだ微生物を除菌する化学製剤。

221 基礎床 きそしょう
record base

咬合床の一部で、咬合堤を支える仮の義歯床。

222 拮抗作用〔義歯の〕 きこうさよう
[ぎしー]
reciprocation

〔同義語〕 対向作用

部分床義歯の支台歯において、鉤腕などの特定の部分で発生した力を、他の部分によって相殺させること。

223 拮抗腕 きこうわん
reciprocal arm

〔同義語〕 把持腕

二腕鉤で、一方の維持腕により支台歯に加わる側方力に対抗するための鉤腕。維持腕の維持力を適切に発揮させるとともに、義歯の着脱時あるいは機能時に支台歯に加わる側方力を相殺する。

224 機能印象 きのういんしょう
functional impression

義歯の機能時に義歯床下粘膜に咬合圧をできるだけ均等に負担させるために、被圧変位量に応じた力で加圧し、さらに顎堤周囲可動組織の動的状態をも記録することを目的とした印象。

225 機能咬頭 きのうこうとう
functional cusp

咀嚼運動中に対合歯の咬合面窩あるいは辺縁隆線部にか（嚙）み込み、食物を咬断・粉碎・臼磨する咬頭。

226 機能的運動路法 →「FGP テクニク」参照

227 機能的人工歯 きのうてきじんこうし
functional artificial tooth

第一大臼歯の咬頭傾斜角が20°の人工歯。解剖学的形態から著しく逸脱せず、咀嚼能率も比較的優れていながら、側方分力が過大とならないように設計された人工歯。

228 機能的正常咬合 きのうてきせいじょうこうごう
normal functioning occlusion

解剖学的に正常でなくても、機能的には異常が認められない咬合。

229 機能的不正咬合 きのうてきふせいこうごう
functional malocclusion

解剖学的所見とは関係なく、何らかの機能異常が認められる咬合。

230 基本的下顎運動 きほんてきかがくう
んどう
fundamental mandibular movement

咀嚼、発音、嚥下などに伴う顎運動や、ブラキシズムなどの異常習癖による顎運動とは別に、下顎の運動機能を評価するために被検運動として用いられる顎運動。前方・後方・側方・開閉口運動がある。

231 キャスタブルセラミック
castable ceramic

高温で流動化し casting 可能となる非結晶質のガラスセラミック材料。 casting 後、セ

ラミングによって結晶化して強度を増す。前歯部のジャケットクラウンとして用いる場合には、材料自体が単色のため、表面着色剤を用いたり、従来型のポーセレンを焼き付けて審美性の向上を図る。

232 キャストサポート

cast support

フェイスボウトランスファアの操作中に、上顎模型や固定用の石膏の重量によってフェイスボウがたわまないようにバイトフォークの下面を支える装置。

233 キャップクラスプ

cap clasp

臼歯咬合面の全面を覆う形態の支台装置。支持能力に優れ、支台歯の二次固定効果が期待できる。キャップの辺縁を歯冠頬舌面の最大豊隆より 0.1 mm のアンダーカットに設置して維持を求める。

234 CAD/CAM クラウン きゃどきゃむ

CAD/CAM crown

コンピュータによる補綴装置の設計 (computer-aided design : CAD) と切削加工装置 (computer-aided manufacturing : CAM) とにより製作されたクラウン。製造操作によらないため、物理的特性の優れた、均一かつ高品質な補綴装置を製作できる。陶材、チタンなど、任意の材料を利用することが可能となる。

235 臼後三角 きゅうごさんかく

retromolar triangle

下顎骨の最後方大臼歯のすぐ後方に位置し、頂点を後方に底辺を前方に向けた小さな三角形の骨面。

→「レトロモラーパッド」参照

236 臼歯離開咬合 きゅうしりかいこうごう

disocclusion

【同義語】 ディスクルージョン

下顎偏心運動中、下顎をガイドしている前歯以外の対向している臼歯に離開が認められる咬合様式。即時離開咬合 (immediate disocclusion) と遅延離開咬合 (delayed disocclusion) とがある。

237 頬棚 きょうだな

buccal shelf

下顎骨の大臼歯部の頬側に位置し、外斜線と歯槽斜面とに囲まれた平坦な部位。骨組織は緻密であり、咬合平面に対してほぼ平行の面であるので、垂直的咬合力の方向に直交しており、義歯床負担域として有効な部位である。

238 頬粘膜圧痕 きょうねんまくあつこん

pressure mark on cheek mucosa

臼歯部咬合平面相当部の頬粘膜にみられる歯列の圧痕。不適切な咬合関係やクレンジングによって生じるといわれている。

239 局部床義歯 → 「部分床義歯」参照

240 局部床義歯補綴学 → 「部分床義歯補綴学」参照

241 筋圧維持 きんあついじ

muscular retention

口唇・頬・舌などの筋圧を義歯床の維持に積極的に利用すること。

242 筋圧形成 きんあつけいせい

border molding, muscle trimming

【同義語】 筋形成、辺縁形成

有床義歯において、機能時の頬・口唇・舌の動きに調和した義歯床縁形態を得るために、それらの動的な状態を、モデリングコンパウンドなどを用いて記録する印象操作。

243 近遠心鉤 → 「隣接面鉤」参照

244 筋形成 → 「筋圧形成」参照

245 筋触診法 きんしよくしんほう**muscle palpating method**

1) 顎口腔系の診査の1つとして、また、顎顔面部や頭頸部に疼痛や違和感を訴える患者におけるその部位と痛みの程度を確認することを目的として、筋を触診する方法。Krogh-Poulsenの方法(1968)が有名である。

2) 咬合採得において、咬筋あるいは側頭筋の緊張状態を触診によって判定し、水平的顎位を決定する方法。この場合には、「筋把握法」が同義語となり、咬筋前縁部を利用する咬筋触診法(咬筋把握法; Gysi)、側頭筋前部を利用する側頭筋触診法(側頭筋把握法; Green)とがある。

246 金属アレルギー きんぞく—**metal allergy**

主にIV型アレルギー(遅延型アレルギー)の典型的な反応として発現する接触アレルギー。金属元素がイオン化し、生体の蛋白質と結合することによって、抗原となる。症状は金属が接触した部分に発現する接触性皮膚炎と遠隔の皮膚に発現する全身性接触皮膚炎とがあるが、口腔外での発現は口腔内に比べ約10倍の頻度がある。感作性の強い金属の種類はHg, Ni, Cr, Co, Sn, Pdなどである。

247 金属冠 きんぞくかん**metal crown**

う(齲)蝕やその他の原因で歯冠が広範囲に崩壊した場合、歯冠を金属で被覆し、形態と機能の回復とともに、う(齲)蝕の再発を防止する歯冠補綴装置。製作法は現在鑄造法が一般的であるが、古くは板金加工法があり、近年では焼結法や切削加工法(CAD/CAM)なども応用されている。

248 金属歯 きんぞくし**metal occlusal surface, metal tooth**

咬合面の一部(metal occlusal surface)または全体(metal tooth)を金属で製作した床用人工歯。上下の顎堤間距離が小さく、既製人工歯が使用しにくい場合や微妙な咬合面形態の追及、あるいはレジン歯と陶歯との中間の適度な耐摩耗性を求める場合などに、鑄造して製作した自家製の金属歯が白歯に使用されることがある。また、特殊な理論に基づいて作られている既製の金属歯も用いられる。

249 金属床 きんぞくしょう**metal base**

義歯床粘膜面の一部、あるいは全部を形づくる義歯床の金属部分。鑄造床(cast plate)および圧印床(swaged plate)がある。

250 金属床義歯 きんぞくしょうぎし**metal base denture, metal plate denture**

主要な構成要素に金属を使用して、強度、装着感、設計の自由度などを高めた義歯。

251 筋電図検査 きんでんずけんさ**electromyographic examination**

筋が収縮するときに発生する活動電位を針電極や表面電極を用いて記録した筋電図による検査。歯科補綴領域では、顎口腔機能評価や補綴装置の評価に用いられることが多い。

252 筋肉位 [下顎の] きんにくい [かがく—]**muscular position [of mandible]**

咀嚼筋群が協調活動した状態で、下顎安静位から閉口することによって得られる咬合位。Brill(1959)によって提唱された。



253 屈曲バー くつきよくー

wrought bar

既製のバー用線を屈曲して製作される大連結子。

254 グラインディング

grinding

ブラキシズムの1つ。空口状態で上下顎の歯を強く接触させながら無意識に側方あるいは前後方向に顎を動かし、強くこすり合わせる運動。

255 クラウン

crown

〔同義語〕冠

練成充填物、インレー以外の歯冠補綴装置の総称。修復の程度により、全部被覆冠、部分被覆冠などの被覆冠と、ポストクラウンとに大別される。

256 クラウンブリッジ補綴学 — ほてつがく

crown and bridge prosthodontics

歯科補綴学の一分科で、歯冠部の形態異常や実質欠損、あるいは歯の欠損に対し、クラウンやブリッジで修復・整形し、口腔の形態、および機能と外観を回復するとともに、顎口腔系の健康維持を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

257 クラスプ

clasp

〔同義語〕鉤

部分床義歯の支台装置の1つ。その一部をなす鉤腕が支台歯に全面あるいは一部で接触することによって、義歯における維持・支持・把持の役割をはたす。製作法により鑄造鉤と線鉤、また形態によ

り環状鉤とパークラスプとに大別される。

258 グラフィック法 [下顎運動の] — ほう [かがくうんどうー]

graphic record

弾筆を応用した口外描記法によって、下顎運動を記録・測定する方法。

259 クリステンセン現象 — げんしょう Christensen's phenomenon

無歯顎患者に上下顎の咬合堤を平坦にした咬合床を装着して下顎の滑走運動を行わせたときに、咬合堤間にくさび状の空隙が生じる現象。前方滑走運動時に後方に開いたくさび状の空隙が生じる矢状クリステンセン現象と、側方滑走運動時に平衡側に開いたくさび状の空隙が生ずる側方クリステンセン現象とがある。Christensen (1905) により提唱された。

260 クリックング

clicking

関節節板の移動によって発生するとされる顎関節雑音の一種。明瞭な短い音で、「カクン」、「ポキポキ」、「バキバキ」と表現される。弾撥音ともいわれる。

261 グループファンクション

group function

下顎の前方滑走運動時には前歯が接触して臼歯部を離開させ、側方滑走運動時には作業側の複数の歯が接触し、平衡側では咬合接触のない咬合様式。有歯顎者に望ましい咬合様式の1つとされている。

262 グレージング

glazing

陶材表面の製作時の仕上げとして、焼成してつやを出すこと。低溶融のうわぐすりを陶材削成面に塗布、焼成して光沢を出す方法と、陶材を高温で焼成して陶材自体を溶融させ、自己グレージング効

果を出す方法とがある。

263 クレピタス→「クレピテーション」

参照

264 クレピテーション

crepitation

〔同義語〕クレピタス, crepitus

不明瞭な長い音の顎関節雑音。「ギシギシ」、「ザラザラ」、「ジャリジャリ」などと表現される。捻髪音、摩擦音ともいわれる。

265 クレンチング

clenching

上下顎の歯の強いか（噛）みしめ。感情的、精神的ストレス、あるいは肉体的ストレス、緊急事態における緊張動作時、全身運動時に発現する。ブラキシズム時にも発現することがある。

け

266 継続歯→「ポストクラウン」参照

267 欠損歯列 けっそんしれつ

partially edentulous arch

歯の欠損がある歯列。

268 ケネディーバー

Kennedy bar

連続鉤の1つで、鉤腕が基底結節上を波状に走行する大連結子。Kennedy (1928) により提唱された。

269 ケネディーの分類 — ぶんるい

Kennedy classification

部分的な歯の欠損を有する歯列の分類法の1つ。4型に分類され、両側性遊離端欠損〔I級〕、片側性遊離端欠損〔II級〕、片側性中間欠損〔III級〕、前歯中間欠損〔IV級〕。IV級以外は類型をもつ。Kennedy (1923, 1925, 1928) により提唱された。

270 研究用模型 けんきゅうようもけい

diagnostic cast, study cast

〔同義語〕スタディモデル

顎口腔系の診査、診断、治療方針の決定の資料として、あるいは治療記録として準備される上下顎石膏模型。

271 犬歯臼後隆起線→「パウンドライン」

参照

272 犬歯誘導咬合 けんしゅうどうこうごう

cuspid protected articulation (occlusion)

下顎の側方滑走運動時、作業側犬歯の咬合接触によって下顎を誘導し、臼歯部は離開する咬合様式。

こ

273 鉤→「クラスプ」参照

274 構音検査 こうおんけんさ

articulation test

〔同義語〕調音検査

構音機能が何らかの原因で障害されたときに行う検査。構音（調音）運動に関与する器官を構音器官と呼び、構音機能は可動性の舌、口唇、軟口蓋などの構音体と、非可動性の硬口蓋や歯などの構音点との関係で営まれるが、補綴領域ではパラトグラフィーによる検査や語音明瞭度検査などが行われている。

275 構音障害 こうおんしょうがい

disorders of articulation, dysarthria

〔同義語〕発語障害, speech disorders

特定の語音が正しく発音されず習慣的に誤って発音する障害。子音の省略、異常な喉頭摩擦音などへの置換、不必要な音の添加および歪みなどがみられる。口

蓋裂, 口蓋麻痺, 顎骨欠損などによる器質的構音障害と, 構音のメカニズムの習得過程における誤った学習や構音発達の遅延などによる機能的構音障害とがある。また, 構音運動をコントロールする神経系が障害された場合は麻痺性構音障害 (dysarthria) が生じる。話し言葉の障害によりコミュニケーションに不都合を生じている状態にある言語障害 (communication disorders) の1つ。

276 鉤外形線 こうがいけいせん
outline of clasp

支台装置の製作の際に, あらかじめ描記されたサベラインを基準として, クラスプの種類と目的とする維持力ならびに把持力に基づいて, 模型上に描記するクラスプの輪郭を示す設計線。

277 口蓋後縁封鎖 こうがいこうえんふうさ
posterior palatal seal

辺縁封鎖の1つで, 上顎全部床義歯の床後縁を封鎖すること。これにより維持力が増強される。積極的な封鎖法としてポストダムがある。

278 口蓋床 こうがいしょう
palatal plate

口蓋の先天的, 後天的欠損や口腔機能不全に対して口蓋部を被覆する合成樹脂あるいは金属製の床装置。

279 口外描記法 こうがいびょうきほう
extraoral tracing method

描記板と描記針で構成される下顎運動記録装置が口腔の外に設置された直視下で行うことができる下顎運動計測法。ゴシックアーチ描記法とグラフィック法 (パントグラフ法) とがある。

280 口蓋補綴 こうがいほてつ
palatal prosthetics

腫瘍, 外傷, 炎症, 先天奇形などが原因で, 口蓋部に生じた欠損, 形態異常, 機能不全などを非観血的に, あるいは手術との併用により人工物で修復し, 損なわれた形態と機能の回復・改善を図ること。

281 口蓋隆起 こうがいりゅうき
palatal torus, palatine torus,
torus palatinus

口蓋正中部に発現する限局性の骨隆起。通常は無症状であるが, 大型のものでは構音障害を来すため外科的切除が必要となることがある。被覆粘膜が薄いため, 義歯床で被覆する場合には緩衝腔を設定する。

282 口角線 こうかくせん
cuspid line

口を軽く開けた時の左右口角の位置を示す線。左右2線間には上顎6前歯の幅径に一致するといわれ, 人工歯排列時の参考となる。

283 鉤間線 → 「支台鉤間線」参照

284 鉤脚 こうきやく
clasp tang

クラスプを義歯床と連結, 固定するクラスプの一部分。

285 口腔インプラント こうくうー
dental implant

〔同義語〕デンタルインプラント

欠損部顎堤に埋入された人工歯根や粘膜下に設置されたフレームと, これに連結される上部構造を含めた補綴装置の総称。

286 口腔前庭 こうくうぜんてい
oral vestibule

上・下唇と頬および上下顎歯列弓との間に挟まれた空間。口唇および頬粘膜と顎堤粘膜との移行部は前庭円蓋で区別さ

れ、口裂により外界と交通している。口唇と歯槽粘膜との移行部には上唇小帯、下唇小帯があり、頬粘膜には耳下腺導管の開口する耳下腺乳頭が存在する。無歯顎においては義歯床で口腔前庭を満たすことにより辺縁封鎖をはかるとともに、口唇・頬の豊隆程度を決定づける。

287 口腔底 こうくうてい

floor of mouth, floor of oral cavity, mouth floor

舌と下顎骨内面の舌下粘膜部から構成される口腔の下壁。舌下粘膜部は顎舌骨筋の上方を覆い、粘膜上皮は薄く可動性であり、舌の自由運動をもたらす。舌下面の正中線上で舌との間に舌小帯があり、その両側には舌下腺の導管が開口する。口腔底と顎堤舌側との移行部に沿って舌側溝があり、義歯の舌側床縁の位置と形態を決定づける。

288 鉤肩 こうけん

clasp shoulder

環状鉤における鉤体と鉤腕との移行部。鉤体とともに支台歯を把持する働きをする。

289 咬交 こうこう

articulation

機能時における上下顎歯の静的ならびに動的な咬合面間の接触関係。全部床義歯における平衡咬合の考え方から派生した用語であり、偏心運動時に上下顎歯が咬合小面で接触しながら滑走することを意味していた。しかし、現在では、「咬合」で代用されるようになった。

290 咬合 こうごう

articulation, occlusion

- 1) 下顎が閉じる行為あるいは過程、または閉じている状態。
- 2) 上顎あるいは下顎の天然歯や補綴装

置の切縁あるいは咬合面間における接触関係。

291 咬合圧 こうごうあつ

biting pressure, occlusal pressure

咬合時に天然歯あるいは人工歯の咬合面部に発現する単位面積あたりの力。

292 咬合圧印象 こうごうあついんしょう

bite pressure impression

機能印象の1つで、咬合床またはろうろ(蝸)義歯をトレーとして用いて、患者自身の咬合力によって義歯床下粘膜を加圧した状態で採得する印象。

293 咬合圧負担域 こうごうあつふたんいき

stress-bearing region, stress supporting region

- 1) 機能時の咬合力を支える、歯、歯根膜、顎堤などの口腔組織。
- 2) 義歯に加わる機能圧を負担する口腔組織。有床義歯の義歯床部に関しては、特に義歯床負担域と呼ぶ。

294 咬合位 こうごうい

occlusal position

天然歯や人工歯における上下顎の歯が接触した状態での、上顎に対する下顎の位置関係。下顎の限界運動範囲内における上下顎の歯が接触した状態での、すべての下顎の位置が含まれる。

295 咬合異常 こうごういじょう

malocclusion

上下顎の歯の静的・動的な位置関係が正常でなくなった状態。対向関係の異常、咬合位の異常、咬合接触の異常、顎運動の異常、咬合を構成する要素の異常などを包含する。

296 咬合印象 こうごういんしょう

bite impression

咬合印象用トレー(バイトトレー)を用

いるか、シリコンラバー印象材のパテとインジェクションにより支台歯と対合歯およびその咬合関係を同時に採得する印象。

297 咬合円錐→「歯冠円錐」参照

298 咬合音 こうこうおん

occlusal sound

上下顎の歯の衝突・滑走により発生する顎口腔系諸組織の振動音。通常、頬骨部において聴診器などにより聴取するが、咬合接触部に異常がなければ清音、早期接触などの異常があれば濁音となる。

299 咬合音検査 こうこうおんけんさ

occlusal sound test

咬合音を電気的に両側の眼窩下部あるいは頬骨弓部などに設置したマイクロフォンや加速度ピックアップで検出、表示することによる咬合状態の検査。聴診法、電気的記録法がある。聴診法では早期接触が判定できることからステレオ聴診器(Watt, 1967)が用いられる。咬合状態が正常で安定している場合、短く、高く、澄んだ音が検出され、咬合干渉などにより咬合状態が不安定な場合には、長く、低く、濁った音が検出される。

300 咬合音分析装置 こうこうおんぶんせきそうち

occlusal sound analyzer

タッピング時に上下顎歯列の衝突・滑走により発生した咬合音を頬骨部で電気的に検出し、その波形(持続時間、周波数、立ち上がりの時間的ずれなど)を記録・分析する機器。早期接触などを診断する。

301 咬合学 こうこうがく

science of occlusion

歯科医学の一分野で、咬合を中心とする顎・口腔の総合的な機能系の正常像、異常像、加齢的变化などを身体の他の領

域との関連も含めて、形態的、機能的に研究し、口腔諸器官の異常や疾患の予防、診断、治療・再建、審美的回復などへの応用を目的とする学問。

302 咬合滑面板 こうこうかつめんばん
guide flange

下顎骨離断後、下顎偏位を防止する目的で、咬合時に上顎臼歯頬側面あるいは臼歯部に設置されたガイド板に誘導され、下顎を咬頭嵌合位に導くように下顎臼歯の頬側に付与される偏位防止板。ガイド板を含めて咬合滑面板と呼ぶこともある。

303 咬合関係 こうこうかんけい

occlusal relationship

上下顎の解剖的対向関係、顎関節の構造と下顎の生理学的運動メカニズムに基づいて生じる歯と歯あるいは人工歯、または歯列相互間の、静的・動的な咬合面あるいは切縁部の位置関係。

304 咬合干渉 こうこうかんしょう

occlusal interference

正常な顎運動を妨げるような咬合接触。早期接触や咬頭干渉を包括する。

305 咬合器 こうこうき

articulator

頭蓋に対する顎と歯の相対的位置関係および各種顎位や顎運動を生体外に再現し、顎機能の診断、あるいは形態的・機能的に生体に調和した補綴装置の製作に利用される歯科用機器。頭蓋の前下部を機械的に模倣したもので、上弓と下弓の2部分から構成されるが、機能的には顎路調節機構である関節部、切歯路調節機構の切歯指導部、模型を装着する体部から成る。

形態および機能的にさまざまに分類されるが、調節機能に基づいて顎路型咬合

器，非顆路型咬合器に大別するのが最も一般的である。前者はさらに，平均値咬合器，半調節性咬合器，全調節性咬合器の3群に分類される。なお調節性咬合器は，顆路指導要素の位置の違いにより，アルコン型咬合器とコンダイラー型咬合器の2つに分類され，顆路指導要素の構造の違いにより，スロット型とボックス型の2つに分類される。

306 咬合器再装着 こうごうきさいそう ちやく

remounting on articulator

咬合器上で製作された補綴装置の咬合接触関係を改善するために，補綴装置を含めた下顎の模型をチェックバイトを介して再度咬合器に装着すること。咬合器に対する上顎模型の位置付けが必要な場合は，スプリットキャスト，テンチのコア，フェイスボウなどを用いる。

307 咬合器装着 こうごうきそうちやく mounting on articulator

咬合の診査，診断や治療計画の立案，および間接法による補綴装置の製作過程において，模型を咬合器に固定すること。先ず上顎模型を頭蓋に対する平均値的位置，あるいはフェイスボウを用いて固有の位置として咬合器上弓に固定する。次いで下顎模型を咬頭嵌合位などでの顎間記録を介して咬合器下弓に固定する。

308 咬合挙上 こうごうきよじょう

bite raising, vertical dimension increase

咬合高径を高める処置。歯の咬耗や喪失によって，咬頭嵌合位における本来の咬合高径が低下して，醜形を呈したり，顎関節に異常がある場合などに行われる。

309 咬合記録 こうごうきろく interocclusal record

咬合に関するあらゆる記録，顎位や顎運動に関連して用いられることが多い。

310 咬合検査 こうごうけんさ

occlusal examination

被験者がどのような咬合を有しているかを判定する検査。咬合紙やワックス，シリコン検査材，引き抜き試験用箱，咬合検査機器などを用いて咬頭嵌合位や偏心位における静的あるいは動的咬合接触状態を判定する。

311 咬合高径 こうごうこうけい

occlusal vertical dimension

咬合採得や咬合位の評価などに関連して，歯や顔面に設定される種々の計測点間距離で表した，中心咬合位での上下顎間の垂直的距離。

312 咬合高径測定法 こうごうこうけいそ くていほう

measuring method of occlusal vertical dimension

顔面形態を計測して得られた種々の計測点間距離に関する基準値や，安静時や発音時などにとる平均的な顎位を基準として咬合高径を測定する方法。

313 咬合再構成→「オーラルリハビリ テーション」参照

314 咬合採得 こうごうさいとく

maxillomandibular registration

補綴装置の製作や咬合診断などにおいて，上下顎の歯列模型，あるいは顎堤模型をそれぞれの目的に応じた顎位で咬合器に装着するために，種々の材料や機器を用いて上下顎の顎間関係を記録すること。

315 咬合紙 こうごうし

articulating paper

歯や補綴装置の咬合接触状態を診査するために用いる色素を固着させた薄紙。

短冊形，馬蹄形，全歯列型などがある。一般に用いられている咬合紙の厚みは約30 μm で，これにより約10 μm の高さの差が判定できる。シリコンラバー印象材を用いる方法と比較して簡便であるが，咬合接触部位の細密な判定は難しい。

316 咬合支持 こうごうしじ

occlusal support

上下顎の歯が咬合接触することにより咬頭嵌合位を保持する作用。

317 咬合支持域 こうごうしじいき

occlusal-supporting area

咬頭嵌合位を保持するための左右側小白歯部，大白歯部における咬合接触部分。

318 咬合斜面板 こうごうしゃめんばん

guidance ramp

下顎骨離断後の下顎偏位を防止する目的で，咬合時に下顎を咬頭嵌合位に導くように上顎補綴装置の口蓋側に付与される偏位防止板。

319 咬合床 こうごうしょう

record base with occlusion rim

欠損歯列において，顎間関係の記録や人工歯排列の指標とする装置。基礎床と咬合堤から構成される。

320 咬合小面 こうごうしょうめん

occlusal facet

1) 顎口腔系機能によって生じた白歯部咬合面，上顎前歯舌面，下顎前歯切縁に見られる摩耗面。

2) フルバランスドオクルージョンを付与する目的で，人工歯の咬合面に形成する各種滑走運動に調和した斜面。Gysi (1929) が軸学説をもとに提唱した（咬合小面学説）。

321 咬合性外傷 こうごうせいがいしょう

occlusal trauma

1) 歯周組織の適応能や修復能を越える

咬合力によって生じる歯周組織の損傷。
2) 咬合力によって生じた顎口腔系の障害。

322 咬合接触 こうごうせつしょく

occlusal contact

閉口時に生ずる対合する歯の接触。

323 咬合調整 こうごうちょうせい

occlusal adjustment, occlusal equilibration

天然歯あるいは人工歯の早期接触や咬頭干渉となる部位を選択的に削合し，均等な咬合接触と調和のとれた咬合関係を確保して，咬合力を複数の歯に均等に分散すること。

324 咬合堤 こうごうてい

occlusion rim, record rim

〔同義語〕ろう（蠟）堤，wax rim

顎間関係の記録と人工歯を排列する目的で，基礎床上に設置されるアーチ状のワックスの突起。

325 咬合病 こうごうびょう

occlusal disease

早期接触などの咬合の不調和に起因する顎口腔機能異常によりもたらされる種々の病態の総称（Guichet, 1966）。

一般的に複数の症状を有する点において症候群であり，いわゆる顎関節症を含むが，精神的ストレスも関与している。症状としては，ブラキシズムとそれに伴う過度の咬耗，筋の疼痛や疲労感，顎関節雑音や疼痛，開閉口などの下顎運動障害，肩こりや頭痛，情緒不安定などがあ

326 咬合分析 こうごうぶんせき

occlusal analysis

1) 歯やそれに関連する組織に対する咬合の影響を特に考慮した顎口腔系の系統的診査。

2) 咬合器に装着された模型の咬合関係を評価するための咬合の診査。Lauritzenが著書「Atlas of Occlusal Analysis」(1974)の中で、Dentatus 咬合器を使用し、咬合関係の異常に由来する機能障害を有する症例に対して、咬合機能の分析を行う一連の術式について記載した。

327 咬合平衡 こうごうへいこう
occlusal balance

全部床義歯において、側方滑走運動時では作業側と平衡側の臼歯の、前方滑走運動時では前歯と臼歯の接触が保たれ、義歯が前後、左右的な偏心位でも安定している状態。

328 咬合平面 こうごうへいめん
occlusal plane, plane of occlusion

下顎左右中切歯の近心隅角間の中点(切歯点)と下顎左右側第二大臼歯の遠心頬側咬頭頂を含む平面として規定される基準面。

329 咬合平面設定板 こうごうへいめん
せっていばん
occlusal plane guide

咬合採得時に仮想咬合平面を設定するための用具。上顎咬合床の咬合面にあてて、カンペル平面との関係を検討するのに用いられる。

330 咬合平面板 こうごうへいめんばん
occlusal plane table

咬合平面を基準として上顎模型を咬合器に装着するために用いられる平均値咬合器の付属品。

331 咬合平面分析板 こうごうへいめんぶん
んせきばん
occlusal plane analyzer

Monson (1920) の球面説に基づく下顎の切縁、咬頭の位置付け、ならびに咬合湾曲の分析に使われる直径8インチの球

面をもつ湾曲板。

332 咬合面間距離 こうごうめんかんきょ
り

interocclusal distance

ある特定の顎位で生じる上下顎咬合面間の距離。下顎安静位の咬合面間距離は、安静空隙とも呼ばれる。

333 咬合面再形成【義歯の】 こうごうめん
さいけいせい [ぎしー]

occlusal reconstruction of denture

義歯の人工歯咬合面を再構成することによって、顎口腔系の形態、機能、審美性の回復を図ること。

334 咬合様式 こうごうようしき
occlusal scheme

咬頭嵌合位および偏心位における咬合接触の状態。

335 咬合力 こうごうりょく
occlusal force

顎口腔系器官、組織の働きにより、上下顎の歯あるいは人工歯咬合面間に発現する力。

336 咬合力検査 こうごうりょくけんさ
occlusal force test

顎機能、歯の負担能力等の評価として、個々の歯あるいは歯列全体の咬合面部に加わる荷重量を計測して判定する機能検査。

専用の咬合力計を用いて、最大荷重を計測する最大咬合力が一般的であるが、義歯などに特殊なトランスデューサーを組み込んで計測する咀嚼力などがある。最近では、T スキャン、プレスケールなどの歯列全体の咬合力分布を分析する方法もある。

337 咬合力測定法 こうごうりょくそくてい
いほう
maxillomandibular registration by

measuring maximal occlusal force

無歯顎症例の咬合採得において、最大咬合力に基づいて垂直的顎位を決定する方法。

Boos(1940)は、Gnathodynamometer(咬合力測定装置、別称 Boos の Bimeter)を用いて、最大咬合力を発揮する顎位(最大筋力点)を求め、この位置から、換算表に従って最大咬合力の大きさに比例して、所定の高径を減じて咬合高径とすることを提唱した。

338 咬合湾曲 こうごうわんきょく occlusal curvature

天然歯列の咬合面が連続して作る湾曲。ウィルソンの湾曲、スピーの湾曲、モンソンカーブなどがある。人工歯列の場合は調節湾曲とよばれ、用語としては両者は区別される。

339 咬座印象 こうざいんしょう bite-seating impression

矢崎正方(1955)が提唱した印象法であり、義歯製作途中に生じる歪みを最終段階において修正することを主目的として、人工歯排列や削合も終了したろう(鯛)義歯をトレーとして少量の流動性の優れた印象材を盛り、咬合させて採得する印象。上下顎を別々に採得したほうが望ましいとされる。

340 交叉咬合 こうさこうごう cross bite, reverse articulation

咬頭嵌合位において、側方歯群の反対咬合により、上下顎の歯列弓が水平的に交叉している不正咬合。

341 交叉咬合排列 こうさこうごうはいれつ arrangement of reverse articulation

通常の臼歯部被蓋とは逆に、上顎臼歯の頬側咬頭を下顎臼歯の中心窩に嵌合させる人工歯排列法。

上顎顎堤弓が下顎顎堤弓より小さく、仮想咬合平面に対する臼歯部(第一大臼歯部)の歯槽頂間線角度が80度以下の場合に、義歯床の力学的安定性を高める目的で行う。上下顎左右側の人工歯を入れ替えて排列するギージー法(Gygi法)、あるいはミュラー法(Müller法)が一般的に用いられている。

342 交叉咬合人工歯 こうさこうごうようじんこうし cross bite artificial tooth

上下顎とも頬舌径を狭くし、上顎が1咬頭に設計されている交叉咬合排列専用の人工歯。頬側では下顎の咬頭が上顎の咬頭を被蓋する。

343 鈎歯→「支台歯」参照

344 硬質レジン こうしつー composite resin

従来のメタクリル酸メチル(MMA)とその重合体(PMMA)からなる歯科用アクリリックレジンの欠点を改善するために開発されたレジン。

多官能性メタクリレートを基材に用い、無機質フィラー、有機質複合フィラーなどが大量添加されている。加熱あるいは光照射によって重合されるが、重合体の性質は硬さ、耐摩耗性、耐水性、色調安定性に優れる。前装冠、ジャケットクラウン、既製人工歯などに使用される。

345 硬質レジン歯 こうしつーし composite resin tooth

従来のアクリリックレジン人工歯に比較して、硬さ、耐摩耗性に優れたレジン歯。反面、耐衝撃性や義歯床との結合性は劣る。

346 咬傷 こうしょう**bite wound**

1) ヒトまたは動物の歯により生体もしくは死体に残された傷。一般的には挫創や切創に類似した特徴を呈する。その形状の精査は法歯学上重要であり、主体の個人識別に役立つ。

2) 舌、頬および口唇を咬むことによって生じる傷。頬を咬むことを咬頬 (cheek bite)、舌を咬むことを咬舌 (tongue bite) といい、歯列不正や人工歯排列の欠陥により生じやすい。義歯によるものは、咬合高径が低すぎる場合、人工臼歯の排列が頬側に寄りすぎる場合、上下顎人工臼歯のオーバージェットが小さすぎる場合などに生じ、咬舌は下顎人工臼歯列が舌側に寄りすぎ舌房が狭い場合や咬合平面が舌背より低い場合などに生じる。

347 口唇接合線 こうしんせつごうせん**low lip line**

〔同義語〕口唇閉鎖線

下顎の安静状態で上口唇と下口唇とが軽く接触してできる線。上顎咬合床の仮想咬合平面および前歯人工歯の上下的排列位置の基準とする。

348 口唇閉鎖線→「口唇接合線」参照**349 鉤尖 こうせん****clasp tip**

鉤腕の先端部分。維持腕においては支台歯のアンダーカット域に設置され、維持機能を果たす。

350 鉤体 こうたい**clasp body**

環状鉤における鉤脚と鉤腕の中間部分。鉤肩とともに把持機能を果たす。

351 後退運動【下顎の】 こうたいうんど

う [かがくー]

retrusive movement [of mandible]

下顎の後方への運動。通常、咬頭嵌合位から下顎後退接触位まで接触滑走することをいう。

352 合着 ごうちゃく**cementation**

インレー、クラウン、ブリッジなどの修復物を窩洞や支台歯にセメントを用いて恒久的に装着する操作。リン酸亜鉛セメントの場合の保持機構は、主に嵌合効力に依存する。歯や金属に対する接着性のあるセメントを利用する場合もある。

353 後堤法 こうていほう**post damming**

義歯床の口蓋後縁封鎖を図るために、ポストダムを付与すること。

354 咬頭嵌合 こうとうかんごう**intercusation**

咬頭が対合する歯の窩や隆線に嵌合している状態。

355 咬頭嵌合位 こうとうかんごうい**intercuspal position**

上下顎の歯列が最も多くの部位で接触し、安定した状態にあるときの顎位。

356 咬頭干涉 こうとうかんしょう**cuspal interference**

咬合干涉の1つで、下顎の基本運動や機能運動に際して、運動経路を妨げる咬頭の接触またはその現象。

357 咬頭傾斜角 こうとうけいしゃかく**cuspal angle**

歯軸に直交する直線と各咬頭斜面とがなす角度。近遠心的および頬舌的な傾斜角がある。

358 咬頭展開角 こうとうてんかいかく**angle between buccal and lingual****internal cuspal slope**

頬側咬頭の内斜面と舌側咬頭の内斜面とがなす角度。

359 口内描記法 こうないびようきほう**intraoral tracing method**

描記板と描記針で構成される下顎運動記録装置が口腔内に設置された下顎運動記録法。装置が比較的簡便であり、ゴシックアーチ描記法が一般的であるが、特殊なチューイン法もある。

360 硬軟口蓋境界部 こうなんこうがいきょうかいぶ**junction of hard and soft palate**

硬口蓋と軟口蓋の境界部。上顎の義歯床後縁設定の基準となる。臨床的には、視診や触診、口蓋小窩やアーラインを参考にしてその位置を確認する。

361 コーヌス角 ーかく**cone angle, Konuswinkel** (独語)

コーヌステレスコープ (Konuskronen Teleskop; cone crown telescope) の内冠の軸面を延長してできる仮想円錐角度の1/2の角度。発案者の Körber は、6度設定したときに最も適切な維持力が得られるとしている。

362 コーヌステレスコープクラウン**cone crown telescope, Konuskronen Teleskop** (独語)

Körber, K. H. (1969) によって開発された支台装置の一種で、テーパーを有する円錐台型の内冠とそれに適合する外冠とからなるテレスコープクラウン。いわゆるリジッドサポートを代表する支台装置である。維持力は内・外冠の接触による摩擦力あるいはくさび効果と外冠の金属弾性によるが、内冠軸面のコーヌス角によって調節可能である。

363 コーピング印象→「ピックアップ印象」参照**364 後方基準点** こうほうきじゅんてん
posterior reference points

前方基準点とともに、水平基準面を設定するための顔面上の点(平均的顎頭点、蝶番点)。

365 後方咬合小面 こうほうこうごうしょうめん**retrusion facet**

Gysi の軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランスドオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の1つ。作業側の側方滑走運動と後方運動時に接触する面であり、下顎臼歯では頬舌側咬頭の後方の斜面に、上顎臼歯では前方の斜面に付与する。

366 咬耗 こうもう**attrition**

上下顎歯の咬合接触により生ずるエナメル質や象牙質の摩耗。咀嚼機能による歯面の咬耗は、加齢変化として生理的にもみられるが、進行速度が速く、象牙質の広範な露出や歯冠長の短縮および咬合高径の低下を招くような高度なものを咬耗症という。個人識別や年齢推定、ブラキシズムや顎関節症などの診断の手がかりとなる。

367 鉤腕 こうわん**clasp arm**

環状鉤においては鉤体に続く鉤尖までの部分。機能により維持腕と拮抗腕とに分類される。またサベイレインを境に非アンダーカットを走行する鉤腕部分を上腕、アンダーカットを走行する部分を下腕と呼び、主に上腕はクラスプの支持と把持、下腕は維持の機能を果たす。

パークラスプにおいては大連結子あるいは義歯床縁から鉤尖までを指すが、形態により横走アームと垂直アームの部分に分けられる。

368 語音明瞭度検査 ごおんめいりょうど
けんさ

articulation test in pronunciation

被検者の発音を複数の検者が聴取し、その結果を集計して被検者が発音した語数に対する正しく聴取しえた語数の百分率として表す方法。

369 鼓形空隙 こけいくうげき
embrasure

歯と歯の隣接面接触点を中心に、上下のあるいは頬舌的に形成される空間。その形が鼓に似ていることに因んだ名称。

370 ゴシックアーチ描記法 —びょうき
ほう

gothic arch tracing method

顎運動の記録法の1つで、定められた咬合高径における下顎の左右の後方・側方限界運動の軌跡を描記させ、その描記図(ゴシックアーチ)をもとに水平的顎位の決定や診断を行う方法。本法には、口内描記法と口外描記法とがあり、描記装置(ゴシックアーチトレーサー)には、口内描記装置と口外描記装置とがある。

なお、「ゴシックアーチ」の語源は、描記図がゴシック風建築のアーチと類似の形状を呈していることから、Gysi により命名された。

371 個歯トレー こしー
individual tray for abutment
impression

支台歯の精密印象採得に使用される小型の印象用トレー。銅板を応用したもの(カップバンドトレー)、常温重合レジンを用いたもの(レジントレー)、両者を併用したもの(併用トレー)などがある。

372 個人トレー こじん—
individual tray

各個人の歯列や顎堤の形状に合わせて個別に製作された印象用トレー。一般的には、研究用模型上で常温重合レジンにより製作される。

373 固着式模型→「歯型固着式模型」参照

374 骨結合型インプラント→「オッセオインテグレートッドインプラント」参照

375 骨膜下インプラント こつまくか—
subperiosteal implant

下部構造が骨膜と骨面との間に設置されるインプラント。骨面上に密着するように設置されるフレーム、フレームを補助するストラップと呼ばれるフレームの延長部、ならびにフレームから口腔内に露出する支台部から構成される。

376 固定性ブリッジ こていせい—
fixed bridge

支台装置とポンティックとが固定性に連結され、支台歯にセメント合着されたブリッジ。

377 固定性補綴装置 こていせいほてつ
そうち

fixed prosthesis

〔同義語〕固定性補綴物

- 1) クラウンやブリッジなど、任意にはずせない補綴装置。
- 2) 支台歯と固定性連結を有する補綴装置。「半固定性補綴装置」や「可撤性補綴装置」の対語として用いられる名称。

378 固定性補綴物→「固定性補綴装置」参照

379 固定性連結 こていせいれんけつ
fixed connection, rigid
connection

ろう(鐵)付け法、溶接法、ワンピースキャスト法などにより、支台装置とポンティックとが固着される連結。

380 コノメータ

Konometer (商品名)

コーヌステレスコープ (Konuskronen Teleskop ; cone crown telescope) の内冠製作時に、内冠軸面のコーヌス角の測定および内冠軸面の形成を行う器具。

381 4/5冠 ごぶんのよんかん

four fifth crown

臼歯歯冠の5面のうち、頬側面を残して、両隣接面、舌側面、咬合面の4面を被覆する部分被覆冠の1つ。主にブリッジの支台装置として用いられるが、単冠や動揺歯の固定装置にも応用される。通常、有髄臼歯に応用される。

382 ゴム床 —しよう

valcanized rubber denture base

加硫ゴム (蒸和ゴム) を材料とする義歯床。1850年代にアメリカで発明され、1880年代にデンタルガムとして輸入されはじめ、急速に広まり、第二次世界大戦終戦の頃まで利用されていた。材料的には、4種類 (暗褐色、淡紅色および白色、黒色、金属粉混和) のシート状の製品が市販され、前歯部には淡紅色、臼歯部には暗褐色を使用した。アクリル樹脂の登場で過去のものとなった。

383 固有口腔 こゆうこうくう

oral cavity proper

上下顎の歯列と歯槽部の前方部と左右側方部の内面により囲まれた口腔。上壁は口蓋、下壁は舌と舌下粘膜からなり、後方は舌根と口蓋舌弓、口蓋咽頭弓および軟口蓋後縁に囲まれ、口峽を介して咽頭に通じている。唾液により常に湿潤状態にあり、食物摂取および呼吸路の一部としての役割を担っている。義歯装着により固有口腔の容積が減少すると舌運動が妨げられ、咀嚼・発音機能に影響が及ぶ。

384 コルベン状形態 [床縁の] —じょ
うけいたい [しょうえん—]

Kolbenähnlich Form (独語)

辺縁封鎖による義歯の維持の強化や床下への食片の侵入防止などを目的として付与される義歯床縁部の断面形態。原義はドイツ語の Kolben (棍棒) であり、丸く、厚くなっている形態に因む。

385 コンダイラー型咬合器 —がたこう
ごうき

condylar articulator

上弓に顎頭球 (コンダイル) をもち、下弓に顎路指導部を備えた構造の咬合器。

386 コンタクトゲージ

Contact Gauge (商品名)

歯間離開度を臨床的に測定するための器具。厚さ、50 μ m、100 μ m、150 μ mにて設定されたスチール板で構成される。
→「歯間離開度」参照

387 コンビネーションクラスプ

combination clasp

鑄造鉤と線鉤あるいは環状鉤とパークラスプなど、形態または材質の異なった鉤腕を組み合わせたクラスプの総称。

388 コンビネーションシンドローム

combination syndrome

〔同義語〕アンテリアーハイパーファンクションシンドローム、anterior hyperfunction syndrome

Kelly (1972) の提案した用語で、上顎無歯顎、下顎両側性遊離端欠損患者において特徴的に見られる症候群。基本的な症状として上顎前歯部顎堤の骨喪失、上顎結節の下方への過形成、硬口蓋部の乳頭様増殖、下顎前歯の挺出および部分床義歯の義歯床下の骨喪失などがある。関連症状として、上顎前歯部のフラビীগムと歯肉頬移行部の線維症、下顎前歯の

歯周組織変化，咬合平面の後方傾斜および下顎の前上方偏位がみられる。

389 根面アタッチメント こんめん—
stud attachment

根面に適用されるアタッチメント。オーバーデンチャーとの組み合わせで用いられ，緩圧型（可動性）と非緩圧型（固定性）とがあり，着力点が低くかつ歯根の中央にあるため，骨植不良歯にも有利とされる。ロサーマンエンセントリックロジン，シリンドリアルアンカー，シーカーアキシアルアタッチメント，Oリングアタッチメント，磁性アタッチメントなどがある。

390 根面形成 こんめんけいせい
preparation of root

根面板や根面アタッチメントなどを適用するための支台歯形成法。

391 根面形態 こんめんけいたい
form of root surface

ポストクラウンや根面板のための支台歯の根面の形態。根面を唇側で歯肉縁下0.5～0.8 mm，舌側で歯肉縁上1 mmになるように2面に形成し，舌側には歯肉縁下0.5～0.8 mmまでハーフバンドを形成する平斜面形態や，平面形態，単斜面形態，両斜面形態，凸面形態，凹面形態などがある。

392 根面板 こんめんばん
coping

- 1) ポストクラウンにおける支台歯根面を覆う金属板の部分。
- 2) 支台歯の根面を覆う金属板の総称，歯質の保護，二次う（齲）蝕の防止，咬合力による歯根破折の防止，支台装置の連結などに用いられる。

さ

393 最終印象→「精密印象」参照

394 最終義歯 さいしゅうぎし

definitive denture

補綴診療計画にもとづき，暫間義歯による治療などを経て最後に製作される義歯。

395 最終補綴装置 さいしゅうほてつそうち

definitive prosthesis

長期間使用するために計画・設計された補綴装置の総称。

396 最前方咬合位 さいぜんぼうこうごうい

most anterior (occlusal) position, most protrusive occlusal position

上下顎の歯を接触させた状態で，下顎を最も前方に突き出した顎位。切歯点部で咬頭嵌合位の前方約7～10 mmで，このとき下顎頭は関節結節最下端付近まで前進している。

397 最側方咬合位 さいそくほうこうごうい

most lateral occlusal position

上下顎の歯を接触させた状態で，下顎を最も側方に変位させた顎位。切歯点部で咬頭嵌合位の側方約8～12 mmで，下顎頭の運動が正常な場合には側方咬合位は左右対称性を示す。

398 最大開口位 さいだいかいこうい

maximal opening position

開口時において上下顎の離開度が最大となる顎位。

399 最大開口量 さいだいかいこうりょう

maximal mouth opening

最大開口位における上下顎の中切歯切

縁間距離あるいは顎堤頂間距離。正常有歯顎者の平均値は 50 mm 程度であり、40 mm 以下は開口障害といわれている (Solberg, 1976)。

400 最大咬合力 さいだいこうごうりょく
maximal occlusal force

力いっぱいのか(噛)みしめ時などに、顎口腔系器官・組織の働きにより、上下顎の歯あるいは人工歯咬合面に発現する力の最大値。一般に歯根膜の耐圧能によって決まるが、顎口腔機能評価の指標の1つとして用いられる。

401 最大豊隆線 さいだいほうりゅうせん
circumferential line

特定の方向から見た歯の最大円周を示す線。サバイヤーで設定された支台歯歯軸における最大豊隆線をサバイラインという。

402 最大豊隆部 さいだいほうりゅうぶ
maximum convexity

特定の方向から見た歯冠の唇・頬・舌側歯面における豊隆の最も大きい部位。

403 サイドシフト
side shift

側方滑走運動時に、平衡側下顎頭の水平面内運動路で観察される内方(正中方向)への動き。平衡側下顎頭の下顎側方運動時に、ほぼ直線的に前内方へ移動する progressive side shift と、運動の初期において内方へのずれや移動が大きく生ずる immediate side shift とがある。Guichet (1970) は、運動初期の 4 mm 間の側方顆路に見られるサイドシフトの様相を漸進型 (progressive type)、直後型 (immediate type)、早期型 (early type)、分散型 (distributed type)、混合型 (progressive and distributed type) の 5 型に分類した。

404 作業側 さぎょうそく
working side

咀嚼運動時または側方滑走運動時における下顎の外側方への移動側。

405 作業側側方顆路 さぎょうそくそくほうかう
lateral condylar path on working side

側方滑走運動時における作業側下顎頭の運動経路。わずかに外方へ移動するが、水平面内の運動は特にベネット運動 (Bennett's movement) と呼ばれる。

406 作業用模型 さぎょうようもけい
working cast

補綴装置の製作に使用する模型。

407 削合【人工歯】 さくごう [じんこうしー]
occlusal reshaping [of artificial teeth]

義歯に用いる既製人工歯の咬合面形態や咬頭傾斜角を各個人の下顎運動要素に合致させ、咬頭嵌合位での均等な咬合接触と偏心位での咬合平衡を得るために人工歯の咬合面や切縁を削除、調整すること。

408 サバイヤー
surveyor

水平台、支柱、水平アーム、スピンドル、模型台から構成され、義歯の設計や技工操作に用いられる平行測定装置。主に部分床義歯の設計において、模型上で支台歯どうしやそれと関連する周囲組織の相対的な位置および形態を検討し、義歯の着脱方向の決定、サバイラインの記入、アンダーカット量の測定、鉤尖の位置の決定などを行うために使用するが、ブリッジ製作時における支台歯間の平行性の確認や複数のアタッチメントを平行

に設置する場合などにも利用される。

専用付属品として、アナライジングロッド [測定杆] (analyzing rod), カーボンマーカー [炭素棒] (carbon marker), 補強鞘 (carbon sheath), アンダーカットゲージ (undercut gauge), ワックスアップ用ヘラ (wax trimmer), テーパーツール (taper tool), カuttingナイフ (cutting knife) がある。

409 サベイライン

survey line

義歯の着脱方向に基づいて、残存歯の最大豊隆部ならびに軟組織の最大突出部を連ねて表示した模型上の線。サベイヤーを用いて描記されることに因んだ名称。

410 サベイング

surveying

サベイヤーを用いる一連の技工操作。

411 酸化亜鉛ユージノール印象 さんかあえん—いんしょう

zinc oxide eugenol impression

酸化亜鉛ユージノール印象材による印象。通常、顎堤に大きなアンダーカットのない無歯顎の印象に用いられる。また、部分床義歯製作においては、オルタードキャスト法の中で粘膜面印象に用いることもある。

412 暫間義歯 ざんかんぎし

interim denture, provisional denture, temporary denture

最終義歯 (本義歯) を装着するまでの間、外観、機能などの義歯の目的を達成させるために、ある一定期間使用する義歯。暫間義歯には、診断用義歯、治療用義歯、即時義歯、移行義歯などがある。

413 暫間固定 ざんかんこてい

temporary splinting

歯周疾患や外傷などによって生じた歯の動揺を一定期間隣在歯に連結・固定することにより各種機能圧を複数歯に分散し、その病状の改善を図ることを目的とした処置。その処置方法としては、接着性レジン、金属線とレジン、ファイバリーボンとレジンを併用した結紮法などがある。

414 暫間被覆冠 → 「プロビジョナルクラウン」参照

415 暫間補綴装置 ざんかんほてつそうち interim prosthesis

〔同義語〕 暫間補綴物

最終的な補綴処置が施されるまでの間、審美性、咀嚼、発音、咬合機能の保持ならびに回復、または診断や治療の補助的手段として、比較的短期間の使用を前提とした補綴装置。プロビジョナルクラウン (provisional crown), プロビジョナルブリッジ (provisional bridge), 暫間義歯 (interim denture) などがある。

416 暫間補綴物 → 「暫間補綴装置」参照

417 残根上義歯 → 「オーバーデンチャー」参照

し

418 シーカーアキシアルアタッチメント Axial Ceka Revax attachment

固定部は円筒形に近いテーパーが付与されたスプリングピンが十字に溝が切られ、ベースリングとはねじ止めされる、可動部のハウジング表面は細かく格子状の溝が切られレジン床との機械的結合を強固にしている根面アタッチメント。内面はアンダーカットが全周に付与されてスプリングピンとの維持力を発揮している。

419 シーカーアタッチメント**Ceka extracoronary attachment**

リング状の固定部と十字形の溝で4分割された円錐形のスプリングピンの可動部分から構成される歯冠外アタッチメント。

**420 シェードガイド
shade guide**

人工歯、前装用材料、充填用材料、床用レジン、あるいは人工皮膚などの色調見本。

**421 シェードセレクション→「色調選択」
参照****422 自家製アタッチメント じかせい****laboratory fabricational
attachment**

各個人の歯の大きさや歯槽形態など症例に応じて自由に製作するアタッチメント。一部分がプラスチックパターンなどで半既製品化されているものもあるが、鋳造や平行切削器（パラレロメーター）によるミリングによって製作する。チャネルショルダーピン、テレスコープクラウン、I. R. V. などがある。

**423 歯科補綴学 しかほてつがく
prosthetic dentistry,
prosthodontics**

臨床歯科医学の一分野で、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如・後天的欠損・喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態、または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

**424 歯冠円錐 しかんえんすい
occlusal cone
〔同義語〕咬合円錐**

歯冠を歯軸方向の最大豊隆線で分割し、咬合面側の歯面に近似した直線を母線として仮定した円錐。義歯着脱方向における支台歯では非アンダーカット域となる。この部をスーブラバルジエリア（suprabulge area）ともいう。

**425 歯冠外アタッチメント しかんががい
extracoronary attachment**

アタッチメントの固定部のすべて、または一部が歯冠の外側に設置されているアタッチメントの総称。歯質削除量が少ない利点はあるが、支点が支台歯の外側にあるため、支台歯を傾斜、回転させたり、不潔域を生じたりすることもある。緩圧（可動性）型と非緩圧（固定性）型アタッチメントがある。ミニダルボ、シーカーアタッチメント、ASC52 ビバル、などがある。

**426 歯冠型クラスプ しかんがた
suprabulge clasp**

〔同義語〕スーブラバルジクラスプ

鉤腕が支台歯の咬合面側から最大豊隆部を越えて維持領域に到達するクラスプの総称。

**427 歯冠軸 しかんじく
tooth crown axis**

歯冠の長径軸で中央部を通る仮想軸。歯冠軸の設定法には諸説あるが、その代表的なものは、唇（頬）舌方向から見て最大豊隆部の中点と歯頸幅径の中点とを結ぶ直線、さらに、近遠心方向から見て切縁（白歯部は最大豊隆部の中点）と歯頸厚径の中点とを結ぶ直線を想定し、この両者を含む仮想的な直線とする方法である。

**428 歯冠歯根比 しかんしこんひ
crown-root ratio**

正放線投影法によるエックス線写真上で、歯槽骨頂から歯冠方向への長さとの比率、支台歯の圧負担能力の評価基準の1つ。

429 歯冠修復物→「歯冠補綴装置」参照

430 歯冠内アタッチメント しかない

intracoronary attachment

アタッチメントの固定部が歯冠形態内に設置されたアタッチメントの総称。歯質削除量が多い欠点はあるが、支台歯の回転中心がアタッチメントの中心に近い。そのため、咬合圧などの機能圧を歯の長軸方向へ伝達しやすい利点がある。そのため、連結強度の大きい非緩圧型（固定性）アタッチメントが適用されることが多い。スターンG/L、ネイシェイズ、マッカラムTアタッチメントなどがある。

431 歯冠補綴装置 しかんほつそうち
crown restoration

〔同義語〕歯冠修復物、歯冠補綴物

歯冠部硬組織の先天的あるいは後天的原因により生じた欠損ならびに審美的障害に対して、形態・機能・審美性を回復する目的で応用される修復物の総称。

432 歯冠補綴物→「歯冠補綴装置」参照

433 歯間離開度 しかんりかいど
interdental separation

隣接歯間の接触強さを表す数値。草刈玄（1965）は、歯間部に30 μ mから300 μ mの厚さの異なるスチール板を指頭圧で挿入した時、挿入し得る最大の厚さを歯間離開度と名付けた。成年の正常歯列では上顎臼歯部で約90 μ m、下顎臼歯部で約70 μ mであり、この値が150 μ mを超えると急激に食片圧入が起こり易くなる。臨床的には、コンタクトゲージを用いて測定する。

434 歯間離開度検査 しかんりかいどげんさ

examination of interdental separation

歯冠修復を行う場合や歯周疾患の検査のためにコンタクトゲージやデンタルフロスを咬合面方向から垂直に歯間に挿入し、隣接歯間の接触点の強さを調べる検査。歯間離開度が150 μ mを越えると食片圧入が起こる頻度が高くなる。

435 色調選択 しきしょうせんたく
shade selection

〔同義語〕シェードセレクション

個々の患者の歯や軟組織などに合わせて補綴装置の色調を選択または決めること。通常はそれぞれ専用のシェードガイドを用いる。

436 軸眼窩平面 じくがんかへいめん
axis orbital plane

水平基準面の1つで、蝶番軸と左右側いずれかの眼窩下点を含む平面。この平面を用いて模型を咬合器へ装着した場合には、終末蝶番運動が再現できる。さらに、XPr機構（咬合器上で最後方の下顎頭位の他に、それよりも前方の下顎頭位を固定できる機構）を有する咬合器では、咬頭嵌合位と下顎後退接触位の両方を再現できる。

437 軸面 じくめん
axial surface

歯の長軸に平行、あるいはそれに近い方向の歯面。

438 軸面傾斜角→「テーパー」参照

439 軸面形成 じくめんけいせい
axial reduction for tooth preparation

クラウンやブリッジの支台歯の長軸に平行、あるいはそれに近い方向での支台

歯形成。広義には補綴装置軸面の形成加工も含む。軸面の垂直の高さやテーパは、装着される歯冠補綴装置の抵抗性と維持（保持）力やセメント合着時の浮き上がりなどに影響を与える。

440 歯型 しけい

die

形成した支台歯形態を再現した模型。

441 歯型可撤式模型 しけいかてつきもけい

working cast with removable die

〔同義語〕可撤歯型式模型

クラウン、ブリッジ製作時に使用する可撤式模型の1つで、ワックスアップを正確かつ簡易に行うため、歯型を歯列模型中に組み込み、必要に応じて可撤式歯型 (removable die) を抜き差しできるように考案された作業用模型。歯型の根部にテーパを付与したり、既製のダウエルピンを利用する。

442 歯型固着式模型 しけいこちゃくしきもけい

solid working cast

〔同義語〕固着式模型、単一式模型

歯型と歯列模型が一体となっている作業用模型の1つ。歯型と歯列模型との位置関係が狂うことはないが、隣接面やマージン部のワックスアップ作業が困難であるため、精密な補綴装置の製作には、別途に副歯型が必要となる。一般的には個歯トレー、個人トレー、プロビジョナルクラウンなどの製作に用いられる。

443 歯頸部辺縁形態 しけいぶへんえんけいたい

cervical margin form

歯冠修復における、支台歯歯頸部の辺縁と修復物辺縁の断面形態。基本的な形態として、6種類（フェザーエッジ型、

ナイフエッジ型、シャンファー型、ベベル型、ショルダー型、ベベルドショルダー型）がある。また、そのうちのフェザーエッジ型、ナイフエッジ型をショルダーレス型ともいう。

444 歯根円錐→「歯肉円錐」参照

445 歯根膜支持→「歯根膜負担」参照

446 歯根膜支持義歯→「歯根膜負担義歯」参照

447 歯根膜粘膜支持→「歯根膜粘膜負担」参照

448 歯根膜粘膜支持義歯→「歯根膜粘膜負担義歯」参照

449 歯根膜粘膜負担 しこんまくねんまくふたん

tooth and tissue-support

〔同義語〕歯根膜粘膜支持

機能時に補綴装置に加わる力を歯根膜と顎堤粘膜の両者に負担させる概念。

450 歯根膜粘膜負担義歯 しこんまくねんまくふたんぎし

tooth and tissue-supported denture

〔同義語〕歯根膜粘膜支持義歯

機能時に発現する力を歯根膜と顎堤粘膜の両者に負担させる義歯。

451 歯根膜負担 しこんまくふたん

tooth-support

〔同義語〕歯根膜支持

機能時に補綴装置に加わる力を歯根膜のみに負担させる概念。

452 歯根膜負担義歯 しこんまくふたんぎし

tooth-supported denture

〔同義語〕歯根膜支持義歯

機能時に発現する力を歯根膜のみに負担させる義歯。

453 支持 しじ**support**

咬合力によって生ずる歯あるいは補綴装置の沈下に抵抗する作用。

454 歯軸 しじく**tooth axis**

歯の長径軸。藤田恒太郎(1949)が歯の計測の基準として提唱した、唇(頬)舌方向、近遠心方向いずれからみても歯の中央部を縦に貫く直線。なお、歯頸部の上下、すなわち、歯の中央部を重視し、根尖部の湾曲は考慮しないとしている。

455 支持咬頭 しじこうとう**supporting cusp**

対合歯の咬合面窩あるいは辺縁隆線部に咬合し、咬頭嵌合位を保持する咬頭。

456 支持粘膜 しじねんまく**supporting tissue**

機能時に義歯床に加わる力を負担する顎堤粘膜や口蓋粘膜。

457 支持能力 しじのうりよく**supporting ability**

咬合力によって生ずる歯あるいは補綴装置の沈下に抵抗する能力。

458 磁石構造体 じしゃくこうぞうたい**magnetic assembly**

磁性アタッチメントの構成要素の1つ。内蔵された永久磁石と磁性材料のヨークとで磁路を形成して磁気力を発揮する。その構造によってキャップ型、サンドイッチ型などに分類される。

459 歯周補綴 しじゅうほてつ**periodontal prosthesis**

1) 歯根膜粘膜負担義歯を製作する際、支台歯ならびに残存歯の歯周組織保全を重視し、清掃性や機能時に生じる応力の配分を特に考慮して行う補綴処置。Amsterdam(1974)によって提唱された

概念。

2) 高度に進行した歯周疾患に対する補綴処置。

460 矢状顆路 しじょうかろ**sagittal condylar path**

矢状面に投影した顆路。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の顆路を矢状前方顆路、側方滑走運動時の平衡側下顎頭の顆路を矢状側方顆路という。

461 矢状顆路傾斜角 しじょうかろけいしゃかく**inclination of sagittal condylar path**

矢状面に投影した顆路が水平基準面となす傾斜角度。特に前方滑走運動時の矢状顆路傾斜角を矢状前方顆路傾斜角、側方滑走運動時のそれを矢状側方顆路傾斜角という。

注)「～角」はどのような角度を表す場合にも用いられるが、「～傾斜」は水平面に対する角度を表す場合のみに用いられる。また、矢状顆路傾斜と矢状顆路傾斜角は同義語で用法としてどちらも誤りとは言えないが、定量的に角度を表す場合には角をつけて傾斜角とすることが望ましい。

462 矢状切歯路 しじょうせつしる**sagittal incisal path**

矢状面に投影した切歯路。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の切歯路をいう。

463 矢状切歯路傾斜角 しじょうせつしるけいしゃかく**inclination of sagittal incisal path**

矢状面に投影した切歯路が水平基準面となす傾斜角度。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の切歯路が水平基準面となす角度をいう。

→「矢状顆路傾斜角」参照

464 矢状面 しじょうめん**sagittal plane**

正中面に平行で、生体を左右部分に分割するすべての仮想平面。

465 磁性アタッチメント じせいー**magnetic attachment**

磁石構造体とキーパーとから構成され、両者の磁氣的吸着力を利用した補綴装置の支台装置。

466 歯槽頂 しそうちょう**residual ridge crest**

歯の喪失による歯槽突起の骨改造によって鞍状に変化した顎堤の頂上。

467 歯槽頂間線 しそうちょうかんせん**interalveolar crest line,
interalveolar ridge line**

中心咬合位で相対する上下顎歯槽頂を上下方向に結んだ直線で、臼歯部顎堤の前頭面内における対向関係を表示する線。通常、無歯顎補綴における人工歯排列において、義歯の維持・安定を確保するための頬舌的排列位置を決定するために用いられる。具体的には、人工歯の上顎第一大臼歯の舌側咬頭内斜面および下顎第一大臼歯の頬側咬頭内斜面の頬舌的中点がこの線に一致するように排列する。

これによって片側性咬合平衡が確保される。

468 歯槽頂線 しそうちょうせん**alveolar ridge line**

歯槽頂を連ねた線。本来、顎堤弓に沿って湾曲を描いているが、人工歯排列のための基準線などとしては直線で表す。

469 支台 しい**abutment**

補綴装置を維持（保持）・支持・把持するための歯やインプラント。

470 支台歯 しいし**abutment tooth**

〔同義語〕維持歯、鉤歯

補綴装置を維持（保持）・支持・把持する歯。

471 支台歯間線 しいしかんせん**fulcrum line**

〔同義語〕鉤間線

1) 部分床義歯が咀嚼力などの外圧により主にレストを支点として回転を生じること仮想した回転軸、部分床義歯の設計において、力学的安定性の目安とされる。

2) ブリッジが咀嚼力などの外圧により各支台歯を支点として回転を生じること仮想した回転軸、ブリッジの設計において、力学的安定性の目安の1つとされる。特に、歯列のカーブにまたがる曲線的なブリッジでは、左右の第一支台歯を結ぶ線を中心としてブリッジを転覆させる力が働くので、テコとして作用する部分の長さ以上の支台歯数を反対方向へ延長増加させる必要があるとした Sadrin の法則（1913）がある。

472 支台歯形成 しいしけいせい**preparation for abutment tooth**

支台歯形態を得るために、切削器具を用いて歯を切削形成すること。

473 支台歯形態 しいしけいたい**abutment tooth form**

補綴装置を装着あるいは維持・支持する目的で支台歯に付与される形態。

474 支台装置 しいしそうち**retainer**

〔同義語〕維持装置

可撤性および固定性補綴装置を支台歯に連結するための装置。

475 支台築造 しだいちくぞう**abutment build up, foundation restoration**

歯冠の一部分または大部分が欠損し、そのままでは被覆冠のための適正な支台歯形態が得られない場合に、人工材料によって欠損歯質を補い、支台歯形態を整えること。欠損歯質の状況により、以下から選択される。

①成形充填材による築造：セメント築造、レジン築造、アマルガム築造。②既製ピン、既製の金属ポスト、ファイバーポストと成形充填材を併用する築造。③金属による築造：鋳造による築造（鋳造ポストとコア部を一塊で鋳造）、既製ピンや既製ポストと鋳造体を併用する築造など。なお、鋳造操作によって製作された築造体をメタルコア（metal core）と呼ぶことがある。

476 自動削合 じどうさくごう**milling in**

選択削合によりほぼ調整された全部床義歯の咬合面形態を、全体的に同時にスムーズに仕上げるために行う削合法。カーボランダムグリセリン泥を下顎歯の咬合面に均一にのせた後に咬合せ、咬合器の上弓を軽く押さえながら側方滑走運動と前方滑走運動を行い、この操作を切歯指導釘が指導板上をスムーズに滑走するまで繰り返す。

477 歯肉圧排 しにくあっぱい**gingival retraction**

歯肉縁下における支台歯形成、印象採得、合着操作などを行う場合に、それぞれの作業を容易にすることや歯肉に損傷を与えないために、該当する部位の歯肉を一時的に歯面から排除すること。機械的、薬物的、両者の併用および電気メス

を用いた方法がある。

478 歯肉円錐 しにくえんすい**gingival cone**

〔同義語〕 歯根円錐

歯冠を歯軸方向の最大豊隆線で分割し、歯肉側の歯面に近似した直線を母線と仮定した円錐。義歯着脱方向における支台歯ではアンダーカット域となり、クランプの維持に関与する。この部分をインフラバルジエリア（infrabulge area）ともいう。

479 歯肉型クランプ しにくがたー**infrabulge clasp**

〔同義語〕 インフラバルジクランプ

鉤腕が支台歯の歯肉側からアンダーカット域に到達するクランプの総称。代表的なものにローチクランプやIパーククランプがある。

480 歯肉頬移行部 しにくきょういこうぶ**mucobuccal fold**

白歯部口腔前庭で可動粘膜である頬粘膜が不動粘膜である歯肉粘膜へ移行する部分。一般に義歯床縁部がここに設定される。

481 歯肉形成 しにくけいせい**festoon**

ろう（蝸）義歯の人工歯歯頸部から義歯床縁に至るまでの歯肉に相当する部分、すなわち床の研磨面をワックスで形成し所要の形態に仕上げる作業。義歯床研磨面形態は咀嚼、発音、審美性および舌感に関係があるだけでなく、義歯の維持・安定にも影響する。

482 歯肉鉤 しにくこう**gingival clasp**

顎堤のアンダーカットにパー状の床用レジンや軟性レジン義歯床から延長して義歯の維持を補助する装置。上下顎前

歯部の唇側部，上顎結節の頬側部などに応用される。

483 歯肉唇移行部 しにくしんいこうぶ
muco labial fold

口唇部の口腔前庭で，可動粘膜である口唇粘膜が不動粘膜である歯肉粘膜へ移行する部分。歯肉頬移行部と同様に，義歯床縁の設定部位とされることが多い。

484 篩分法〔咀嚼能率の〕 しぶんほう〔そしゃくのうりつ—〕
sieving test [of masticatory efficiency]

回数を規定して咀嚼した一定重量の食品をふるいにかけて，残留した粒子の乾燥重量を測定することによって通過した重量との比率から咀嚼能力を判定する方法。

ピーナッツを用いる Manly (1950) らの方法と，生米を用いる石原寿郎 (1955) の方法とが代表的である。そのほかの食品としてはニンジン，乾しぶどう，かまぼこなどが用いられる。測定は 10 メッシュのふるいにより行われることが多く，主として粉碎能力を測定している。

485 ジャクソンクリブクラスプ
Jackson crib clasp

1本のワイヤーをループ状に屈曲して頬側歯頸部のアンダーカットを利用するクラスプ。Jackson (1911年)により考案された。頬側歯頸部に沿ってアンダーカット歯面に適合する横走部，近心と遠心の隣接面で垂直に屈曲した縦走部，咬合面側で水平に屈曲した隣接面横断部，これに続く鉤脚部（オリジナルは舌側金属板にろう（鑑）付け）により構成される。

486 ジャケットクラウン
jacket crown

レジン，陶材などの審美性に優れた修復材料のみを用いて製作された全部被覆冠。歯質削除量の多い被覆冠であり，支台歯と一体化されないと耐衝撃性に劣るが，金属色が外観にふれないため審美性の優れた歯冠補綴装置である。

487 シャンファー型 —がた
chamfer type

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。丸みを帯びた斜面形態のため，歯質との移行部は明瞭で修復物との適合性がよく，修復物辺縁の厚みも確保することが可能となり，鋳造冠などの一般的な辺縁形態として応用される。また，修復物辺縁の厚みをさらに増すため，径の大きい先端に丸みをもったバー，ポイントで削った辺縁形態をヘビー（ディープ）シャンファー型（heavy chamfer type, deep chamfer type）と呼ぶ。

488 手圧印象 しゅあつしんしょう
finger pressure impression

加圧印象の1つで，術者の手指圧によって義歯床下粘膜を加圧下で採得する印象。

489 自由運動咬合器 じゆううんどうこうごうき
free joint articulator

下顎運動の指導機構をもたず，上下顎模型に自由な可動性を与えた咬合器。咬頭嵌合位は上下顎の模型の接触のみで保持され，偏心運動は模型の咬合面だけで誘導される。

490 習慣性開閉口運動 しゅうかんせいかういへいこううんどう
habitual opening and closing movement

無理なく自然に，あるいは反射的に行われる下顎の開閉運動。通常，咬頭嵌合

位にはじまり、開口後、やや異なる閉口路を経て咬頭嵌合位に終わる。

491 習慣性咬合位 しゅうかんせいこうごうい

habitual occlusal position

習慣的な閉口運動の終末位。正常有歯顎者では咬頭嵌合位と一致するとされている。

492 習慣性咀嚼側 しゅうかんせいそしゃくそく

habitual masticatory side

咀嚼動作における利き側。咀嚼運動は随意運動であると共に、半無意識のうちに食塊の物理的性状の変化に対応して最適な顎運動パターンをとる反射的要素の強い運動でもある。人間の四肢においても利き手、利き足があるように、咀嚼運動においてもか（嚙）みやすい側、無意識のうちにか（嚙）む側があり、片側のみで咀嚼する人のほうが多い。習慣性咀嚼側は、歯、歯周組織、顎関節などによっても影響を受け、よりか（嚙）みやすい側で咀嚼するよう習慣づけられる一種の適応反応とも考えられる。

493 終末蝶番位 しゅうまつちようばんい

terminal hinge position

左右下顎頭が終末蝶番運動を行える範囲にあるときの顎に対しての下顎の位置。

494 終末蝶番運動 しゅうまつちようばんうんどう

terminal hinge movement

左右の下顎頭が最後方位にあるときの蝶番運動。

495 終末蝶番軸 しゅうまつちようばんじく

terminal hinge axis

蝶番軸の1つとして代表的なもので、下顎最後退位で蝶番運動を行うときに回

転中心となる軸。

496 終末蝶番点 しゅうまつちようばんてん

terminal hinge axis point

下顎に存在する終末蝶番軸を延長して皮膚上に現れた点。上顎模型を咬合器にトランスファーする場合に用いられる後方基準点の1つ。

497 シュビガースクリューブロック

Schubiger screw block

ネジ状のメールとフィメール、ネジを内蔵する外筒部により構成され、メールが Gerber attachment のメールと互換性のある構造体。ドルダーバーアタッチメントなどで連結する支台歯の歯軸に平行性がない場合に、メールをメタルコーピングに、バーを外筒部にろう（鑲）付けし、フィメールにより外筒部をメタルコーピングにネジ止めて使用。支台歯のどちらか一方が抜歯されても他方は Gerber attachment の支台歯として保存可能である。

498 床縁 しょうえん

denture border

義歯床の粘膜面と研磨面との境界部。部位により唇側床縁、頬側床縁、口蓋床部後縁、舌側床縁に分ける。

499 床外形線 しょうがいがいけいせん

denture base outline

床縁の位置を研究用模型あるいは作業用模型上に記入した線。一般的には、筋圧形成による精密印象により得られた作業用模型では、その辺縁の最深部が床外形線となる。単なる線ではなく、幅のある領域として理解されている。

500 上顎結節 じょうがくけっせつ

maxillary tubercle

臨床的には、上顎最後臼歯が喪失した

後にも吸収されずに残り、他の歯槽骨部が吸収された結果として生じた上顎顎後後方に位置する膨隆部。被覆粘膜は薄く硬い。著明な場合には、リリースが、さらに義歯の着脱に支障をきたす場合などには外科的切除が必要である。また、上顎全部床義歯床はこれを完全に覆わなければならない。

なお、解剖学名としての上顎結節は、上顎骨背側（側頭下面）にある骨の粗面部をいう。

501 上弓【咬合器の】 じょうきゅう [こうこうきー]

upper bow [of articulator]

咬合器の上部構造で上顎模型を装着する金属製の体部。後方部には顎路指導、顎頭間距離調節などの機構がついている。アルコン型咬合器の関節部は顎路指導部を備え、コンダイラー型咬合器では顎頭球を備えた形式である。前方部には切歯指導機構とオルビタルロケーターの着脱機構を備えている。

502 症型分類【補綴治療における】 しょうけいぶんるい [ほてつちりょうー]

classification system [for prosthodontic treatment]

歯質、歯の欠損の病態を評価し、補綴治療の難易度を分類するもの。2004年から日本補綴歯科学会での策定を開始し、現在まで、口腔の条件、身体社会的条件、口腔関連 QOL、精神医学的条件のフォームが作成されている。

治療計画、治療の到達目標などを決定するための基本となる。術者の技量や経験に左右されることなく、エビデンスの蓄積、医師間の情報交換、症例の選択、インフォームドコンセントなどにも有用である。

503 笑線 しょうせん

smile line

咬合状態のまま笑ったときに、上唇を最大限に挙上した位置と下唇を最大限に下制した位置を示す線。上下顎前歯人工歯歯頸線の位置の指標となる。

→「微笑線」参照

504 上部構造【インプラントの】 じょうぶこうぞう

superstructure [of implant prosthesis]

インプラントを支台とする補綴装置。オッセオインテグレートッドインプラントにおいては、アバットメント、フレーム構造、人工歯そして義歯床も含めて上部構造と呼ぶのが一般的である。骨膜下インプラントにおいては、人工歯と義歯床の部分の意味し、フレームから突出したアバットメントならびにその連結部分は中間構造体と称して区別することもある。

505 床翼 しょうよく

denture flange

義歯床の人工歯歯頸部から床縁にいたるまでの部分。頬側床翼、舌側床翼など、特に翼状の形態をなす部分をいう。

506 小連結子 しょうれんけつし

minor connector

クラスプやレストなどを義歯床や大連結子に連結する金属部分。鉤脚やレストの脚部と同義となることが多い。

507 初期接触 しょきせつしよく

initial occlusal contact

習慣性閉口路にそって閉口するとき、最初に生じる咬合接触。

508 食片圧入 しょくへんあつにゅう

food impaction, impaction of food debris

歯間部へ食片が押し込まれること、不適切な隣接接触関係（歯間離開度、鼓形空隙の形態）や咬合関係（くさび状咬頭）などにより垂直に起こる場合と、舌や頬粘膜の圧により水平性に起こる場合がある。歯周疾患やう（齲）蝕を引き起こす可能性がある。

509 食物粉砕度 しょくもつぶんさいど
degree of food pulverization

規定回数の咀嚼により食物が粉砕される程度。咀嚼能率を評価するために用いられ、粉砕された食物の粒子の大きさを測定する方法と、食物の表面積の増加程度を計算式で求める方法がある。

510 ショルダー型 ーがた
shoulder type

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。支台歯軸面にほぼ直角に形成されるため、歯質との移行部は明瞭であるが、歯質削除量は多く、継ぎ手接合（butt joint）となるため、セメント合着時の浮き上がりが大きい。しかし、修復物辺縁の厚みを十分にとることが可能となり、前装用材料のスペースや修復物の強度を確保することができるため、ジャケットクラウンや前装冠の辺縁形態として適用される。

511 シリコンラバー印象 ーいんしょ
う
silicone rubber impression

縮重合型と付加重合型に分類されるシリコンラバー印象材による印象。硬化後の寸法安定性に優れているため、有歯顎から無歯顎まで、精密印象として広く用いられる。

512 シリンドリカルアンカー
Cylindrical anchor

根面板にろう（鐵）着される頭部が丸

い短円筒形の固定部と4個の溝が切られたハウジングとこれを取り囲むPVCリングの可動部から構成される根面アタッチメント。PVCリングが維持力を発揮し、この改良型では非対称性の溝が6個付与されている。

513 シングルデンチャー
single denture

上下顎のいずれかが無歯顎の場合に適用される全部床義歯。対顎が①天然歯列である場合、②部分欠損はあるが固定性ブリッジで修復された歯列の場合、③部分欠損はあるが可撤性部分床義歯が装着されている場合、④全部欠損であるが全部床義歯が装着されている場合がある。（Heartwell：1974）。

514 人工歯 じんこうし
artificial tooth

天然歯の代用として用いる歯。一般的には、レジン歯と陶歯が用いられるが、特殊な場合には金属歯も用いられる。

515 人工歯根 じんこうしこん
artificial tooth root

歯が失われた部位の顎骨に植立され、補綴装置の支台として用いられる人工物。

→「口腔インプラント」参照

516 人工歯肉 じんこうしにく
artificial gum

- 1) 歯肉の退縮や欠損を人工物によって補い、審美性を修復する義歯床に類似した装置。
- 2) 支台歯と歯肉の関係を再現するために、間接法作業用模型に付与される弾力性のある疑似歯肉。

517 人工歯肉付模型 じんこうしにくつきもげい
working cast with artificial gum

〔同義語〕 ガム模型

クラウンやブリッジの製作時に応用される間接法作業用模型で、歯型周囲の歯肉に相当する部分が、弾力性を有するゴム質印象材や軟性樹脂などの人工歯肉材料で可撤性に再現された模型。

人工歯肉が付与されている状態では、カントウア、エンブレジャーの調整やクラウンのマージンと歯肉縁との位置関係の確認が正確となり、また、人工歯肉を取り外した場合には、支台歯辺縁部の形成状態、クラウン辺縁部の適合状態や前装用材料の歯頸部における築盛状態の確認が容易となる。

518 人工歯排列 じんこうしはいれつ arrangement of artificial teeth

義歯製作過程において、人工歯を咬合床に並べること。前歯部では、患者の性別・顔形・性格・年齢などに調和した外観と発音機能を考慮し、臼歯部では、義歯の維持・安定と咀嚼機能を考慮して排列する。上顎から排列する方法（上顎法）と下顎から排列する方法（下顎法）とがある。

519 靱帯位〔下顎の〕 じんたいい [かがく—]**ligamentous position [of mandible]**

下顎頭が外側靱帯（側頭下顎靱帯）によって規制される顎位。中心位、終末蝶番位と同義として使われることが多い。

520 診断用義歯 しんだんようぎし diagnostic denture

診断および治療計画の立案のために、暫間的に装着される義歯。

521 診断用ワクシングアップ→「診断用ワックスアップ」参照**522 診断用ワックスアップ しんだんよう—****diagnostic waxing up****〔同義語〕 診断用ワクシングアップ**

補綴治療を行う前に、最終補綴処置によって修復されることが予想される歯列や歯肉の形態をワックスで成形すること。全顎におよぶクラウンブリッジによる咬合再構成や、インプラント治療を行う場合に多用される。

す**523 推進現象〔義歯の〕 すいしんげんしやう [ぎし—]****denture propulsion**

上下顎の義歯が咬合した場合、人工歯の咬頭傾斜によって義歯が前後的（矢状推進現象；forward propulsion）あるいは左右の（側方推進現象；latero propulsion）に移動する現象。顎堤の傾斜によっても発現する。

524 垂直的顎位 すいちよくてきがくい vertical mandibular position

上顎に対する下顎の垂直的な位置。

525 垂直被蓋→「オーバーバイト」参照**526 水平基準面 すいへいきじゅんめん horizontal plane of reference**

頭蓋に特定の3点を定めて決定される仮想平面。通常、1つの前方基準点と2つの後方基準点で決定されるが、前者には眼窩下点や鼻翼下縁あるいは鼻下点、また、後者には平均的顎頭点や蝶番点を用いられる。フランクフルト平面、カンペル平面、咬合平面などがある。

527 水平的顎位 すいへいてきがくい horizontal mandibular position

上顎に対する下顎の水平的な位置。

528 水平被蓋 → 「オーバージェット」 参照

529 水平面 すいへいめん

horizontal plane

- 1) 正中面と前頭面とに直交して、生体を上部と下部とに分割するすべての仮想平面。
- 2) 歯において、歯軸に直交する仮想平面。

530 スイングロックアタッチメント

Swing-lock attachment

ヒンジ、ロック、ラッチの3部分から構成され、ヒンジを中心として唇側に設計されたクラスプや床によって支台歯を挟んで固定する構造の補助アタッチメント。ヒンジ、ロック、平行用工具のプラスチックパターンがある。

531 スーパervalジクラスプ → 「歯冠型クラスプ」 参照

532 スターン G/L — じーえる

Stern G/L

固定部は支台冠にろう（鑲）着されるチューブと補強版、義歯側の可動部は維持力の調節が行えるように歯頸部側に縦溝の切られた板バネと金属床の立ち上がり（鑲）着するための接触板等から構成される歯冠内アタッチメント。

533 スタディモデル → 「研究用模型」 参照

534 スタビライゼーションスプリント

stabilization splint

オクルーザルスプリントの1つ。均等な咬合接触を付与することで下顎の安静を得ることを目的として、上下顎歯列のいずれかの咬合面全体を被覆する全歯列型スプリント。

535 ステント

stent

1) 軟組織を保持・固定する装置の総称。外科処置に併用され、移植皮膚片の保持や保護に利用するもの、あるいは形成外科手術後の患部の軟組織を一定期間、定形に保つ装置などがある。

2) 放射線照射治療時の小線源の保持、インプラント植立時の植立方向のガイドなどに用いられる、補助装置の総称。
→ 「スプリント」 参照

536 ストラップ

strap

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する、帯状の金属部分。バーとプレートとの中間的な幅のものをいう。一般的にストラップの用語は、パラタルストラップとして、上顎義歯にのみ用いられる。

537 スパー

spur

部分床義歯の安定を得る目的で支台歯間線を挟んで義歯床とは反対側の歯の舌側面に設置されるレストのような形態をした補助支台装置の1つ。小連結子により義歯床または大連結子に結合され、単独では維持力を発揮しないが、義歯の動きに抵抗して義歯を安定させる点で間接支台装置でもある。前歯舌側面に設置した場合、歯の唇側移動を起こすことがある。

538 スピーチエイド

speech aid

鼻咽腔閉鎖機能の不全による構音障害の改善を図ることを目的とした補綴装置。口蓋裂のような軟口蓋欠損部を物理的に閉塞する鼻咽腔閉鎖型（pharyngeal bulb type）と神経麻痺による軟口蓋部の運動障害などに適用される軟口蓋挙上型（palatal lift type）とがある。後者は軟口

蓋挙上装置 (palatal lift prosthesis ; PLP) と呼ばれる。

539 スピーの湾曲 — わんきょく

curve of Spee

下顎犬歯の尖頭と小白歯, 大白歯の頬側咬頭頂を連ねた線を矢状面に投影した際に現れる円弧, ドイツの解剖学者 Spee (1890) によって発見されたため, この名がある。彼はこの円弧が下顎頭の前縁を通り, その中心は, 眼窩内涙骨上縁付近にあると考えた。

540 スプーンデンチャー

spoon denture

主に上顎前歯少数歯欠損症例に適用されるクラスプのない暫間義歯。その外形がスプーンに似ていることに基づいた名称。

541 スプリットキャスト

split cast

基底部にくさび型の溝を持つ作業用模型。これにより作業用模型を咬合器から容易に取り外し, かつ正確に復位することができる。また, 半調節性咬合器の顆路調節に利用できる。模型に溝を付ける代わりに, 既製のスプリットマウンティングプレートが使われることがある。

542 スプリットバー

split bar

その長軸方向に割れ目 (スリット, スプリット) を付与して, 弾力性を持たせた緩圧型の大連結子。

543 スプリンティング

splinting

変位した組織あるいは可動性の硬組織を一定期間, 適切な位置に固定する処置。

544 スプリント

splint

本来は変位した組織あるいは可動性の

硬組織を一定期間, 適切な位置に固定する装置の総称。軟組織を対象とするステントに対応する用語。

1) 骨折により転位したり不安定となった部位を整復し, 固定する装置。

2) 動揺歯の連結固定装置。

3) 顎関節症の治療などに用いられ, 下顎を適切な位置に誘導する, いわゆるオクルーザルスプリント。

545 スリークォータークラウン → 「3/4冠」参照

546 スリーブ

sleeve

バーアタッチメントの構成要素の1つ。フィメールの部分, あるいはそれに付与されるさや状, またはレール状の構造物。なお, スライド型アタッチメントのフィメール部分を意味することもある。

547 すれ違い咬合 — ちが—こうごう

non-vertical stop occlusion

上下顎に残存歯があるにもかかわらず, 咬頭嵌合位を失っている咬合 (尾花甚一, 1952)。上下顎の残存歯が, 左右的にすれ違って存在する場合と, 前後的にすれ違って存在する場合があり, それぞれ左右の臼歯群のすれ違い咬合と, 前歯群と臼歯群のすれ違い咬合が典型的である。残存歯と対向する顎堤の骨吸収が大きく, 咬合平面の設定が困難で, 義歯の設計が難しい。

せ

548 正中線 せいちゅうせん

median line

生体 (物) を左右に分割する中心線。

549 正中面 せいちゅうめん

median plane

生体（物）を縦断して左右に2等分する，正中線を含んだ仮想平面。

550 生物学的幅径 せいぶつがくてきふくけい

biologic width

歯肉辺縁から歯槽骨頂までの歯周組織を歯肉溝・上皮性付着・結合組織性付着の3つに分類した場合の上皮性付着と結合組織性付着を合わせた距離。一般に，歯冠補綴装置のマーヅンを歯肉縁下に設定する際，フィニッシュラインの位置は，生物学的幅径が遵守されなければならない。生物学的幅径を損傷する位置に歯冠補綴装置のマーヅンを設定すると炎症が惹起され，それは生物学的幅径が改善されない限り消退しないとされている。

551 精密印象 せいみついでんしょう

precise impression

〔同義語〕最終印象，final impression
補綴装置を製作する目的で採得する寸法精度や表面精度などに優れた印象。

552 積層一回印象→「二重同時印象」参照

553 舌圧痕 ぜつあつこん

indentation of tongue

舌尖から舌側縁にみられる歯列の圧痕。舌習癖やクレンチングによって生じるといわれる。

554 石膏コア せつこうこゝ

plaster core, plaster index

支台歯形成や補綴装置製作時に，支台歯や人工歯の形態，排列状態，位置関係などを保存するために，それらを石膏で記録したもの。

555 切歯指導釘 せつしどうてい

anterior guide pin

咬合器上弓の最前方部に取り付け，垂直的顎間関係を保持し，切歯指導板の誘

導に対応して矢状および側方切歯路を再現するためのピン。

556 切歯指導板 せつしどうばん

incisal guide table

咬合器下弓の最前方部に取り付け，切歯指導釘を誘導し，顎間距離の保持ならびに矢状および側方切歯路を再現するためのテーブル。金属製とプラスチック製とがある。

557 切歯点 せつしてん

incisal point

下顎左右側中切歯の近心隅角間の中点。咬合平面の基準点や顎運動の測定点として用いられる。

558 摂食・嚥下障害 せつしょく・えんげしょうがい

dysphagia

食物が通過する位置によって5期（先行期，準備期，口腔期，咽頭期，食道期）に分けられる一連の摂食・嚥下動作のどこかの段階における動作の障害。先行期（認知期）は食物を認識し，何をどのくらいどのように食べるかを認識し決定する段階。準備期は食物を口腔に取り込み，咀嚼して食塊形成する段階。口腔期は食塊が搾送運動により奥舌，咽頭に送り込まれる段階。咽頭期は嚥下反射により咽頭を通過して食道に送り込まれる段階。食道期は食塊が蠕動運動により食道を通過して胃に送り込まれる段階をいう。

口腔期では舌と口蓋との接触関係，咽頭期では食道入り口部の拡大に必要な舌骨と喉頭の前上方への挙上のための下顎骨の固定，軟口蓋挙上による鼻咽喉閉鎖が重要であり，これらの段階の障害には，義歯だけでなく，舌接触補助装置，パラトルリフトタイプのスピーチエイドなどの歯科の技術が有効である。

559 接触点 せつしよくてん**contact point, contact surface**

1) 隣接する歯が互いに点状あるいは小面状に接触している部位。正常歯列においては、上下的には前歯部で歯冠切縁から1/5~1/4, 臼歯部では歯冠咬合面から1/3の位置, また頬舌的には前歯部で中央かやや舌側寄り, 臼歯部で中央からやや頬側寄りの位置に存在する。

2) 咬合時に対合する歯が互いに点状あるいは小面状に接触する部位。

560 切歯路 せつしろ**incisal guidance, incisal path**

顎運動時に切歯点あるいは切歯部の前方に設定した標点を示す運動経路。特に滑走運動時の運動経路をいう。顆路とともに顎運動の重要な要素であり, 種々の顎運動に対応してさまざまな経路をとる。

561 切歯路調節機構 せつしろちようせつきこう**adjustable anterior guidance**

平均値咬合器や調節性咬合器において, 切歯指導釘と切歯指導板より構成され, 切歯路を再現あるいは設定するための機構。

562 舌接触補助床 ぜつせつしよくほじょう**palatal augmentation prosthesis**

義歯あるいは口蓋床の口蓋部を肥厚させ, 舌の口蓋への接触を与え, 咀嚼, 発音, 嚥下などの口腔機能改善を図るための補綴装置。PAPとも呼ばれる。

563 切端咬合 せつたんこうごう**edge to edge occlusion**

咬頭嵌合位において, 上下顎の前歯が切縁どうして接触する咬合様式。

564 切端咬合位 せつたんこうごうい**edge to edge occlusal position**

前方咬合位の1つで, 上下顎中切歯の切縁と切縁とが接触する咬合位。

565 接着【修復物の】 せつちやく [しゅうふくぶつ—]**bonding [of restoration]**

修復物を接着性材料で支台歯に結合すること。従来のセメントの嵌合力を応用して結合する合着に対応する語。適切な接着性材料を用いることによって, 象牙質とエナメル質では, 樹脂含浸層とレジスタグによる微小機械的結合, 金属, セラミックス, コンポジットレジンなどでは水素結合, シラノール結合, 分子間引力などの結合力によって接着するといわれている。代表的な接着性材料として接着性レジンセメントがある。

566 接着ブリッジ せつちやく—**adhesion bridge, resin-bonded prosthesis**

1~2 歯程度の欠損において, 支台歯の歯質削除を可能な限り少なくして製作された金属のフレームワークを, 接着性材料によって装着するブリッジ。支台歯の一方が通常のインレーやクラウンの場合にはコンビネーションタイプの接着ブリッジという。

567 舌面形成 ぜつめんけいせい**preparation of lingual wall**

前歯の支台歯舌側面を支台歯形態に応じて切削形成すること。

568 全運動軸 ぜんうんどうじく**kinematic axis**

矢状面内のすべての顎運動に対応する回転軸。河野正司(1968)は, 下顎の矢状面内運動に対応して, その運動範囲の上下的な幅が最小となる帯状の点が下顎

頭上にあることを発見し、左右のこの点を結ぶ軸を全運動軸と名付けた。

569 線鈎 せんこう

wire clasp, wrought wire clasp

〔同義語〕ワイヤークラスプ

既製の金属線を屈曲・適合して製作されたクラスプ。

570 前後の歯牙湾曲→「前後の歯列湾曲」

参照

571 前後の歯列湾曲 ぜんごてきしれつわんきょく

anteroposterior curve,
anteroposterior occlusal curve

〔同義語〕前後の歯牙湾曲

天然歯列を矢状面に投影したときに観察される、咬合平面の前後的な湾曲。下顎については、特にスピーの湾曲 (curve of Spee) という。

572 前装冠 ぜんそうかん
facing crown

審美性を重視し、鑄造、切削加工等により製作した金属冠の外観に触れる部分に歯冠色の前装用材料を適用したクラウン。陶材を用いたメタルボンドクラウンとレジンを用いたレジン前装冠とがある。

573 栓塞子 せんそくし
obturator prosthesis

上下顎の穿孔部あるいは欠損部を栓塞する補綴装置。顎義歯や顎顎に設置された場合、その部を栓塞部と呼ぶ。

574 選択削合 せんたくさくごう
selective grinding

自動削合の前段階として咬合の修正、調整を行うもので、咬合紙により印記された調整部位を、ダイヤモンドポイントやカーボランダムポイントなどを用いて、部分的に削除する方法。中心咬合位、偏

心咬合位において、均等な咬合接触が得られるように削合する。

575 選択的加圧印象 せんたくてきかあつ
いんしょう

selective pressure impression

スペーサーの厚さや通路の数、大きさなどを変化させ、顎堤粘膜に加わる圧力をそれぞれの部位の圧負担能力に応じて調整して採得する印象。これにより、義歯の適正な粘膜負担を得ることができるとされている。

576 剪断咬頭→「非機能咬頭」参照

577 全調節性咬合器 ぜんちようせつせい
こうごうき

fully adjustable articulator

調節性咬合器のうち、両側の矢状顎路および平衡側の側方顎路の調節機構に加え、運動量の小さい作業側の側方顎路の調節機構をも備えて、それぞれの顎路を生体と同じ曲線によって再現できる咬合器。Denar SE articulator, Stuart articulator, TMJ articulator などがある。

578 前頭面 ぜんとうめん
frontal plane

正中線に平行で矢状面に直行し、生体を前後部分に分割するすべての平面。頭蓋の前面部がこの面とほぼ平行になることに因んだ名称。

579 セントラルベアリングスクリュー
central bearing point, central
bearing screw

口外法ゴシックアーチ描記装置、パントグラフのクラッチ、チューイン法の口腔内記録装置などの中央部に取り付けられ、支柱となるネジ。先頭部が半球状のネジであるため、高径の調節や円滑な顎運動が行える。

580 セントラルベアリングプレート**central bearing plate**

セントラルベアリングスクリューが接触，滑走する板。

581 全部床義歯 ぜんぶしょうぎし**complete denture, full denture**

〔同義語〕 総義歯

上顎または下顎のすべての歯を喪失した症例に対して，これを補綴する目的で適用される有床義歯。義歯に加わる咬合圧の負担様式による分類では，粘膜負担義歯に相当する。基本的に人工歯と義歯床から構成される。

582 全部床義歯補綴学 ぜんぶしょうぎし

ほてつがく

complete denture prosthodontics

〔同義語〕 総義歯補綴学

歯科補綴学の一分科で，片顎または上下両顎のすべての歯を喪失した症例に対し，全部床義歯によって修復・整形し，損なわれた口腔と関連組織の形態と機能および外観を回復させるとともに，患者の健康の維持・増進を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

583 全部鑄造冠 ぜんぶちゅうぞうかん**full cast crown**

鑄造法によって製作される全部被覆冠。適合性，形態再現性，強度に優れ，白歯部の全部被覆冠としては最も使用頻度が高い。

584 全部被覆冠 ぜんぶひふくかん**complete crown, full coverage****crown, full veneer crown**

歯冠補綴装置のなかで，歯冠部を全面的に人工物で被覆するもの。金属冠，前装冠，ジャケットクラウンがある。

585 前方位 [下顎の] ぜんぼうい [かがく—]**protrusive position [of mandible]**

下顎を中心位から前方に移動したときのすべての顎位。

586 前方運動 [下顎の] ぜんぼううんどう [かがく—]**protrusive movement [of mandible]**

下顎の前方への運動。通常，下顎が咬頭嵌合位または下顎後退接触位から前方へ向かって接触滑走することをいう。

587 前方基準点 ぜんぼうきじゅんてん**anterior reference point**

2つの後方基準点とともに，水平基準面を設定する顔面上の点。一般に眼窩下点，鼻翼下縁，鼻下点などが用いられる。

588 前方咬合位 ぜんぼうこうごうい**protrusive occlusal position**

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で，下顎を前方に滑走運動させたときのすべての咬合位。

589 前方咬合小面 ぜんぼうこうごうしょうめん**occlusal facet of protrusion**

Gysi の軸学説および咬合小面学説に従って，フルバランスドオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の1つ。前方と作業側，平衡側への滑走運動で接触する面であり，上下顎前歯の切縁および下顎白歯では頬舌側咬頭の前方の斜面に，また，上顎白歯では後方の斜面に発現する。

590 前方誘導 (指導) → 「アンテリアガイダンス」参照

そ

591 総義歯→「全部床義歯」参照

592 総義歯補綴学→「全部床義歯補綴学」参照

593 早期接触 そうきせつしよく

occlusal prematurity, premature contact

咬合干渉の1つで、閉口時に、安定した上下顎の咬合接触状態が得られる前に一部の歯だけが咬合接触する状態。

594 双子鉤 そうしこう

double Akers clasp

レスト付き二腕鉤を鉤体部で背中合わせに結合し、2本の支台歯に設置する形態のクラスプ。各々2個の鉤腕が辺縁隆線から咬合面側鼓形空隙にかけて設置されることからエンブレジャークラスプ (embrasure clasp) とも呼ばれる。維持力の増強と支台歯の二次固定効果があり、直接および間接支台装置として用いられる。

595 相補下顎位 そうほかがくい

complementary mandibular position

下顎を基準とした場合の顎位。数学的には互いに独立な6個のパラメータで完全に定義できる。

下顎の歯のワックスアップなどにおいて、咬頭嵌合位での咬合接触の付与に引き続いて偏心位での接触状態や咬合面間の離開量を適切に与えようとするとき、偏心位で上顎の各咬頭や溝がどの位置にあるかを立体的に考慮しなければならぬ。このように下顎に対する上顎の立体的位置関係を問題にするときに相補下顎位の概念が必要となる。

596 相補下顎運動 そうほかがくうんどう
complementary mandibular movement

下顎を基準としてみた場合の顎運動。下顎に描記板を設置して描記したゴシックアーチやコンダイラー型咬合器の動き、下顎咬合面に印記したFGP記録などは、下顎に対して上顎がどのように運動するかという情報である。顎運動は6自由度運動であるため下顎運動と相補下顎運動は運動方向が逆になるだけという単純なものではない。例えば限界運動野が最も収斂する点は、下顎運動では下顎頭の中央部付近であるのに対し、相補下顎運動では関節節中央付近となる。

597 即時荷重 そくじかじゅう

immediate loading

インプラント (フィクスチャー) を顎骨内に埋入後、24時間 (または48時間) 以内に補綴上部構造を装着して咬合負荷を加えること。即時荷重を加えられたインプラントが骨結合を獲得するためには、インプラント (フィクスチャー) の微小動揺 (micromovement) を150 μ m以下に抑えることが必要といわれている。インプラント (フィクスチャー) を顎骨内に埋入後、48時間から3ヵ月間の間に補綴上部構造を装着して咬合負荷を加える場合には、早期荷重 (early loading) という。

598 即時義歯 そくじぎし

immediate denture

抜歯前に予定部位を調整した模型上で製作し、抜歯後直ちに装着される義歯。

599 測色法〔歯冠色の〕 そくしょくほう
〔しかんしょくー〕

method of color measurement [of tooth color]

歯冠色調選択の方法の1つ。シェードガイドや色見本を用い術者の目により判断する視感比色法と光電色彩計（刺激値直読方式）や分光測色計などを用いる器械測色法とがある。

600 側方位 [下顎の] そくほうい [かがく—]

lateral position [of mandible]

下顎を中心位から右側方あるいは左側方に移動したときのすべての顎位。

601 側方運動 [下顎の] そくほううんどう [かがく—]

lateral movement [of mandible]

下顎の側方への運動。通常、咬頭嵌合位あるいは下顎後退接触位から側方へ接触滑走することをいう。

602 側方顆路 そくほうかる

lateral condylar path

水平面に投影した側方滑走運動時の顆路。作業側側方顆路と平衡側側方顆路とがある。

603 側方顆路角 そくほうかるかく

angle of lateral condylar path

[同義語] ベネット角, Bennett angle

側方滑走運動時に水平面投影した平衡側下顎頭の運動経路が正中矢状面となす角度。

604 側貌記録 そくほうきろく

profile, profile record

額、鼻背、鼻尖、上下口唇、オトガイ部などから構成される側貌の外形についての記録。有歯顎時にヒューズ線や紙型などで製作しておき、無歯顎時に咬合高径の参考にする。

605 側方咬合位 そくほうこうごうい

lateral occlusal position

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を右側方あるいは左側方

へ滑走運動させたときのすべての咬合位。

606 側方咬合湾曲 →「ウィルソンの湾曲」参照

607 側方歯牙湾曲 →「ウィルソンの湾曲」参照

608 側方齒列湾曲 →「ウィルソンの湾曲」参照

609 側方切歯路 そくほうせっしろ

lateral incisal path

水平面に投影した側方滑走運動時の切歯路。これが作る図形はゴシックアーチと呼ばれる。

610 側方切歯路角 そくほうせっしろかく

angle of lateral incisal path

側方滑走運動時に水平面投影した切歯点あるいは切歯部の前方に設けた点の左側と右側の運動経路がなす角度。特に水平面に描記した後方側方滑走運動路がなす角度はゴシックアーチの展開角として知られる。

しかし、側方切歯路は通常左右対称ではないため、両者を合わせた展開角よりも左右それぞれの角度で表示するほうが実際的である。

611 側方湾曲基準板 そくほうわんきょく

orientation plate for compensating curve

半径4インチの球面をもつ湾曲板。咬合平面の分析や補綴処置時に咬合湾曲を形成、付与するために用いる。これは、モンソンの球面説が顎運動のガイドとしては否定されながらも、形態学的には有歯顎の咬合湾曲を基準として考えていることによる。

612 咀嚼圧 そしゃくあつ

masticatory pressure

咀嚼時に、天然歯あるいは人工歯の咬合面に発現する単位面積あたりの力。

613 咀嚼運動 そしゃくうんどう

masticatory movement

咀嚼時の顎運動。食物摂取に際して、嚥下の前に食物をかみ切る（咬断）、かみくだく（粉碎）、すりつぶす（白磨）などの動作が含まれる。

614 咀嚼運動路 そしゃくうんどうろ

masticatory movement path

咀嚼時の顎運動経路。同一個人における同一食品の咀嚼時にはほぼ一定した経路を示すが、その1周期が咀嚼周期である。これは開口相、閉口相、咬合相からなり、切歯点は先ず作業側へやや偏位した直線的な開口（第1相）に続いて、さらに外方へ偏位し（第2相）、そこから咬頭嵌合位に向かって斜めに閉口していく経路（第3相）をとり、結果としてその経路は作業側に偏った不整紡錘型となる。

なお、直接、咬頭嵌合位に戻るのではなく、側方位で咬合接触が生じ、接触滑走（第4相）が起こるとの説や、閉口後に咬頭嵌合位からさらに反対側への接触滑走（第5相）が生ずるとの説もある。

615 咀嚼効率→「咀嚼能率」参照

616 咀嚼サイクル→「咀嚼周期」参照

617 咀嚼周期 そしゃくしゅうぎ

masticating cycle

〔同義語〕咀嚼サイクル, chewing cycle

開口相、閉口相、咬合相の3相からなる一連の咀嚼運動の1周期。

618 咀嚼障害 そしゃくしょうがい

masticatory dysfunction

咀嚼障害は、5期（先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期）に分けられる一連の摂食・嚥下動作のうち、主として

準備期において食物を切断、破碎、粉碎して、食塊形成する動作の障害。

619 咀嚼側 そしゃくそく

chewing side

上下顎歯列間に食物を挿入して咀嚼する側。側方滑走運動時に下顎が向かう側を作業側といい、咀嚼側と作業側が対応する用語として扱われることもあるが、咀嚼側は食物を咀嚼する側として規定され、顎運動の方向には必ずしも一致しないため同義語とはいえない。例えば、中沢勇の第5相や臼歯部交叉咬合症例の閉口相では、下顎の運動方向は反対側に向かうため、咀嚼側が平衡側となる。

620 咀嚼能率 そしゃくのうりつ

masticatory efficiency

〔同義語〕咀嚼効率

咀嚼能力の一部を示す指標で、食物を規定の粉碎度に要する作業量。

621 咀嚼能率測定 そしゃくのうりつそく
てい

**determination of masticatory
efficiency**

咀嚼能率を求めるための測定。規格化された咀嚼試験条件で得られる食物粉碎度を測定する。篩分法が代表的な測定法である。

622 咀嚼能力 そしゃくのうりよく

ability of mastication

顎口腔系が食物を切断・破碎・粉碎し、唾液との混和を行いながら食塊を形成して、嚥下動作を開始するまでの一連の能力。

この能力を測定あるいは検査し、評価することを「咀嚼機能検査」、「咀嚼能力検査」という。咀嚼機能あるいは咀嚼能力を客観的に評価するための方法としては、咀嚼能率や最大咬合力、咬合接触面

積の測定、咀嚼時の咀嚼筋活動や顎運動の分析、摂取可能食品の調査などがあり、咀嚼スコアとして数値で表すこともある。

623 咀嚼リズム そしゃく—
masticatory rhythm

咀嚼運動の基本的な律動。動物実験の結果では、脳幹網様体に存在するリズムジェネレータで形成されるとされる。

624 咀嚼力 そしゃくりよく
masticatory force

咀嚼時に、顎口腔系器官・組織の働きにより咬合面間に発現する力。

た

625 待機荷重 たいきかじゅう
delayed loading

インプラント（フィクスチャー）を顎骨内に埋入してから、下顎で3ヵ月間以上、上顎で6ヵ月間以上の免荷期間（unloaded period）を待った後に、補綴上部構造を装着して咬合負荷を加えること。

626 対向関係【顎堤の】 たいこうかんけい [がくてい—]
maxillomandibular residual ridge relationship

上下顎の人工歯が咬頭嵌合する状態における上下顎の顎堤の位置関係。前頭面での対向関係と矢状面での対向関係とがあり、臼歯部人工歯の頬舌の排列位置や最後方人工臼歯の位置決定などに利用される。

627 対咬関係→「対合関係」参照

628 対合関係 たいこうかんけい
interocclusal relation

〔同義語〕対咬関係

咬合している、あるいは咬合すべき上下顎の歯の位置関係。健常者の天然歯列では、咬頭嵌合位において上下顎いずれかの臼歯部咬頭が相対する歯の辺縁隆線にか（嚙）み込み、いわゆる cusp to ridge、1歯対2歯の関係を呈する場合が多い。

一方、多数歯の歯冠修復、咬合再建を図る場合には、この cusp to ridge の関係では、機能咬頭が対合する歯間部に楔状に作用し、歯間離開、食片圧入などをもたらすため、cusp to fossa、すなわち1歯対1歯の関係にしたほうがより望ましいとされている。

629 対向作用→「拮抗作用」参照

630 対合歯 たいごうし
antagonist, dental antagonist

上下顎の歯が咬合したとき、その歯の咬合の対象となる歯。

631 ダイナミック印象 —いんしょう
dynamic impression

旧義歯あるいは最終義歯をトレーの代わりとして、長時間流動性が持続する印象材を用いて患者の日常生活における機能時の粘膜の動態を採得する印象。

632 大連結子 だいにんけつし
major connector

連結子の1つで、離れた位置にある義歯床と義歯床、義歯床と間接支台装置などを連結する部分。上顎に用いられるものとして、パラタルバー、パラタルストラップおよびパラタルプレートがあり、下顎には、リングルバー、リングルプレートおよびリングルエプロンがある。

633 ダウエルピン
dowel pin

歯型可撤式模型、分割復位式模型において歯型の着脱を容易にし、かつ正確に復位させるために歯型の根部に応用する

既製のピン。

634 唾液検査 だえきけんさ

saliva test

唾液を試料として用いて行う検査。歯科領域ではう（齲）蝕原性菌、歯周病関連菌の検査を始め、唾液の分泌量（口腔内乾燥症）や緩衝能および粘性と義歯床の維持力などの検査、各種ホルモンの測定による免疫検査が行われている。

635 タッピング

tapping

咬合面間に食物のない状態で上下顎の歯（人工歯）を反復的にカチカチとかみ合わせること。ブラキシズムや寒冷時にも観察される。臨床的には、咬合、顎関節、筋などの診査・診断に利用される。

636 タッピング運動 ーうんどう

tapping movement

1) 開口量の少ない反復的な開閉口運動。臨床的には、咬頭嵌合位における早期接触をはじめとする咬合関係や顎運動経路などの診査・診断に利用される。

2) ゴシックアーチ描記板上に記録される複数の点（タッピングポイント）を記録するための下顎反復小開閉口運動。この運動の終末位はほぼ咬頭嵌合位にあるため、水平的顎間関係を記録する場合に、ゴシックアーチ描記とともに、この運動が利用される（タッピング法）。

なお、顎関節や筋に異常がある場合には、その終末位は一点には収束しないこと、さらに、運動の速度・強さ、開口量や姿勢（頭位）などの影響を受けることが明らかにされている。

637 単一印象 たんいついんしょう

single impression

1種類の印象材を用いて採得する印象。→「連合印象」参照

638 単一式模型→「歯型固着式模型」参照

639 短縮歯列 たんしゅくしれつ

shortened dental arch

Käyser AF (1981) が提唱する、少なくとも4つの咬合ユニット (Occlusal Unit : OU=小白歯の上下ペアが1 OU, 大白歯の上下ペアを2 OUとして計算) を有した歯列は、臨床的に十分適応能力を有しているという Shortened Dental Arch (SDA) Concept に端を発した歯列。Käyser AF の定義では少なくとも片側の最後方咬合ユニットが小白歯のペアとなる歯列としているが、広義では上下第2大白歯まで (28歯) の完全歯列から1つでも遊離端欠損している歯列をいい、狭義では上下第2小白歯以下 (20歯以下) の歯列のこと。基本的に短縮歯列は遊離端欠損歯列であり、中間欠損歯列とは区別される。

640 単純鉤 たんじゅんこう

single-arm clasp

支台歯の頬・唇側面に設置された1つの鉤腕からなる環状鉤。

641 単独歯型→「単独歯型式模型」参照

642 単独歯型式模型 たんどくしけいしきもけい

single die

〔同義語〕単独歯型

作業用模型の1つ。単独の歯型のみを用いる方法で、クラウンやブリッジを製作するための作業用模型としては利用価値が少ない。インレー、ピンレーなどのように、歯冠の一部形態を修復する場合で、特に咬合関係、接触関係が必要でない場合には利用可能な簡易な方法。

ち

643 チェックバイト**check bite**

- 1) 上下顎の顎間関係を咬合採得材で記録すること。
- 2) 咬合器の顎路調節を目的に、下顎の前方位(前方チェックバイト; protrusive check bite)あるいは側方位(側方チェックバイト; lateral check bite)における上下顎の位置関係を記録すること。

644 チェックバイト法 —ほう**check bite method**

顎運動の測定法の1つで、ワックス、石膏、酸化亜鉛ユージノールペーストなどの記録材を上下顎歯の咬合面間や咬合床の咬合堤間で硬化させ、上下顎関係を記録し、生体の顎路の出発点とその任意の一点とを結んだ直線が各基準平面となす角を計測する方法。Christensen (1905)により開発されたといわれており、半調節性咬合器の顎路調節に用いられる。

645 チャンネルショルダーピン**channel shoulder pin (C. S. P.)**

自家製アタッチメントの1つで、メールをマトリックスへ誘導するチャンネル(channel)、フィメールの壁に直角で槌状の辺縁をもつ支持要素としてのショルダー(shoulder)、およびフィメールからメールを撤去するときの摩擦抵抗要素としてのピン(pin)から構成される。Steiger (1959)により紹介された。

646 チューイン法 —ほう**chew-in technique**

顎運動の記録法の1つで、上下顎のいずれか一方に設置したレジンなどの記録媒体を、もう一方の顎に設置した描記針

などによって彫り込んで、3次元的な顎運動経路を記録する方法。この記録をもとに咬合器の関節部に顎運動の誘導面を形成する。Luce (1911)により提唱されたものが原法である。

647 中間義歯 ちゅうかんぎし**bounded saddle denture, tooth borne denture**

残存歯と欠損部の位置関係により分類された部分床義歯で、欠損部の近遠心の両側に残存歯が存在する欠損様式に適用されるもの。

遊離端義歯に対する用語であり、片側性に欠損部が存在し、かつ欠損部の近遠心側に残存歯が存在する欠損様式に適用される片側性中間義歯(unilateral bounded saddle denture)と、両側にわたって欠損部が存在し、かつ欠損部の近遠心両側に残存歯が存在する欠損様式に適用される両側性中間義歯(bilateral bounded saddle denture)とに分類される。

648 中間欠損 ちゅうかんけっそん**intermediary defect**

歯列の部分欠損症例において、欠損部の近遠心側のいずれにも歯が存在するもの。

649 中心位 ちゅうしんい**centric relation**

下顎頭が下顎窩内で以下の位置となるとき顎位。従って、歯の接触位置とは無関係で、任意の顎間距離で存在する。

- 1) 下顎頭が下顎窩内で、関節円板の最も薄く血管のない部分に対合し、関節結節の斜面と向き合う前上方の位置(GPT-5)。
- 2) 上顎に対して下顎が最後方位をとり、なおかつ下顎側方運動が可能な位置(GPT-3)。

3) 下顎頭が下顎窩内で緊張のない最後方位をとり、そこから無理なく下顎側方運動が可能な顎位 (GPT-1)。

4) 一定の垂直的位置関係において側方運動が可能な上顎に対する下顎の最後方位 (Boucher; 1953)。

5) 下顎頭と関節円板が最中央で最上方にあるときの上下顎の関係 (Ash; 1993)。

6) 下顎頭が下顎窩内で最上方で最後方位にあるときの顎位。

7) 下顎頭を前最上方に位置させて臨床的に決定される下顎位 (Ramfjord; 1993)。

※GPTは Glossary of Prosthodontic Terms の略。

[なお、このように多様なニュアンスを有したものは専門用語として不適当であり、使用を控えるべきとする意見も少なくない。しかし、国内外において古くから多方面で用いられており、また、すべての顎位の原点として極めて重要な用語とも言えるため、本委員会では、適当な代替用語も未確定な現時点で、本用語を削除することは不適当であると判断した。]

650 中心咬合位 ちょうしんこうごうい centric occlusion

1) 下顎頭の位置とは関係なく、上下顎の咬合面が最大面積で接触、または、咬頭嵌合したときの顎位。咬頭嵌合位と同義。一般に、正常有歯顎者では、下顎頭は下顎窩内で顎頭安定位にある。

2) 下顎が中心位で咬合したときの顎位。前項のごとく、中心位の定義が不明確のため、本項の意味も多様となる。

651 鑄造冠 ちゅうぞうかん cast crown

ロストワックス法を用いた一塊鑄造によって製作されるクラウン。板金加工法

により製作される帯環金属冠に対応する語として用いられたが、適合性、形態再現性、強度に優れるため、現在では金属冠のほとんどすべてが鑄造法によって製作される。

652 鑄造鉤 ちゅうぞうこう cast clasp

鑄造法により製作されたクラスプ。

653 鑄造床 ちゅうぞうしょう cast plate

金属床の1つでロストワックス法によって製作される義歯床の金属部分。

654 鑄造バー ちゅうぞうー cast bar

鑄造法により製作されたバー。

655 チューブ陶歯 ーとうし tube tooth

人工歯の基底面から歯冠方向へ垂直に貫通する維持孔を有する陶歯。維持孔へ嵌合するように製作したピンに合着することで金属床義歯やブリッジの人工歯として使用された。

656 調音検査→「構音検査」参照

657 聴診法 ちょうしんほう auscultation, stethoscopy

生体の各部で産生される音を聴診する検査。補綴領域では、顎関節症の関節雑音を聴診したり、歯が咬合接触するときの咬合音を骨伝導音として聴診することによって早期接触などの咬合異常を診断する方法 (咬合音検査参照) もあり、骨伝導音を電氣的に分析する装置が開発され臨床に用いられている。摂食・嚥下リハビリテーションの領域では嚥下障害の判定のために嚥下時に頸部で産生される音を聴診する検査が行われており、嚥下障害のスクリーニング法として有効とされている。

668 調節性咬合器 ちょうせつせいこうごうき

adjustable articulator

解剖学的咬合器のうち、顎運動を再現する要素としての顎路および切歯路の再現機構を備え、それが特定の範囲内で可変調節できる咬合器。半調節性咬合器と全調節性咬合器とに分類される。

669 調節湾曲 ちょうせつわんきよく

compensating curve

全部床義歯の臼歯部人工歯の排列において、クリステンセン現象の発現を防止するために各咬頭頂を連ねた線に付与する湾曲。前後的調節湾曲と側方的調節湾曲とがある。

660 蝶番運動 ちょうばんうんどう

hinge movement

左右の下顎頭が下顎窩内で滑走運動を伴わないで、純粋な回転のみを行う運動。一般的に下顎が後退し、開口量が0~25mmの範囲で開閉口運動を行うときに観察される。

661 蝶番咬合器 ちょうばんこうごうき

hinge articulator

〔同義語〕平線咬合器, plane line articulator
上下顎フレームが単純な蝶番によって連結され、開閉運動のみを行える咬合器。咬頭嵌合位の再現だけが可能である。文献上に現われる最初の咬合器 (Gariot 咬合器; 1805) として知られる。

662 蝶番軸 ちょうばんじく

hinge axis

左右側の下顎頭が滑走運動を伴わないで純粋に回転したときにその回転中心となる軸。

663 蝶番点 ちょうばんてん

hinge axis point

下顎に存在する蝶番軸を左右の皮膚上

に示した点、咬合器へのトランスファーに用いられる後方基準点の1つ。

664 直接維持装置 → 「直接支台装置」参照

665 直接支台装置 ちよくせつしだいそうち

direct retainer

〔同義語〕直接維持装置

部分床義歯の支台装置で、欠損部に隣接する歯に設定されるもの。

666 治療用義歯 ちりょうようぎし

treatment denture

最終義歯の製作に先立ち、咬合治療、粘膜治療などを目的として装着される暫間的な義歯。

つ

667 ツインステージ咬合器 — こうごうき

twin-stage articulator

2種類の歯列模型を用いたり2組の調節条件を用いて、ツインステージ (2段階) 方式で操作することにより、特定の理念にもとづいた咬合様式を具現化することを目的とした咬合器。前者には Hanau Twin-Stage Occluder および Verticulator (Jelenko) などがあり、一般に FGP テクニックに利用される。また、後者には Twin Hobby articulator (保母須弥也) などがある。

て

668 低位咬合 ていごうごう

infraocclusion

1) 一部の歯あるいは人工歯の咬合面が正常な咬合平面まで達しないような咬

合。

2) 咬頭嵌合位が適正な咬合高径よりも低い位置にある咬合状態。

669 ディギャッシング

degassing

メタルボンクラウンの製作の際、陶材を築盛する前に金属面の酸化膜形成、異物除去、鑄造歪みの解放、水素ガスの除去などの目的で行う熱処理。

670 T字クラスプ→「エルプレヒトクラスプ」参照

671 ディスクレーション→「白歯離開咬合」参照

672 ティッシュコンディショナー

tissue conditioner

義歯床粘膜面に使用され、異常な形態、性状を呈する義歯床下粘膜を健康な状態に回復させるために用いられる材料。

673 ティッシュストップ

tissue stop

鉤脚やフレームワークの維持格子などの後方部分に設置され模型粘膜面と接する小突起。製作した支台装置やフレームワークを模型に復位させることを容易にし、レジン填入時にそれらの位置の移動を防止する。

674 ティナージョイント

tinner's joint

箔や板金の端を折り曲げ、この部分を嵌合させて作る接合。ポーセレンジャケットクラウン製作時のマトリックス箔接合部などに用いる。

675 デイヴィスクラウン

Davis crown

Davis, W. C. (1911) が提案したポストクラウン。基底部に維持孔を有するデイヴィス陶歯をポストにセメント合着して製作する。原法では陶歯が歯の根面と接

する構造であったが、後に鑄造法が採用されて適合が向上した。歯冠部のほとんどの部分が陶材のため審美性に優れる。

676 テーパー

taper

〔同義語〕軸面傾斜角

対向する軸面のなす角度。歯冠補綴装置の基本的な保持力はテーパーが平行に近いほど大きい。臨床的には形成操作や適合性およびセメント合着などの観点から、長軸に対して 2° ~ 5° が推奨されている。

677 適合試験 てきごうしけん

fitness test

静的あるいは動的な状態下での補綴装置と口腔内諸組織との適合状態を診査すること。適合状態は、通常、白色のシリコーンゴムやペーストなどの適合試験材 (fitness test material) の被膜厚さにより判断される。

678 デュシャンジュの指数 —しすう

Duchange's index

ブリッジの設計において、抵抗性の良否の判定を目的として Duchange (1948) により提唱された係数。各歯の歯根表面積をもとに、各歯の咬合圧に対する支台歯の抵抗 (R : resistance) とポンティックの疲労 (F : fatigue) を係数化したものであり、これを用いてブリッジの咬合圧に対する抵抗性を算出する。なお、延長ブリッジでは補足疲労 (FS : fatigue supplement) を考慮している。

→「補足疲労」参照

679 テレスコープクラウン

telescopic crown

外冠と内冠とに分離できる構造をもつ二重の金属冠。両者の緊密な適合から生じる摩擦力あるいはくさび効果を利用し

て、部分床義歯や可撤性ブリッジなどの支台装置として応用される。その種類には内冠軸面が平行なパラレルテレスコープクラウンまたはシリンダーテレスコープクラウンと、咬合面に向かって円錐形に一定の傾斜角をもつコーヌステレスコープクラウンとがある。

680 デンタルインプラント→「口腔インプラント」参照

681 テンチの間隙 —かんげき

Tench's space

全部床義歯の白歯部人工歯排列法として、上顎法を用いる場合に、上顎の犬歯と第一小白歯の間に設ける 1.0 mm 前後の間隙。咬合構成時の 1 歯対 2 歯の関係の排列、上下顎顎堤の矢状対向関係による調節湾曲などの調整を容易にする目的で作られる。Tench (1925) により提唱された。

682 テンチのコア

Tench's core

〔同義語〕 テンチの歯型

重合後の義歯を正しく咬合器に再装着するために、埋没、重合前に採得される上顎人工歯列切縁・咬合面部の石膏による陰型。

683 テンチの歯型→「テンチのコア」参照

684 デンチャースペース

denture space

天然歯の喪失によって口腔内に生じた上下顎の顎堤間の空間。上部は上顎顎堤、硬口蓋、軟口蓋、下部は下顎顎堤、口腔底、内側部は舌、外側部は口唇および頬部の筋によって取り囲まれている。

685 デンチャーブラーク

denture plague

義歯表面に付着するブラーク。天然歯

に付着するブラークに比べて、真菌、特に *Candida albicans* の占める割合が大きい。口臭、残存歯のう（齲）蝕、歯周病、義歯性口内炎などの原因となる。要介護者や高齢者では、睡眠中に不顕性の誤嚥をたびたび起こし、唾液とともに口腔内の細菌も同時に誤嚥するため、誤嚥性肺炎を起こしやすい。口腔内の細菌を減少させ、口腔の疾病予防、健康の保持増進のためには口腔ケアが大切である。

686 転覆試験 てんぷくしけん

tilting test

咬合採得時やろう（𪗇）義歯最適時に咬頭嵌合位で咬合せた状態で、上下顎の咬合堤やろう（𪗇）義歯人工歯咬合面の間にスパチュラなどを挿入して床の動揺程度を観察して、顎間関係の設定の適否を判定する方法。

687 テンプレート

template

- 1) 補綴装置製作時に、咬合平面や咬合湾曲を設定するための定規となる平面板、あるいは曲面板。
- 2) 即時義歯装着時に、抜歯後の顎堤形態と製作されている義歯の粘膜面形態との適合性を確認するために用いられる透明なプレート。欠損部を予測して形成した作業用模型上で製作し、抜歯後にこれを用いて、加圧部を整形する。

688 テンボラリークラウン→「プロビジョナルクラウン」参照

と

689 瞳孔線 どうこうせん

pupillary line

顔面を正面からみて、遠方を直視した時の左右瞳孔の中点を結んだ直線。咬合

平面と平行であるため、義歯製作時の仮想咬合平面をこれと平行に設定する。

690 等高点 とうこうてん

isometric point

〔同義語〕トライポッド

サバイヤー上であらかじめ設定した模型の3次元的な位置関係を再現するために、アナライジングロッドに垂直な一平面内で模型に記入された記号や線、通常3標点を描記する。

691 陶材築盛法 とうざいちくせいほう

porcelain build up

陶材粉末と蒸留水を細い筆やスパチュラを用いてガラス練板上で混和し、所定の形態に築盛する方法。コンデンスを加え、振動により過剰の水分を表面に浮き上がらせ、陶材粉末粒子を緊密に密着させ陶材を固めながら行う。

コンデンス法には、彫刻刀の柄のギザギザで軽い振動を与える振動法、乾燥した陶材粉末をかけ、水を吸収してから、この粉末を筆で払い落とすブラッシュ法、築盛が終わったクラウンにさらに水を加え、ガーゼまたはティッシュペーパーで吸水する沈殿法、陶材の表面をスパチュラや彫刻刀の刃で圧迫しながら滑沢にするスパチュラ法、陶材表面を筆などで水分が表面に浮き上がるのでこれを吸水して粒子を圧縮するウィップ法などがある。

692 陶材焼付鑄造冠 → 「メタルボンドクラウン」参照

693 陶歯 とうし

porcelain tooth

陶材で作られた人工歯。長所としては、色調・透明度とも天然歯に類似していること、耐磨耗性が高く長期間使用しても摩耗や咬耗がほとんど起こらないこと、

色調が変わらないこと、などがあげられる。欠点としては、削合や調整がやや困難であること、削合量が多くなると破折しやすくなること、床用材料との結合には工夫を要すること、咀嚼時に咬合音を発すること、などがある。

694 陶歯前装鑄造冠 とうしぜんそうちゅうそうかん

porcelain-faced cast crown

審美性の改善を目的として鑄造冠の唇・頬側部にシェル状の陶歯をセメント合着したクラウン、メタルボンドクラウンの普及によりほとんど使用されなくなった。

695 疼痛誘発テスト とうつうゆうはつ

symptom provoking test

一般的には咬頭干渉部位やブラキシズムによってできたと思われる咬耗面などでか(噛)みしめを行わせ、疼痛誘発の有無を調べる検査。割り箸などを片側後方臼歯でか(噛)ませ、対側または同側の顎関節に疼痛を誘発するか、あるいは咬頭嵌合位でのか(噛)みしめ時に比べて軽減するかを調べる検査も含まれる。

696 頭部後屈法 → 「頭部後傾法」参照

697 頭部後傾法 とうぶこうけいほう

head tilt method [of vertical relation]

〔同義語〕頭部後屈法

すでに垂直的顎間関係の設定された上下顎咬合床を装着させた状態で、頭部を後方に軽く傾けて下顎の前方偏位を制御しながら閉口させ、そのときの接触位を人工歯の咬頭嵌合位とする咬合採得法の1つ。

698 DUMLの法則 どうむる — ほうそく DUML rule

前方滑走運動時における干渉の削除部位を示す法則。上顎臼歯では咬頭の遠心斜面 (Distal of the Upper) を、下顎臼歯では咬頭の近心斜面 (Mesial of the Lower) を削除する。

699 動揺度検査【歯の】 どうようどけんさ [は—]

tooth mobility test

歯の動揺度を測定し、歯周組織の粘弾性的性質の変化や形態的变化を類推し、歯の骨植状態を診断する検査。ピンセットや手指で歯の動揺の程度を触知する方法や歪み計による定量的な変位量の測定や、強制荷重をあたえて加速度計による周波数分析や音圧などから測定する方法がある。補綴装置の支台歯としての適否の指標に用いられる。

700 トップダウントリートメント

top down treatment

〔同義語〕補綴主導型インプラント治療

インプラント治療において、最初に目標とする最終補綴装置の形態 (最終ゴール) を定め、想定した最終補綴装置が得られるように、インプラント (フィクスチャー) の埋入位置や方向ならびに埋入本数を決めてから、インプラント埋入手術や骨造成術などを行い、インプラント補綴に移行していく治療方法。理想的な補綴上部構造を得るための治療計画を立てた後に、インプラント治療を遂行していくことから、補綴主導型インプラント治療 (restoration driven implant treatment) ともいう。

701 トライポッド→「等高点」参照

702 トランスファーコーピング

transfer coping

歯列印象内に歯型を正確に位置づけることを目的として用いられる常温重合レ

ジンあるいは金属で製作されるキャップ。

703 取り込み印象→「ピックアップ印象」参照

704 ドルダーパー

Dolder U-Bar

U字形のバーとバーの全体を被覆するサドルから構成されているバーアタッチメント。維持力はバーとサドル間の金属摩擦で発揮される。新型ではサドル上部にレジン床との保持装置が設置された。

705 ドンダースの空隙 —くうげき

space of Donders

下顎の安静時に舌背上部と硬・軟口蓋との間に見られる空隙。Donders (1875) によって補綴装置の形態との関係などその臨床的重要性が指摘された。

706 遁路 とんろ

spillway

- 1) 咬合面で粉碎された食物の排出路となる咬合面間の隙間。
- 2) 補綴装置合着時の浮き上がり防止のために付与される合着材の排出路。
- 3) レジン填入の際、余剰レジンを排出するために付与する溝。

な

707 内冠 ないかん

coping, inner cap, inner crown

テレスコープクラウンの一部であり、支台歯に装着される金属冠。外冠との接触面に生じる摩擦力は可撤性義歯の維持力として働く。

708 内斜線 ないしゃせん

internal oblique line

下顎骨筋突起前縁から下方へ走り、臼後三角の舌側を通り、顎舌骨筋線へ移行する骨の隆線。なお、顎舌骨筋の付着し

ていない部分に限定して用いられる場合や顎舌骨筋線と同義として用いられる場合もある。臨床的には、外斜線とともに、臼歯部義歯床縁部の位置を設定する場合の目安として用いられる。

709 ナイトガード

night guard

ブラキシズムによる歯周組織への障害を防止する目的で、主に就寝時に装着する歯の切端および咬合面全体を被覆するオクルーザルスプリント様の装置。本装置の装着により上下顎の歯が直接接触することを防止できる。そのため、補綴装置の保護の目的で使用されることもある。

710 ナイフエッジ型 —がた

knife edge type

ショルダーレス型のうちナイフの刃状に形成された支台歯歯頸部辺縁形態とそれに対応する修復物辺縁形態。辺縁部は、フェザーエッジ型に比べて厚い。

711 ナソロジー

gnathology

1920年代に McCollum と Stallard らによって創唱された顎口腔系のメカニズムを解剖学、生理学、病理学などを通して総合的に研究する学問。診断、治療、オーラルリハビリテーションの術式なども含まれる。

に

712 ニアゾーン

near zone

歯の欠損側に隣接した支台歯の欠損側半分領域。この部分のアンダーカットの様相をクラスプの設計の指標とするもの。Blatterfein (1951) によって提唱され

た。

→「ファーズーン」参照

713 二次固定 にじこてい

secondary splinting

可撤性補綴装置を介して支台歯相互の連結固定効果を発現させる方法。

714 二重同時印象 にじゅうどうじいんしょう

double mix impression

〔同義語〕積層一回印象

流動性の異なる同種のラバー印象材を同時に練和して採得する連合印象。代表的なものとしてはシリコンラバー印象材のパテとライトボディタイプあるいはレギュラーボディタイプによる印象がある。

715 二重埋没法 にじゅうまいぼつほう

double investing method

1) ワックスパターン埋没法の1つで、ワックスパターン周囲に筆で泥状の埋没材を塗布し、その上から埋没材粉末をふりかける操作を数回繰り返して球状に硬化させ、残りを同種または異種の埋没材で二次的に埋没する方法。この方法は大きな硬化膨張を期待できる。

2) ろう(蠟)義歯埋没法の1つで、重合後の取り出しを容易にするために、フラスク上部に石膏を注ぐ際に、人工歯部の石膏の硬化後に、残りの部分に石膏を注入する方法。

716 二面形成 にめんけいせい

tooth preparation in two planes

支台歯の唇側、頬側の軸面形成において、上部(切縁側・咬合面側)と下部(歯頸部側)が異なる2面をなすように形成すること。下部は維持力に、上部は構造的強度と審美性に影響する。

717 ニュートラルゾーン**neutral zone**

無歯顎の口腔内において、口腔の諸機能時に頬、唇による内方への圧と舌による外方への圧とによって全部床義歯に加わる荷重が均衡化されると想定される領域。

718 二腕鉤 にわんこう**two-arm clasp**

〔同義語〕 両翼鉤

2つの鉤腕からなる環状鉤。通常、臼歯部に用いられ、3面4隅角を取り囲む。

ね

719 ネイシェイズ**Ney-Chayes**

歯冠内アタッチメントの原点とも言える Chayes attachment を Ney 社が改良を加えたもの。メール部分の T 字形の溝がフィメールの全長にある。

720 ネイのクラスプ**Ney clasp**

Ney 社によって開発された Ney Surveyor System の中で紹介され、金合金 (NEY-ORO G-3 casting gold) を用いることを前提として設計された鑄造鉤。

レスト付き二腕鉤 (#1 clasp), T 型分割腕鉤 (#2 clasp), コンビネーションクラスプ (#1-#2 combination clasp), バックアクションクラスプ (back action clasp), リバースバックアクションクラスプ (reverse back action clasp), リングクラスプ (ring clasp) の6種からなる。

721 粘膜支持→「粘膜負担」参照**722 粘膜支持義歯**→「粘膜負担義歯」参照**723 粘膜負担** ねんまくふたん**tissue borne**

〔同義語〕 粘膜支持

機能時に補綴装置に加わる力の大部分あるいは全部を顎堤粘膜が負担するという概念。

724 粘膜負担義歯 ねんまくふたんぎし**tissue borne denture**

〔同義語〕 粘膜支持義歯

機能時に発現する力を顎堤粘膜が負担する義歯。無歯顎症例、少数残存歯症例に対する有床義歯やレストの設置されていない暫間義歯などがこれに相当する。

の

725 ノンパラレルピンテクニック**non parallel pin technique**

補綴装置を健康象牙質へねじ止める方法。ピンの方向が平行である必要がないため維持力は強大である。前歯部では舌面から水平方向にホリゾンタルピンを、臼歯部では咬合面へ垂直方向にパーティカルピンを使用する。

は

726 バー**bar**

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する棒状の金属部分。臨床的目的として、幅が8mm以下のものとされる。その適用部位によりパラタルバー (palatal bar), リンガルバー (lingual bar), 外側バー (external bar) に分類され、また、製造法に基づいて、鑄造バー (cast bar), 屈曲バー (wrought bar) とにも分類される。

727 バーアタッチメント**bar attachment**

離れた支台歯を連結固定するバーとこれを把持するための義歯側に設置されるスリーブからなる。緩圧型（可動性）のバージョイントタイプ（bar joint type）と非緩圧型（固定性）のバーユニットタイプ（bar unit type）がある。アッカーマンバーアンドクリップタイプアタッチメント、ドルダーバー、ハーダーバーアタッチメントなどがある。

728 バー義歯 — ぎし**bar denture**

- 1) 大連結子としてバーを応用した部分床義歯。
- 2) バーアタッチメントを維持・支持に用いたオーバーデンチャーの1つ。

729 バークラスプ**bar clasp**

支台歯に近接する義歯床縁または連結子から起こり、歯槽部を支台歯に向かって横走するバー状の鉤腕をもつクラスプの総称。鉤腕は支台歯の頬面または舌面に向かって湾曲し、鉤尖が支台歯のアンダーカット域に適合する。鉤腕の歯面と接する部分の形態により、Iバークラスプ、Tバークラスプなどがある。

730 ハーダーバーアタッチメント**Hader Plastic rider**

プラスチック製のパー、スペーサ、サドルから構成されるバーアタッチメント。パーは加熱して欠損部形態に適合するよう形態の修正が可能で鋳造して金属に置き換える。義歯完成後にプラスチックサドルを挿入する。維持力の調節は不可であるが維持力が低下した場合は簡単にサドルの交換が可能である。

731 ハーフアンドハーフクラスプ**half and half clasp**

環状鉤の1つで、支台歯の近遠心側にそれぞれ独立した体部とレストを有し、一方は頬側を他方は舌側を走行する鉤腕をもつクラスプ。孤立歯が適応症とされる。

732 ハーフクラウン**half crown**

前歯あるいは臼歯を問わず、歯面のほぼ1/2を覆うクラウンの総称。

733 バイトゲージ**bite gauge**

咬合高径の決定に用いられ、顔面の計測基準点間距離を計測する装置の総称。Willisのバイトゲージ、坪根式バイトゲージ（坪根政治）などがある。

734 バイトスプリント→「オクルーザルスプリント」参照**735** バイトトレイ**bite tray**

上下顎の歯列および顎堤の印象と咬合採得とを同時に行う咬合印象用の既製トレイ。

736 ハウジング**housing**

- 1) ボックス型顎路を備えた咬合器において、関節部に付いている箱形の顎路指導機構。この中に顎頭球（コンダイル）が収まる。フォッサ・ボックスとも呼ばれる。
- 2) 一部のアタッチメントにおけるフィメール部の別称。磁性アタッチメントでは磁石構造体の収納部分を指す。

737 パウンドライン**Pound's line**

〔同義語〕 犬歯臼後隆起線

下顎犬歯近心隅角とレストモラーパツ

下の舌側面とを結んだ想像上の直線、下顎全部床義歯の白歯部人工歯を排列する目安となる。下顎全部床義歯で白歯部人工歯の舌側咬頭がバウンドラインよりも舌側に排列されると、舌房が狭くなり、舌感不良や義歯不安定などの不快事項が生じやすくなる。

738 バサバント隆起 —りゅうき

Passavant's pad, Passavant's ridge

嚥下や発声時に咽頭後壁に認められる水平の隆起。上咽頭収縮筋あるいは口蓋咽頭筋からなる輪状筋の収縮によって形成される。鼻咽腔閉鎖不全を呈する症例に見られることが多いが、その存在や形状には個人差が大きい。一時はスピーチエイドのバルブの高さの基準とされたが、最近では、鼻咽腔閉鎖運動時の最狭窄部は、そのやや上方であるとされている。

739 鋏状咬合 はさみじょうこうごう

scissors bite

すべての上顎白歯の舌側咬頭が下顎白歯の頬側に鋏状に接触し、上下顎の白歯が正常に咬頭嵌合しない咬合。

740 把持 はじ

bracing

補綴装置に加わる側方力に抵抗する作用。

741 把持腕 → 「拮抗腕」参照

742 発音間隙 → 「発音空隙」参照

743 発音空隙 はつおんくうげき

speaking space

〔同義語〕 発音間隙

発音時の上下顎歯列の咬合面間に生じる空隙。[s] 発音時にはこの空隙が最小となり（最小発音空隙，closest speaking space）、全部床義歯の咬合高径を決定す

る際の基準の1つとして用いられる。

744 発音試験 はつおんしけん

phonetic test

義歯の製作過程、あるいは装着時に、人工歯の排列位置や義歯床形態が患者の構音機能に調和しているか否かを検査する方法、パラトグラムなどが用いられる。

745 発音利用法 はつおんりようほう

phonetic method of measuring occlusal vertical dimension

- 1) 咬合採得において特定音を発音したときの顎位を利用して咬合高径を決定する方法。
- 2) 人工歯の排列位置の決定やろう（蝸）義歯の歯肉形成などに際して、口唇や舌の構音動作を利用する方法。

746 バックアクションクラスプ

back action clasp

舌側面に鉤体部をおき、鉤腕がそこから欠損側隣接面、辺縁隆線部を通り、頬側面のファーゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおくクラスプ。

747 発語障害 → 「構音障害」参照

748 バットジョイント

butt joint

2つの構造物の互いの端と端とを重ねることなく接合することにより形成される継ぎ目。歯冠補綴装置では、支台歯に形成されたショルダー部とそこに装着された修復物で形成される継ぎ目。また、金属床義歯においては金属部とレジン部との接合部。

749 馬蹄形バー ばていけい—

horseshoe bar

上顎に応用されるU字形をしたパラタルバー。口蓋前方から後方に向かって馬蹄型をなして走行する。白歯部の両側遊離端欠損症例などで口蓋隆起を避ける目

的で用いられる。

750 ハミュラーノッチ

hamular notch

上顎結節と蝶形骨翼状突起内側板の翼突鉤の結合部に形成された切痕。上顎結節の後方で上顎義歯床の後縁設定の目安となる。

751 パラタルストラップ

palatal strap

上顎に用いられる大連結子の1つで、パラタルバーを薄く、やや幅を広くした帯状の金属装置。パラタルバーと比べて異物感ならびに構音障害の減少、支持機能の向上を期待して用いられる。

752 パラタルバー

palatal bar

口蓋を走行するバータイプの大連結子。口蓋を左右方向に走行するものは前後の設置位置により前パラタルバー (anterior palatal bar)、中パラタルバー (middle palatal bar)、後パラタルバー (posterior palatal bar) に分類される。また、口蓋を前後方向に走行するものは口蓋の側方に設置される側方パラタルバー (lateral palatal bar) と口蓋正中部に設置される正中パラタルバー (median palatal bar) に分類される。

753 パラタルプレート

palatal plate

上顎に用いられる大連結子の1つで、口蓋を広範囲に被覆したもの。パラタルバーに比較して異物感が少なく、粘膜負担要素が多くなる。

754 パラタルランプ→「オクルーザランプ」参照

755 パラトグラム

palatogram

発音時に舌が口蓋に接触する範囲を示す図。同一の言語音ではほぼ一定の形と

なることから口蓋における調音点を知る方法。すなわち、義歯の適切な口蓋形態の確認に用いられる。口蓋に墨や粉末を塗布して行う静的パラトグラムと電極を利用するダイナミックパラトグラムとがある。

756 パラレルピンテクニック

parallel pin technique

ブリッジや連結装置の維持を平行な複数のピン (パラレルピン) とピンホールとの嵌合により求める方法。ピンホールを平行に形成するには市販の平行形成器や自作のツールを利用する。

757 バランシングランプ [義歯の]

[ぎしー]

balancing ramp [of denture]

全部床義歯における非解剖学的人工歯の排列に際して、下顎第二大臼歯、あるいは下顎最後臼歯の後部に形成された斜面。前方および側方運動時に咬合の平衡を保つために、上顎の最後臼歯咬合面の遠心端部を接触・滑走させるような形態とする。前歯部と両側のバランシングランプで咬合平衡を図る咬合様式をスリーポイントバランスという。Sears (1952) により提唱された。

758 バルクウィル角

Balkwill angle

咬合平面とボンウィル三角とのなす角。

759 板 (鋳) 鉤

band clasp

20K 金属板を適当な大きさに切ってサベイラインに沿って屈曲した板状のクラスプ。線鉤に比べて摩擦力が大きいが審美性に劣り、現在は使われていない。

760 半固定性ブリッジ

はんこていせい
—
fixed bridge with rigid and nonrigid

connectors, movable fixed bridge, semifixed bridge

支台装置とボンティックとの連結部の一方が可動性に連結されたブリッジ。

761 半固定性補綴装置 はんこていせいほてつそうち

semifixed prosthesis

〔同義語〕可動性補綴装置, 可動性補綴物, 半固定性補綴物

補綴装置のうち, 長大なブリッジや支台歯の平行性のないブリッジなどで, その一部に可動性の連結機構を含んだ装置。

762 半固定性補綴物→「半固定性補綴装置」参照

763 半固定性連結 はんこていせいれんけつ

nonrigid connection, semifixed connection

ブリッジの連結部の一部を固定性にし, 一部にキーアンドキーウェイなどのアタッチメント類を用いて, 連結装置の一部に可動性をもたせた連結。支台歯の平行性の確保が困難な場合に適用されることが多い。

764 半自浄型ボンティック はんじじょうがたー

semihygienic pontic

自浄性, 清掃性に基づくボンティック形態の1つ。基底面の一部が顎堤粘膜に接触した後, 徐々に粘膜から離れていく形態で, 完全自浄型に比べれば自浄性・清掃性にやや劣るが, 審美性・発音機能は優れる。偏側型, リッジラップ型, 楕円型, 船底型などがこれに相当する。

765 反対咬合 はんたいこうごう

reverse articulation

咬頭嵌合位において, 連続する3歯以

上の被蓋関係が唇舌・頬舌的に正常とは逆である不正咬合。歯の位置異常によるもの(歯性), 顎位の異常によるもの(機能性), 顎骨の形態に基づくもの(骨格性)などがある。前歯部のもは, 下顎前突あるいは下顎近心咬合となり, 臼歯部のみに発現したものは交叉咬合とも呼ばれる。ただし, いずれにおいても, 1, 2歯の場合には単なる転位として扱われる。

766 半調節性咬合器 はんちようせつせいこうごうき

semiadjustable articulator

調節性咬合器のうち, 矢状顎路と平衡側の側方顎路の調節機構を備え, 通常, それぞれの顎路を直線的に再現する咬合器。Hanau H2, Whip-Mix, Dentatus 咬合器などが有名。

767 パントグラフ

pantograph

下顎限界運動を3軸6面に3次的に記録する口外描記方式の下顎運動解析装置。その形態の特徴から, 縮図器(パントグラフ)の名称がつけられた。この記録機構は, 歯の接触を避けるために一点接触のクラッチにより咬合せせ, それに接続された上顎フレームと下顎フレームから構成され, そのフレーム上の左右下顎頭部にそれぞれ2組, 前方部に2組の描記針と描記板とを備えている。

Stuart (1955) と Denar (1970) のものが有名であり, それぞれ専用の全調節性咬合器とを組み合わせた臨床システムとなっている。生体の下顎運動を咬合器上に正確に再現し, 可及的に口腔機能に調和した補綴装置の咬合面形態を得ることを意図したものである。

768 パントグラフ法 ーほう

pantographic recordings

顎運動の記録法の1つで、パントグラフを用いて、下顎運動路を水平面および矢状面に記録する方法。通常この記録は全調節性咬合器の調節に用いられる。

ひ

769 被圧縮性 ひあつしゅくせい tissue displaceability

- 1) 軟組織が圧迫された場合に組織が示すたわみ。または、加圧に対して生ずる組織の沈み。
- 2) 粘膜が加圧により圧縮され、その厚さを減じる性質。

770 被圧変位 ひあつへんい tissue displacement

歯あるいは粘膜が加圧により変形、移動すること。

771 被圧変位量 ひあつへんいりょう amount of tissue displacement

一定時間で、単位面積当たり一定の荷重量を加えた場合の、歯あるいは顎堤粘膜の変位量。

772 ビーディング beading

上顎の口蓋部において、義歯床や大連結子の外形に沿って作業用模型の当該部分に溝を形成する操作。義歯床縁の封鎖や舌感の向上を目的とする。模型の削除量は粘膜の被圧変位量により調節する。

773 ヒーリングアバットメント healing abutment

2回法術式を用いるインプラント治療において、第2回手術で歯肉粘膜を切開して露出させた骨内のインプラント体（フィクスチャー）に連結し、インプラント周囲の歯肉粘膜が治癒するまでの期間、暫間的に装着しておく円筒形の金属、

チタンで成形されているものが多い。

774 鼻咽腔閉鎖機能検査 びいんくうへいさきのうけんさ

examination of velopharyngeal function

鼻咽腔閉鎖機能の診断を目的として行われる検査。咽頭部からの間接鏡検査、鼻腔からの直接ファイバースコープ検査、肺活量検査、鼻漏出気流計検査、ストローを用いたブローイングテスト、側方頭部エックス線規格写真の計測等がある。歯科補綴学分野では補綴装置の効果の判定、あるいは睡眠時無呼吸症候群の治療効果の評価・判定に用いられる。

775 被蓋 ひがい overlap

上顎歯列が下顎歯列をひさし状に覆っている状態。水平的な被蓋（オーバージェット）と垂直的な被蓋（オーバーバイト）とに分けられる。健康者の理想的な咬合では、咬頭嵌合位において上顎歯列が下顎歯列を水平的にも垂直的にも覆っており、前・臼歯部の被蓋の程度は偏心運動時のアンテリアガイダンスや臼歯離開咬合、さらに臼歯部の咬頭傾斜などと密接な関わりをもつ。

776 非解剖学的人工歯 ひかいぼうかくてきじんこうし

nonanatomic tooth

天然歯の形態を模倣せず、機能のみを重視した機械的形態の人工臼歯の総称。無咬頭人工歯、ブレード人工歯などが含まれる。

777 鼻下点 びかてん

subnasal point, subnasion

皮膚上の鼻中隔最前部と上唇の皮膚表面との交点。皮膚表面上の計測点で、咬合高径の決定時に標点の1つとして用

いられることが多い。

778 鼻下点・オトガイ間距離 びかてん・—かんきょり

distance between subnasal and gnathion

鼻下点からオトガイ部までの距離。瞳孔から口裂までの距離と等しいとして、咬合高径を決定する際の目安になる。

779 非緩圧型アタッチメント ひかかんあつがた—

rigid attachment

義歯に加わる機能圧を支台歯に直接伝達するアタッチメントの総称。義歯と支台歯を強固に連結するタイプである。

780 非緩圧型維持装置→「非緩圧型支台装置」参照

781 非緩圧型支台装置 ひかかんあつがたしだいそうち

rigid retainer

〔同義語〕非緩圧型維持装置

支台歯と義歯を強固に連結する構造と作用とをもつ支台装置。テレスコープクラウンや非緩圧型アタッチメントなどがある。

782 非機能咬頭 ひきのうこうとう

nonfunctional cusp

〔同義語〕剪断咬頭, shearing cusp

機能咬頭に対する用語で、咀嚼運動中に対合歯の咬合面窩にか(嚙)み込まない咬頭。

783 非作業側→「平衡側」参照

784 非作業側側方顎路→「平衡側側方顎路」参照

785 非自浄型ポンティック ひじじょうがた—

nonhygienic pontic

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。基底面全体が鞍状に顎堤粘

膜に接触している形態で、審美性・発音機能は最も優れるが、自浄性はまったく期待できない。鞍状型や有床型がこれに相当し、可撤性ブリッジの場合に適用される。

786 微笑線 びしょうせん

smiling line

微笑したときの下唇の湾曲線。上顎前歯人工歯を排列する際に切縁の湾曲位置の基準となる。

→「笑線」参照

787 鼻唇角 びしんかく

nasolabial angle

側貌の審美性に関与する鼻柱点、鼻下点および上唇点を結んでできる角度。義歯患者では人工歯の前後的位置・唇舌の傾斜や床翼の厚み・床縁の位置と形態に影響され、義歯によるリップサポートを回復する程度の評価に用いることができる。

788 鼻唇溝 びしんこう

nasolabial groove, nasolabial sulcus

鼻翼の外側縁から口角の外側縁に向かって走る顔の表面にある浅い溝。起始部が頬骨、停止部が口角部の口輪筋内にある頬骨筋が、笑った際などに口角を挙上してできる溝で、表情に応じてその形態は著しく変化する。無歯顎患者において上顎義歯による上唇の支持が無いと鼻唇溝は深くなるが、義歯に適正な豊度を付与して年齢に応じた自然な形態を回復する必要がある。

789 非咀嚼側 ひそしゃくそく

nonmasticatory side

上下顎歯列間に食物を挿入して咀嚼する側(咀嚼側)の反対側。平衡側に対応する用語として扱われることもあるが、

非咀嚼側は食物を咀嚼していない側として規定されるのに対し、下顎はその方向に運動して作業側となることもあるため同義語とはいえない。

790 ビックアップ印象 ーいんしょう pickup impression

〔同義語〕 コーピング印象, 取り込み印象

1) クラウンブリッジにおける歯型可撤式模型を製作するための印象採得法の1つで、歯型に適合するトランスファーコーピングを口腔内の支台歯に装着し、歯列全体の精密印象を採得する際に、トランスファーコーピングを印象内に取り込んでくる印象法。トランスファーコーピングを使用することから、コーピング印象 (coping impression) ともいう。

2) 部分床義歯の支台装置 (維持装置) をキャストオン法で製作するための印象採得法で、口腔内の支台歯にクラウンを試適し、義歯を製作するための精密印象を採得する際に、クラウンを印象内に取り込んでくる印象法。

3) 可撤性床義歯を修理するための印象採得法で、口腔内に義歯を装着した状態で印象採得を行い、義歯を印象内に取り込んでくる印象法。

4) インプラントの上部構造を製作するための印象採得法で、印象用コーピング (トランスファーコーピング) や上部構造の一部を、インプラント (フィクスチャー) やアバットメントに連結した状態で精密印象を採得し、印象内に印象用コーピングや上部構造の一部を取り込んでくる印象法。

791 HIP プレーン ひっぷーん Hamular-notch incisive papilla plane (HIP plane)

左右のハミュラーノッチと切歯乳頭中

央点を含む平面で、咬合平面に平行であるとされている。Cooperman (1975) により提唱された。

792 ビデオ嚙下造影 → 「嚙下造影検査」 参照

793 ビデオレントゲン検査 → 「嚙下造影検査」参照

794 被覆冠 ひふくかん

coverage crown, veneer crown

歯冠補綴装置のなかで、歯冠の全部あるいは一部を被覆することによって歯の形態・機能・審美性を回復する補綴装置の総称。全部被覆冠と部分被覆冠とがあり、材料としては、金属、陶材、レジンなどがある。

795 描記針 びょうきしん stylus

ゴシックアーチなどの描記法において描記板上に下顎運動路を描くための突起。口内法ゴシックアーチ描記装置では、これがセントラルベアリングスクリューを兼ねている。

796 描記板 びょうきばん tracing plate

ゴシックアーチなどの描記法において描記針によって下顎運動路が描かれる板。

797 標示線 ひょうじせん line of reference

前歯欠損症例における咬合採得の最終段階で、上下顎咬合堤の唇側面に記入される人工歯選択および排列の基準となる線。歯列の正中線、口角線、鼻幅線、上唇線および下唇線がある。

798 鼻翼幅 びよくふく nasal width

無歯顎患者の上顎前歯人工歯の幅径を決定する際に利用する鼻翼の幅径。鼻翼

の外側からの垂線（鼻幅線）が上顎犬歯尖頭を通るとされる。

799 ヒンジアキシスロケーター

hinge axis locator

左右の蝶番点を試行錯誤的に探索するための超軽量のフェイスボウ。クラッチに取り付けるアンテリアクロスバー (anterior cross-bar) と、指針を上下・前後に微動できるレジストレーションアーム (registration arm) から構成される。

Lauritzen (1961) によって考案された、米国アルモア社のものが有名である。

800 ヒンジ型アタッチメント — がた

hinge attachment

垂直遠心回転（蝶番運動）を許容し、ほかの運動を制限している歯冠外アタッチメントの1つ。義歯に加わる咬合圧は、主に遠心部において粘膜、近心部において歯根膜で負担する。

801 ヒンジボウ

hinge bow

左右側の蝶番点と前方基準点からなる基準平面に対する上顎歯列の位置関係を咬合器にトランスファーするためのフェイスボウ。Stuart がフェイスボウに調節機構を付与したのとして紹介した。

802 ピンテクニック

pin technique

補綴装置の主たる維持を金属ピンとピンホールとの嵌合に求める方法。歯質削除量が少ない利点があり、欠損歯の補綴や動揺歯の固定に応用される。複数のピンホールが平行なパラレルピンテクニックと非平行なノンパラレルピンテクニックとがある。

803 ピン陶歯 — とうし

pin porcelain tooth

〔同義語〕有釘陶歯

ピンによる維持機構を有する人工陶歯。有床義歯用とクラウンブリッジ用とがある。有床義歯用のものは、義歯床との機械的維持力を増すために、前歯では舌側面に、白歯では基底面にピンが設けられている。クラウンブリッジ用は、ピンの長さによってショートピン陶歯とロングピン陶歯に区別されるが、いずれも現在ほとんど使われていない。

804 ピンレッジ

pinledge

前歯舌面に形成した複数のピンホールに適合させた鑄造ピンに主たる維持を求めた部分被覆冠。ピンの基部に階段状のレッジ (ledge) とくぼみ状のニッチ (niche) を形成し、咬合力による変形に抵抗させる。歯質削除量が少ないため金属の露出がなく審美性に優れている。ブリッジの支台装置や動揺歯の固定装置に応用される。通常、有髄歯に適用される。

ふ

805 ファーゾーン

far zone

歯の欠損側に隣接した支台歯の非欠損側半分領域。Blatterfein (1951) によって提唱された。

→「ニアゾーン」参照

806 フィクスチャー

fixture

オッセオインテグレートッドインプラントにおいて顎骨内に埋入され、骨組織と結合を図る部分。スクリュータイプとシリンドータイプの一部の製品に用いられている用語であり、下部構造の総称ではない。

807 フィッシャー角 —かく**Fischer's angle**

矢状面に投影された前方運動の顎路と側方運動時の平衡側顎路とのなす角。

808 フィニッシュライン**finish line**

- 1) 支台歯形成面の辺縁。
- 2) 金属床義歯におけるレジンとフレームワークとの接合境界線。義歯床研磨面では外側フィニッシュライン (external finish line)、義歯床粘膜面では内側フィニッシュライン (internal finish line) と称する。物理的強度の確保や触感的、衛生的に支障のない円滑な移行面を形成するために、断面的にはステップ状に形成される。

809 フィメール**female**

雌雄組み合わせからなるアタッチメントの雌部分。メール部の突起形態を受容するような凹状形態を有する。歯冠内アタッチメントでは固定部に、また、歯冠外あるいは根面アタッチメントでは可撤部に設定される。

810 フェイスボウ**face-bow**

頭蓋あるいは顎関節に対する上顎歯列(人工歯列を含む)の3次元的位置関係を咬合器上で再現するために用いる器具。左右の後方基準点と前方基準点を示す3本のポインターと上顎歯列や咬合堤をフェイスボウに連結するためのバイトフォーク (bite fork) を組み込むためのフレームから構成される。Snow (1899) によって創案された。

811 フェイスボウトランスファー**face-bow transfer**

フェイスボウによって、2つの後方基

準点と1つの前方基準点からなる平面で位置づけられた上顎模型を咬合器に付着する一連の操作。これにより、生体の下顎頭の開閉軸と咬合器の開閉軸とが一致することになる。

812 フェザーエッジ型 —がた**feather-edge margine**

ショルダーレス型のうち最も菲薄に形成された支台歯歯頸部辺縁形態とそれに対応する修復物辺縁形態。辺縁部はナイフエッジ型よりもさらに薄く、精密鑄造加工にはあまり適さない。板金加工用(帯環金属冠用)に形成された支台歯辺縁形態に対応する伸展修復物の辺縁形態として用いられていた。

813 フェルール**ferrule**

失活歯の歯冠修復において、歯冠補綴装置が支台歯フィニッシュラインの歯冠側に存在する健康な歯質に適合し、残存歯質を抱え込む部分。フィニッシュラインの上に高さ約2mm以上の健康な残存歯質があると、その周囲をクラウンの装着によりリング状に把持し、歯根破折を防止する効果(フェルール効果、帯環効果)がある。

814 複印象 ふくいんしょう**duplicate impression**

変形や破損を避けたい作業用模型や補綴装置を正確に複製するための印象。

815 複合欠損 ふくごうけっそん**tooth-bounded and free-end missing**

歯列の部分欠損症例において、中間欠損と遊離端欠損が混在するもの。

816 副歯型式模型 ふくしけいしきもけい**working cast with individual die**

クラウンやブリッジを製作する場合に

用いられる作業用模型で、歯型と歯列模型との分離・結合様式から分類したものの1つ。副歯型 (individual die) と歯型固着式模型の両方を用いる模型。修復物の内面と辺縁は副歯型で、支台相互および隣接歯や対合歯との関係は固着式模型で調整するので正確なワックスアップや模型上での調整が可能である。

817 複製義歯 ふくせいぎし

duplicate denture

第一の義歯を複製した第二番目の義歯。通常、使用中の義歯などの既存の義歯を複製し、これを改造して治療用義歯や診断用義歯とすることが多い。

818 複製模型 ふくせいもけい

duplicate cast

作業用模型と同一模型を保存するためや、鑄造床などの製作過程で使用する耐火模型を製作するために、作業用模型を印象して複製した模型。

819 フック

hook

部分床義歯の安定を得る目的で支台歯間線を挟んで義歯床とは反対側の2本の切縁隅角部に設置される切縁レストのような補助支台装置の1つ。小連結子により義歯床または大連結子に結合され、単独では維持力を発揮しないが、義歯の動きに抵抗して義歯を安定させる点で間接支台装置でもある。義歯の沈下に伴ってフックが楔作用を発揮して歯間離開を起こすことがある。

820 不動粘膜 ふどうねんまく

attached mucous membrane

咀嚼・発音・嚥下などの機能時にも移動、変形しない粘膜。

821 船底型ボンティック ふなぞこがた

spheroid pontic

粘膜との接触関係に基づくボンティック基底面形態の1つ。基底面が楕円形で歯槽頂部の粘膜と点状に接触する形態。

822 部分義歯 ぶぶんぎし

partial denture

1) 残存歯またはインプラントを支台とする歯列の一部欠損に適用される義歯。支台歯に固着される固定性部分義歯 (fixed partial denture; 固定性ブリッジ) と任意に着脱できる可撤性部分義歯 (removable partial denture; 可撤性ブリッジ, 部分床義歯) とがある。

2) 部分床義歯と同義。

部分義歯の用語は定着しておらず、removable partial denture と partial denture とは歴史的にも長い間混同されてきたが、partial denture を有床義歯に限定した用語とするものは、本来誤用である。

823 部分床義歯 ぶぶんしょうぎし

removable partial denture

〔同義語〕 局部床義歯

歯列内の部分的な歯の喪失と、それに伴って生じた歯周組織や歯槽突起の実質欠損の補綴を目的として、残存歯またはインプラントを支台とする有床可撤方式の義歯。少数歯欠損から1歯残存に至るあらゆる欠損の症例に適用され、多様性に富む。

824 部分床義歯補綴学 ぶぶんしょうぎし

ほてつがく

removable partial prosthodontics

〔同義語〕 局部床義歯補綴学

歯科補綴学の一分科で、歯列内の部分的な歯の喪失、関連組織の実質欠損、また、それらによる異常を部分床義歯に

よって修復・整形し、損なわれた機能と外観を回復させるとともに、患者の健康の維持・増進を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

825 部分被覆冠 ふぶんひふくかん

partial coverage crown, partial veneer crown

歯冠補綴装置のなかで、歯冠の一部を人工物で被覆するもの。主にブリッジの支台装置として用いられるが、単冠や動揺歯の固定装置にも応用される。通常、有髄歯に適用され、代表的なものに、ピンレッジ、3/4冠、4/5冠、7/8冠、プロキシマルハーフクラウンがある。

826 ブラキシズム

bruxism

咀嚼筋群がなんらかの理由で異常に緊張し、咀嚼・嚥下・発音などの機能的な運動と関係なく、非機能的に上下顎の歯を無意識にこすり合わせたり（グライディング）、くいしばったり（クレンチング）、連続的にカチカチとか（嚙）み合わせる（タッピング）習癖。顎関節症の原因の1つとされている。

827 フラビーガム

flabby gum

顎堤に発現する可動性の大きい粘膜組織。歯槽骨の吸収と粘膜の肥厚および粘膜下組織の線維性増生が見られるが、不適切な義歯の長期使用による慢性的な機械的刺激が原因とされる。上顎前歯部が好発部位である。

828 フランクフルト平面 —へいめん

Frankfort horizontal plane

水平基準面の1つであり、左右側いずれかの眼点（orbitale；眼窩点ともいい、眼窩下縁最下点を指すが、側方頭部エックス線規格写真法などの骨組織上では、

両側眼窩の最下点の中央点を意味する）と両側の耳点（porion；耳珠上縁点を指すのが普通であるが、頭部エックス線規格写真法では、外耳孔の最上縁の点を指す）とを結んでできる平面。

フランクフルト（ドイツ）で開催された会議（1882）で採択された。なお、フランクフルト線（ドイツ水平線；左右側いずれかの眼窩点と耳珠上縁点を結ぶ線）と鼻聴道線（カンペル線；左右側いずれかの鼻翼下縁と耳珠上縁とを結ぶ線）とは約10°の角をなす。

829 フランス式埋没法 —しきまいほつほう

French flasking technique

人工歯、支台装置、連結子の全てをフラスク下部に固定するろう（鯛）義歯のフラスク埋没法。それらの義歯床粘膜面に対する浮き上りを防止するには有効であるが、流ろう（鯛）やレジン填入操作がやりにくいの欠点とされる。

830 ブリッジ

bridge

少数歯欠損に対し、残存歯またはインプラントを支台歯として連結補綴することにより、形態・機能・審美性を回復する歯根膜負担の義歯。支台装置、ポンティック、連結部とで構成される。支台装置とポンティックとの連結方法の違いにより、固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジに分類される。

831 BULLの法則 ぶる —ほうそく

BULL rule

下顎側方滑走運動時の作業側咬頭干渉を除去する部位を示す法則。支持咬頭の機能を維持するために、上顎臼歯では頰側咬頭内斜面（Buccal of the Upper）を、下顎臼歯では舌側咬頭内斜面（Lingual of

the Lower) を削合する。Schuyler (1935) によって提唱された。

832 フルバランスドオクルージョン
balanced articulation, bilateral
balanced occlusion, full balanced
occlusion (articulation)

側方滑走運動時および前方滑走運動時に、作業側の歯だけでなく、前歯も含めた平衡側の歯も円滑に接触滑走している咬合様式。全部床義歯に望ましい咬合様式の1つとされる。

833 ブレードインプラント
blade implant

顎骨内に固定される板状のブレード部、その上の軟組織を貫通するネック部、および口腔内に露出するアバットメントとしてのヘッド部から構成される口腔インプラント。

834 ブレード人工歯 — じんこうし
bladed artificial tooth

非解剖学的人工歯に属する咬合面に金属製の刃(ブレード)をつけた人工白歯。機能面、特に咀嚼能率と義歯の安定性を追及した機械的人工歯で、咬合接触面積を減少させるために、ブレードが対合人工歯に設置した金属テーブルに接するように製作される。

Sosinのブレードメタル白歯やLevinのメタルインサーテッドティースなどがある。

835 フレームワーク
framework

- 1) 前装冠において、前装材を保持する金属の骨格部分。メタルコーピングと同義。
- 2) 金属床義歯において、支台装置、連結子、維持格子からなる金属の骨格部分。これらは通常、一塊铸造される。義歯全

体の強度と適合性が高まり、体積も小さく、異物感も少なくなる利点がある。

836 フレンジテクニク
flange technique

LottとLevin(1964)により提唱され、義歯の維持・安定を得るため、義歯床翼部(フレンジ)の形態を周囲筋の生理的な運動により形成印象し、人工歯列弓と義歯床研磨面の形態を決定する方法。

837 プロキシマルハーフクラウン
proximal half crown

白歯歯冠の隣接側のほぼ1/2を覆い、咬合面中心溝の部分では反対側の小窩を含む鳩尾形窩洞が設計された部分被覆冠の1つ。主にブリッジの支台装置として、通常下顎有髄大白歯に用いられ、近心傾斜歯や遠心部の萌出が不十分な歯などに適用される。

838 ブロックアウト
block out

ワックスや石膏などを用いて模型上のアンダーカットを塞ぐ操作。

839 プロビジョナルクラウン
provisional crown

〔同義語〕 暫間被覆冠、テンポラリークラウン

プロビジョナルレストレーションの中で製作される単独冠。ブリッジとして製作される場合は、プロビジョナルブリッジという。

840 プロビジョナルレストレーション
provisional restoration

歯冠補綴装置の製作に際し、形成された支台歯を暫間的に被覆するクラウンやブリッジ。診断や治療方針の確認、支台歯の保護、歯周環境の改善、咬合の保持、審美性の回復を目的とする。

841 分割印象 ぶんかついんしょう**sectional impression**

単一の印象が不可能、あるいは望ましくない場合に適用され、複数の部分から構成される印象。歴史的には石膏やモデリングコンパウンドなどの非弾性印象材を用いる場合には不可避な方法でもあったが、現在では特殊印象法の1つである。この場合用いる印象用トレーを分割トレーと呼ぶが、一般的にはそれぞれのトレーに異なる印象材を用い、撤去後、口腔外でそれらを組み合わせて一塊の印象とする。

フラビーガムと正常な顎堤部など、被圧変位量の異なる部分の印象圧を適切にコントロールすることを目的とする場合と、一塊の印象を口腔外に撤去することが不可能な症例に用いる場合がある。後者では、義歯自体も分割義歯となることが多いが、顎義歯で頻用される。

842 分割可撤式模型→「分割復位式模型」

参照

843 分割義歯 ぶんかつぎし**sectional denture**

複数の部分に別れ、口腔内でそれらを組み合わせて利用される義歯。小口症、開口障害などのために、通常の補綴装置の着脱が物理的に困難な場合に分割構造としたものや、欠損部の顎堤の吸収が高度な症例に適用されたブリッジの複雑な形態のポンティック部を可撤式構造としたもの、維持のため、アンダーカットを積極的に利用する場合などに利用される。

844 分割コア ぶんかつー**interlocking core**

平行でない複数の根管を利用する場合、複数部分に分割して製作する築造体。

845 分割式模型→「分割復位式模型」参照**846 分割歯型式模型**→「分割復位式模型」参照**847 分割トレー** ぶんかつー**sectional impression tray**

分割印象に用いる特殊なトレー。石膏印象用には既製トレーも存在したが、現在分割トレーと呼ばれるものは基本的にすべて個人トレーである。通常は2分割であるが、通常のトレー材料で製作されたトレー本体と、それらを連結するジグ部分とから構成される。ただし、概形印象には既製の局部トレーを組み合わせて利用することもある。

848 分割復位式模型 ぶんかつふくいしきもけい**working cast with divided die**

〔同義語〕分割可撤式模型、分割式模型、分割歯型式模型

クラウンやブリッジを製作する場合に用いられる作業用模型で、歯型と歯列模型の分離・結合様式から分類した可撤式模型の1つ。歯列模型から分割歯型 (divided die) の部分を分割して、着脱可能にした方法。

849 分割腕鉤 ぶんかつわんこう**divided arm clasp**

Ney社から発表された鑄造鉤の1つ。レスト付き二腕鉤の2本の鉤腕とレストがそれぞれ独立し、脚部に連結している形態で、支台歯の咬合面、頬・舌側面に設定されるクラスプ。一腕のみが分割されるものと、二腕とも分割されるものがある。義歯の沈下および上方への脱離に対しては抵抗するが、横揺れに対する抵抗は期待できない。



850 ヘアピンクラスプ

hairpin clasp

欠損側に体部をおき、頬・舌側面の鉤腕を中央部付近で方向を反転させてニアゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおいたヘアピン状のクラスプ。Roach により提唱された。

851 平均値咬合器

average value articulator

顎路角（傾斜）、切歯路角（傾斜）、バルクウィル角、顎頭間距離などの顎運動の各要素を解剖学的平均値に固定した咬合器。

852 平均的顎頭点

arbitrary hinge position

平均的な下顎頭の位置に基づいて皮膚上に設定される顎頭点。フェイスボウトランスファー時の後方基準点として利用される。その具体的な位置に関しては、Gysi による耳珠上縁と外眼角を結ぶ線上で外耳道の前方 13 mm の点、Lundeen によるその下方 3 mm の点、Hanau によるフランクフルト平面上で外耳道の前方 12 mm の点、など諸説がある。

853 平行形成器

parallelometer

ブリッジやピンレッジの支台歯形成において、口腔内でそれらの平行関係を機械的に規制して、形成操作を容易とする器具。支台歯以外の天然歯に固定源を求め、それに切削器具を連結して、平行運動だけを可能とする機構のものが主であるが、タービンヘッドの先端に装着して、タービンバーの方向を視覚的に判定する

だけの簡便な機構のものもある。

854 平衡咬合

balanced articulation (occlusion)

中心位（中心咬合位）および偏心位において、力学的に安定した状態にある咬合状態。天然歯列について用いられることもあるが、本来は義歯の咬合を記述する用語であり、片側性平衡咬合と両側性平衡咬合とがある。

855 平衡咬合小面

balancing occlusal facet

Gysi の軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランスドオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の 1 つ。平衡側への側方滑走運動時に接触する面であり、下顎臼歯では頬側咬頭内斜面、上顎臼歯では舌側咬頭内斜面に発現する。

856 閉口障害

difficulty in closing mouth

閉口動作において咬頭嵌合位あるいは本来の閉口位に閉口できない状態。外傷などによって顎関節部に炎症が生じ、疼痛や炎症性の浮腫などのために閉口が困難である場合や、顎関節の脱臼や亜脱臼によって閉口が困難となる場合などがある。関節円板の後方転位が下顎頭の後方移動を妨げる一時的な閉口障害をオープンロック（open lock）というが、亜脱臼との区別は明確ではない。

857 平行切削器

parallelometer

ミリングによって、テレスコープクラウンやバーなどの自家製アタッチメントを製作するために用いる精密な技工用切削器。サベイヤー部、模型固定台、切削用回転部、動力部などから構成されてい

る。コーヌスクローネ製作用の HUG パラレロメーターを始め、数種類の製品がある。

858 平衡接触 へいこうせつしよく

balancing occlusal contact

対合する歯の均等な咬合接触。

859 平衡側 へいこうそく

balancing side, nonworking side

〔同義語〕非作業側

咀嚼運動時または側方滑走運動時における下顎の外側方への移動側の反対側。

860 平衡側咬頭接触 へいこうそくこうとうせつしよく

balancing contact, balancing occlusal contact

平衡側における対合する歯の接触。従来、平衡側臼歯部での咬合接触は歯周組織や顎関節を為害作用を及ぼすと考えられてきたが、近年、強く咬合したときの平衡側臼歯部の咬合接触は機能的に重要であるとの考えがある。

861 平衡側側方顎路 へいこうそくそくほうかう

lateral condylar path on balancing side

〔同義語〕非作業側側方顎路

側方滑走運動時における平衡側下顎頭の運動経路。前下方内方に移動し、その水平面内の運動は側方顎路角やサイドシフトを形成する。

862 平行測定 へいこうそくてい

parallel check

1) ブリッジの支台歯形成時に各支台歯間の平行性を確認する検査。大型ミラー、口腔内写真撮影用ミラーを用いて咬合面側、切縁側、唇・頬側、舌・口蓋側から支台歯全体を見て、すべてのマージン部にアンダーカットがなく、平行性がある

ことを確認する。専用のノギス状のインストルメント、平行測定器もある。

2) 部分床義歯の製作時に、サバイヤーを用いて歯列模型上の歯および軟組織の平行性を調べる検査。

863 平行測定器 へいこうそくていき

parallel checker

クラウンやブリッジの製作に際し、支台歯の形成面のテーパーの判定、複数のピンホールやポスト孔などの平行性の確認、各部のアンダーカットの診査などに用いる器具。臨床、技工いずれの現場でも利用されるが、ノギス状のものやデンタルミラーに平行線を刻印したものなどがある。

864 平行模型 へいこうもけい

parallel cast

上下顎模型の基底面を咬合平面と平行に、正中口蓋縫合線を模型の正中に一致させて製作した石膏模型。

865 平線咬合器→「蝶番咬合器」参照

866 ベネット運動 ーうんどう

Bennett's movement, laterotrusion

下顎側方運動における下顎全体の側方移動。Bennett (1908) により提唱された。

867 ベネット角→「側方顎路角」参照

868 ベベル型 ーがた

bevel type

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。歯軸に対して外開きの斜面を与えた形態。通常、ベベル型単独で用いることは少なく、ショルダー型に幅の小さいベベルを付与したベベルドショルダー型 (beveled shoulder type) や、ヘビーシャンファー型にベベルを付与したベベルドシャンファー型 (beveled chamfer type) として応用されることが多

い.

869 ベベルドショルダー型 —がた
shoulder with bevel

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。ショルダーの外縁に小さい幅のベベルを付与した形態。ショルダー型の欠点であるセメント合着時の浮き上がりによる辺縁部の適合不良を補正するために、前装製造冠の唇(頬)側辺縁などに応用される。ただし、ジャケットクラウンのように縁端強度の弱い材料のものには応用できない。

870 辺縁形成→「筋圧形成」参照**871** 辺縁骨レベル へんえんこつ—
marginal bone level

天然歯を支える歯槽骨や骨結合型インプラントの周囲骨組織の骨頂部の位置。

872 辺縁封鎖 へんえんふうさ
border seal

義歯床縁と義歯床下粘膜または義歯周囲軟組織との封鎖状態。床縁封鎖ともいう。

873 偏心位 [下顎の] へんしんい [かがく—]

eccentric position [of mandible]

中心位以外のすべての顎位。

874 偏心咬合位 へんしんこうごうい
eccentric occlusal position

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、前方、側方、あるいは後方に滑走させたときのすべての咬合位。

875 偏側型ポンティック へんそくがた—

semihygienic pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ。唇側または頬側の歯頸部のみが顎堤粘膜と線状に接触し、舌側に向かうに従って徐々に粘膜から離

れていく形態。

876 片側性咬合平衡 へんそくせいこうごうへいこう

unilateral occlusal balance

全部床義歯、あるいはそれに近似する義歯において、作業側に食塊が介在しても、義歯が離脱したり、回転しないで安定している状態。

877 片側性平衡咬合 へんそくせいへいこうごうごうunilateral balanced articulation
[occlusion]

側方咬合位において、平衡側の咬合接触がない状態で、作業側人工歯の頬・舌側咬頭のための咬合接触により力学的な平衡状態を作りだし、義歯の転覆を防止することを意図した咬合様式。Poundのlingualized occlusionも片側性平衡咬合の1つである。

878 片側離脱 [ブリッジの] へんそくりだつ

partial loss of retention [of bridge]

固定性ブリッジの支台装置の一部が脱離した状態。ブリッジは脱落せず口腔内に残るため、脱離した支台歯のう蝕進行が促進されるなど重篤な経過をたどることが多い。

879 片咀嚼 へんそしゃく
unilateral chewing

左右のいずれか一方だけで行う咀嚼。

ほ

880 ポーセレンジャケットクラウン
porcelain jacket crown

一般に白金や純パラジウムの箔を用いたマトリクス法で製作される陶材のみ

で製作された全部被覆冠。審美性、化学的安定性、耐摩耗性に優れ、金属に比べて熱伝導度が小さく、組織に対する為害作用が少ないなどの長所を有するが、脆弱で破折しやすく、製作が煩雑であるという短所もある。

→「オールセラミッククラウン」参照

881 ポーセレンブリッジ

porcelain bridge

全部被覆冠を支台装置とし、支台装置とポンティックを同質のポーセレンで焼成したブリッジ。アルミナスポーセレンなどの強度に優れたポーセレンで焼成した全部ポーセレンブリッジと強度を補うためポーセレンのなかに金属を埋入した金属加強ポーセレンブリッジとの2種がある。

882 ボーンアンカーブリッジ

bone anchored bridge

〔同義語〕 オッセオインテグレートドブリッジ

複数本の骨結合型インプラントを支台とする固定性または術者可撤性の補綴装置。

883 補強線 ほきょうせん

reinforcing wire

レジン床義歯、咬合床、個人トレーなどの破折・変形を防止し、強化するための金属線。レジン床義歯では、上顎口蓋面や下顎舌側面にしばしば用いられる。

884 ボクシング

boxing on impression

棒状と板状のワックスを用いて印象の辺縁外周に沿って箱枠をつくる操作。棒状ワックスで適切な辺縁部を確保し、板状ワックスで隔壁を形成することによって模型の適切な厚みを確保する。

885 保持→「維持」参照

886 保持形態 ほじけいたい

retention form

外力などによって歯冠補綴装置が支台歯から脱落しないよう保持するために、支台歯に付与される形態。クラウンの場合、基本的な保持形態は相対する軸面であるが、保持力をより増強するため、ピンホール、グループ、小窩、鳩尾形、これらを併用したロックなどの補助形態が追加されることがある。

887 補助アタッチメント ほじょ—

auxiliary attachment

単独では支台装置の役割を果たせないアタッチメント。ロマガノリプレソマティック、スイングロックアタッチメント、ガグリールメッティイソクリップなどがある。

その役割を大別すると次の3種類に分類できる。①分割ブロック：不平行な支台歯に固定性ブリッジを適用時の連結機構として使用。②維持用エレメント：維持の目的だけに使用。③バランサー：片側欠損症例に反対側に延長したバーの先端に支持や回転軸を求めるための装置。

888 補助維持装置→「補助支台装置」参照

889 補助支台装置 ほじょしたいそうち

auxiliary retainer

〔同義語〕 補助維持装置

部分床義歯に用いられる支台装置で、限定された機能を有するもの。フック、スパーなどがこれに含まれる。

890 ポステリアガイダンス

condylar guidance, posterior guidance

顎運動を顎関節の形態学的要因によって規定する要素。前方部の歯の指導要素（アンテリアガイダンス）に対する用語。

891 ポスト**dowel, post**

支台歯に形成されたポスト孔に適合し、歯冠部鑄造体あるいは歯冠補綴装置を保持する棒状の構造体。既製ポストと自家製ポストとがあり、その材料には金属、グラスファイバー、あるいはカーボンファイバー補強プラスチックなどがある。

892 ポストクラウン**post-core crown**

〔同義語〕 継続歯

歯冠部とポスト部が一体の全部歯冠補綴装置。主に前歯部単冠に用いられる。歯冠部の前装部と舌面板、支台歯の根面に接する根面板と、歯冠部を保持するための維持部からなり、レジン前装ポストクラウン、陶歯前装ポストクラウンなどがある。

893 ポストコア**dowel, post-core**

支台歯の歯根部と歯冠部にまたがる築造体。

894 ポスト孔 — こう**prepared root canal for dowel**

ポストを挿入、装着するために、支台歯の歯根部にポストと同形態に形成される孔。

895 ポストダム**post dam**

上顎の義歯床口蓋後縁に辺縁封鎖を確実にするために設けられる堤状の突起。ポストダムの形成には、機能印象時に該当部位を加压形成する方法と、作業用模型の同部位を削除修正する方法とがある。

896 補足疲労 ほそくひろう**fatigue supplement**

ブリッジの設計指針としてポンティックに生じる負荷の大きさを示す指数のうち2歯以上の連続するポンティックや延長ポンティックを適用する場合に付加される指数。

ブリッジはポンティック部の負荷（疲労）の大きさが支台歯の負担能力（抵抗力）を越えないように設計する必要がある。支台歯の抵抗力として歯根表面積の大きさをもとにした指数が歯種ごとに決められ、ポンティックの疲労として歯種ごとに同名歯の抵抗力に相当する指数が与えられており、補足疲労の指数は欠損部位や欠損歯数などによって決定される。これら指数をもとに支台歯の抵抗力とポンティックの疲労を算出し、欠損に隣接する歯以外の歯を支台歯として加えるかどうか、加えるとすればどの歯を加えるかの判断基準とされている。

→「デュシャンジュの指数」参照

897 ポッセルトの図形 — ずけい**Posselt's figure, Posselt's three dimensional representation**

Posselt (1952) が正中矢状面内の下顎運動記録と種々の高径における水平的な下顎運動記録とを組み合わせて再現した、切歯部における3次元的な下顎限界運動範囲を示す図形。その形態と Posselt の出身地に因みスウェーデンのパナナ (Swedish banana) とも呼ばれる。

898 補綴 ほてつ**prosthesis**

身体器官の喪失によって損なわれた形態と機能を人工装置によって修復・整形すること。

899 補綴学 ほてつがく**prosthodontics**

生体の欠損部を義歯、義眼、義足など

の人工物で修復することに関する理論と技術を考究する学問。

→「歯科補綴学」参照

900 補綴主導型インプラント治療 →
「トップダウントリートメント」参照

901 補綴前処置 ほてつぜんしよち
preprosthetic treatment

補綴装置の製作時に、その治療の妨げとなるような口腔内環境を改善するために適用される、各種の歯科治療、抜歯、小帯切除術などの外科処置、充填や根管治療などの保存処置、口腔清掃や歯肉切除などの歯周治療、MTMなどの歯科矯正治療、レストシートやガイドプレーンの附与などの支台歯の処置、その他（顎位矯正、ティッシュコンディショナーによる処置、咬合挙上など）、多様なものが含まれる。

902 補綴装置 ほてつそうち
prosthesis

〔同義語〕補綴物

1) 身体器官の欠損や形態異常に対して、修復・整形・機能回復を目的として適用される各種人工装置の総称。

2) 歯質、歯列、顎骨などの欠損や形態異常を修復し、失われた形態・機能・審美性の回復を図る人工装置。これは慣用的なもので、厳密に口腔領域に限定した本義で表示する場合には、歯科補綴装置 (dental prosthesis) とすべきである。

903 補綴物 →「補綴装置」参照

904 母模型 ほもけい
master cast

複製模型を製作する際の基となる模型。

905 ポリサルファイドラバー印象 —
いんしよう
polysulfide rubber impression

ポリサルファイドラバー印象材による印象。硬化後の寸法安定性に優れているので、有歯顎から無歯顎まで精密印象として多用される。

906 ボンウィル三角 —さんかく
Bonwill triangle

切歯点と左右の下顎頭上面の中央部頂点を結んだ線で形成される一辺4インチの三角形。Bonwill (1858) によって提唱された。

907 ポンティック
pontic

ブリッジの構成要素の1つ。支台装置と連結されることによって歯の欠損部を補う人工歯で、咀嚼や発音といった口腔の機能および形態、審美性などを回復する役割をもつ。適用部位、基底面形態、自浄性、使用材料や支台装置との位置関係の違いなどにより各種に分類される。

908 ポンティック陶歯 —とうし
pontic porcelain tooth

陶材製のポンティック専用人工歯。ポンティック粘膜面の材料としては、グレージングした陶材が優れていることから使用されていたが、メタルボンドクラウンの普及により使用頻度は少なくなった。

ま

909 埋没 まいぼつ
investing

重合、ろう（蠟）付け、鑄造などに先立ち、対象物の全体あるいは一部を耐火材や石膏などで被覆、または包埋すること。

910 マウンティングジグ
mounting jig

上顎模型を咬合器に装着するときを用いる用具。バイトフォークを保持するためのもの（キャストサポート）や、ボンウィル三角を基準にして平均的位置に模型を位置づける咬合平面板などがある。

911 マウンティングプレート

mounting frame, mounting plate, mounting ring

石膏模型を咬合器に装着するための用具。通常は咬合器の上弓と下弓のそれぞれ中央部分に設置されたリングまたは円形の金属またはプラスチック板。

912 前ろう（鑲）付け法 まえーぶーほう

preceramic soldering method

メタルボンドクラウンの固定性連結製作法の1つで、陶材を金属冠に焼き付ける前に行うろう（鑲）付け。

913 マッカラム T アタッチメント — てい—

McCollum T attachment

フィメールの軸壁に平行なメール部分の T 字形の溝が片方の側壁全長に切られている歯冠内アタッチメント。

914 窓開け まどあ— cut-back

前装鋳造冠補綴において、前装用材料を築盛するための領域をワックスパターンに付与する操作。いったん、歯冠形態をワックスにて完全に回復した後に行われる。

915 マトリックス法 — ほう matrix method

陶材を歯型上に築盛する際、受け型（マトリックス）を用いて行うポーセレンジャケットクラウンやラミネートベニアの製作法。マトリックスには金属箔マトリックス（白金や純パラジウムの箔）と耐火

材マトリックス（ノンマトリックス法とも呼ばれる）とがある。またろう（鑲）付けの際、金属箔マトリックス法が応用されることもある。

916 摩耗【歯の】 まもう【は—】 dental abrasion

摩擦等の異常な機械的作用により生じた表在性の歯質摩滅。不適当なブラッシングによる歯頸部根面のくさび状あるいは溝状の摩耗症、職業的あるいは習慣的原因による切縁、咬合面の摩耗症、およびクラスプによるエナメル質の摩耗等がある。摩耗面は滑沢で硬くなり、古くなると黄褐色を呈する。組織学的には象牙細管の石灰化と、歯髄側面における第二象牙質の形成がみられる。

917 マンディブラーキネジオグラフ【MKG】 —【えむけーじー】

Mandibular Kinesiograph (商品名)

下顎中切歯部に取り付けた小型永久磁石の動きを、頭部に固定したセンサーアレイで検出する非接触型の3次元下顎運動記録装置。Jankelson (1969) により考案された。

み

918 ミニダルボ Mini Dalbo

DALBO resilient joint の spring を取り除いた歯冠外アタッチメント。高さが3 mm で、垂直遠心回転を許容し、片側遊離端欠損症例への適用が可能。

919 ミューチュアリープロテクトドオクルージョン

mutually protected occlusion

ナソロジー学派の主張する咬合様式。咬頭嵌合位においては、臼歯部が咬合し、

前歯部は僅かに離開する。前方滑走運動においては前歯部が、そして側方滑走運動においては犬歯が接触滑走し、臼歯部は離開する。

920 ミリングテクニック [アタッチメントの]

milling technique [of attachment]

バーアタッチメントなど各種の自家製アタッチメントを用いて可撤性補綴装置を製作するときに平行切削器を用いて、補綴装置の着脱方向に一致するように作業用模型上で、ワックスパターンや鋳造体をミリング（形成、研削）整形する手法。

921 ミリングバー

milling bar

支台歯間を連結する角棒状の鋳造体の側面を平行切削器で平行に仕上げたバー。平行な面どうしの摩擦により維持力を発揮する。

む

922 無圧印象 むあついでんしょう

mucostatic impression, non-pressure impression

可及的に印象圧を加えないで顎堤、口蓋粘膜の静止状態を採得する印象。

923 無口蓋義歯 むこうがいぎし

roofless denture

義歯床の口蓋部を顎堤の内側縁に沿ってU字形に除去し、全体を馬蹄形にした上顎全部床義歯。

924 無咬頭人工歯 むこうとうじんこうし

cusplless tooth, nonanatomic tooth, zerodegree tooth

非解剖学的人工歯に属する咬頭傾斜角が0°の人工臼歯。咬合面が平坦であるた

め、機能時に顎堤への側方力は発現せず、顎堤の保存には有利であるとされている。しかし、解剖学的人工歯のように、咬合面形態を利用して顎運動との協調を図ることができないため、咬合平衡を確保するためにはバランシングランプなどを設定することもある。Sears (1922, 1938), Hardy (1942, 1950) などの人工歯が有名である。

925 無歯顎 むしがく

edentulous jaw

歯をすべて喪失した、もしくは歯が存在しない顎。

926 MUDLの法則 むどうる—ほうそく

MUDL rule

後方滑走運動時の干渉を除去する際に用いられる法則。上顎臼歯では近心斜面 (Mesial of the Upper) を、下顎臼歯では遠心斜面 (Distal of the Lower) を削合する。Lauritzenにより提唱された。

め

927 メール

male

雌雄組み合わせからなるアタッチメントの雄部分。着脱を果たす部分が陥凹状のフィメール部に嵌合するような突起形態を有す。歯冠内アタッチメントでは可撤部、歯冠外および根面アタッチメントでは固定部に設定される。

928 メジャリングデバイス

Measuring Device (商品名)

厚さを測定する簡易測定器の1つ。ステンレス製で、先端が鋭利な金属用と先端が球状のワックス用とがある。いずれも0.1 mm までの読み取りができ、最大10.0 mm までを測定できる。

929 メタルコーピング**metal coping**

- 1) 形成された支台歯の上に適合される鑄造体。生活歯では薄いキャップ状、失活歯ではポストを伴うこともある。後者の場合、根面板と同義。
- 2) メタルボンドクラウンの陶材を焼き付けるための金属体。フレームワークと同義。

930 メタルボンドクラウン

**porcelain fused to metal crown,
porcelain fused to metal
restoration**

〔同義語〕 陶材焼付鑄造冠

審美的補綴を主眼として、鑄造により製作したメタルコーピングに陶材を焼き付けた前装冠。単独歯冠補綴およびブリッジの支台装置として用いられる。また、審美性を考慮して、コーピングの歯頸部辺縁部の金属の全部あるいは一部分を除き、陶材を直接支台歯に適合させるようにした、カラーレスメタルボンドクラウン（ポーセレンマージンメタルボンドクラウン）もある。

も

931 モールドガイド**mold guide**

人工歯の形態見本。

932 モダイオラス**modiolus**

口角の遠心部に口輪筋などの表情筋が集まって形成される結節。人工歯排列位置と義歯床研磨面形態に影響する。

933 モデリングコンパウンド印象

— いんしょう

modeling plastic impression**compound**

熱可塑性のモデリングコンパウンドによる印象。顎堤弓の大きさに合わせて選択した既製トレーをトリミングした後、軟化したモデリングコンパウンドを盛り、義歯床に関連する解剖学的形態を記録する。一般的には、加圧印象に分類される。

934 モリソソクラウン→「圧印金冠」参照**935** モンソンカーブ**curve of Monson, Monson curve**

篩骨鶏冠付近を中心とした半径4インチの球面の下方に凸な曲面に下顎歯の切縁や咬頭頂が接触しているとする、前後の歯列湾曲と側方歯列湾曲の双方を含む咬合湾曲。

下顎の各歯の植立方向を延長すると一点で交わるとしたモンソン球面説に基づいている。なお、咬合湾曲がモンソンカーブと逆の場合のことをアンチモンソンカーブ (anti-Monson curve) という。

936 モンソン球面説 — きゅうめんせつ**Monson spherical theory**

Monson (1920) によって発表された幾何学的下顎運動理論。スピーの湾曲をすべての下顎運動の範囲にまで拡大すると、1つの球面が形成され、その中心は歯の長軸と下顎頭の中心から始まる垂線との交点に一致し、半径は4インチとなるとした。さらにこの中心が下顎運動の中心点でもあり、下顎はこの球面に沿って運動するというものである。

ゆ

937 有孔陶歯 ゆこうとうし**diatoric tooth**

有床義歯用人工歯の機械的維持力を増

すために、前歯では舌側面に、白歯では歯槽面に穿下性の孔および側管が設けられている陶歯。

938 有根型ポンティック ゆうこんがた

root extension pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ。抜去歯の歯根長1/4～1/5程度の根部を備えたポンティック。上顎前歯部の審美性を維持する目的で抜歯前にブリッジを作製しておき抜歯直後の抜歯窩に嵌入される。表面にはグレージングを行った陶材を使用することが必須である。

939 有歯顎 ゆうしがく

dentulous jaw

歯の存在している顎。無歯顎に対する用語。

940 有床型ポンティック ゆうしょうがた

plate type pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ。基底面に歯肉色の床を付けて粘膜と接触させる形態で、欠損部の歯槽骨が大きく吸収した場合に審美性を回復したり違和感を軽減したりする目的で用いる。自浄性や清掃性に劣るので可撤性ブリッジにすることが必須である。

941 有床義歯 ゆうしょうぎし

plate denture, removable denture

粘膜を覆う義歯床を有する義歯。部分欠損歯列において顎堤の一部を覆う形式のものを部分床義歯、無歯顎において顎堤の全部を覆う形式のものを全部床義歯という。

942 有釘陶歯→「ピン陶歯」参照

943 誘導面→「ガイドプレーン」参照

944 遊離端義歯 ゆうりたんぎし

distal extension partial denture, extension base removable partial denture

遊離端欠損部、すなわち歯列の部分的欠損のうち、欠損部遠心側に残存歯が存在しない欠損様式に適用される可撤性有床義歯。臨床的には片側性と両側性に分けられ、前者は片側性遊離端義歯 (unilateral extension base denture) と呼ばれ、ケネディーの分類ではⅡ級に相当する欠損に適用される。後者は両側性遊離端義歯 (bilateral extension base denture) と呼ばれ、ケネディーの分類ではⅠ級に相当する欠損に適用される。

本義歯は欠損部近心側のみに残存歯列が存在するので、人工歯列の維持・支持および安定は欠損部顎堤と残存歯列に求めなければならず、通常、直接支台装置および間接支台装置が設定される。

945 遊離端欠損 ゆうりたんけつそん

distal extension missing, free-end missing

歯列の部分欠損症例において、欠損部の遠心側に歯が存在しないもの。

946 遊離端ブリッジ→「延長ブリッジ」参照

よ

947 3/4冠 よんぶんのさんかん

three quarter crown

〔同義語〕スリークォータークラウン

前歯歯冠の4面のうち、唇側面を残して、他の3面を被覆する部分被覆冠の1つ。Carmichael (1906) によって創案された。Carmichael 3/4冠では両隣接面と舌面が削除され、切縁溝と隣接面溝が形

成されるとともに両隣接面溝を結ぶ舌側マージン部にショルダーが形成される。

Tinker型はスライスカットが小さく、金属の露出が少ないので審美性に優れる反面、マージン部が不潔域を通るため二次う（齲）蝕の危険性が高い。

スライス型はTinker型に比べてスライスカットが大きいので、金属の露出が多くなるが、二次う（齲）蝕の発生は少なくなり、形成も容易である。

Vest型では唇面隅角部に半円溝が形成され、両隣接面および切縁側のマージンは唇面に設定されている。他の2型に比べ、溝形成に伴う歯髄損傷および二次う（齲）蝕の危険性は少ないものの、金属露出が最も著しく審美性に劣るが、歯冠が薄い歯にも可能である。

5

948 ラミネートベニア laminate veneer

主に前歯唇側面の審美的修復を目的とした歯冠色のシェル。ポーセレンを応用したポーセレンラミネートベニアとレジンを応用したレジンラミネートベニアとの2種類がある。ともに接着性レジンをを用いて歯質に接着させる。

り

949 リジッドサポート rigid support

支台歯と義歯とを強固に連結して、歯根膜負担を主体とする部分床義歯の設計の概念。その構造様式はリジッドコネクターといわれる。連結条件として、支台歯歯周組織の負担限界を越えないことが

要求される。

950 リッジラップ型ポンティック — がた— ridge lap pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ。基底面が唇側（頬側）の歯頸部から、舌側（口蓋側）に向かって全面的あるいは部分的（T字型）に歯槽頂部をやや越えた範囲まで粘膜と接触し、その後徐々に粘膜から離れていく形態。

951 リップサポート lip support

歯や人工歯が口腔内で口唇を支えていること。歯の欠損により失われたリップサポートは、義歯により回復されるが、その回復程度は、前歯の前後の排列位置や傾斜度によって異なる。老人様顔貌の特徴とされる落ちくぼんだ口元は、リップサポートの喪失が主体として生じ、これに加齢変化（老化）が加わったものである。

952 離底型ポンティック りていがた— hygienic pontic

粘膜との接触関係に基づくポンティック基底面形態の1つ。基底面が顎堤粘膜から完全に離れている形態。

953 リテンションビーズ retention beads

レジンを金属に接合させる際、金属との機械的維持を図るために用いるプラスチック製の細かいビーズ。ワックスパターンの表面にこのビーズを付着させ、鋳造体に凹凸を付与する。

954 リバースバックアクションクラスプ reverse back action clasp

欠損側に近い頬側面に鉤体部をおき、鉤腕が欠損側隣接面、辺縁隆線部を走行

して、舌側面のファーズーンのアンダーカット部に鉤尖をおくクラスプ。

955 リバースピン陶歯 —とうし

reverse pin porcelain facing tooth

裏面に平行に設定されたピンホールに適合する金属ピンによって補綴装置本体に結合させる，前装用既製陶歯，前装冠用とポンティック用とがある。

→「ピン陶歯」参照

956 リベース

rebase

人工歯部以外の義歯床を新しい義歯床用材料に置き換え，義歯床下粘膜との再適合を図ること，人工歯の咬合関係は正しいが，義歯床粘膜面の適合が不良な場合に適用される。

→「リライン」参照

957 リポジショニングスプリント

repositioning splint

オクルーザルスプリントの1つで，下顎頭や関節円板の位置を整復するためのスプリント。通常，顎位を前方で固定する前方整位型スプリントが用いられる。

958 リマウンティングジグ

remounting jig, remount cast jig

咬合器再装着時に使われる歯列咬合面記録（例；テンチのコア）を咬合器上に正しく位置づけるための金属板，咬合器の下弓に固定して使う。

959 リムーバルノブ

removal knob

1) 鑄造冠などを仮着したのち，合着前に支台歯から撤去する際に辺縁を損なわないようにクラウンリムーバーなどがかかるようにつけられた突起。

2) 鉤腕を変形させないために，部分床義歯に付与され，患者が日常的に利用す

る撤去用の突起。

960 両側性咬合平衡 りょうそくせいこうこうへいこう

bilateral occlusal balance

全部床義歯装着時の側方咬合位において，作業側人工歯に加わる義歯の回転や離脱に係わる力の発現を平衡側の咬合接触によって防止する咬合状態。

961 両側性平衡咬合 りょうそくせいへいこうこうごう

bilateral balanced articulation (occlusion)

側方咬合位において，作業側人工歯に加わる義歯の回転や離脱に係わる力の発現を平衡側の咬合接触によって相殺する目的で付与される咬合様式，全部床義歯に望ましい咬合様式の1つとされている。

962 両翼鉤→「二腕鉤」参照

963 リライン

reline

義歯床粘膜面の1層だけを新しい義歯床用材料に置き換え，義歯床下粘膜との適合を図ること，人工歯に異常所見はなく，また咬合関係に異常が認められず，義歯床粘膜面の適合が不良な場合に適用される。新しい義歯床用材料としては，咀嚼時の疼痛の緩和や顎堤のアンダーカットへの適合を図ることを目的として，軟質裏装材（soft relining material）が使用されることもある。本方法には，直接法と間接法とがある。間接法において，模型と人工歯の位置関係を保持して，印象材の部分の床用材料に置き換えるために用いられる器具をリライニングジグ（relining jig）という。

→「リベース」参照

964 リラクセーションスプリント

relaxation splint

オクルーザルスプリントの1つで、筋の緊張緩和やブラキシズムの治療などを目的とする前歯型スプリント。上顎前歯切縁から口蓋を被覆し、閉口時に下顎前歯のみがこれに接触する。

965 リリーフ

relief

- 1) 義歯床粘膜面の一部を凹状として、義歯床を介して顎堤粘膜あるいは顎骨に加えられる咬合力を緩和すること。これにより、粘膜の疼痛あるいは義歯の破折を防止するとともに義歯の維持・安定を図る。その適用部位としては、粘膜が薄く被圧変位量が小さい口蓋隆起、下顎隆起、骨隆起などや、神経、血管の開口部に相当する切歯乳頭などがある。
- 2) 印象用トレーの内部に印象材が入るスペースを設けること。

966 リンガライズドオクルージョン

lingualized occlusion

中心咬合位および側方滑走運動時に、上顎臼歯の舌側咬頭だけが下顎臼歯に接触することで咬合力を舌側へ誘導して、義歯の安定を図る咬合様式。Pound (1970) により提唱された全部床義歯の咬合理論。

967 リンガルエプロン

lingual apron

リンガルプレートの1つで、リンガルプレートの上縁を残存歯の舌側面に延長し、歯面の一部を覆うように設計された大連結子。義歯の沈下防止や、骨植の弱い前歯の固定に有効である。

968 リンガルバー

lingual bar

下顎残存歯の舌側粘膜面に沿って設置されるパーティップの大連結子。特に、口腔底が浅い場合に前歯部の保護とバーの

曲げ強度を向上させるために、舌側溝と舌の下方に設定され、断面形態がL字に近似したものをサブリンガルバー (sublingual bar) という。

969 リンガルプレート

lingual plate

下顎残存歯の舌側粘膜面に設置される大連結子の1つ。下顎の舌側歯槽面を覆うように幅広く、かつ薄く設計される。

970 リングクラスプ

ring clasp

欠損側隣接面に鉤体部をおき、支台歯のほぼ全周を1本のアームが取り巻き、その先端をニアゾーンの深いアンダーカットに設置するクラスプ。通常、上顎大白歯では口蓋側から、下顎では頬側からアームが始まる。孤立した後方臼歯を支台歯とする場合に用いる。補助アームをつける場合もある。左右対称的な適用が原則とされる。

971 臨床的歯冠 りんしょうてきしかん

clinical crown

歯肉から口腔内に露出している歯の部分で、歯肉縁から咬合面または切縁までのいわゆる外見上の歯冠。解剖学的歯冠に対応する用語で、Gottlieb により提唱された。

解剖学的歯冠とは異なり、臨床的歯冠は年齢とともに変化する。萌出後高さを増し加齢に従って歯槽骨の吸収、歯肉の退縮が生じ、歯根が露出するとさらに臨床的歯冠は長くなる。歯冠修復を行う際、クラウンなどに適正な維持力を得るためには、十分な臨床的歯冠長が必要となる。

972 臨床的歯根 りんしょうてきしかん

clinical root

歯肉に覆われている歯根部。歯肉の退縮など局所環境因子により変化する。解

剖学的歯根とは異なり、年齢とともに短くなる傾向にある。歯冠修復、咬合再建などの処置に際し、適正な臨床的歯冠歯根比の付与を考慮しないと咬合性外傷などを生ずることとなる。臨床的歯根が短い場合には歯冠長を短くし、コーピング処置などを行い、負担軽減を図る方法もある。

973 隣接面溝 りんせつめんこう

proximal groove

3/4冠や4/5冠など部分被覆冠の支台歯の隣接面に長軸的に形成付与される維持溝（縦溝）。その方向により装着方向が制限されるが、被覆冠の唇側面や頬側面などの側面壁を取り除くことによって生じる維持力と強度の低下を補う。

974 隣接面鉤 りんせつめんこう

mesiodistal clasp

〔同義語〕近遠心鉤

Roachにより提唱された鑄造鉤で、支台歯の舌面から近心面および遠心面を取り巻き、隣接面のアンダーカットに維持を求めた板（鋳）鉤（band clasp）。主として前歯部に用いられる。

975 隣接面板 りんせつめんばん

proximal plate

部分床義歯の支台歯に形成されたガイドプレーンに対応する機構として義歯に設けられた金属部分。機能としては、義歯の着脱を誘導し容易にすること、支台歯への側方力を減少させること、食片圧入を防止することなどが挙げられる。

れ

976 レジンキャップ

resin cap

アクリリックレジンを用いた全部被覆

冠の総称。製作法が容易なうえ、安価であり審美性にも優れるが、強度、耐摩耗性は十分ではない。色調安定性もないため長期間の使用には適さない。主として、有髄歯の歯冠形成後のプロビジョナルクラウンとして、また、暫間固定装置として使用される。

977 レジン歯 ーし

acrylic resin tooth

メチルメタクリレートを主成分としたアクリリックレジンによる人工歯。硬さが低いいため削合しやすい、対合歯を傷つけない、義歯床との結合が強固、安価であるなどの利点はあるが、耐摩耗性が低いため容易に咬耗し咬合高径の低下を招きやすく、変色しやすいなどの欠点がある。

978 レジンジャケットクラウン

resin jacket crown

レジンを用いた全部被覆冠。色調ならびに形態の付与が自由で、弾性もあり、修理が口腔内で行えるなどの長所を有する。しかし、吸水性、摩耗性、変色性、変質性があり、自然感が劣るなどの短所もある。加熱重合レジンに比べ、硬さ、圧縮強さ、耐摩耗性などに優れる硬質レジンを用いた硬質レジンジャケットクラウンもある。

979 レジン床 ーしょう

resin denture base

歯肉色のレジンを材料とする義歯床。材料的にはアクリリックレジン、ポリサルホン、ポリカーボネイトなどがあるが、アクリリックレジンが最も一般的である。加熱（水を用いる湿熱、電気ヒーターやマイクロ波による乾熱）重合、常温重合、光重合などがあり、加圧填入、加圧注入、流し込み、射出、加熱圧縮により

成形する。

980 レジン床義歯 —しょうぎし

resin base denture

義歯床が床用レジンで製作された有床義歯。アクリリックレジンが多用されるが、射出成形レジンが用いられることもある。

981 レジン前装鑄造冠 —ぜんそうちゅうぞうかん

resin facing cast crown, resin veneer crown

審美的修復を目的に、歯冠の唇側や頬側などの外観に触れる面を歯冠色レジンで被覆した鑄造冠。

982 レスト

rest

部分床義歯において、クラスプの鉤体部、義歯床、バーなどから突出し、支台歯のレストシートに適合する金属製の小突起。義歯に加わる咬合力の支台歯への伝達、義歯沈下および横揺れ防止、食片圧入の防止、咬合接触の回復など多様な機能を備えている。その適用部位によって、咬合面レスト (occlusal rest)、切縁レスト (incisal rest)、基底結節レスト (舌面レスト; cingulum rest)、あるいは遠心レスト (distal rest)、近心レスト (mesial rest) に分けられる。

983 レストシート

rest seat

レストを受け入れるために支台歯に形成される小窩。咬合力に耐えるだけの幅や厚さをレストに付与できると同時に、義歯に加わる咬合力を垂直方向の力として支台歯へ伝達し、対合歯との早期接触や咬合干渉を避ける効果がある。

984 レスト付き二腕鉤 —つーにわんこう

two-arm clasp with occlusal rest

鉤脚が1つで、咬合面レストと2つの鉤腕を有する最も基本的な環状鉤。線鉤と鑄造鉤とがあるが、鑄造によるレスト付き二腕鉤は考案者の名からエーカースクラスプ (Akers clasp) とも呼ばれる。

985 レトロモラーパッド

retromolar pad

下顎最後方大臼歯のすぐ後方に位置する臼後三角上で、顎堤遠心端に相当する位置に存在する、粘液腺 (臼後腺) を含んだ軟組織からなる洋梨状の隆起。無歯顎になっても形態の変化が少ないため、下顎義歯床後縁の設定ならびに仮想咬合平面の後方基準として利用される。

986 連結強度 れんけつきょうど

connecting rigidity,

Koppelungagrad (独語)

遊離端義歯において義歯と支台歯との間に設定した支台装置部分に発現する変位性。Körber (1973) らによって初めて提唱された用語であるが、連結強度が小さければ粘膜負担が主となり、逆に、連結強度が大きければ、歯根膜負担が主となる。臨床的には、レストのない線鉤は連結強度の小さいもの、テレスコープクラウンは連結強度の大きいものの代表といえる。

987 連結固定 [歯の] れんけつこてい [はー]

splinting [of teeth]

- 1) 歯周病に罹患した歯の消炎処置が完了しても歯の動揺が残遺した場合、接着法やワイヤー固定法などによりこれらをつなぎ、個々の歯の安静を図ること。
- 2) 補綴装置の設計に際し、動揺の残遺し

た複数の支台歯を固定性または可撤性の支台装置により連結し、支台歯全体の支持能力を向上させること。

988 連結子 れんけつし

connector

〔同義語〕連結装置

部分床義歯の構成要素の1つで、大連結子と小連結子との総称。

989 連結装置→「連結子」参照

990 連合印象 れんごういんしょう

combination impression

2種類以上の印象材、または流動性の異なる同種の印象材を用いて採得する印象。

→「単一印象」参照

991 連続鉤 れんぞくこう

continuous clasp

1) 鉤腕がレストから始まり複数歯の頬舌面を走行し、最も離れた歯のアンダーカットに鉤尖を置いたクラスプ。

2) 前歯舌面の基底結節上を数歯にわたって連続的に走行する金属のバンド。ケネディーバーと同義。

ろ

992 ろう(蠟)型採得→「ワックスアップ」参照

993 ろう(蠟)義歯 — (ろう)ぎし

wax denture

人工歯排列と歯肉形成が完了した重合前の義歯。患者の口腔内に試適して、審美性、顎間関係、発音機能などを確認し、必要に応じて修正した後に重合される。

994 老人様顔貌 ろうじんようがんぼう

senile appearance

1) 加齢による変化だけでなく、歯の喪失に伴うリップサポートと咬合支持の喪

失による顔貌の変化が、主として下顔面に特徴的に現れる老人様の顔貌。口裂の縮小が起り、上下の口唇は緊張を失って陥凹し、赤唇は薄くなり、放射状のシワが著明になり、老人の顔貌の特徴が強調される。補綴装置によるリップサポートと咬合支持の回復により改善される。

2) 無汗型外胚葉異形成症の小児に見られる特有な顔貌。毛髪、睫毛、眉毛などがほとんどなく、目の周縁には小皺が多く、鼻は鞍状様で、無歯症により口唇が反転突出しているために、その顔貌が一見老人様を呈している状態をいう。無歯症様顔貌(anodontia appearance)とも呼ばれている。

995 ローチクラスプ

Roach clasp

Roach (1929)の考案による歯肉型クラスプ。義歯床あるいは連結子から出て歯肉部を横走して支台歯部で垂直に屈曲して支台歯のアンダーカットに鉤尖が接触するパークラスプ。鉤尖部の形態がアルファベットの文字に似ていることからI, S, L, U型など種々の呼称があるが、代表的なものはT型クラスプ。

996 ろう(蠟)堤→「咬合堤」参照

997 ロサーマンエンセントリックロジン

Rothermann Eccentric

側壁に溝を有するボタン状の固定部が根面板にろう(蠟)着され、義歯側の可動部はクラスプのアーム状のスプリットリングと棒状の保持装置から構成されている根面アタッチメント。

998 ロマグノリプレソマティック

Romagnoi Pressomatic

テレスコープクラウンの外冠やミリングバーのサドル部分に設置して維持力を発揮させる補助アタッチメント。ハウジ

ング、プランジャ、ナイロン製クッション、調節製ロックねじからなる。プランジャの形態に矩形と円形がある。

999 ロングセントリックオクルージョン

long centric articulation (occlusion)

咬頭嵌合位と下顎最後退接触位との間に、咬合高径の変化を伴わず、しかも咬頭傾斜の影響を受けない前後的な自由域をもつ咬合。Schuyler (1963) によって有歯顎にも導入された。

わ

1000 ワイドセントリックオクルージョン

wide centric articulation (occlusion)

咬頭嵌合位が一点に収斂しないで、左右的にわずかに自由域がある咬合。Schuyler (1963) や Guichet (1966) によって有歯顎にも導入された。

1001 ワイヤークラスプ→「線鉤」参照

1002 ワックスアップ

waxing up

〔同義語〕ろう（蝋）型採得

インレーやクラウンなどの鋳造体の原型となるワックスパターン(wax pattern)を作る過程で、歯型にワックスを付着し、その後ワックス形成器などを用いて形態を整え、最終的にワックスパターンをつくりあげる技工操作の総称。製作方法には直接法と間接法とがある。ワックス操作法は、圧接法(wax adaptation technique)、ディッピング法(dipping wax technique)、ろう（蝋）盛り上げ法(add-on technique)に大別される。

圧接法は均等に軟化した適当な大きさ

のワックスを歯型に圧接・圧延し、その後歯冠形態を彫刻してワックスパターンを形成する方法である。ディッピング法はあらかじめ小容器の中で溶融したワックスに歯型を浸して、ワックスの薄層を付着させる方法でこれを繰り返して厚みを与え、歯冠形態をカービングによって成形する方法である。ろう（蝋）盛り上げ法はスパチュラなどの器具を加熱して少量のワックスを溶融して、歯型に盛り上げて全体を形づくる方法である。

歯冠形成法には彫刻法とドロップオンテクニック(drop-on technique)とがある。

1003 ワックスコーンテクニック

wax cone technique

ワックスアップによる機能的咬合面形成法の1つ。歯型に咬頭の位置を示す円錐状のワックスを置き、隆線を盛り上げて系統的に咬合面を形成する。ワックスの盛り上げシステムにいくつかの方法があるが、Payneの方法、Thomasの方法が代表的である。

1004 ワルクホッフ小球 — しょうきゅう

Walkhoff palatal ball

無歯顎における水平的な顎位を決定する際に使用する小球。具体的には、上顎咬合床の口蓋後縁中央部に、ワックスなど大豆大の小球(口蓋球)をつけ、これを舌尖で触れながら閉口させることにより下顎後退位に誘導する。

1005 ワンピースキャスト法 — ほう

one-piece cast method

〔同義語〕一塊鋳造法

複雑な形態の補綴装置を1回の鋳造によって製作する方法。一塊として鋳造されるため強度に優れるが、鋳造収縮の影

響が大きく寸法精度が低下する場合がある。金属床、クランプなどを1種類の金属で製作する場合、また、数歯にわたるブリッジを1種類の金属で製作する場合などに有効である。

2009

The Glossary of
Prosthodontic Terms 3rd ed.

同義語一覽

付録：同義語一覧

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
アーライン		Ah-ライン・口蓋振動線	1
圧印金冠	モリソクラウン		2
アベックス		アローポイント・エイベックス	3
安静空隙		安静位空隙・フリーウェイスペース	4
アンテリアガイド ンス	前方誘導（指導）	インサイザルガイダンス・切歯誘導 （指導）・前歯誘導（指導）	5
維持	保持	リテンション	6
維持腕		リテンションアーム	7
インターオクルー ザルレコード		咬合面間記録	8
インプラントアナ ログ	インプラントレプリ カ		9
インプラント義歯		移植義歯	10
ウィルソンの湾曲	側方咬合湾曲・側方 歯牙湾曲・側方歯 列湾曲		11
FGP テクニック	機能的運動路法	機能的咬頭路描記法	12
MPD 症候群		筋膜痛機能障害症候群	13
エルプレヒトクラ スプ	T 字クラスプ		14
嚙下造影検査	嚙下透視検査・ビデ オ嚙下造影・ビデ オレントゲン検査		15
延長ブリッジ	遊離端ブリッジ		16
オーバージェット	水平被蓋	水平オーバーラップ	17
オーバーデン チャー	残根上義歯	オーバーレイデンチャー	18
オーバーバイト	垂直被蓋	バーティカルオーバーラップ	19
オーラルリハビリ テーション	咬合再構成	オクルーザルリコンストラクション	20
オクルーザルスプ リント	バイトスプリント	オクルーザルバイトスプリント・オク ルーザルバイトプレート・バイトプ レート	21

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
オクルーザルランブ	パラタルランブ		22
オッセオインテグレーション		オステオインテグレーション・オッセオオスインテグレーション	23
オッセオインテグレートッドインプラント	骨結合型インプラント	オステオインテグレートッドインプラント・オッセオオスインテグレートッドインプラント	24
オルタードキャスト法		アルタードキャスト法・模型改造法・模型修正法	25
概形印象		一次印象・準備印象・予備印象	26
外側バー		エクスターナルバー	27
ガイドブレーン	誘導面	ガイディングブレーン	28
解剖学的咬合器	顎路型咬合器		29
解剖学的人工歯		解剖学的人工白歯・解剖的人工白歯・解剖的人工歯・咬頭歯・咬頭人工歯	30
過蓋咬合		ディープバイト	31
下顎安静位		安静位・生理的下顎安静位	32
下顎後退接触位	下顎後退咬合位		33
下顎最後退接触位	下顎最後退咬合位		34
下顎頭	顎頭		35
下顎頭位	顎頭位		36
顎間距離		垂直顎間距離	37
顎間記録	顎間関係記録		38
顎関節雑音		顎関節音	39
顎関節内障		インターナルデランジメント・顎関節内部障害・顎内障	40
顎顔面補綴装置	顎顔面補綴物		41
顎口腔系		口腔顎系・咀嚼系	42
顎堤		歯槽堤	43
顎堤粘膜		顎粘膜・歯槽堤粘膜・歯槽粘膜	44
顎補綴装置	顎補綴物		45
可撤性補綴装置	可撤性補綴物		46
顎頭間軸		下顎頭間軸・顎頭軸	47
顎路指導板		顎路きょう導板	48
緩圧型支台装置	緩圧型維持装置		49
緩圧装置		緩圧性連結装置・ストレスブレイカー	50

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
環状鉤		囲繞鉤・サーカムファレンシャルクラスプ・取り囲み鉤	51
間接支台装置	間接維持装置		52
寒天印象		ハイドロコロイド印象	53
カンペル平面		鼻聴道平面・補綴学的平面	54
義歯床下粘膜		床下粘膜	55
義歯床下粘膜異常	義歯性口腔粘膜症		56
義歯床研磨面		義歯床筋圧面	57
義歯床粘膜面		義歯床基底面	58
義歯床負担域	義歯床支持域		59
拮抗作用	対向作用	対抗作用・レシプロケーション	60
拮抗腕	把持腕	レシプロカルアーム	61
機能的人工歯		準解剖学的人工白歯・準解剖学的人工歯・準解剖的人工白歯・準解剖的人工歯	62
白歯離開咬合	ディスクルージョン		63
頬棚		バッカルシェルフ・頬側棚	64
筋圧形成	筋形成・辺縁形成		65
グライインディング		白磨運動	66
クラウン	冠		67
クラウンブリッジ 補綴学		冠橋義歯学・冠橋義歯補綴学・歯冠補綴架橋義歯学・歯冠補綴架工義歯学・歯冠補綴橋義歯学	68
クラスプ	鉤		69
クリッキング		弾撥音	70
グレージング		グレース・艶焼き	71
クレピテーション	クレピタス	捻髪音	72
ケネディーバー		ダブルリンガルバー	73
研究用模型	スタディモデル	考究用模型・診査用模型・診断用模型・スタディキャスト	74
犬歯誘導咬合		カスピッドプロテクトドオクルージョン・犬歯保護咬合	75
構音検査	調音検査		76
構音障害	発語障害		77
鉤外形線		クラスプライン	78

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
口腔インプラント	デンタルインプラント	歯科インプラント	79
鉤肩		クラスプショルダー	80
咬合圧負担域		圧負担域・負担域	81
咬合器		咬交器	82
咬合器再装着		咬合器再付着・リマウンティング・リマウント	83
咬合器装着		咬合器付着・マウンティング・マウント	84
咬合小面		咬合局面	85
咬合堤	ろう（蝸）堤		86
咬合平面板		咬合平面測定基準板	87
交叉咬合		クロスバイト	88
交叉咬合用人工歯		交叉咬合用人工白歯・反対咬合用人工白歯・反対咬合用人工歯	89
口唇接合線	口唇閉鎖線		90
鉤尖		鉤先・鉤端	91
鉤腕		クラスプアーム	92
鼓形空隙		エンブレジャー・歯間鼓形空隙	93
ゴシックアーチ描記法		ゴシックアーチトレーシング・切歯路描記法	94
個歯トレー		歯型トレー・支台歯トレー	95
個人トレー		各個トレー	96
固定性補綴装置	固定性補綴物		97
コンビネーションシンドローム	アンテリアーハイパーファンクションシンドローム		98
根面アタッチメント		歯根アタッチメント・スタッドアタッチメント	99
最大開口量		最大開口距離	100
作業側		使用側・動側・働側	101
作業用模型		作業模型	102
サバイヤー		クラスプサバイヤー・サーバイヤ・サーバイヤー・サベヤー・サベヤー・サベヤー・サベヤー・デンタルサバイヤー	103

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
サベイライン		鉤指導線・サーベイライン・サベールライン	104
暫間義歯		仮義歯	105
暫間補綴装置	暫間補綴物		106
歯冠円錐	咬合円錐		107
歯冠型クラスプ	スーパーバルジクラスプ	歯冠経由型クラスプ	108
歯冠歯根比		CR 比・C/R レシオ・CR レシオ・歯冠歯根長比	109
歯冠補綴装置	歯冠修復物・歯冠補綴物		110
色調選択	シェードセレクション	シェードテイキング・シェードマッチング	111
歯型可撤式模型	可撤歯型式模型		112
歯型固着式模型	固着式模型・単一式模型		113
歯頸部辺縁形態		歯頸側辺縁形態	114
歯根膜粘膜負担	歯根膜粘膜支持	混合負担（支持）・歯根膜粘膜混合負担（支持）・歯根膜粘膜複合負担（支持）	115
歯根膜粘膜負担義歯	歯根膜粘膜支持義歯		116
歯根膜負担	歯根膜支持	歯牙支持・歯牙負担	117
歯根膜負担義歯	歯根膜支持義歯		118
支持		サポート	119
支台歯	維持歯・鉤歯		120
支台歯間線	鉤間線	楨杆線・鉤間軸・支台線・支点間線・支点線	121
支台歯形成		支台形成	122
支台装置	維持装置	リテーナー	123
自動削合		自動削合	124
歯肉圧排		歯齦圧排	125
歯肉円錐	歯根円錐		126
歯肉型クラスプ	インフラバルジクラスプ	歯肉経由型クラスプ	127

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
ジャケットクラウン		ジャケット冠	128
習慣性咀嚼側		主咀嚼側	129
終末蝶番運動		ターミナルヒンジムーブメント	130
終末蝶番軸		ターミナルヒンジアキシス	131
床縁		床周縁・床辺縁	132
笑線		スマイリングライン・スマイルライン	133
シングルデンチャー		片顎義歯	134
人工歯肉付模型	ガム模型		135
診断用ワックスアップ	診断用ワクシングアップ		136
精密印象	最終印象	仕上げ印象・二次印象・本印象	137
切歯指導釘		インサイザルガイドピン・切歯きょう導釘	138
切歯指導板		インサイザルガイドテーブル・切歯きょう導板	139
切端咬合		切縁咬合	140
接着ブリッジ		アドヒージョンブリッジ・接着性ブリッジ・メリーランドブリッジ	141
線鉤	ワイヤークラスプ	屈曲鉤・はりがね鉤	142
前後の歯列湾曲	前後の歯牙湾曲		143
全部床義歯	総義歯	コンプリートデンチャー・フルデンチャー	144
全部床義歯補綴学	総義歯補綴学	全部床義歯学・総義歯学	145
全部铸造冠		フルキャストクラウン	146
全部被覆冠		全部冠・フルカバリッジクラウン・フルクラウン	147
双子鉤		ダブルエーカークラスプ	148
側方顎路角	ベネット角		149
咀嚼運動路		咀嚼経路	150
咀嚼周期	咀嚼サイクル	咀嚼運動周期・チューイングサイクル	151
咀嚼側		機能側	152
咀嚼能率	咀嚼効率		153
対合関係	対咬関係		154
ダイナミック印象		動的印象	155

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
単純鉤		一腕鉤・単腕鉤	156
単独歯型式模型	単独歯型		157
中間義歯		間入義歯・中間欠損義歯	158
鑄造冠		キャストクラウン	159
鑄造鉤		キャストクラスプ	160
蝶番運動		ヒンジムーブメント	161
蝶番咬合器	平線咬合器		162
蝶番軸		ヒンジアキシス	163
直接支台装置	直接維持装置		164
治療用義歯		治療義歯	165
テーパー	軸面傾斜角		166
テレスコープクラウン		ダブルクラウン・二重金冠	167
テンチのコア	テンチの歯型		168
等高点	トライポッド		169
頭部後傾法	頭部後屈法		170
トップダウントリートメント	補綴主導型インプラント治療		171
通路		溢出孔・溢出路・スピルウェイ	172
二重同時印象	積層一回印象	一回印象・ダブルミックス印象	173
二腕鉤	両翼鉤		174
粘膜負担	粘膜支持		175
粘膜負担義歯	粘膜支持義歯		176
パウンドライン	犬歯臼後隆起線		177
鋏状咬合		シザーズバイト	178
発音空隙	発音間隙		179
馬蹄形パー		ホースシューパー	180
ハミューラーノッチ		鉤状切痕・鉤切痕・上顎切痕・翼突上顎切痕	181
パラタルパー		口蓋杆	182
半固定性補綴装置	可動性補綴装置・可動性補綴物・半固定性補綴物		183
半固定性連結		可動性固定性連結・可動性固定連結・緩圧性連結	184
被圧変位量		被圧縮量	185

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
非解剖学的人工歯		非解剖学的人工臼歯・非解剖的人工臼歯・非解剖的人工歯・無咬頭歯	186
非緩圧型支台装置	非緩圧型維持装置		187
非機能咬頭	剪断咬頭		188
ピックアップ印象	コーピング印象・取り込み印象		189
描記針		スタイラス・描記釘	190
標示線		標準線	191
ヒンジ型アタッチメント		蝶番型アタッチメント	192
ピン陶歯	有釘陶歯		193
フィニッシュライン		フィニッシングライン・付線	194
フィメール		雌部・マトリックス	195
フェイスボウ		顔弓	196
部分床義歯	局部床義歯	可撤性パーシャルデンチャー・局部義歯	197
部分床義歯補綴学	局部床義歯補綴学	局部義歯学・局部床義歯学・部分床義歯学	198
部分被覆冠		一部被覆冠・パーシャルカバリッジクラウン	199
ブラキシズム		歯ぎしり	200
フラビーガム		コンニャク状顎堤・浮動性歯肉・フラビー組織・フラビーティッシュ	201
フランクフルト平面		眼耳平面	202
ブリッジ		架橋義歯・架工義歯・橋義歯	203
フレームワーク		メタルフレーム	204
プロビジョナルクラウン	暫間被覆冠・テンポラリークラウン	仮封冠・暫間冠	205
分割復位式模型	分割可撤式模型・分割式模型・分割歯型式模型	分割模型	206
ヘアピンクラスプ		ダブルアームクラスプ・複腕鉤・リバースループクラスプ	207
平衡側	非作業側	均衡側・非機能側	208
平衡側側方顎路	非作業側側方顎路		209

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
片側性咬合平衡		片側性均衡・片側性咬合均衡・片側性平衡	210
片側性平衡咬合		片側性均衡咬合	211
ポーセレンジャケットクラウン		陶材ジャケットクラウン	212
ポーセレンブリッジ		全部陶材架橋義歯・全部陶材架工義歯・全部陶材橋義歯・陶材ブリッジ	213
ボンアンカードブリッジ	オッセオインテグレートブリッジ		214
補助支台装置	補助維持装置		215
ポステリアガイダンス		後方指導・後方誘導・コンダイラーガイダンス	216
ポスト		合釘・ダウエル	217
ポストクラウン	継続歯	歯冠継続歯・ダウエルクラウン	218
ポスト孔		合釘孔・合釘保持孔	219
補綴装置	補綴物	補綴修復物	220
ボンウィル三角		下顎三角	221
ポンティック		架橋歯・架工歯・橋体・ダミー	222
ミュチュアリープロテクテッドオクルージョン		相互保護咬合	223
無圧印象		最小圧印象・静止印象・静態印象・静的印象・粘膜静態印象・微圧印象	224
メール		雄部・パトリックス	225
メタルボンドクラウン	陶材焼付鑄造冠	金属焼付陶材冠・金属焼付ポーセレン冠・セラモメタルクラウン・陶材焼付冠・陶材溶着鑄造冠	226
モダイオラス		口角結節	227
モンソン球面説		8インチ球面学説・4インチ球面学説	228
3/4冠	スリークォータークラウン		229
リベース		改床・換床・床交換・リベーシング	230
両側性平衡咬合		全面均衡咬合・全面平衡咬合・両側性均衡咬合	231
リライン		裏装・リライニング	232

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
リリース		緩衝	233
リンガライズドオクルージョン		舌側化咬合	234
隣接面鉤	近遠心鉤		235
隣接面板		プロキシマルプレート	236
レストシート		レスト座	237
レスト付き二腕鉤		三腕鉤	238
レトロモラーパッド		白後パッド・白後隆起・白歯後豊隆・白歯後隆起	239
連結子	連結装置	コネクター	240
連続鉤		コンティニューアスクラspb	241
ろう（蠟）義歯		仮床義歯	242
ワックスアップ	ろう（蠟）型採得	ろう（蠟）型形成・ろう（蠟）形成・ろう（蠟）原型採得	243
ワンピースキャスト法	一塊鋳造法		244

2009

The Glossary of
Prosthodontic Terms 3rd ed.

日本語索引

外国語索引

【索引の利用の仕方】

1. 専門用語の用語番号はゴシック体（色数字）で表示し、他の専門用語の解説文中にも使用されている場合には、その用語番号をイタリック体（黒数字）で表示した。
2. 解説文中に使用されている専門用語以外の主要な用語は、機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などを含め、すべて掲載し、該当する専門用語の用語番号をイタリック体（黒数字）で表示した。
3. 【同義語】として認める用語には、自らの用語番号とともに、選定用語の用語番号もアンダーラインを付けてゴシック体（色数字）で表示した。
4. 付録番号を専門用語(【同義語】として認める用語を含む)ならびに使用が望ましくない用語すべてに表示した。

移行義歯	30	412	インサイザルガイドテープ	833
維持	31		ル	付録 139
32, 37, 150, 189, 207,			インサイザルガイドピン	付録 9
233, 241, 257, 277, 349,				付録 138
361, 367, 439, 478, 594,			インジェクションタイプ	79, 504, 822, 823, 830
802, 953, 973	付録 6		[印象材の]	付録 10
維持格子	32	673, 835	印象	インプラント周囲炎 51
維持歯	33	470	20, 41, 42, 44, 54, 92, 94,	インプラント周囲粘膜炎
維持装置	34		96, 103, 195, 196, 224,	51
	474	付録 123	292, 296, 339, 411, 488,	インプラントレプリカ 52
囲繞鉤		付録 51	511, 551, 575, 631, 637,	49 付録 9
異常音		136	714, 905, 922, 933, 990	インレー
異常習癖	35	230	印象庄	56, 255, 352, 566, 642,
移植皮膚片		535	印象域	1002
維持領域		426	印象材	
維持力		36	20, 44, 195, 411, 511,	
189, 277, 361, 439, 594,			631, 905, 990	
973			印象採得	43 41, 54, 477
維持腕		37	印象用トレー	44
3, 223, 349, 367	付録 7			371, 372, 965
一次印象		付録 26	インターオクルーザルレ	
一次固定		38	コード	45 付録 8
一部被覆冠		付録 199	インターナルコネクション	46
一腕鉤		付録 156	インターナルデランジメン	
一回印象		付録 173	ト	付録 40
一塊鑄造		651, 835	インターナルフィニッシュ	
一塊鑄造法		39	ライン	808
	1005	付録 244	インフォームドコンセント	502
1 歯対 1 歯		628	インフラバルジエリア	478
1 歯対 2 歯		628, 681	インフラバルジクラスプ	47 479 付録 127
溢出孔		付録 172	インプラント	48
溢出路		付録 172	6, 14, 46, 50, 51, 65, 87,	
異物感		751, 753, 835	88, 177, 375, 504, 515,	
イミディエートサイドシフ			535, 806, 822, 823, 830,	
ト		403		
違和感		81, 245		
インサイザルガイダンス				
		付録 5		

う

ウィルソンの湾曲	53
	338 付録 11
ウォッシュインプレッショ	
ンテクニック	54
浮き上がり [クラウンの]	
	439, 510, 706, 869
う (齲) 蝕 (症)	
	247, 392, 685
うわぐすり	262
運動軌跡	179
運動経路	
	64, 115, 179, 356, 405,
	560, 603, 610, 614, 646,
	861
運動障害	
	72, 113, 145, 325, 538
運動論的顎頭点	55

え

映画法	112
永久固定	56
永久磁石	458, 917

エイベックス	付録3				
ASC52 ビバール	57	嚙下反射	558	オーラルリハビリテーショ	ン 82 711 付録20
エーカースクラスプ	58	嚙下法	71 68	Oリングアタッチメント	83 389
	3, 191, 984	嚙下補助装置	72	オールセラミッククラウン	84
エクスターナルコネクショ		炎症	51, 87, 137, 141, 216, 218,		
ン	46		219		
エクスターナルバー		遠心(面) [歯の]	698, 926, 944, 945	オクルーザルスプリント	85 534, 544, 709, 957,
	付録27			964 付録21	
エクスターナルフィニッ		遠心レスト	982	オクルーザルバイトスプリ	付録21
シュライン	808	円錐	361, 362, 419, 424,	ント	
S字状隆起	59		478, 679, 1003	オクルーザルバイトプレー	付録21
エステティックライン	60	縁端強度	869	ト	付録21
S発音位	61	延長ブリッジ	73 678	オクルーザルランプ	86
SPA要素	62		付録16		付録22
エックス線写真	198, 428	延長腕鉤	74 191	オクルーザルリコンストラ	付録20
XPr機構	436	円板整位	75	クション	
エナメル(質)		円板転位	76	オステオインテグレーショ	ン 付録23
	15, 22, 105, 366, 565, 916	円板復位	77	オステオインテグレートッ	ドインプラント 付録24
エピテーゼ	63	エンブレジャー	付録93	雄部	付録225
	199, 200, 201, 202	エンブレジャークラスプ	594	オッセオインテグレーショ	ン 87 付録23
FGPテクニク	64 667			オッセオインテグレートッ	ドインプラント 88
	付録12			14, 177, 504, 806 付録	24
エマージェンスプロファイ				オッセオインテグレートッ	ドブリッジ 89
ル	65				882 付録214
MPD症候群	66 付録13	横走アーム	367	オッセオオスインテグレー	ション 付録23
エルプレヒトクラスプ	67	オーバーカントゥア	197	オッセオオスインテグレー	テッドインプラント
	付録14	オーバージェット	78		付録24
嚙下			346, 775 付録17	オトガイ	60, 90, 604, 778
	35, 68, 69, 71, 72, 147,	オーバーデンチャー	79	オトガイ唇溝	90
	176, 230, 558, 613, 618,		83, 389, 728 付録18		
	622, 657, 738, 820, 826	オーバーバイト	80		
嚙下位	68 71		775 付録19		
嚙下運動	69	オーバーレイデンチャー	付録18		
嚙下機能	69	オーラルアプライアンス	123		
嚙下障害	72, 657	オーラルディスクネジア	81		
嚙下造影検査	69 付録15				
嚙下動作	68, 558, 618, 622				
嚙下透視検査	70 69				

下顎最後退咬合位	121	顎運動検査	130	112, 130, 251, 325, 400
122 付録 34		顎間関係	131	顎口腔系
下顎最後退接触位	122	71, 130, 314, 319, 324,		82, 142, 256, 326, 333,
999 付録 34		643, 697		622, 711 付録 42
下顎三角	付録 221	顎間関係記録	132 134	顎骨
下顎枝	124		付録 38	50, 98, 141, 142, 144,
下顎前突	765	顎間距離	133	149, 152, 153, 205, 237,
下顎前方保持装置	123	556, 649 付録 37		500, 515, 708, 806, 833
化学的安定性	880	顎間記録	134	顎舌骨筋
下顎頭	124	307, 314 付録 38		148, 287, 708
55, 76, 122, 125, 168,		顎関節		顎舌骨筋線
172, 175, 179, 403, 493,		66, 135, 136, 137, 138,		148 708
494, 603, 649, 650, 660,		139, 140, 145, 260, 264,		顎堤
662, 852, 861 付録 35		544, 657, 695, 826, 890		149
下顎頭位	125	顎関節エックス線撮影	135	23, 94, 151, 341, 388,
168, 436 付録 36			付録 39	466, 467, 468, 547, 764,
下顎頭間軸	付録 47	顎関節音	付録 39	785, 827, 875, 952 付録
下顎反復小開閉口運動	636	顎関節強直症	137	43
下顎法	518	顎関節雑音	136	顎堤弓
下顎隆起	126 965	145, 260, 264, 325 付録		149, 341, 468, 933
下弓 [咬合器の]	127	39		顎堤吸収
19, 172, 305, 307, 385,		顎関節疾患	137 135	150 79
556, 911, 958		顎関節症	138	顎堤粘膜
架橋義歯	付録 203	66, 136, 137, 140, 145,		94, 149, 150, 215, 449,
架橋歯	付録 222	325, 366, 544, 657, 826		575, 723, 764, 771, 785
顎位	128	顎関節痛	139	付録 44
61, 68, 108, 109, 110,		顎関節内障	140 付録 40	角度
116, 117, 120, 245, 305,		顎関節内部障害	付録 40	357, 358, 361, 461, 463,
309, 312, 314, 332, 337,		顎顔面補綴	141	603, 610, 676, 787
355, 370, 397, 398, 493,		顎顔面補綴装置	142	顎内障
519, 585, 595, 600, 650,			付録 41	付録 40
873		顎顔面補綴物	143 142	顎粘膜
顎運動	129		付録 41	付録 44
130, 160, 175, 179, 230,		顎義歯	144 72, 573	顎補綴
305, 370, 490, 494, 557,		顎機能	145, 305, 336	152
560, 568, 596, 613, 636,		顎機能障害	145	141, 142, 146
644, 646, 768, 851, 890		顎欠損	146	顎補綴装置
		顎口腔機能		153 142
				付録 45
				顎補綴物
				154 153
				付録 45
				ガブリールメッティイソク
				リップ
				155
				架工義歯
				付録 203
				架工歯
				付録 222
				下口唇
				347, 604
				仮床義歯
				付録 242

下唇		可撤性ブリッジ	163	170, 171, 179, 364, 526, 852
60, 90, 286, 503, 786, 797		162, 164, 679, 785, 822, 830		
下唇小帯	286	可撤性補綴装置	164	可動粘膜
下唇線	797	95, 713, 920	付録 46	211, 480, 483
ガス抜き	93	可撤性補綴物	165 <u>164</u>	可動部[アタッチメントの]
カスタムアバットメント	156		付録 46	1, 57, 155, 418, 419, 512, 532, 997
カスピッドプロテクテッド		可撤性連結	166	加熱重合
オクルージョン	付録 75	可撤部 [アタッチメント	の]	978
仮想円錐角度	361	の]	809, 927	加熱重合レジン
仮想咬合平面	157	顆頭	167 <u>124</u>	978
198, 329, 341, 347, 689, 985		19, 71, 168, 170, 171, 175, 179, 181, 364, 385, 501, 526, 650, 736, 851		仮封冠
仮想軸	171, 427	付録 35		付録 205
仮想平面	464, 526, 529, 549	窩洞	352, 837	下部構造 [インプラント
型ごと埋没法	158	顆頭安定位	168 71, 650	の]
片持ち梁	73	顆頭位	169 <u>125</u>	177
仮着	159 959	付録 36		14, 88, 375, 806
各個トレー	付録 96	顆頭間距離	170	窩壁
滑走運動	160	501, 851		189
272, 327, 476, 698, 832, 919, 926		顆頭間軸	171 170	か(嚙)みしめ
カッティングナイフ	408	付録 47		265, 400, 695
銅パーバンド	371	顆頭球	172	ガム模型
可撤式固定法	56	19, 181, 385, 501, 736		178 <u>517</u>
可撤式歯型	441	顆頭軸	付録 47	付録 135
可撤式模型	441, 848	可動性[アタッチメントの]		カラーレスメタルボンドク
可撤歯形式模型	161 <u>441</u>	389, 425, 727, 760, 761, 763		ラウン
付録 112		可動性固定性連結	付録 184	930
可撤性[アタッチメントの]		付録 184		ガラスセラミック
4, 7, 95, 162, 164, 206, 377, 679, 713, 822		可動性補綴装置	173 <u>761</u>	231
可撤性義歯	162	付録 183		Gariot 咬合器
7, 79, 95, 206, 707		可動性補綴物	174 <u>761</u>	661
可撤性パーシャルデン		付録 183		仮義歯
チャー	付録 197	可動組織	224	付録 105
		顆頭点	175	加齢
				301, 366, 951, 971, 994
				加齢の変化
				301, 951
				顆路
				179
				182, 403, 460, 461, 602, 643, 807, 861
				顆路型咬合器
				180 <u>104</u>
				305 付録 29
				顆路きょう導板
				付録 48
				顆路指導板
				181 172
				付録 48
				顆路指導部
				19, 182, 385, 501
				顆路調節機構
				182 305
				下腕
				367

冠 183 255 付録 67
 緩圧型
 187, 389, 425, 542, 727
 緩圧型アタッチメント 184
 425
 緩圧型維持装置 185 186
 付録 49
 緩圧型支台装置 186
 187 付録 49
 緩圧機構 184
 緩圧作用 187
 緩圧性連結 付録 184
 緩圧性連結装置 付録 50
 緩圧装置 187 付録 50
 陥凹 25, 927, 994
 眼窩
 188, 299, 436, 526, 539,
 587, 828
 眼窩下縁 188, 828
 眼窩下点 188
 436, 526, 587
 眼窩骨縁 188
 眼窩点 188, 828
 槓杆線 付録 121
 顔弓 付録 196
 冠橋義歯学 付録 68
 冠橋義歯補綴学 付録 68
 嵌合効力 189 352
 嵌合力 565
 眼耳平面 付録 202
 患者可撤式 50
 換床 付録 230
 緩衝 付録 233
 緩衝腔 190
 環状鉤 191
 58, 67, 257, 288, 350, 367,
 387, 640, 718, 731, 984
 付録 51

緩衝能 634
 嵌植義歯 付録 10
 間接維持装置 192 193
 付録 52
 関節円板
 75, 76, 77, 135, 138, 140,
 649, 856, 957
 関節結節 76, 396, 596, 649
 間接支台装置 193
 537, 594, 632, 819, 944
 付録 52
 関節頭 124
 関節突起 124
 関節部
 104, 181, 305, 501, 646,
 736
 間接法
 307, 516, 517, 963, 1002
 関節包 120, 138, 139
 完全自浄型ポンティック
 194 764
 眼点 188, 828
 寒天アルジネート連合印象
 195
 寒天印象
 196 195 付録 53
 寒天印象材 195, 196
 カントゥア [歯の] 197
 65, 517
 間入義歯 付録 158
 カンペル平面 198
 329, 526 付録 54
 顔面印象 199
 顔面インプラント 200
 顔面欠損 201
 顔面補綴 202 141, 142

き

キーアンドキーウェイ 203 763
 ギージー法 341
 キーパー 204 465
 機械的刺激
 210, 216, 218, 219, 827
 義顎 205
 起始 [筋の] 788
 義歯 206
 10, 30, 32, 50, 79, 144,
 162, 250, 382, 394, 412,
 450, 452, 540, 581, 598,
 647, 653, 666, 724, 728,
 817, 822, 823, 830, 923,
 941, 944, 979, 980, 993
 義歯安定剤 207
 疑似歯肉 516
 義歯床 208
 1, 10, 32, 98, 211, 216,
 218, 237, 249, 353, 360,
 382, 384, 481, 498, 500,
 505, 653, 708, 750, 895,
 941, 979, 980, 985
 義歯床下粘膜 209
 190, 210, 216, 218, 224,
 292, 488, 672, 956, 963
 付録 55
 義歯床下粘膜異常 210
 付録 56
 義歯床基底面 付録 58
 義歯床筋圧面 付録 57
 義歯床研磨面 211
 481, 808, 836, 932 付録
 57
 義歯床後縁 212
 1, 360, 985

義歯床支持域	213 215	184, 186, 211, 293, 413,	CAD/CAM クラウン	234
	付録 59	430, 779	旧義歯	30, 631
義歯床粘膜面	214	機能異常	白後三角	235
17, 18, 190, 215, 249,		機能印象		98, 708, 985
672, 808, 829, 956, 963,			白後腺	985
965		機能運動	白後パッド	付録 239
義歯床負担域	215	機能回復	白後隆起	付録 239
50, 237, 293	付録 59	59, 63, 159, 202, 247,	白歯後豊隆	付録 239
義歯性潰瘍	216	423, 902	白歯後隆起	付録 239
義歯性口腔粘膜症	217	機能咬頭	吸収 [顎骨の]	
	210 付録 56	225 628, 782	79, 149, 500, 547, 691,	
義歯性口内炎	218	機能障害	827, 843, 971	
義歯性線維腫	219	66, 140, 145, 146, 201,	白歯離開咬合	236
義歯性線維症	219	326	82, 775	付録 63
義歯洗浄剤	220	機能側	吸水性	978
基準点		機能的运动路法	吸着	204, 465
175, 188, 364, 496, 526,		付録 12	吸着力	465
557, 587, 663, 733, 810,		機能の咬合面	鳩尾形	837, 886
811, 852		1003	白磨	225, 613
基準平面	115, 644, 801	機能の咬頭路描記法	白磨運動	付録 66
既製人工歯	248, 344, 407	付録 12	橋義歯	付録 203
既製トレー		機能的人工歯	頬骨	298, 299, 300, 788
44, 735, 847, 933		227	頬舌の	
既製ピン	475	機能的正常咬合	357, 369, 467, 559, 626,	
既製ポスト	475, 891	機能的不正咬合	765	
基礎床	221 319, 324	機能の模型	頬側 (面) [歯の]	
拮抗	2, 37, 367	基本的下顎運動	100, 237, 482, 954	
拮抗作用 [義歯の]	222	キャストابلセラミック	頬側柵	付録 64
	付録 60	231 84	頬側バー	100
拮抗腕	223 367	キャストクラウン	橋体	付録 222
	付録 61	付録 159	頬柵	237 付録 64
基底結節	268, 982, 991	キャストクラスプ	頬粘膜	238, 286, 480, 508
基底結節レスト	982	付録 160	頬粘膜圧痕	238
基底面		キャストサポート	局部義歯	付録 197
23, 655, 764, 785, 803,		232	局部義歯学	付録 198
821, 864, 875, 907, 938,		910	局部床義歯	239 823
940, 950, 952		キャップ		付録 197
機能圧		233, 458, 702, 929	局部床義歯学	付録 198
		キャップ型		
		458		
		キャップクラスプ		
		233		
		CAD/CAM		
		84, 234, 247		

局部床義歯補綴学 240
824 付録 198
局部トレー 847
筋
81, 97, 116, 145, 176, 245,
251, 252, 337, 708, 826,
836, 932, 964
筋圧 241, 499
筋圧維持 241
筋圧形成 242 499
付録 65
近遠心鉤 243 974
付録 235
近遠心的 357
筋形成 244 242
付録 65
金合金 10, 720
均衡側 付録 208
筋触診法 245
近心(面) [歯の]
557, 982
近心咬合 765
近心レスト 2, 982
金属アレルギー 246
金属加強ポーセレンブリッ
ジ 881
金属冠 247
9, 95, 651, 679
金属歯 248 514
金属床 249
208, 532, 653, 655, 748,
808, 835, 1005
金属床義歯 250
655, 748, 808, 835
金属箔 84, 190, 915
金属焼付陶材冠 付録 226
金属焼付ポーセレン冠
付録 226

筋電図 251
筋電図検査 251
筋突起 98, 708
筋肉 81, 116, 176
筋肉位 [下顎の] 252
筋把握法 245
筋膜痛機能障害症候群
付録 13

く
隅角 [歯面の, 窩洞の]
328, 557, 718, 819, 947
空口状態 254
くさび効果 95, 362, 679
屈曲鉤 付録 142
屈曲バー 253 726
グライディング 254
35, 826 付録 66
クラウン 255
9, 22, 84, 95, 234, 377,
439, 572, 584, 651, 675,
679, 688, 694, 707, 732,
825, 892, 930, 976, 978
付録 67
クラウンブリッジ補綴学
256 付録 68
クラウンリムーバー 959
クラスプ 257
3, 8, 74, 191, 367, 387,
426, 479, 485, 530, 569,
594, 652, 720, 729, 731,
746, 759, 849, 850, 954,
970, 991, 995 付録 69
クラスプアーム 付録 92
グラスファイバー 891
クラスプサバイヤー
付録 103
クラスプショルダー

付録 80
クラスプライン 付録 78
クラッチ 579, 767, 799
グラフィック法 [下顎運動
の] 258 279
クリステンセン現象 259
659
クリッキング 260
付録 70
グループ 886
グループファンクション
261
グレージング 262
908 付録 71
グレース 付録 71
クレピタス 263 264
付録 72
クレピテーション 264
付録 72
クレンチング 265
35, 238, 553, 826
クロスバイト 付録 88

け
傾斜 [歯の]
53, 425, 837, 951
傾斜角 357, 461, 463, 679
傾斜歯 837
形成 [支台歯の]
390, 439, 472, 481, 510,
567, 676, 710, 716, 812,
853, 863
形成外科手術 535
継続歯 266 892
付録 218
形態異常
135, 140, 256, 280, 902
形態見本 931

外科的処置 (切除)		構音検査	274	付録 76	咬筋前縁部	245
75, 201, 219, 281, 500,		構音障害	275		咬筋把握法	245
535, 901		201, 281, 538, 751	付録		口腔インプラント	285
結紮法	413	77		48, 515, 833	付録 79	
結晶化	231	口蓋		口腔外補綴装置	142	
欠損		1, 59, 86, 281, 353, 360,		口腔顎系	付録 42	
5, 150, 201, 267, 285,		383, 538, 705, 752, 753,		口腔前庭	286	
648, 815, 899, 902, 945		755, 772, 895, 923, 1004			100, 480, 483	
欠損歯列	267 269	口蓋杆	付録 182	口腔底	287 684, 968	
欠損部		鉤外形線	276 付録 78	口腔内記録装置	579	
144, 146, 205, 285, 538,		口蓋後縁封鎖	277 353	口腔内補綴装置	142	
647, 648, 665, 896, 899,		口外ゴシックアーチ描記装		口腔粘膜	216	
907, 945		置	370, 579	鉤肩	288 350 付録 80	
ケネディーバー	268	口外ゴシックアーチ描記法		咬交	289	
991	付録 73		279, 370	咬合	290	
ケネディーの分類	269	口蓋床	278	5, 64, 82, 85, 99, 107,		
944		口蓋小窩	360	119, 122, 160, 228, 229,		
ゲル	20	口蓋振動線	付録 1	236, 261, 272, 289, 291,		
限界運動		口蓋帆挙筋	1	294, 295, 296, 299, 301,		
16, 116, 179, 294, 370,		口蓋帆張筋	1	303, 304, 305, 308, 309,		
596, 767, 897		口外描記装置	370	310, 311, 314, 316, 319,		
限界運動路	16, 116, 179	口外描記法	279	320, 325, 336, 547		
研究用模型	270 96, 499		258, 370	咬合圧	291	
	付録 74	口外法	579	12, 94, 187, 215, 224,		
犬歯白後隆起線	271 737	口蓋補綴	280	430, 581, 678, 800		
	付録 177	口蓋隆起	281 749, 965	咬合圧印象	292 94	
犬歯保護咬合	付録 75	口蓋裂	72, 79, 275, 538	咬合圧負担	12, 293	
犬歯誘導	82	口角	282, 788, 797, 932	咬合圧負担域	293	
犬歯誘導咬合	272 82	口角結節	付録 227	12, 187	付録 81	
	付録 75	口角線	282 797	咬合位	294	
犬歯尖頭	798	硬化膨張	715	109, 119, 122, 133, 252,		
研磨		鉤間線	283 471	295, 311, 397, 467, 564,		
481, 498, 808, 836, 932			付録 121	574, 588, 605, 874, 877,		
		鉤間軸	付録 121	960, 961, 966		
こ		鉤脚	284	咬合異常	295	
コア	22, 84, 306, 475, 958	8, 67, 191, 350, 485, 506,		81, 82, 657		
鉤	273 257 付録 69	673, 984		咬合印象	296 735	
構音	59, 274, 275, 744, 745	考究用模型	付録 74	咬合円錐	297 424	

	付録 107	咬合再構成	313 82	53, 157, 198, 238, 329,
咬合音	298		522 付録 20	330, 346, 526, 557, 571,
	299, 657, 693	咬合採得	314	611, 689, 758, 791, 864,
咬合音検査	299	71, 109, 245, 311, 329,		985
	657	337, 643, 686, 697, 735,		咬合平面設定板
咬合音分析装置	300	745, 797		329
硬口蓋	274, 360, 388, 684	咬合採得材	643	咬合平面測定基準板
咬合学	301	咬合紙	315	付録 87
咬合滑面板	302		310, 574	咬合平面板
咬合関係	303	咬合支持	316 5, 71, 994	330 910
5, 96, 107, 238, 296, 323,		咬合支持域	317 5	付録 87
326, 508, 636, 642, 956,		咬合斜面板	318	咬合平面分析板
963		咬合床	319	331
咬合干渉	304	198, 259, 292, 329, 347,		咬合面
	299, 356, 593	518, 644, 697, 883, 1004		9, 64, 248, 320, 332, 333,
咬交器	付録 82	咬合状態		365, 476, 589, 855
咬合器	305	5, 107, 299, 503, 668,		咬合面間距離
19, 104, 127, 172, 181,		854, 960		332
182, 306, 307, 330, 385,		咬合小面	320	咬合面間記録
489, 501, 555, 556, 561,		365, 589, 855 付録 85		付録 8
577, 658, 661, 667, 736,		咬合小面学説		咬合面形態
766, 851 付録 82		320, 365, 589, 855		64, 160, 248, 407, 476,
咬合器再装着	306 958	咬合性外傷	321 972	767, 924
	付録 83	咬合接触	322	咬合面再形成 [義歯の]
咬合器再付着	付録 83	160, 298, 304, 317, 323,		333
咬合器装着	307 911	334, 507, 593, 858, 961		咬合面部
	付録 84	咬合接触面積	622, 834	8, 291, 336, 485, 612, 682
咬合器付着	付録 84	咬合相	614, 617	咬合面レスト
咬合局面	付録 85	咬合調整	323 106, 160	58, 982, 984
咬合拳上	308 901	咬合堤	324	咬合様式
咬合記録	309	157, 221, 259, 319, 644,		160, 236, 261, 272, 563,
咬合検査	310	686, 797, 810 付録 86		667, 757, 832, 877, 919,
咬合高径	311	咬合の不調和	325	961, 966
24, 90, 109, 133, 308,		咬合病	325	咬合力
312, 337, 346, 366, 604,		咬合分析	326	335
668, 733, 745, 777, 778,		咬合平衡	327	187, 237, 293, 336, 337,
999		407, 467, 757, 924		453, 457, 966, 982
咬合高径測定法	312	咬合平面	328	咬合力計
				336
				咬合力検査
				336
				咬合力測定装置
				337
				咬合力測定法
				337
				咬合湾曲
				338
				331, 611, 687, 935
				咬座印象
				339
				交叉咬合
				340

342, 619, 765	付録 88	鉤端	付録 91	コーヌス角	361
交叉咬合排列	341 342	咬断	225, 613		362, 380
交叉咬合用人工白歯		合着	352	コーヌステレスコープクラ	
	付録 89		189, 376, 510, 565, 706	ウン	362 679
交叉咬合用人工歯	342	合着材	189, 706	後パラタルバー	752
	付録 89	合釘	付録 217	コーピング	
鉤歯	343 470	合釘孔	付録 219		497, 790, 835, 930, 972
	付録 120	後堤法	353	コーピング印象	363 790
硬質レジン	344 978	合釘保持孔	付録 219		付録 189
硬質レジン歯	345	後天的欠損	423	後方位 [下顎の]	
硬質レジンジャケットクラ		咬頭 [歯の]			120, 494, 649
ウン	978		78, 80, 106, 225, 227,	後方滑走運動	160, 926
鉤指導線	付録 104		331, 341, 342, 354, 356,	後方基準点	364
咬傷	346		357, 358, 455, 539, 628,		496, 526, 587, 663, 810,
鉤状切痕	付録 181		698, 775, 776, 782, 924,		811, 852
口唇			935, 966, 1003	後方咬合小面	365
60, 81, 241, 242, 274,		咬頭嵌合	354	後方指導	付録 216
286, 346, 347, 483, 604,			491, 628, 650, 999, 1000	後方誘導	付録 216
684, 745, 951, 994		咬頭嵌合位	355	咬耗	366
口唇接合線	347 付録 90		68, 117, 168, 302, 316,		9, 308, 325, 693, 695, 977
口唇粘膜	483		318, 351, 455, 491, 588,	口輪筋	788, 932
口唇閉鎖線	348 347		605, 628, 650, 661, 874,	口裂	286, 778, 994
	付録 90		999, 1000	鉤腕	367
鉤切痕	付録 181	咬頭干渉	356		3, 37, 58, 191, 223, 257,
鉤尖	349		304, 323, 695, 831		288, 349, 350, 387, 640,
37, 67, 367, 408, 729,		咬頭傾斜 (角)	357		718, 729, 849, 984, 991
746, 850, 954, 991, 995			106, 227, 407, 523, 924,	付録 92	
付録 91			999	語音明瞭度検査	368
鉤先	付録 91	咬頭歯	付録 30		274
硬組織	431, 543, 544	咬頭人工歯	付録 30	呼気流	59
鉤体	350	咬頭展開角	358	鼓形空隙	369
67, 191, 288, 367, 594,		口内ゴシックアーチ描記装			8, 508, 594 付録 93
746, 954, 970, 982		置	370, 795	ゴシックアーチ	
後退位 [下顎の]		口内ゴシックアーチ描記法			16, 116, 120, 279, 359,
	120, 495, 1004		359, 370		370, 579, 596, 609, 610,
後退運動 [下顎の]	351	口内描記装置	370		636, 795, 796
後退接触位		口内描記法	359 370	ゴシックアーチトレーサー	
	351, 436, 586, 601, 999	硬軟口蓋境界部	360		370

ゴシックアーチトレーシング	付録 94	固定装置	381, 544, 804, 825, 976	棍棒	384
ゴシックアーチ描記	279, 359, 579, 636, 795	固定部[アタッチメントの]	57, 418, 419, 425, 430,	コンボジットレジン	565
ゴシックアーチ描記装置	579, 795	コネクター	512, 532, 809, 927, 997	根面 [歯の]	79, 389, 390, 391, 392, 929
ゴシックアーチ描記法	370 279, 359 付録 94	コノメータ	380	根面アタッチメント	389
個歯トレー	371 442 付録 95	4/5冠	381 825, 973	79, 83, 390, 418, 512,	809, 927, 997 付録 99
個人トレー	372	ゴム床	382	根面形成	390
96, 442, 847, 883 付録 96		ゴムリング	83	根面形態	391
固着式固定法	56	固有口腔	383	根面板	392
固着式模型	373	孤立歯	731	391, 512, 892, 997	
442 816 付録 113		コルベン状形態 [床緑の]	384		
骨改造	466	根管	844	さ	
骨結合型インプラント	374 88 871, 882 付録 24	根管治療	901	サーカムファレンシャルク	
骨植	389, 699, 967	混合型	403	ラスプ	付録 51
骨膜	375	混合負担 (支持) 付録 115		サーベイヤ	付録 103
骨膜下インプラント	375	根尖	454	サーベイヤー	付録 103
14, 177, 504		コンダイラーガイダンス		サーベイライン	付録 104
骨面	177, 215, 235, 375	付録 216		最終印象	393 551
骨隆起	126, 281, 965	コンダイラー型咬合器	385 305, 501, 596	付録 137	
固定 [歯の]	38, 56, 233, 413, 535,	コンダイル	19, 385, 736	最終義歯	394
38, 56, 233, 413, 535,		コンタクトゲージ	386	157, 412, 631, 666	
543, 544, 713, 763, 804,		コンディショナー	433, 434	最終補綴装置	395
987		コンティニューアスラスプ	196	159, 700	
固定式	50	付録 241		最小圧印象	付録 224
固定性ブリッジ	376	コンデンス (法)	691	最小発音空隙	61, 743
27, 822, 887		コンニャク状顎堤		最前方咬合位	396
固定性補綴装置	377	付録 201		最側方咬合位	397
38, 82, 474 付録 97		コンビネーションクラスプ	387 720	最大開口位	398 399
固定性補綴物	378 377 付録 97	コンビネーションシンド		最大開口距離	付録 100
378 377 付録 97		ローム	388 付録 98	最大開口量	399 97
固定性連結	379	コンプリートデンチャー		付録 100	
13, 377, 912		付録 144		最大筋力点	337
				最大咬合力	400
				最大豊隆線	336, 337, 622
				最大豊隆部	401
					424, 478
					402

25, 409, 426, 427	酸化剤	220	シェードテイキング	
最大面積	酸化膜形成	669		付録 111
サイドシフト 403 861	暫間冠	付録 205	シェードマッチング	
作業側	暫間義歯	412		付録 111
261, 272, 327, 365, 405,	394, 415, 540, 724	付録	シェル	948
577, 602, 614, 619, 831,	105		歯科医学	301, 423
832, 876, 877, 960, 961	暫間固定	413 976	歯科インプラント	
付録 101	暫間的	85, 520, 666		付録 79
作業側側方顎路	暫間被覆冠	414	歯牙支持	付録 117
602		839	自家製アタッチメント	
作業模型	暫間補綴装置	付録 205	422 645, 857, 920	
作業用模型		付録 106	耳下腺乳頭	286
49, 441, 442, 517, 541,	暫間補綴物	416 415	歯牙負担	付録 117
642, 816, 818, 848, 920		付録 106	歯科補綴学	423
付録 102	残根上義歯	417 79	256, 582, 774, 824, 899	
割合 [人工歯の]		付録 18	歯科補綴装置	902
323, 476, 574, 693, 831,	漸進型	403	歯冠	
926, 977	残存歯		197, 255, 256, 424, 425,	
サドル 11, 704, 730, 998	79, 100, 206, 409, 459,		427, 428, 430, 431, 478	
サブリンガルバー	547, 647, 822, 823, 830,		歯冠円錐	424 付録 107
968	967, 968, 969		歯冠外アタッチメント	
サバイヤー	残存歯列	944		425
26, 401, 409, 410, 690,	サンドイッチ型	458		57, 419, 800, 918
857, 862 付録 103	三腕鉤	付録 238	歯冠外形	95
サバイライン			歯冠型クラスプ	426
3, 25, 276, 367, 401, 408,				付録 108
759 付録 104			歯冠継続歯	付録 218
サベイング	仕上げ印象	付録 137	歯冠形態	
34	CR 比	付録 109	93, 197, 430, 914, 1002	
サベヤー	C/R レシオ	付録 109	歯冠経由型クラスプ	
付録 103	CR レシオ	付録 109		付録 108
サベヤー	シーカーアキシアルアタッ		歯間鼓形空隙	付録 93
付録 104	チメント	418 389	歯冠軸	427
サベヤー	シーカーアタッチメント		歯冠歯根長比	付録 109
付録 103		419 425	歯冠歯根比	428 79, 972
サポート	シェードガイド			付録 109
付録 119		420 435	歯冠修復物	429 431
酸化亜鉛ユージノール印象	シェードセクション			付録 110
411	421 435	付録 111		
酸化亜鉛ユージノール印象				
材				
411				
酸化亜鉛ユージノールペー				
スト				
644				

し

歯冠色陶材	22	633	付録 112	付録 115
歯冠内アタッチメント	430	歯型固着式模型	442	歯根膜粘膜負担 449
719, 809, 913, 927		816	付録 113	459 付録 115
歯冠補綴架橋義歯学	付録 68	歯頸線	503	歯根膜粘膜負担義歯 450
歯冠補綴架工義歯学	付録 68	歯頸側辺縁形態	付録 114	459 付録 116
歯冠補綴橋義歯学	付録 68	歯型トレー	付録 95	歯根膜負担 451
歯冠補綴装置	431	歯頸部	443, 487, 510, 710, 812,	830, 949, 986 付録 117
247, 255, 486, 584, 794,		868, 869, 916		歯根膜負担義歯 452
825, 892 付録 110		歯頸部辺縁	443, 930	付録 118
歯冠補綴物	432 431	歯頸部辺縁形態	443	シザーズバイト 付録 178
付録 110		487, 510, 710, 812, 868,	869 付録 114	支持 453
歯間離開	628, 819	自己グレージング効果	262	12, 151, 209, 215 付録 119
歯間離開度	433	篩骨鶏冠	935	支持域 5
386, 434, 508		歯根	27, 285, 389, 392, 428,	歯軸 454 357, 424, 478
歯間離開度検査	434	678, 894, 938, 972		支持咬頭 455 831
色調安定性	344, 976	歯根アタッチメント	付録 99	支持装置 187
色調選択	435 599	444 478	付録 126	支持組織 [歯の] 215
付録 111		歯根円錐	付録 126	歯質
色調見本	420	歯根膜	293, 449, 450, 451, 452,	392, 475, 487, 566, 902,
磁気力	458	949, 986		916, 948
歯齧圧排	付録 125	歯根膜感覚	79	歯質削除量
軸学説	320, 589, 855	歯根膜支持	445 451	425, 430, 486, 510, 802,
軸眼窩平面	436	付録 117		804
軸壁	913	歯根膜支持義歯	446 452	支持粘膜 456
軸面	437	付録 118		支持能力 457 233, 987
25, 197, 362, 380, 439,		歯根膜粘膜混合負担(支持)	付録 115	磁石 204, 458, 917
676, 716		付録 115		磁石構造体 458
軸面傾斜角	438 676	歯根膜粘膜支持	447	204, 465, 736
付録 166		449 付録 115		耳珠 198, 828, 852
軸面形成	439 716	歯根膜粘膜支持義歯	448	歯周疾患
歯型	440	450 付録 116		413, 434, 459, 508
441, 442, 517, 642, 816,		歯根膜粘膜複合負担(支持)		歯周組織
848		付録 115		99, 321, 388, 459, 699
歯型可撤式模型	441			歯周病 634, 987
				歯周補綴 459
				矢状顎路 460
				179, 181, 461, 463, 577,

766		支台	469	自働削合	付録 124
矢状顆路傾斜角	461		375, 475, 504, 515	指導要素	28, 890
	181	支台形成	付録 122	歯肉	
矢状クリステンセン現象		支台歯	470		477, 478, 479, 480, 481,
	259		27, 371, 428, 440, 471,		483, 516, 517, 995
矢状推進現象	523		472, 473, 475, 678, 699,	歯肉圧排	477 付録 125
自浄性			896 付録 120	歯肉縁	477, 517, 971
	194, 764, 785, 907, 940	支台歯間線	471 193	歯肉縁下	391, 477
矢状切歯路	462		付録 121	歯肉縁上	391
矢状切歯路傾斜角	463	支台歯形成	472	歯肉円錐	478 付録 126
矢状前方顆路	460, 461		101, 390, 439, 808, 853	歯肉型クラスプ	479
矢状前方顆路傾斜	461		付録 122		995 付録 127
矢状側方顆路	460, 461	支台歯形態	473	歯肉頬移行部	480
矢状側方顆路傾斜	461		440, 472, 475, 567		388, 483
矢状面	464	支台歯トレー	付録 95	歯肉形成	481
	179, 460, 461, 462, 463,	支台線	付録 121		59, 745, 993
	539, 568, 571, 578, 603,	支台装置	474	歯肉經由型クラスプ	
	768, 807		2, 3, 7, 8, 83, 186, 187,		付録 127
視診	360		193, 233, 257, 362, 392,	歯肉鉤	482
歯髄	916, 947		465, 537, 594, 665, 679,	歯肉色	979
磁性アタッチメント	465		781, 804, 819, 829, 830,	歯肉唇移行部	483 219
	79, 204, 389, 458, 736		881, 887, 889, 986 付録	歯肉切除	901
磁性材料	458		123	歯肉退縮	516, 971, 972
磁性ステンレス鋼	204	支台築造	475	歯肉粘膜	480, 483, 773
歯槽	729, 937, 969	支台部	14, 50, 375, 878	篩分法 [咀嚼能率の]	
歯槽骨		支柱	408, 579		484 621
	149, 150, 428, 500, 827,	実角	115	ジャクソンクリプクラスプ	
	940, 971	失活歯	929		485 191
歯槽頂	466	実距離	115	嚼面充実金冠	9
	341, 467, 468, 821, 950	実質欠損		嚼面鑄造冠	9
歯槽頂間線	467 341		63, 72, 202, 256, 823, 824	ジャケット冠	付録 128
歯槽頂間線角度	341	湿熱重合 (法)	979	ジャケットクラウン	486
歯槽頂線	468	試適	686, 993		84, 231, 344, 510, 584,
歯槽堤	付録 43	耳点	828		674, 869, 915, 978 付録
歯槽堤粘膜	付録 44	支点間線	付録 121		128
歯槽突起	466, 823	支点線	付録 121	射出成形レジソ	208, 980
歯槽粘膜	付録 44	自動削合	476 574	写真法	112, 828
持続時間	300		付録 124	シャンファー型	487

	443, 868	シュビガースクリューブ	上唇線	797	
手圧印象	488	ロック	497	少数歯欠損	540, 823, 830
自由運動咬合器	489	準解剖学的人工白歯	付録 62	少数残存歯症例	79, 724
習慣性開閉口運動	490	準解剖学的人工歯	付録 62	焼成	262, 881
習慣性咬合位	491	準解剖的人工白歯	付録 62	笑線	503, 786 付録 133
習慣性咀嚼側	492	準解剖的人工歯	付録 62	小線源	535
	付録 129	準解剖的人工歯	付録 62	使用側	付録 101
習慣性閉口路	507	準備印象	付録 26	小帯	3, 286, 287, 901
重合		床縁	498	小帯切除術	901
344, 511, 715, 909, 979,		96, 98, 148, 212, 242,		上部構造 [インプラント	
993		277, 287, 384, 480, 483,		の]	504, 50, 285, 501
充填物	255	499, 505, 708, 787, 872		床辺縁	付録 132
充填用材料	420	付録 132		床用材料	693, 956, 963
周波数	300, 699	常温重合レジン		床用人工歯	248
修復			371, 372, 702	床用レジン	420, 482, 980
63, 141, 152, 202, 256,		小窩	360, 837, 886, 983	床翼	505, 90, 787, 836
423, 431, 582, 824, 898,		床外形線	499	小連結子	506
899, 902		上顎結節	500		32, 537, 819, 988
修復物			388, 482, 750	上腕	367
189, 352, 431, 510, 565,		上顎切痕	付録 181	ショートピン陶歯	803
748, 816		上顎法	518, 681	初期接触	507
修復物辺縁		上下口唇	604	食塊	
443, 487, 510, 710, 812,		床下粘膜	付録 55	69, 492, 558, 618, 622,	
868, 869		上弓 [咬合器の]	501	876	
終末位	491, 636	19, 172, 305, 307, 385,		触診	188, 245, 360
終末蝶番位	493, 519	555, 911		食片圧入	508
終末蝶番運動	494	症型分類 [補綴治療におけ		433, 434, 628, 975, 982	
436, 493 付録 130		る]	502	食物残渣	4
終末蝶番軸	495	焼結法	247	食物摂取	383, 613
175, 496 付録 131		床交換	付録 230	食物粉砕度	509, 621
終末蝶番点	496	症候群		植立 [インプラント]	
縮重合型 [シリコン印象		66, 145, 325, 388, 774		515, 535	
材の]	511	上口唇	347	ショルダ－	
縮図器	767	床周縁	付録 132	645, 748, 947	
樹脂含浸層	565	上唇		ショルダ－型	510
主咀嚼側	付録 129	60, 286, 503, 777, 787,		443, 868, 869	
術者可撤式		788, 797		ショルダ－レス型	
50, 162, 163, 164, 206		上唇小帯	286	443, 710, 812	

シラノール結合	565	診査用模型	付録 74	587, 828
シリコンゴム	677	唇側 (面)		水平台 408
シリコンラバー印象	100, 482, 716, 947, 948, 981	唇側バー	100	水平的顎位 527
	511 714	靱帯	116, 519	68, 245, 370
シリコンラバー印象材	296, 315, 511, 714	靱帯位 [下顎の]	519	水平被蓋 528 78
シリンジ [印象用の]	195, 196	靱帯障害	138	付録 17
シリンダータイプ	806	診断用義歯	520	水平面 529
シリンダーテレスコープク ラウン	679		412, 817	403, 405, 602, 603, 609, 610
シリンドリカルアンカー	512	診断用模型	付録 74	睡眠時無呼吸症候群 123
歯列 53, 267, 338, 571, 935		診断用ワクシングアップ	521 522 付録 136	スイングロックアタッチメ ント 530 887
歯列印象	702	診断用ワックスアップ	522 付録 136	スウェーデンのバナナ 897
歯列弓 107, 286, 340, 836		伸展修復物	812	スーペラバルジエリア 424
磁路	204, 458	振動音	298	スーペラバルジクラスプ 531 426 付録 108
シロナソグラフ	114	振動法	691	スクリュータイプ 806
シングルデンチャー	513	審美性	231, 486, 572, 675, 694, 804, 880, 930, 938	スターン G/L 532 430
	付録 134	審美的修復	948, 981	スタイラス 付録 190
神経麻痺	538			スタッドアタッチメント 付録 99
人工材料	475			スタディキャスト 付録 74
人工歯	514			スタディモデル 533 270 付録 74
62, 86, 106, 227, 248, 342, 345, 518, 655, 659, 693, 776, 834, 908, 924, 931, 937, 977				スタビライゼーションスプ リント 534 85
人工歯根	515 285			スチール板 386
人工歯選択	797			ステント 535 544
人工歯肉	516 517			ストラップ 536
人工歯肉付模型	517			375, 632
	付録 135			ストレス 265, 325
人工歯排列	518			ストレスプレイカー 付録 50
90, 282, 319, 341, 346, 467, 468, 681, 993				スパー 537 889
人工装置	206, 423, 898, 902			スパチュラ 686, 691, 1002
人工皮膚	420			

す

随意運動	492
推進現象 [義歯の]	523
水素ガス	669
水素結合	565
垂直顎間距離	付録 37
垂直的顎位	524
	116, 337
垂直的距離	80, 311
垂直的咬合力	237
垂直被蓋	525 80 付録 19
水平アーム	408
水平基準面	526
	198, 364, 436, 461, 463,

スピーチエイド 538
 8, 72, 558, 738
 スピーの湾曲 539
 338, 571, 936
 スピルウェイ 付録 172
 スピンドル 408
 スプーンデンチャー 540
 スプリット
 187, 541, 542, 997
 スプリットキャスト 541
 306
 スプリットバー 542
 187
 スプリットマウンティング
 プレート 541
 スプリンティング 543
 スプリント 544
 85, 534, 535, 957, 964
 スプリント療法 75
 スペーサー [トレーの]
 575
 スマイルライン
 付録 133
 スマイルライン 付録 133
 スライスカット 947
 スライド型アタッチメント
 546
 スリークォータークラウン
 545 947 付録 229
 スリーブ 546 11, 727
 スリーポイントバランス
 757
 スリット 542
 すれ違い咬合 547
 スロット型 181, 305
 寸法精度 551, 1005

せ

清音 298
 性格 60, 518
 生活歯 929
 成形充填材 475
 静止印象 付録 224
 清掃性 194, 459, 764, 785
 静態印象 付録 224
 生体材料 48
 正中口蓋縫合線 864
 正中矢状面 603, 897
 正中線 548
 287, 549, 578, 797
 正中パラタルバー 752
 正中面 549 464, 529
 静的印象 付録 224
 静的パラトグラム 755
 生物学的幅径 550
 性別 62, 518
 正放線投影法 428
 精密印象 551
 371, 511, 905 付録 137
 精密鑄造 812
 生理学 112, 711
 生理学的運動 303
 生理的下顎安静位
 付録 32
 赤唇 994
 積層一回印象 552 714
 付録 173
 舌
 35, 242, 346, 553, 705,
 717, 1004
 舌圧痕 553
 切縁
 61, 399, 563, 564, 786,
 935, 982

切縁咬合 付録 140
 切縁レスト 982
 設計
 96, 234, 250, 276, 408,
 471, 678, 896, 949
 石膏 554, 682
 石膏印象 847
 石膏系埋没材 158
 石膏コア 554
 石膏模型 270, 864, 911
 切削加工(法) 234, 247, 572
 切削器具 472, 853
 切歯きょう導釘 付録 138
 切歯きょう導板 付録 139
 切歯指導機構 501
 切歯指導釘 555
 476, 556, 561 付録 138
 切歯指導板 556 555
 付録 139
 切歯指導部 305
 切歯点 557
 116, 328, 396, 397, 560,
 610, 614, 906
 切歯乳頭 791, 965
 切歯誘導(指導) 付録 5
 摂取可能食品 622
 舌小帯 287
 摂食・嚥下障害 558 69
 接触滑走
 289, 351, 586, 601, 614,
 832, 919
 接触関係
 23, 87, 289, 642, 821,
 875, 938, 940, 950, 952
 接触点 559
 369, 434
 切歯路 560
 179, 305, 462, 463, 555,

556, 561, 609, 658, 851	線維性増生	827	レート	580
切歯路調節機構	線維部	212	前パラタルバー	752
305	全運動軸	568 175	全部冠	付録 147
切歯路描記法	線鈎	569	全部床義歯	581
舌接触補助床	257, 387, 759, 984, 986		164, 277, 327, 476, 513,	
舌尖	付録 142		582, 659, 681, 717, 832,	
舌側 (面)	前後的歯牙湾曲	570 571	941, 960, 961, 966	付録
567, 967, 968, 969	付録 143		144	
舌側縁	前後的歯列湾曲	571	全部床義歯学	付録 145
舌側化咬合	付録 143		全部床義歯補綴学	582
切断	前後的調節湾曲	659	付録 145	
切端咬合	センサーアレイ	917	全部铸造冠	583
563 付録 140	前歯欠損	797	付録 146	
切端咬合位	前歯中間欠損	269	全部陶材架橋義歯	
接着 [修復物の]	前歯誘導 (指導)	付録 5	付録 213	
352, 566, 987	全歯列型スプリント	534	全部陶材架工義歯	
接着性材料	全身性疾患	137	付録 213	
接着性ブリッジ	前装冠	572	全部陶材橋義歯	付録 213
接着性レジン	344, 510, 584, 835, 930,		全部被覆冠	584
接着性レジンセメント	955		93, 255, 486, 583, 794,	
565	前装铸造冠	869, 914	880, 881, 978	付録 147
接着ブリッジ	前装用材料	420, 510, 572, 914	全部ポーセレンブリッジ	
付録 141	栓塞子	573	881	
舌背	選択割合	574 476	前方位 [下顎の]	585
舌房	選択的加圧印象	575	643, 957	
舌面形成	剪断咬頭	576 782	前方運動 [下顎の]	586
舌面レスト	付録 188		807	
セメント [合着材の]	全調節性咬合器	577	前方滑走運動	
189, 352, 565	305, 658, 767, 768		160, 259, 327, 460, 461,	
セメント-エナメル境	先天奇形	63, 141, 142, 144, 146,	462, 463, 476, 698, 832,	
105	63, 141, 142, 144, 146,		919	
セメント合着	152, 153, 202, 205		前方基準点	587
376, 439, 510, 675, 676,	先天性欠如	423	188, 364, 526, 801, 810,	
694, 869	前頭面	578 53, 179, 467	811	
セメント築造	セントラルベアリングスク	リユー	579 580, 795	
セラミックス	セントラルベアリングプ			
セラミング				
セラモメタルクラウン				
付録 226				
線維腫				

	957	側頭筋把握法	245	側方頭部エックス線規格写	
前方チェックバイト	643	側貌	60, 198, 604, 787	真	774, 828
前方誘導 (指導)	590	側方位 [下顎の]	600	側貌エックス線写真	198
	付録 5		614, 643	側方パラタルバー	752
全面均衡咬合	付録 231	側方移動	866	側方分力	227
全面平衡咬合	付録 231	側方運動 [下顎の]	601	側方力	74, 223, 740, 924, 975
			172, 403, 649, 757, 807,	側方湾曲基準板	611
			866	咀嚼	
		側方滑走運動			147, 225, 484, 492, 509,
			160, 259, 261, 272, 327,		558, 612, 613, 614, 617,
			365, 403, 405, 460, 461,		618, 619, 620, 621, 622,
			602, 603, 609, 610, 831,		623, 624, 789, 859, 879
			832, 855, 919, 966	咀嚼圧	612
		側方顆路	602	咀嚼運動	613
			179, 181, 182, 403, 460,		160, 225, 404, 492, 617,
			461, 577, 766, 861		623, 782, 859
		側方顆路角	603	咀嚼運動周期	付録 151
			181, 861	咀嚼運動路	614 付録 150
		側方顆路傾斜	461	咀嚼機能	366, 518, 622
		側貌記録	604	咀嚼機能検査	622
		側方クリステンセン現象	259	咀嚼筋	
			370		66, 138, 145, 252, 622,
		側方限界運動	370		826
		側方咬合位	605	咀嚼筋活動	622
			397, 877, 960, 961	咀嚼系	付録 42
		側方咬合湾曲	606	咀嚼経路	付録 150
			53	咀嚼効率	615 620
		側方歯牙湾曲	607		付録 153
			53	咀嚼サイクル	616 617
		側方歯群	340		付録 151
		側方歯列湾曲	608	咀嚼周期	617 614
			53		付録 151
			935	咀嚼障害	618
		側方推進現象	523	咀嚼スコア	622
		側方切歯路	609	咀嚼側	619 492, 789
			555, 556		付録 152
		側方切歯路角	610	咀嚼能率	620
		側方チェックバイト	643		
		側方的調節湾曲	659		

そ

早期荷重	597				
早期型	403				
総義歯	591	581			
	付録 144				
総義歯学	付録 145				
総義歯補綴学	592	582			
	付録 145				
早期接触	593				
	298, 299, 300, 304, 323,				
	325, 636, 657, 983				
象牙質		15, 366, 565, 725, 916			
造語	15, 19				
相互保護咬合	付録 223				
増歯	30				
双子鉤	594	191			
	付録 148				
装着方向	973				
相補運動論的顆頭点	55				
相補下顎位	595				
相補下顎運動	596				
	129, 130				
即時荷重	597				
即時義歯	598	412, 687			
即時離開咬合	236				
測定法 [歯冠色の]	599				
測定杆	408				
側頭下顎靱帯	519				
側頭筋	245				
側頭筋前部	245				

106, 227, 509, 621, 622,
834 付録 153
咀嚼能率測定 621
咀嚼能力 622 484, 620
咀嚼能力検査 622
咀嚼リズム 623
咀嚼力 624 336, 471
ゾル 20, 196

た

タービンバー 853
タービンヘッド 853
ターミナルヒンジアキシス
付録 131
ターミナルヒンジムーブメ
ント 付録 130
耐火材 909
耐火材マトリックス 915
耐火模型 84, 158, 818
帯環金属冠 651, 812
待機荷重 625
対合
5, 322, 354, 559, 628,
630, 858, 860
対向関係 [顎堤の] 626
295, 303, 467, 681
対咬関係 627 628
付録 154
対合関係 628 付録 154
対向作用 629 222
付録 60
対抗作用 付録 60
対合歯 630
64, 225, 296, 455, 782,
983
退行性関節疾患 137
退縮 [歯肉の]
516, 971, 972

耐衝撃性 345, 486
耐水性 344
ダイナミック印象 631
94 付録 155
ダイナミックパラトグラム
755
体部 44, 127, 305, 501, 731
耐摩耗性
248, 344, 345, 693, 880,
976, 977, 978
ダイヤモンドポイント
574
大連結子 632
32, 100, 253, 268, 536,
542, 726, 728, 751, 752,
753, 967, 968, 969, 988
ダウエル 付録 217
ダウエルクラウン
付録 218
ダウエルピン 633 441
唾液検査 634
楕円型ポンティック 764
多官能性メタクリレート
344
濁音 298
タッピング 635
35, 300, 636, 826
タッピング運動 636
タッピングポイント 636
タッピング法 636
ダブルアームクラスプ
付録 207
ダブルエーカークラスプ
付録 148
ダブルクラウン 付録 167
ダブルミックス印象
付録 173
ダブルリンガルパー

付録 73
付録 222
ダミー 637
単一印象 637
単一式模型 638 442
付録 113
単位面積 291, 612, 771
単冠 381, 825, 892
短縮歯列 639
単斜面形態 391
単純鉤 640 191
付録 156
炭素棒 408
単独歯型 641 642
付録 157
単独歯型式模型 642
付録 157
弾撥音 付録 70
弾筆 258
単腕鉤 付録 156

ち

チェックバイト 643
306
チェックバイト法 644
遅延離開咬合 236
築盛
22, 84, 517, 669, 691,
914, 915
築造 475
築造体 475, 844, 893
チタン合金 10
着脱方向
25, 102, 408, 409, 424,
478, 920
チャンネル 645
チャンネルショルダーピン
645 422
チューイングサイクル

4, 95, 362, 422, 707, 781,
857, 986, 998 付録 167

転位 [歯の]
75, 77, 544, 765, 856

展開角 610

電気的測定法 112

電気メス 477

電極 251, 755

Dentatus 咬合器 326, 766

デンタルインプラント
680 285 付録 79

デンタルサバイヤー
付録 103

デンタルフロス 434

デンタルミラー 863

テンチの間隙 681

テンチのコア 682
306, 958 付録 168

テンチの歯型 683 682
付録 168

デンチャースペース 684

デンチャーブラーク
685 220

天然歯 53, 106, 338, 571

天然歯列
53, 338, 513, 571, 628, 854

転覆 471, 877

転覆試験 686

テンプレート 687

テンポラリークラウン
688 839 付録 205

と

ドイツ水平線 828

頭位 636

投影角 115

投影距離 115

頭蓋

305, 307, 526, 578, 810

頭頸部 245

瞳孔線 689

等高点 690 付録 169

陶材
13, 21, 22, 84, 262, 486,
572, 669, 691, 693, 880,
912, 915, 929, 930

陶材ジャケットクラウン
付録 212

陶材築盛法 691

陶材ブリッジ 付録 213

陶材焼付冠 付録 226

陶材焼付鑄造冠 692 930
付録 226

陶材溶着鑄造冠 付録 226

陶歯 693
514, 694, 803, 937, 955

陶歯前装鑄造冠 694

陶歯前装ポストクラウン
892

動側 付録 101

働側 付録 101

疼痛
66, 81, 138, 139, 245,
695, 965

疼痛誘発テスト 695

動的印象 付録 155

銅板 371

頭部エックス線規格写真
774, 828

頭部後屈法 696 697
付録 170

頭部後傾法 697
付録 170

DUML の法則 698

動揺 102, 413, 699, 987

動揺歯

56, 381, 544, 802, 804,
825

動揺度 699

動揺度検査 [歯の] 699

トップダウントリートメン
ト 700 付録 171

トライポッド 701 690
付録 169

トランスファー
496, 663, 801

トランスファーコーピング
702 790

取り囲み鉤 付録 51

取り込み印象 703 790
付録 189

トリミング [歯型の] 933

ドルダーバー 704 727

ドルダーバーアタッチメン
ト 497

トレー
196, 292, 296, 339, 371,
372, 631, 735, 847

ドロップオンテクニック
1002

ドンダースの空隙 705

通路 706 575 付録 172

な

内冠 707
4, 95, 361, 362, 380, 679

内斜線 708 98

内斜面 358, 467, 831, 855

内側フィニッシュライン
808

ナイトガード 709

ナイフエッジ型 710
443, 812

流し込み 979

ナソヘキサグラフ 114
 ナソロジー 711
 ナソロジー学派 82, 919
 軟口蓋
 1, 72, 274, 360, 383, 538,
 558, 684, 705
 軟口蓋拳上型 538
 軟口蓋拳上装置 538
 軟質裏装材 963
 軟性樹脂 517
 軟性レジン 482
 軟組織 103, 535, 769

に

ニアゾーン 712
 850, 970
 二次印象 付録 137
 二次う(齶)蝕 392
 二次固定 713 233, 594
 二重金冠 付録 167
 二重同時印象 714
 付録 173
 20 度臼歯 227
 二重埋没法 715
 ニッチ 804
 二面形成 716
 ニュートラルゾーン 717
 二腕鉤 718
 58, 74, 191, 223, 594,
 720, 849, 984 付録 174

ね

ネイシェイズ 719 430
 Ney 社 719, 720, 849
 ネイのクラスプ 720
 熱可塑性 933
 ネック部 833
 熱処理 669

熱伝導度 880
 粘液腺 985
 粘着力 [義歯の] 207
 捻髪音 付録 72
 粘膜下組織 151, 827
 粘膜支持 721 723
 付録 175
 粘膜支持義歯 722 724
 付録 176
 粘膜上皮 287
 粘膜静態印象 付録 224
 粘膜調整材 672
 粘膜負担 723
 575, 753, 986 付録 175
 粘膜負担義歯 724
 459, 581 付録 176

の

ノギス 862, 863
 ノンパラレルピンテック
 ク 725 802

は

バー 726
 100, 253, 257, 536, 632,
 654, 749, 751, 752, 753,
 921, 968
 バーアタッチメント 727
 11, 497, 546, 704, 728,
 730, 920
 バー義歯 728
 バークラスプ 729
 257, 367, 387, 479, 729,
 995
 パーシャルカバリッジクラ
 ウン 付録 199
 バージョイント 727
 ハーダーバーアタッチメン

730 727
 パーティカルオーバーラッ
 プ 付録 19
 ハーフアンドハーフクラス
 プ 731
 ハーフクラウン 732
 ハーフバンド 391
 バーユニット 727
 バー用線 253
 排出路 706
 バイトゲージ 733
 バイトスプリント 734 85
 付録 21
 バイトトレイ 735 296
 バイトフォーク
 232, 810, 910
 バイトプレート 付録 21
 ハイドロコロイド印象
 付録 53
 ハイドロコロイド印象材
 20
 ハウジング 736
 155, 418, 512, 998
 パウンドライン 737
 付録 177
 歯ぎしり 付録 200
 パサバント隆起 738
 鋏状咬合 739 79
 付録 178
 把持 740
 2, 7, 58, 257, 276, 288,
 350, 367, 469, 470, 727,
 813
 把持腕 741 223 付録 61
 破折(損)
 9, 392, 880, 883, 965
 8 インチ球面学説
 付録 228

8 インチ球面板 331
 7/8 冠 825
 発育異常 137
 発音
 1, 61, 147, 368, 415, 481,
 562, 745, 755
 発音間隙 742 743
 付録 179
 発音機能
 383, 518, 764, 785, 993
 発音空隙 743 付録 179
 発音時 61, 312, 755
 発音試験 744
 発音利用法 745
 バッカルシェルフ 付録 64
 白金箔 84, 915
 バックアクションクラスプ
 746 720
 発語 63, 202
 発語障害 747 275
 付録 77
 抜歯
 30, 79, 497, 598, 687,
 901, 938
 発声 738
 バットジョイント 748
 馬蹄型 749
 馬蹄形バー 749 付録 180
 パテタイプ [印象材の]
 296, 714
 パトリックス 付録 225
 ハミュラーノッチ 750
 791 付録 181
 パラジウム箔 915
 パラタルストラップ 751
 536, 632
 パラタルパー 752
 632, 726, 749, 751, 753

付録 182
 パラタルプレート 753
 632
 パラタルランプ 754 86
 付録 22
 パラトグラム 755 744
 パラレルテレスコープクラ
 ウン 679
 パラレルピンテクニック
 756 802
 バランシングランプ [義歯
 の] 757 924
 はりがね鉤 付録 142
 バルクウィル角 758 851
 板金加工 247, 651, 812
 半径 4 インチの球面
 611, 935, 936
 板 (鋳) 鉤 759 974
 半固定性ブリッジ 760
 203, 830
 半固定性補綴装置 761
 付録 183
 半固定性補綴物 762 761
 付録 183
 半固定性連結 763
 付録 184
 半自浄型ポンティック
 764
 反射 81, 490, 492, 558
 反対咬合 765 340
 反対咬合用人工白歯
 付録 89
 反対咬合用人工歯 付録 89
 半調節性咬合器 766
 305, 541, 644, 658
 パントグラフ 767
 579, 768
 パントグラフ法 768

ひ

微圧印象 付録 224
 被圧縮性 769
 被圧縮度 215
 被圧縮量 付録 185
 被圧変位 770
 150, 224, 772, 965
 被圧変位量 771
 150, 224, 772, 965 付録
 185
 非アンダーカット域
 25, 424
 ビーズ 953
 ビーディング 772
 ヒーリングアバットメント
 773
 鼻咽腔閉鎖型 538
 鼻咽腔閉鎖機能 538
 鼻咽腔閉鎖機能検査 774
 被蓋 775
 78, 80, 107, 342, 765
 非解剖学的人工白歯
 付録 186
 非解剖学的人工歯 776
 757, 834, 924 付録 186
 非解剖学的人工白歯
 付録 186
 非解剖学的人工歯 付録 186
 鼻下点 777
 526, 587, 778, 787
 鼻下点・オトガイ間距離
 778
 光重合 979
 光照射 344
 非緩圧型アタッチメント
 779 430, 781
 非緩圧型維持装置 780

781 付録 187	被膜厚さ	677	ピンホール	756, 802, 804, 863, 886, 955
非緩圧型支台装置 781	描記針	795	ピンレッジ	804
389, 430, 727 付録 187	279, 359, 646, 767, 796	付録 190		825, 853
非機能咬頭 782 付録 188	描記図	370		
非機能側	描記装置	370, 579, 795		
付録 208	描記釘	付録 190		
非結晶質	描記板	796		
肥厚	279, 359, 596, 636, 767,			
非作業側	795			
783 859	描記法			
付録 208	112, 130, 258, 279, 359,			
非作業側側方顎路 784	370, 795, 796			
861 付録 209	標準線	797 付録 191		
非自淨型ポンティック	標準線	付録 191		
785 163	表情筋	932		
微小機械的結合	表面着色剤	231		
565	病理学	711		
微笑線	鼻翼	788, 798		
786 503	鼻翼下縁	198, 526, 587, 828		
微小動揺	鼻翼幅	798		
597	疲労	325, 678, 896		
鼻唇角	ピン			
787	418, 419, 422, 555, 645,			
鼻唇溝	725, 756, 802, 803, 804,			
788	886, 955			
非生体材料	ヒンジアキ시스 付録 163			
48	ヒンジアキシスロケーター	799		
微生物	ヒンジ型アタッチメント	800 付録 192		
220	801			
非接触型	ヒンジボウ	801		
917	ヒンジムーブメント	付録 161		
鼻尖	ピンテクニック	802		
60, 604	ピン陶歯	803 955		
非咀嚼側	付録 193			
789				
鼻聴道線				
198, 828				
鼻聴道平面				
付録 54				
ピックアップ印象				
790				
付録 189				
HIP プレーン				
791				
ビデオ嚙下造影				
792 69				
付録 15				
ビデオレントゲン検査				
793 69 付録 15				
鼻背				
604				
鼻幅線				
797, 798				
被覆冠				
794				
93, 255, 381, 486, 583,				
804, 837, 880, 947, 976,				
978				

ふ

ファーゾーン	805
	712, 746, 954
ファイバーポスト	475
ファイバーリボン	413
フィクスチャー	806
	6, 14, 177
フィッシャー角	807
フィニッシングライン	付録 194
フィニッシュライン	808
	550 付録 194
フィメール	809
	7, 83, 203, 497, 546, 645,
	719, 736, 913, 927 付録
	195
フェイスボウ	810
	170, 306, 307, 799, 801,
	811 付録 196
フェイスボウトランス	
ファー	811
	188, 232, 852
フェザーエッジ型	812
	443, 710
フェルール	813
フォッサ・ボックス	736
不可逆性ハイドロコロイド	
印象材	20
複印象	814
複合欠損	815
副歯型	442, 816
副歯型式模型	816

複製義歯	817	17, 18, 715, 829	32, 566, 673, 808, 929
複製模型	818 904	プラスチックトレー	44 付録 204
複腕鉤	付録 207	ブラッシュ法	691
不随意運動	81	ブラッシング	916
不正咬合	340, 765	フラビーガム	827 388 付録 201
付線	付録 194	フラビー組織	付録 201
負担域	付録 81	フラビーティッシュ	付録 201
負担軽減 [支台歯の]	972	フランクフルト線	828
負担能力		フランクフルト平面	828
79, 215, 336, 428, 575, 896		526, 852 付録 202	
負担様式	581	フランス式埋没法	829
フック	819 889	フリーウェイスペース	付録 4
浮動性歯肉	付録 201	ブリッジ	830
不動粘膜	820 480, 483	27, 73, 163, 203, 256, 376, 377, 415, 471, 678, 760, 763, 822, 853, 863, 881, 896, 907 付録 203	
船底型ポンティック	821	フルカバリリッジクラウン	付録 147
764		付録 146	
部分義歯	822	フルキャストクラウン	付録 147
部分欠損		フルデンチャー	付録 144
513, 648, 815, 945		BULL の法則	831
部分床義歯	823	フルバランスドオクルーション	832
164, 193, 257, 408, 471, 537, 647, 665, 726, 728, 819, 822, 824, 862, 889, 941, 975, 982, 988 付録 197		320, 365, 589, 855	
部分床義歯学	付録 198	ブレード	177, 833, 834
部分床義歯補綴学	824 付録 198	ブレードインプラント	833 14
部分被覆冠	825	ブレード人工歯	834
255, 381, 794, 837, 947, 973 付録 199		776	
ブランク	220	ブレードメタル臼歯	834
ブラキシズム	826	フレーム	14, 32, 177, 285
35, 254, 265, 325, 366, 635, 709, 964 付録 200		フレームワーク	835
フラスク	715		
フラスク埋没法			
			32, 566, 673, 808, 929
			付録 204
			フレンジ 836
			フレンジテクニック 836
			プロキシマルハーフクラウン 837 825
			プロキシマルプレート 付録 236
			ブロックアウト 838 3
			プロビジョナルクラウン 839 415, 442, 976 付録 205
			プロビジョナルレストレーション 840
			分割印象 841 847
			分割可撤式模型 842 848 付録 206
			分割義歯 843
			分割コア 844
			分割式模型 845 848 付録 206
			分割歯型 848
			分割歯型式模型 846 848 付録 206
			分割トレー 847 841, 847
			分割復位式模型 848 633 付録 206
			分割模型 付録 206
			分割腕鉤 849 720
			粉碎 225, 484, 509, 613, 622, 706
			粉碎度 620, 621
			分散型 403
			分子間引力 565

ポーセレンラミネートベニ ア	948		
ポーンアンカードブリッジ	882	付録 214	
補強鞘	408		
補強線	883		
ボクシング	884		
保持	885	31	付録 6
保持機構	352		
保持形態	886		
保磁子	204		
保持装置	704, 997		
補助アーム	970		
補助アタッチメント	887		
	530, 998		
補助維持装置	888	889	付録 215
補助形態	886		
補助支台装置	889		
	537, 819	付録 215	
補助装置	535, 558		
保持力	36, 676, 886		
ポステリアガイダンス	890	28	付録 216
ポスト	891		
	475, 892, 894, 929	付録 217	
ポストクラウン	892		
	255, 391, 392, 675	付録 218	
ポストコア	893		
ポスト孔	894	863, 891	付録 219
ポストダム	895		
	277, 353		
補足疲労	896	678	
ボックス型	181, 305, 736		
ポッセルトの図形	897		
	116		
補綴	898		
	141, 152, 202, 459, 899,	901, 902	
補綴学	899		
	256, 582, 824		
補綴学的平面	付録 54		
補綴修復物	付録 220		
補綴主導型インプラント治 療	900	700	付録 171
補綴処理	415, 459, 611		
補綴前処置	901		
補綴装置	902		
	72, 142, 164, 377, 395,	415, 431, 761	付録 220
補綴物	903	902	付録 220
母模型	904	158	
ポリサルファイドラバー印 象	905		
ポリサルファイドラバー印 象材	905		
ホリゾンタルオーバーラッ プ	付録 17		
ホリゾンタルピン	725		
本印象	付録 137		
ボンウィル三角	906		
	170, 758, 910	付録 221	
ボンティック	907		
	23, 73, 163, 194, 376,	379, 678, 760, 764, 785,	821, 830, 843, 875, 881,
	896, 908, 938, 940, 950,	952, 955	付録 222
ボンティック陶歯	908		
ま			
マージン	442, 862, 930, 947		
埋没	909		
	17, 18, 158, 715, 829		
埋没材	158, 715		
埋没法 [義歯の]	17, 18, 715, 829		
マウンティング	付録 84		
マウンティングジグ	910		
マウンティングプレート	911	541	
マウント	付録 84		
前ろう (鑑) 付け法	912		
曲げ強度	84, 968		
摩擦抵抗要素	645		
摩擦力	95, 362, 679, 707, 759		
マッカラム T アタッチメ ント	913	430	
末梢入力	81		
窓開け	914		
マトリックス	付録 195		
マトリックス法	915		
	880		
摩耗 [歯の]	916		
	248, 320, 344, 345, 366,	693, 880, 976, 977, 978	
マンディブラーキネジオグ ラフ [MKG]	917	114	
み			
溝	90, 101, 706, 772, 788,	973	
ミニダルボ	918	425	
ミュチュアリープロテク テッドオクルージョン	919	付録 223	
ミューラー法	341		
ミリング			

422, 857, 920, 998
ミリングテクニック [ア
タッチメントの] 920
ミリングバー 921 998

む

無圧印象 922 41, 103
付録 224
無機質フィラー 84, 344
無口蓋義歯 923
無咬頭歯 付録 186
無咬頭人工歯 924 776
無歯顎 925
68, 71, 149, 259, 286,
337, 388, 411, 513, 604,
717, 724, 788, 798, 939,
985, 1004
無歯顎者 68
無歯症 994
MUDL の法則 926

め

メール 927
7, 83, 203, 546, 645, 719,
809, 914 付録 225
メジャリングデバイス
(商品名) 928
雌部 付録 195
メタクリル酸メチル 344
メタルインサーテッド
ティース 834
メタルコア 475
メタルコーピング 929
497, 930
メタルフレーム 付録 204
メタルボンドクラウン
930
13, 572, 669, 694, 908,

912, 929 付録 226
メチルメタクリレート
977
メリーランドブリッジ
付録 141
免荷期間 625

も

モールドガイド 931
模型改造法 付録 25
模型固定台 857
模型修正法 付録 25
模型台 408
モダイオラス 932
付録 227
モデリングコンパウンド
242, 933
モデリングコンパウンド印
象 933
モリソクラウン 934 9
付録 2
モンソンカーブ 935
338
モンソン球面説 936
611, 935 付録 228

や

焼き付け
13, 231, 912, 929, 930

ゆ

有機質複合フィラー 344
有孔陶歯 937
有根型ポンティック 938
有歯顎 939
604, 611, 999, 1000
有歯顎者
68, 198, 261, 399, 491, 650

U字形 704, 749, 923
有床型ポンティック 940
23, 163, 785
有床義歯 941
54, 94, 148, 162, 242,
293, 581, 724, 822, 944,
980
有髓歯 804, 825, 976
有釘陶歯 942 803
付録 193
誘導面 943 102 646
付録 28
遊離端義歯 944
2, 647, 986
遊離端欠損 945
269, 388, 639, 749, 815,
918, 944
遊離端ブリッジ 946 73
付録 16

よ

ヨーク 458
翼突鈎 750
翼突上顎切痕 付録 181
予備印象 付録 26
4 インチ球面学説
付録 228
3/4 冠 947 825, 973
付録 229

ら

ライトボディ 714
ラッチ 530
ラミネートベニア 948
915

り

力学的安定性 341, 471

外国語索引

#1-#2 combination clasp		all ceramic crown	84	587
	720	altered cast technique	92	anterior mandibular
#1 clasp	720	aluminous porcelain	21	positioner [or positioning
#2 clasp	720	aluminous porcelain jacket		device] 123
		crown	22	anteroposterior curve 571
a		alveolar arch	149	anteroposterior occlusal
abfraction	15	alveolar ridge line	468	curve 571
ability of mastication	622	American flasking technique		anti-Monson curve 935
abnormality of basal seat			17	apex [of gothic arch
mucosa	210	American-French flasking		tracing] 16
abutment	469	technique	18	arbitrary hinge position 852
abutment [of implant		amount of tissue		arcon articulator 19
prosthesis]	14	displacement	771	arrangement of artificial
abutment build up	475	analyzing rod	408	teeth 518
abutment tooth	470	anatomic artificial teeth	106	arrangement of reverse
abutment tooth form	473	anatomic crown	105	articulation 341
access hole	6	anatomic impression	103	articulating paper 315
Ackermann bar attachment		anatomic teeth	106	articulation 289, 290
	11	anatomical articulator	104	articulation test 274
acrylic resin tooth	977	angle between buccal and		articulation test in
Adams clasp	8	lingual internal		pronunciation 368
add-on technique	1002	cusp slope	358	articulator 305 19
adhesion bridge	566	angle of lateral condylar path		artificial gum 516
adjustable anterior guidance			603	artificial tooth 514
	561	angle of lateral incisal path		artificial tooth root 515
adjustable articulator	658		610	ASC52 Bival 57
adjustable posterior		anodontia appearance	994	attached mucous membrane
guidance	182	antagonist	630	
agar alginate combined		Ante's law	27	820
impression	195	anterior cross-bar	799	attachment 7 719
agar impression	196	anterior guidance	28	attrition 366
age	62	anterior guide pin	555	auscultation 657
Ah-line	1	anterior hyperfunction		auxiliary attachment 887
Akers clasp	58 984	syndrome	388	auxiliary retainer 889
ala-tragus line	198	anterior palatal bar	752	average value articulator
alginate impression	20	anterior reference point		851
				Axial Ceka Revax

attachment	418	bilateral balanced occlusion	832	Buccal of the Upper	831
axial reduction for tooth preparation	439	bilateral bounded saddle denture	647	buccal shelf	237
axial surface	437	bilateral extension base denture	944	BULL rule	831
axis orbital plane	436	bilateral occlusal balance	960	butt joint	748 510
b		Bimeter	337	C	
back action clasp	746 720	biologic width	550	CAD/CAM	84, 156, 247
balanced articulation (occlusion)	854	bite fork	810	CAD/CAM crown	234
balanced articulation	832	bite gauge	733	Camper's plane	198
balancing contact	860	bite impression	296	<i>Candida albicans</i>	218, 685
balancing occlusal contact	858, 860	bite pressure impression	292	cantilever bridge	73
balancing occlusal facet	855	bite raising	308	cantilever fixed partial denture	73
balancing ramp [of denture]	757	bite splint	85	cap clasp	233
balancing side	859	bite-seating impression	339	carbon marker	408
Balkwill angle	758	bite tray	735	carbon sheath	408
band clasp	759 974	bite wound	346	cast bar	654 726
bar	726	biting pressure	291	cast clasp	652
bar attachment	727	blade implant	833	cast crown	651
bar clasp	729	bladed artificial tooth	834	cast plate	653 249
bar denture	728	block out	838	cast support	232
bar joint type	727	bonding [of restoration]	565	castable ceramic	231
bar unit type	727	bone anchored bridge	882	Ceka extracoronal attachment	419
basal seat mucosa	209	Bonwill triangle	906	cementation	352
basal surface of denture	214	border molding	242	central bearing plate	580
beading	772	border seal	872	central bearing point	579
Bennett angle	603	bounded saddle denture	647	central bearing screw	579
Bennett's movement	866 405	boxing on impression	884	centric occlusion	650
bevel type	868	bracing	740	centric relation	649
beveled chamfer type	868	bridge	830	cervical margin form	443
beveled shoulder type	868	bruxism	826	chamfer type	487
bilateral balanced articulation (occlusion)	961	buccal bar	100	channel	645
				channel shoulder pin	645
				Chayes attachment	719
				check bite	643
				check bite method	644
				cheek bite	346

chew-in technique	646	complete crown	584	crown	255
chewing cycle	617	complete denture	581	crown and bridge	
chewing side	619	complete denture		prosthodontics	256
Christensen's phenomenon		prosthodontics	582	crown restoration	431
	259	composite resin	344	crown-root ratio	428
cingulum rest	982	composite resin tooth	345	C. S. P.	645
circumferential clasp	191	computer-aided design		curve of Monson	935
circumferential line	401		234	curve of Spee	539 571
C. I. S.	4	computer-aided		curve of Wilson	53
clasp	257	manufacturing	234	cuspal angle	357
clasp arm	367	condylar articulator	385	cuspal to fossa	628
clasp body	350	condylar ball	172	cuspal to ridge	628
clasp shoulder	288	condylar guidance	181, 890	cuspal interference	356
clasp tang	284	condylar path	179	cuspid line	282
clasp tip	349	condylar path articulator		cuspid protected articulation	
classification system [for			104	(occlusion)	272
prosthodontic treatment]		condylar point	175	cusplless tooth	924
	502	condylar position	125	custom abutment	156
clenching	265	condyle	19	cut-back	914
clicking	260	cone angle	361	cutting knife	408
clinical crown	971	cone crown telescope		Cylindrical anchor	512
clinical root	972		362 361, 380		
closest speaking space		connecting rigidity	986		
	61, 743	connector	988		
closure of the interdental		Contact Gauge (商品名)			
space	4		386		
combination clasp	387 720	contact point	559	DALBO resilient joint	918
combination impression	990	contact surface	559	Davis crown	675
combination syndrome	388	continuous clasp	991	deep bite	107
communication disorders		contour [of tooth]	197	deep chamfer type	487
	275	coping impression	790	definitive denture	394
compensating curve	659	coping	392, 707	definitive prosthesis	395
complementary kinematic		coverage crown	794	degassing	669
condylar point	55	crepitation	264	degree of food pulverization	
complementary mandibular		crepitus	264		509
movement	596	cross bite	340	delayed disocclusion	236
complementary mandibular		cross bite artificial tooth		delayed loading	625
position	595		342	Denar SE articulator (商品	
				名)	577
				dental abrasion	916
				dental antagonist	630

d

dental implant	285	48		
dental prosthesis	902			
Dentatus	326, 766			
dentulous jaw	939			
denture	206	647, 822, 944		
denture base	208			
denture base outline	499			
denture-bearing area	215			
denture border	498			
denture cleanser	220			
denture fibroma	219			
denture fibrosis	219			
denture flange	505			
denture for defected jaw		144		
denture foundation area		215		
denture plaque	685			
denture propulsion	523			
denture space	684			
denture stabilizer	207			
denture stomatitis	218			
denture ulcer	216			
determination of masticatory efficiency		621		
diagnostic denture	520			
diagnostic waxing up	522			
diagnostic cast	270			
diatoric tooth	937			
die	440	441, 816, 848		
die investing method	158			
difficulty in closing mouth		856		
dipping wax technique	1002			
direct retainer	665			
disc derangement	76			
disc reduction	77			
disc repositioning	75			
disocclusion	236			
disorders of articulation		275		
disorders of mandibular movement		113		
distal extension missing		945		
distal extension partial denture		944		
Distal of the Lower	926			
Distal of the Upper	698			
distal rest	982			
distance between subnasal and gnathion		778		
distributed type	403			
disturbance of mouth opening		97		
divided arm clasp	849			
divided die	848			
Dolder U-Bar	704			
double Akers clasp	594			
double investing method		715		
double mix impression	714			
dowel	891, 893			
dowel pin	633			
drop-on technique	1002			
Duchange's index	678			
DUML rule	698			
duplicate cast	818			
duplicate denture	817			
duplicate impression	814			
dynamic impression	631			
dysarthria	275			
dysphagia	558			
			e	
			early loading	597
			early type	403
			eccentric occlusal position	874
			eccentric position [of mandible]	873
			edentulous jaw	925
			edge to edge occlusal position	564
			edge to edge occlusion	563
			Eichner classification	5
			Elbrecht clasp	67
			electromyographic examination	251
			elements of mandibular movement	115
			embrasure	369
			embrasure clasp	594
			emergence profile	65
			Epithese (独語)	63
			epulis fissuratum	219
			esthetic line	60
			examination of jaw movement	130
			examination of interdental separation	434
			examination of velopharyngeal function	774
			extended arm clasp	74
			extension base removable partial denture	944
			external bar	100 726
			external finish line	808
			external oblique ridge	98
			extracoronal attachment	425

relation]	697	impression surface of		interlocking force	189
healing abutment	773	denture	214	intermediary defect	648
heavy chamfer type	487	impression taking	43	internal connection	46
hinge articulator	661	impression tray	44	internal derangement of	
hinge attachment	800	incisal guidance	560	temporomandibular joint	140
hinge axis	662	incisal guide table	556		
hinge axis locator	799	incisal path	560	internal finish line	808
hinge axis point	663	incisal point	557	internal oblique line	708
hinge bow	801	incisal rest	982	interocclusal distance	332
hinge movement	660	inclination of sagittal		interocclusal record	
HIP plane	791	condylar path	461		45, 309
hook	819	inclination of sagittal		interocclusal relation	628
horizontal mandibular		incisal path	463	intracoronal attachment	430
position	527	indentation of tongue	553	intraoral prosthesis	142
horizontal overlap	78	indirect retainer	193	intraoral tracing method	
horizontal plane	529	individual die	816		359
horizontal plane of reference	526	individual tray	372	investing	909
		individual tray for abutment		irreversible hydrocolloid	
horseshoe bar	749	impression	371	impression	20
housing	736	infrabulge area	25, 478	I. R. V.	4 422
HUG	857	infrabulge clasp	479	isometric point	690
hygienic pontic	194, 952	infraocclusion	668		
		infraorbital point	188	j	
i		initial occlusal contact	507	jacket crown	486
immediate denture	598	inner cap	707	Jackson crib clasp	485
immediate disocclusion		inner crown	707	jaw defect	146
	236	interalveolar crest line	467	jaw movement	129
immediate loading	597	interalveolar ridge line	467	jaw position	128
immediate side shift	403	intercondylar axis	171	Jelenko	667
immediate type	403	intercondylar distance	170	junction of hard and soft	
impaction of food debris		intercuspal position	355	palate	360
	508	intercuspatation	354		
implant	48	Interdentalraumverschluß		k	
implant analogue	49	(独語)	4	keeper	204
implant prosthesis	50	interdental separation	433	Kennedy bar	268
impression	40	interim denture	412 415	Kennedy classification	269
impression area	42	interim prosthesis	415	key and keyway	203
impression pressure	41	interlocking core	844	kinematic axis	568

	913	MM-JI-E (商品名)	114	myofascial pain dysfunction syndrome	66
Measuring Device (商品名)	928	modeling plastic impression compound	933		
measuring method of		modiolus	932	n	
occlusal vertical dimension	312	mold guide	931	nasal width	798
median line	548	Monson curve	935	nasolabial angle	787
median palatal bar	752	Monson spherical theory	936	nasolabial groove	788
median plane	549	most anterior (occlusal) position	396	nasolabial sulcus	788
mentolabial sulcus	90	most lateral occlusal position	397	near zone	712
Mesial of the Lower	698	most protrusive occlusal position	396	neutral zone	717
Mesial of the Upper	926	most retruded contact position	122	Ney	719, 720, 849
mesial rest	982	mounting frame	911	Ney-Chayes	719
mesiodistal clasp	974	mounting jig	910	Ney clasp	720
metal allergy	246	mounting on articulator	307	Ney Surveyor System	720
metal base	249 208	mounting plate	911	niche	804
metal base denture	250	mounting ring	911	night guard	709
metal coping	929	mouth floor	287	nonanatomic tooth	776, 924
metal core	475	movable fixed bridge	760	nonfunctional cusp	782
metal crown	247	MPD syndrome	66	nonhygienic pontic	785
metal crown with swaged cusp	9	MTM	901	nonmasticatory side	789
metal occlusal surface	248	mucobuccal fold	480	non parallel pin technique	725
metal plate denture	250	mucolabial fold	483	non-pressure impression	922
metal tooth	248	mucostatic impression	922	nonrigid connection	763
method of color		MUDL rule	926	nonundercut area	25
measur ement [of tooth color]	599	muscle palpating method	245	non-vertical stop occlusion	547
micromovement	597	muscle trimming	242	nonworking side	859
middle palatal bar	752	muscular position [of mandible]	252	normal contour	197
milling bar	921	muscular retention	241	normal functioning occlusion	228
milling in	476	mutually protected occlusion	919	O	
milling technique [of attachment]	920	myohyoid ridge	148	obturator prosthesis	573
Mini Dalbo	918			occlusal adjustment	323
minor connector	506			occlusal analysis	326
MKG (商品名)	917 114				
MMA	344				

pickup impression	790	post dam	895	prosthesis and/or appliance	
pin	645	post damming	353	for defected jaw	153
pin porcelain tooth	803	posterior border position of		prosthetic appliance for	
pin technique	802	mandible	120	swallowing disorder	72
pinledge	804	posterior denture border		prosthetic dentistry	423
plane line articulator	661		212	prosthetics	899
plane of occlusion	328	posterior guidance	890	prosthetics for defected jaw	
plaster core	554	posterior palatal bar	752		152
plaster index	554	posterior palatal seal	277	prosthodontics	423
plate denture	941	posterior reference points		protrusive check bite	643
plate type pontic	940		364	protrusive movement [of	
PLP	538	Pound's line	737	mandible]	586
PMMA	344	preceramic soldering		protrusive occlusal position	
polished surface of denture		method	912		588
	211	precise impression	551	protrusive position [of	
polysulfide rubber		preliminary impression	96	mandible]	585
impression	905	premature contact	593	provisional bridge	415
pontic	907	preparation for abutment		provisional crown	839 415
pontic porcelain tooth	908	tooth	472	provisional denture	412
porcelain bridge	881	preparation of lingual wall		provisional restoration	840
porcelain build up	691		567	proximal groove	973
porcelain-faced cast crown		preparation of root	390	proximal half crown	837
	694	prepared root canal for		proximal plate	975
porcelain fused to metal		dowel	894	pupillary line	689
crown	930	preprosthetic treatment			
porcelain fused to metal			901		
restoration	930	Pressomatic	155	rebase	956
porcelain jacket crown	880	pressure impression	94	reciprocal arm	223
porcelain tooth	693	pressure mark on cheek		reciprocation	222
porion	828	mucosa	238	record base	221
Posselt's figure	897	primary splinting	38	record base with occlusion	
Posselt's three dimensional		profile	604	rim	319
representation	897	profile record	604	record rim	324
post	891	progressive and distributed		registration arm	799
post ceramic soldering		type	403	reinforcing wire	883
method	13	progressive side shift	403	relaxation splint	964 85
post-core	893	progressive type	403	relief	965
post-core crown	892	prosthesis	898, 902	relief area	190

reline	963	treatment	700
relining jig	963	retainer	474
remount cast jig	958	retention	31
remounting jig	958	retention beads	953
remounting on articulator		retention form	886
	306	retentive arm	37
removable bridge	163	retentive force	36
removable connection	166	retentive latticework	32
removable denture		retromolar pad	985
	162, 941	retromolar triangle	235
removable die	441	retruded contact position	
removable partial denture			119
	823 822	retrusion facet	365
removable partial		retrusive movement [of	
prosthodontics	824	mandible]	351
removable prosthesis	164	reverse articulation	
removal knob	959		340, 765
repositioning splint	957 85	reverse back action clasp	
residual mucous membrane			954 720
	151	reverse pin porcelain facing	
residual ridge	149	tooth	955
residual ridge arch	149	reversible hydrocolloid	
residual ridge crest	466	impression	196
residual ridge resorption		ridge lap pontic	950
	150	rigid attachment	779
resin base	208	rigid connection	379
resin base denture	980	rigid retainer	781
resin-bonded prosthesis		rigid support	949
	566	ring clasp	970 720
resin cap	976	Roach clasp	995
resin denture base	979	Romagnoi Pressomatic	
resin facing cast crown	981		998
resin jacket crown	978	roofless denture	923
resin veneer crown	981	root extension pontic	938
resistance	678	Rothermann Eccentric	997
rest	982	RPA clasp	3
rest seat	983	RPI clasp	2
restoration-driven implant			

S

"s" position	61
S-curve	59
saddle type pontic	23
sagittal condylar path	460
sagittal incisal path	462
sagittal plane	464
saliva test	634
Schubiger screw block	497
science of occlusion	301
scissors bite	739
SDA	639
secondary splinting	713
sectional denture	843
sectional impression	841
sectional impression tray	
	847
selective grinding	574
selective pressure	
impression	575
semiadjustable articulator	
	766
semifixed bridge	760
semifixed connection	763
semifixed prosthesis	761
semihygienic pontic	
	764, 875
senile appearance	994
sex	62
shade guide	420
shade selection	435
shearing cusp	782
shortened dental arch	639
shoulder	645
shoulder type	510
shoulder with bevel	869
side shift	403

sieving test [of masticatory efficiency]	484	stress breaker	187	t	taper	676
silicone rubber impression	511	stress-breaking attachment	184		taper tool	408
single-arm clasp	640	stress-breaking retainer	186		tapping	635
single denture	513	stress-supporting region	293		tapping movement	636
single die	642	Stuart articulator (商品名)	577		telescopic crown	679
single impression	637	stud attachment	389		template	687
sleeve	546	study cast	270		template for defected jaw	205
smile line	503	stylus	795		temporary cementation	159
smiling line	786	sublingual bar	968		temporary denture	412
soft relining material	963	subnasal point	777		temporary splinting	413
solid working cast	442	subnasion	777		temporomandibular arthralgia	139
space of Donders	705	subperiosteal implant	375		temporomandibular disorders	138, 145
SPA factor	62	substructure [of implant prosthesis]	177		temporomandibular joint disease	137
speaking space	743	superstructure [of implant prosthesis]	504		temporomandibular joint noise	136
speech aid	538	support	453		temporomandibular joint radiography	135
speech disorders	275	supporting ability	457		Tench's core	682
spheroid pontic	821	supporting cusp	455		Tench's space	681
spillway	706	supporting tissue	456		tentative occlusal plane	157
splint	544 85	suprabulge area	25, 424		terminal hinge axis	495
splinting	543	suprabulge clasp	426		terminal hinge axis point	496
splinting [of teeth]	987	survey line	409		terminal hinge movement	494
split bar	542	surveying	410		terminal hinge position	493
split cast	541	surveyor	408 720	three quarter crown	947	
spoon denture	540	swaged plate	10 249	tilting test	686	
spring	918	swallowing method [of vertical relation]	71	tinner's joint	674	
spur	537	swallowing position	68	tissue borne	723	
stabilization splint	534 85	Swedish banana	897	tissue borne denture	724	
stabilized condylar position	168	Swing-lock attachment	530	tissue conditioner	672	
stent	535	symptom provoking test	695			
Stern G/L	532					
stethoscopy	657					
stomatognathic system	147					
strap	536					
stress-bearing ability	12					
stress-bearing region	293					

tissue displaceability	769	rest	984		
tissue displacement	770			U	
tissue stop	673				
TMJ articulator (商品名)		unattached mucous			
	577	membrane	176		
tongue bite	346	under contour	197		
tongue retaining device	123	undercut	25 408		
tooth and tissue-support		undercut area	25		
	449	undercut gauge	26 408		
tooth and tissue-supported		unilateral balanced			
denture	450	articulation (occlusion)			
tooth axis	454		877		
tooth borne denture	647	unilateral bounded saddle			
tooth-bounded and		denture	647		
free-end missing	815	unilateral chewing	879		
tooth crown axis	427	unilateral extension base			
tooth mobility test	699	denture	944		
tooth preparation in two		unilateral occlusal balance			
planes	716		876		
tooth-support	451	unloaded period	625		
tooth-supported denture		upper bow [of articulator]			
	452		501		
top down treatment	700			V	
torus mandibularis	126	valcanized rubber denture			
torus palatinus	281	base	382		
tracing plate	796	veneer crown	794		
transfer coping	702	vertical dimension	133		
transitional denture	30	vertical dimension increase			
traumatic occlusion	99		308		
treatment denture	666	vertical mandibular position			
tube tooth	655		524		
Twin Hoby articulator (商品名)	667	vertical overlap	80		
twin-stage articulator	667	Verticulator (商品名)	667		
two-arm clasp	718	VF	69		
two-arm clasp with occlusal		videofluorography	69		
					W
					Walkhoff palatal ball
					1004
					wash impression technique
					54
					wax adaptation technique
					1002
					wax cone technique
					1003
					wax denture
					993
					wax pattern
					1002
					wax rim
					324
					wax trimmer
					408
					waxing up
					1002
					Whip-Mix (商品名)
					766
					wide centric articulation
					(occlusion)
					1000
					wire clasp
					569
					working cast
					406
					working cast with artificial
					gum
					517
					working cast with divided
					die
					848
					working cast with individual
					die
					816
					working cast with
					removable die
					441
					working side
					404
					wrought bar
					253 726
					wrought wire clasp
					569
					Z
					zerodegree tooth
					924
					zinc oxide eugenol
					impression
					411

人名索引

【日本人名】

石原寿郎	484
大石忠雄	168
尾花甚一	547
草刈 玄	433
河野正司	568
坪根政治	733
藤田恒太郎	454
保母須弥也	667
矢崎正方	339

【外国人名】

Adams	8
Akers	58
Amsterdam	459
Ante	27
Ash	649
Bennett	866
Blatterfein	712, 805
Bonwill	170, 906
Boos	337
Boucher	649
Brill	252
Camper	198
Carmichael	947
Christensen	259, 644
Cooperman	791
Dalbo	918
Davis	675
Denar	767

Dolder	704
Donders	705
Duchange	678
Eichner	5
Elbrecht	67
Fisher	62
Frush	62
Gaerny	4
Gariot	661
Gerber	497
Gottlieb	971
Green	245
Grippo	15
Guichet	325, 403, 1000
Gysi	245, 320, 341, 365, 370, 589, 852, 855
Hanau	667, 766, 852
Hardy	924
Heartwell	513
Jackson	485
Jankelson	917
Käyser	639
Kelly	388
Kennedy	268, 269
Körber	361, 362, 986
Kratochvil	2
Krogh-Poulsen	245
Krol	2
Lauritzen	326, 799, 926
Levin	834, 836
Lott	836

Luce	646
Lundeen	852
Manly	484
McCollum	711
Monson	331, 935, 936
Müller	341
Orton	93
Payne	1003
Posselt	120, 897
Pound	877, 966
Romfjord	649
Roach	850, 974, 995
Sadrin	471
Schuyler	831, 999, 1000
Sears	757, 924
Snow	810
Solberg	399
Sosin	834
Spee	539, 571
Stallard	711
Steiger	645
Stuart	767, 801
Tench	681
Thomas	1003
Tinker	947
Vest	947
Walkhoff	1004
Watt	299
Willis	733
Wilson	53



歯科補綴学専門用語集 第3版

ISBN978-4-263-45627-9

2001年2月20日 第1版第1刷発行
2003年8月20日 第1版第3刷発行
2004年10月25日 第2版第1刷発行
2007年6月20日 第2版第2刷発行
2009年3月10日 第3版第1刷発行
2013年6月20日 第3版第6刷発行

公益社団法人

編者 日本補綴歯科学会

発行者 大畑秀穂

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

TEL. (03) 5395-7638(編集)・7630(販売)

FAX. (03) 5395-7639(編集)・7633(販売)

<http://www.ishiyaku.co.jp/>

郵便振替番号 00190-5-13816

乱丁、落丁の際はお取り替えます

印刷・三報社印刷／製本・榎本製本

© Ishiyaku Publishers, Inc., 2001, 2009. Printed in Japan

本書の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権（送信可能化権を含む）・口述権は、医歯薬出版(株)が保有します。

本書を無断で複製する行為（コピー、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」などの著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。また私的使用に該当する場合であっても、請負業者等の第三者に依頼し上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY < (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本書を複製される場合は、そのつど事前に (社) 出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。